

# 男女共同参画に関する市民意識調査

## 結果報告書

平成 25 年 1 月

前 橋 市



# 目 次

|    |                            |    |
|----|----------------------------|----|
| I  | 調査の概要                      |    |
| 1  | 調査の概要                      | 1  |
|    | (1) 調査目的                   |    |
|    | (2) 調査対象及び調査方法             |    |
|    | (3) 回収結果                   |    |
|    | (4) 調査内容                   |    |
| 2  | 本調査報告書の基本的な事項              | 2  |
|    | (1) 数値の基本的な取り扱いについて        |    |
|    | (2) 前回調査及び全国調査との比較         |    |
|    | (3) 比較調査の実施概要              |    |
| II | 調査結果                       |    |
| 1  | 回答者の属性                     | 4  |
|    | (1) 性別                     |    |
|    | (2) 年齢                     |    |
|    | (3) 職業                     |    |
|    | (4) パートナーの職業               |    |
|    | (5) 婚姻状況                   |    |
|    | (6) 子どもの有無                 |    |
|    | (7) 末子の年齢                  |    |
|    | (8) 世帯状況                   |    |
| 2  | 男女平等について                   | 9  |
|    | (1) 今の生活や社会の状況に関する意識       |    |
|    | (2) 社会で男性が優遇されている原因について    |    |
| 3  | 人権について                     | 31 |
|    | (1) 女性の人権が尊重されていないと感じること   |    |
|    | (2) メディアにおける性や暴力の表現        |    |
|    | (3) 女性の人権を守るためにすべきこと       |    |
|    | (4) 暴力被害の経験                |    |
|    | (5) 暴力を受けた時の相談先            |    |
| 4  | 学校教育について                   | 53 |
|    | (1) 学校教育で重要なこと             |    |
| 5  | 家庭生活について                   | 57 |
|    | (1) 家庭生活で行っていること           |    |
|    | (2) 生活に関する時間について (1日の生活時間) |    |
|    | (3) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について  |    |
|    | (4) 家庭生活に関する意識について         |    |

|     |                             |     |
|-----|-----------------------------|-----|
| 6   | 子育て・介護について                  | 119 |
|     | (1) 子育てについて不安に思うこと          |     |
|     | (2) 子どもを安心して産み育てる環境整備に必要なこと |     |
|     | (3) 高齢者介護が女性の役割となりがちなことについて |     |
| 7   | 社会参加活動について                  | 130 |
|     | (1) 社会活動について                |     |
|     | (2) 社会活動に関する際に支障となるもの       |     |
|     | (3) 地域活動の場での男女差について         |     |
| 8   | 職業生活について                    | 156 |
|     | (1) 男女が働く上で支障となること          |     |
|     | (2) 職場での能力発揮や継続勤務のために重要なこと  |     |
|     | (3) 職場での男女差について             |     |
|     | (4) 一般的に女性が職業をもつことについて      |     |
| 9   | 女性の社会参画について                 | 175 |
|     | (1) 女性の社会参画で大切なこと           |     |
| 10  | 男女共同参画を進めるための市の施策について       | 178 |
|     | (1) 市の施策の周知度                |     |
|     | (2) 男女共同参画推進のために力を入れるべきこと   |     |
| III | 自由意見                        | 184 |
| IV  | 講評                          | 190 |
|     | 男女共同参画に関する市民意識調査からみる現状と課題   |     |
| V   | 資料：アンケート調査票                 | 200 |

## I 調査の概要

### 1 調査の概要

---

#### (1) 調査目的

前橋市では、男女共同参画社会の実現を目指して、基本計画「まえばし Wind プラン 2009」を策定し、様々な取り組みを進めています。その一環として、市民の皆様の男女共同参画社会に関する意識や実態、ニーズを的確に把握し、今後の男女共同参画推進施策の基礎資料とすることを目的に本調査を実施しました。

#### (2) 調査対象及び調査方法等

|      |   |
|------|---|
| 調査対象 | 市内在住の18歳(平成6年4月1日以前出生)以上の男女                   |
| 標本数  | 3,000   |
| 抽出方法 | 住民基本台帳登録者から性・年齢階層別の人口割合に応じた無作為抽出(平成24年7月1日現在) |
| 調査方法 | 郵送による配付・回収                                    |
| 調査時期 | 平成24年7月                                       |

#### (3) 回収結果

| 配付数(票)<br>A | 回収数(票)<br>B       | 回収率<br>B/A | 有効回収数<br>C | 有効回収率<br>C/A |
|-------------|-------------------|------------|------------|--------------|
| 3,000       | 1,311<br>(白票8票含む) | 43.7%      | 1,303      | 43.4%        |

#### (4) 調査内容

- ①男女平等について
- ②人権について
- ③学校教育について
- ④家庭生活について
- ⑤子育て・介護について
- ⑥社会参加活動について
- ⑦職業生活について
- ⑧女性の社会参画について
- ⑨男女共同参画を進めるための市の施策について

## 2 本調査報告書の基本的な事項

### （1）数値の基本的な取り扱いについて

- 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出しています。従って、合計が 100％を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は n を 100％として算出しています。
- 質問の終わりに（複数回答）とある問は、1 人の回答者が 2 つ以上の回答を出してもよい問であり、従って各回答の合計比率は 100％を超える場合があります。
- 図表として示したものの中には「無効回答者」を省略した部分があります。そのため、区分ごとの実数（n の値）の合計が全体の標本数と一致しないことがあります。
- 性別、年齢、就業形態など属性による特性をみるために、クロス集計分析を行っているものがありますが、特に意味のある項目を対象としたほか、差がわずかな場合には特に取り上げていません。また、n 数が少ない場合は誤差範囲が大きくなることから、分析の対象にしていないものがあります。

### （2）前回調査及び全国調査との比較

- 選択肢が一致していない設問もあり、参考としているものもあります。
- 本報告書における比較分析に用いた調査名は、以下のとおりです。

| 調査名                         | 実施年月         | 備考         |
|-----------------------------|--------------|------------|
| 男女共同参画に関する市民意識調査<br>（前橋市）   | 平成 19 年 7 月  | 「前回調査」と表記  |
| 男女共同参画社会に関する県民意識調査<br>（群馬県） | 平成 21 年 12 月 | 「群馬県調査」と表記 |
| 男女共同参画社会に関する世論調査<br>（内閣府）   | 平成 21 年 3 月  | 「全国調査」と表記  |

## （3）比較調査の実施概要

## ① 前回調査

「男女共同参画に関する市民意識調査」は、前橋市において、基本計画策定の基礎資料とすることを目的に実施されたものです。

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 調査対象  | 市内在住の18歳以上の男女                    |
| 標本数   | 3,000                            |
| 抽出方法  | 住民基本台帳登録者から性・年齢階層別の人口割合に応じた無作為抽出 |
| 調査方法  | 郵送による配付・回収                       |
| 調査時期  | 平成19年7月                          |
| 有効回収率 | 32.5%                            |

## ② 群馬県調査

「男女共同参画社会に関する県民意識調査」は、群馬県において「群馬県男女共同参画基本計画」の次期プランを平成22年度に作成する際の基礎資料とすることを目的に実施されたものです。

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 調査対象  | 群馬県在住の満20歳以上の男女      |
| 標本数   | 2,000                |
| 抽出方法  | 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法 |
| 調査方法  | 郵送による配付・回収           |
| 調査時期  | 平成21年12月             |
| 有効回収率 | 53.6%                |

## ③ 全国調査

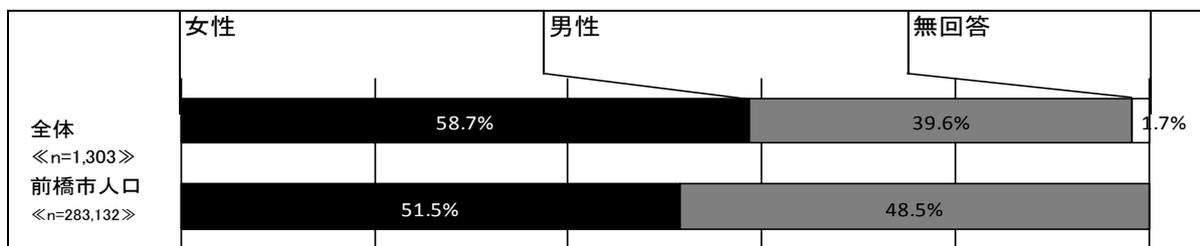
「男女共同参画社会に関する世論調査」は、男女共同参画社会に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とするために、内閣府によって定期的に行われている調査です。今回、引用したのは平成21年3月に実施された直近の調査です。

|       |              |
|-------|--------------|
| 調査対象  | 全国の20歳以上の者   |
| 標本数   | 5,000        |
| 抽出方法  | 層化2段無作為抽出法   |
| 調査方法  | 調査員による個別面接聴取 |
| 調査時期  | 平成21年3月      |
| 有効回収率 | 64.8%        |

## II 調査結果

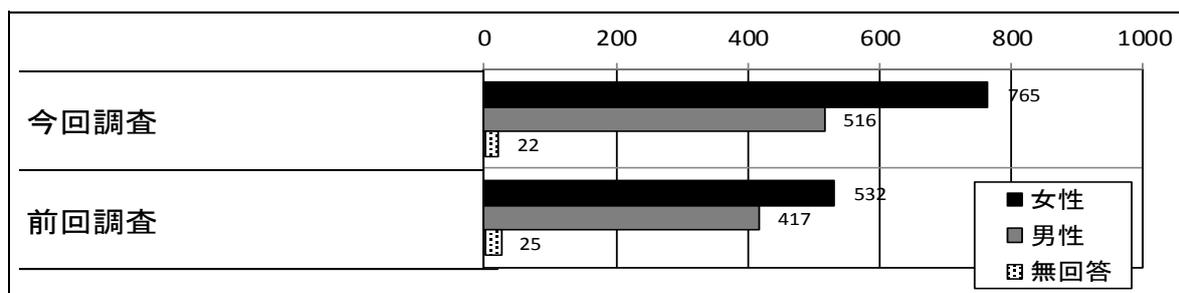
### 1 回答者の属性

#### （1）性別



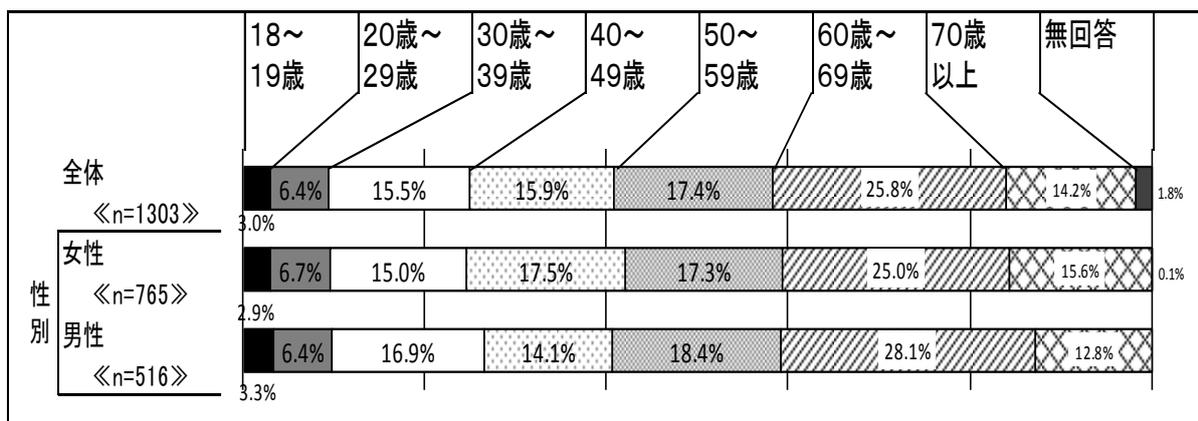
回答者 1,303 人について、「女性」は 58.7%、「男性」は 39.6%となっています。  
前橋市の人口について、「女性」は 51.5%、「男性」は 48.5%となっています。

※前橋市人口は、本調査実施直近（6月末日現在）の18歳以上の人口です。



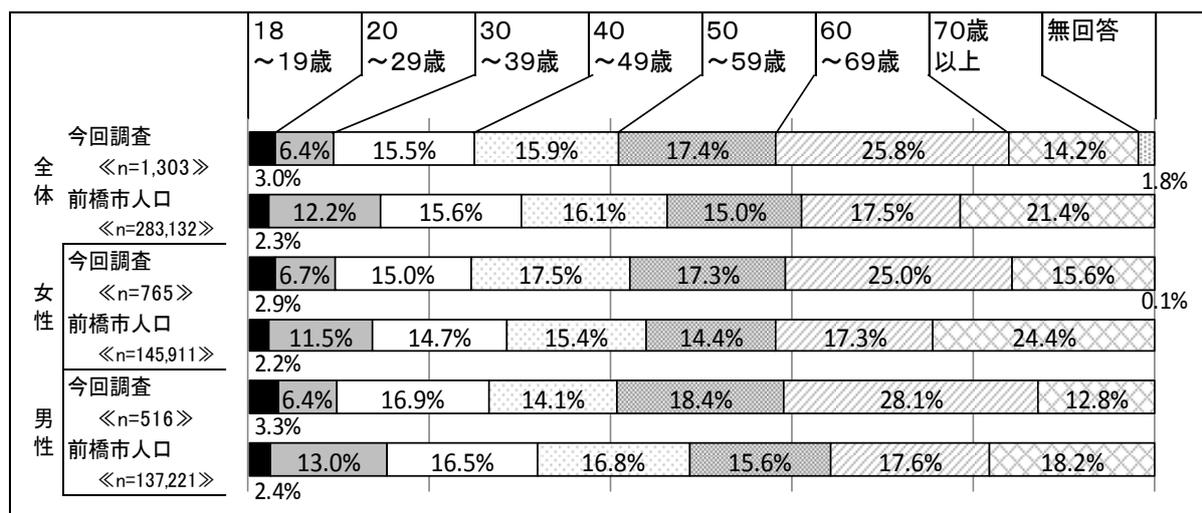
今回調査と前回調査の有効回収数を比べると、「女性」「男性」とも前回を上回りました。

#### （2）年齢



全体では“60代”が 25.8%、次いで“50代”が 17.4%と続いています。  
女性では“60代”が 25.0%、次いで“40代”が 17.5%と続いています。  
男性では“60代”が 28.1%、次いで“50代”が 18.4%と続いています。

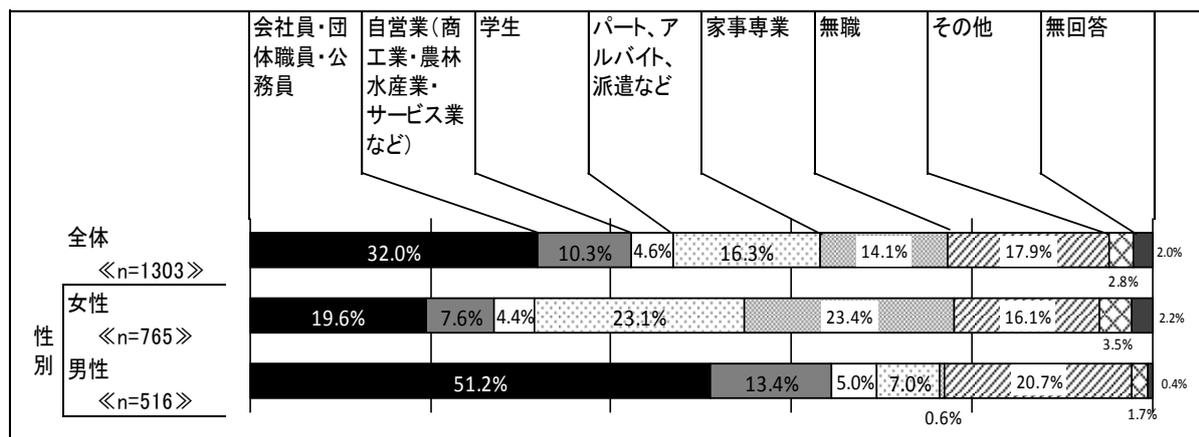
## II 調査結果（1 回答者の属性）



前橋市人口と比べると、全体では18～19歳、30代、40代の誤差は1ポイント以内となっています。

※前橋市人口は、本調査実施直近（6月末日現在）の18歳以上の人口です。

### （3）職業

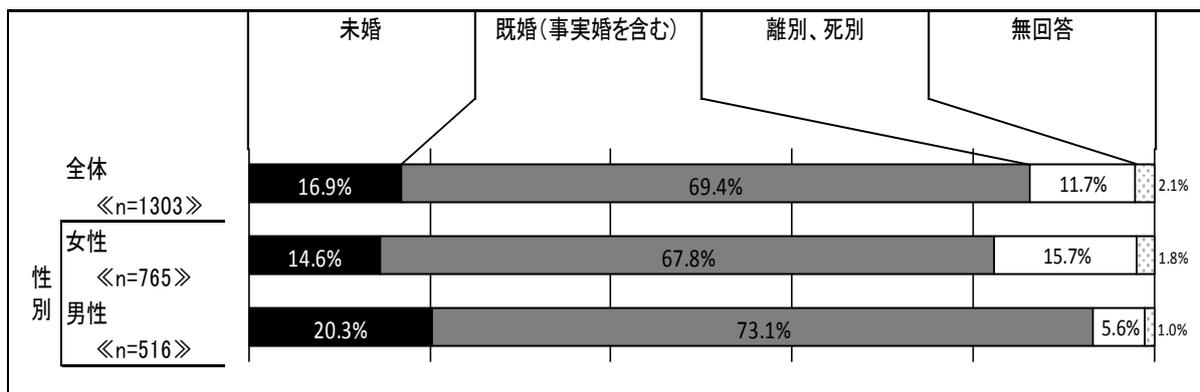


全体では、「会社員・団体職員・公務員」（32.0%）、次いで「無職」（17.9%）、「パート、アルバイト、派遣など」（16.3%）、「家事専業」（14.1%）、「自営業（商工業・農林水産業・サービス業など）」（10.3%）、「学生」（4.6%）と続いています。

女性では、「家事専業」が23.4%、次いで「パート、アルバイト、派遣など」（23.1%）、「会社員・団体職員・公務員」（19.6%）と続いています。

男性では、「会社員・団体職員・公務員」が51.2%、次いで「無職」（20.7%）、「自営業（商工業・農林水産業・サービス業など）」（13.4%）と続いています。

（4）婚姻状況

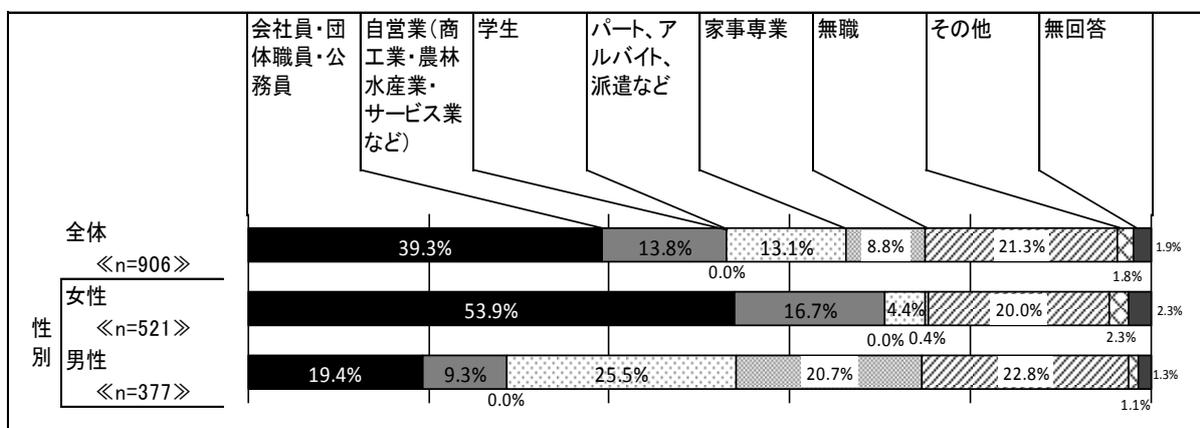


全体では、「既婚（事実婚を含む）」（69.4%）、「未婚」（16.9%）、「離別、死別」（11.7%）と続いています。

女性では「既婚（事実婚を含む）」（67.8%）、次いで「離別、死別」（15.7%）、「未婚」（14.6%）と続いています。

男性では「既婚（事実婚を含む）」（73.1%）、次いで「未婚」（20.3%）、「離別、死別」（5.6%）と続いています。

（5）パートナーの職業



全体では「会社員・団体職員・公務員」（39.3%）、次いで「無職」（21.3%）、「自営業（商工業・農林水産業・サービス業など）」（13.8%）、「パート、アルバイト、派遣など」（13.1%）、「家事専業」（8.8%）、「その他」（1.8%）と続いています。

女性では、そのパートナーの職業は「会社員・団体職員・公務員」（53.9%）、「無職」（20.0%）、「自営業（商工業・農林水産業・サービス業など）」（16.7%）と続いています。

男性では、そのパートナーの職業は「パート、アルバイト、派遣など」（25.5%）、次いで、「無職」（22.8%）、「家事専業」（20.7%）と続いています。

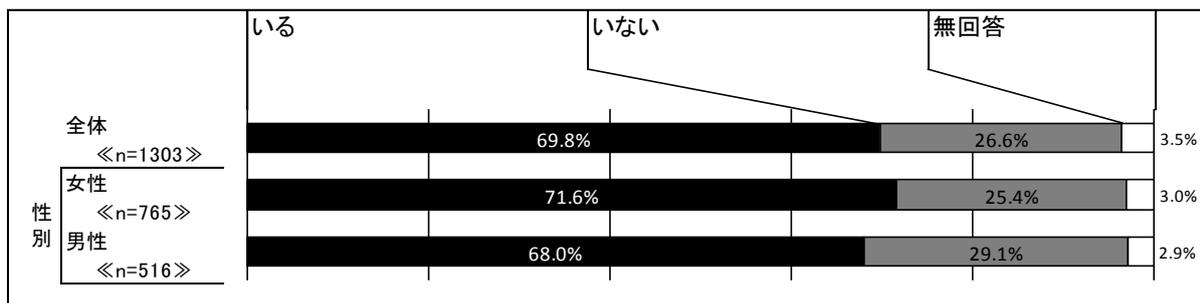
これ以降、回答者本人と回答者の配偶者（パートナー）の職業の組み合わせによって、「A 共働き家庭」「B 準共働き」「C 非共働き」「D その他」に分類し、分析に用いています。また、「B 準共働き」と「C 非共働き」については、更に分類し、次のとおり分類して用いています。

- A 共働き 回答者、配偶者とも常勤的な就業形態
- B-1 準共働き① 回答者が常勤的、配偶者が非常勤的な就業形態
- B-2 準共働き② 回答者が非常勤的、配偶者が常勤的な就業形態
- B-3 準共働き③ 回答者、配偶者とも非常勤的な就業形態
- C-1 非共働き① 回答者のみ就業している形態
- C-2 非共働き② 配偶者のみ就業している形態
- D その他

共働き状況の定義

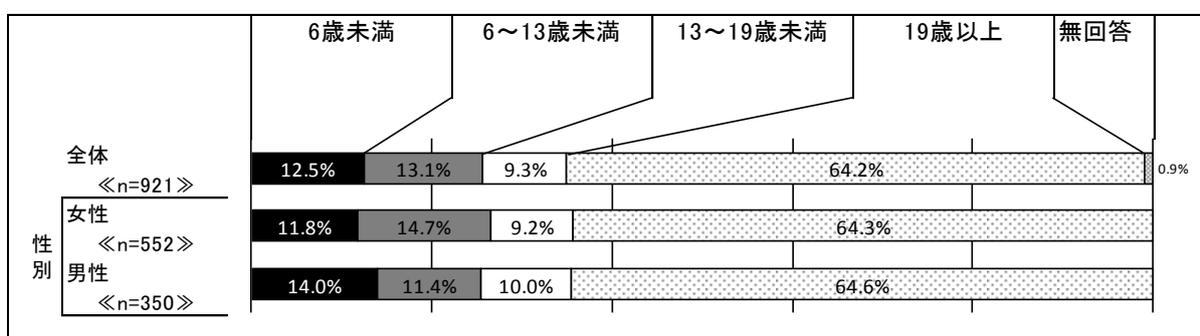
| 配偶者            |           | 会社員・団体職員・公務員 | 自営業       | パート・アルバイト・派遣など | 学生        | 家事専業 | 無職 | その他 |
|----------------|-----------|--------------|-----------|----------------|-----------|------|----|-----|
|                |           | 常勤的な就業形態     |           | 非常勤的な就業形態      |           |      |    |     |
| 会社員・団体職員・公務員   | 常勤的な就業形態  | A            |           | B-1 準共働き①      | C-1 非共働き① |      |    |     |
| 自営業            |           |              |           |                |           |      |    |     |
| パート・アルバイト・派遣など | 非常勤的な就業形態 | B-2 準共働き②    | B-3 準共働き③ | D その他          |           |      |    |     |
| 学生             | C-2 非共働き② |              |           |                |           |      |    |     |
| 家事専業           |           |              |           |                |           |      |    |     |
| 無職             |           |              |           |                |           |      |    |     |
| その他            |           |              |           |                |           |      |    |     |

（6）子どもの有無



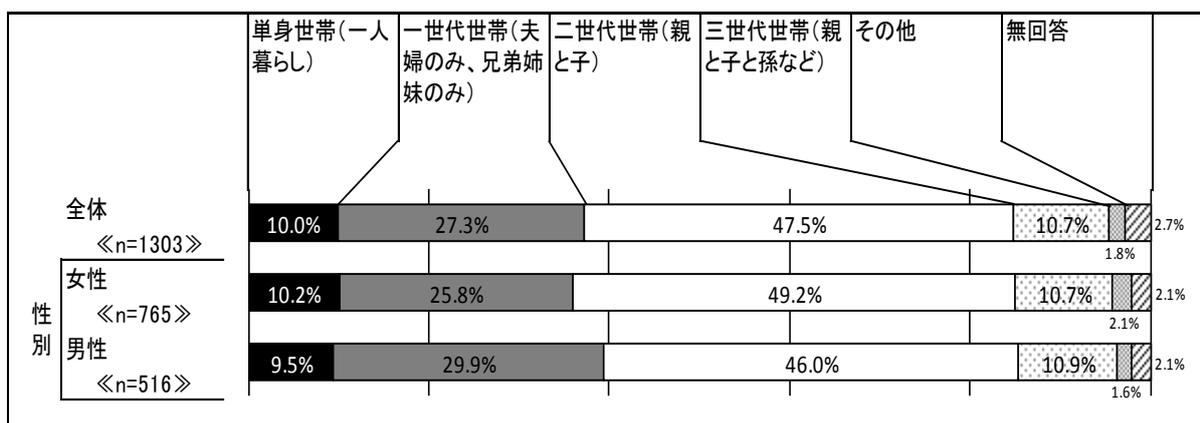
全体では、子どもが「いる」人は 69.8%、「いない」人は 26.6%となっています。

（7）末子の年齢



子どもがいると回答した方では、一番下の子どもの年齢は「19歳以上」64.2%、「6~13歳未満」13.1%、「6歳未満」12.5%、「13~19歳未満」9.3%と続いています。

（8）世帯状況



「二世帯世帯（親と子）」の割合が 47.5%、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」27.3%、「三世帯世帯（親と子と孫など）」10.7%、「単身世帯（一人暮らし）」10.0%と続いています。

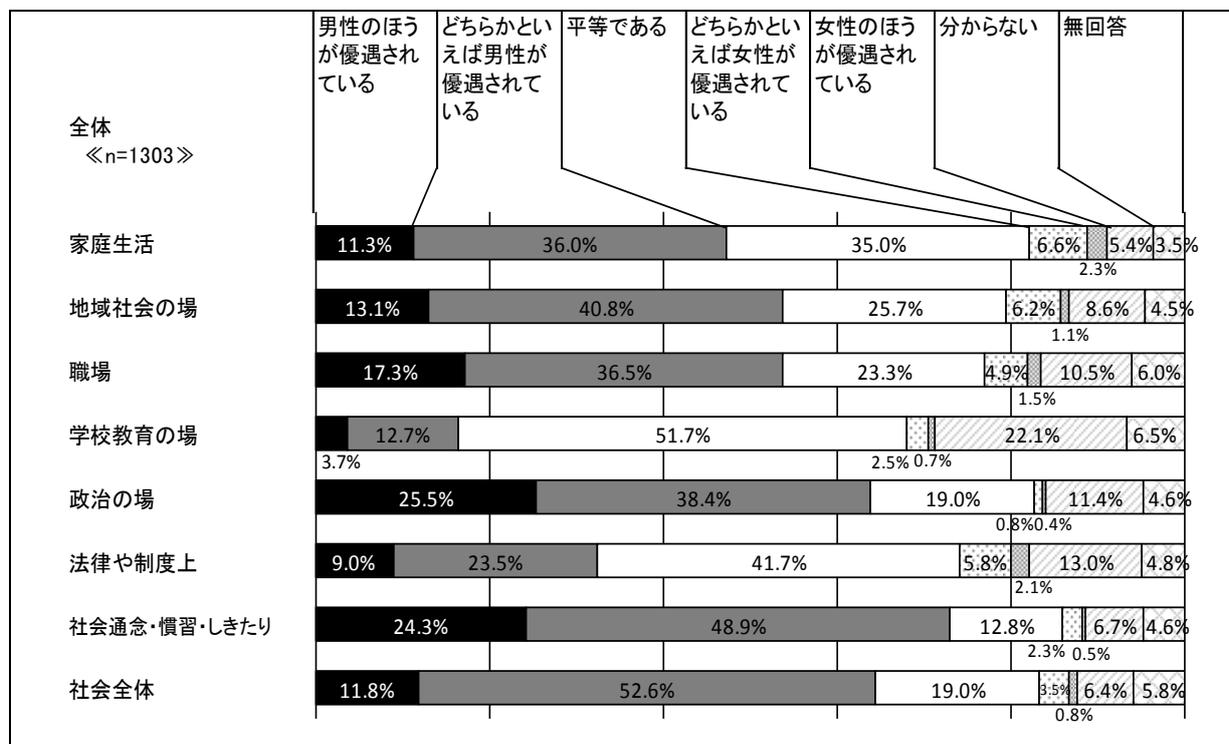
## 2 男女平等について

### (1) 今の生活や社会の状況に関する意識

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 問 1 | 今の生活や社会の状況は、どのようになっていると思いますか。 |
|-----|-------------------------------|

- ◆ 「平等である」が最も高いのは【学校教育の場】で51.7%、次いで【法律や制度上】が41.7%と続いています。
- ◆ 「平等である」が最も低いのは【社会通念・慣習・しきたり】で12.8%、次いで【政治の場】と【社会全体】が同率で19.0%と続いています。

#### 全体



「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは【家庭生活】で8.9%、次いで【法律や制度上】が7.9%と続いています。

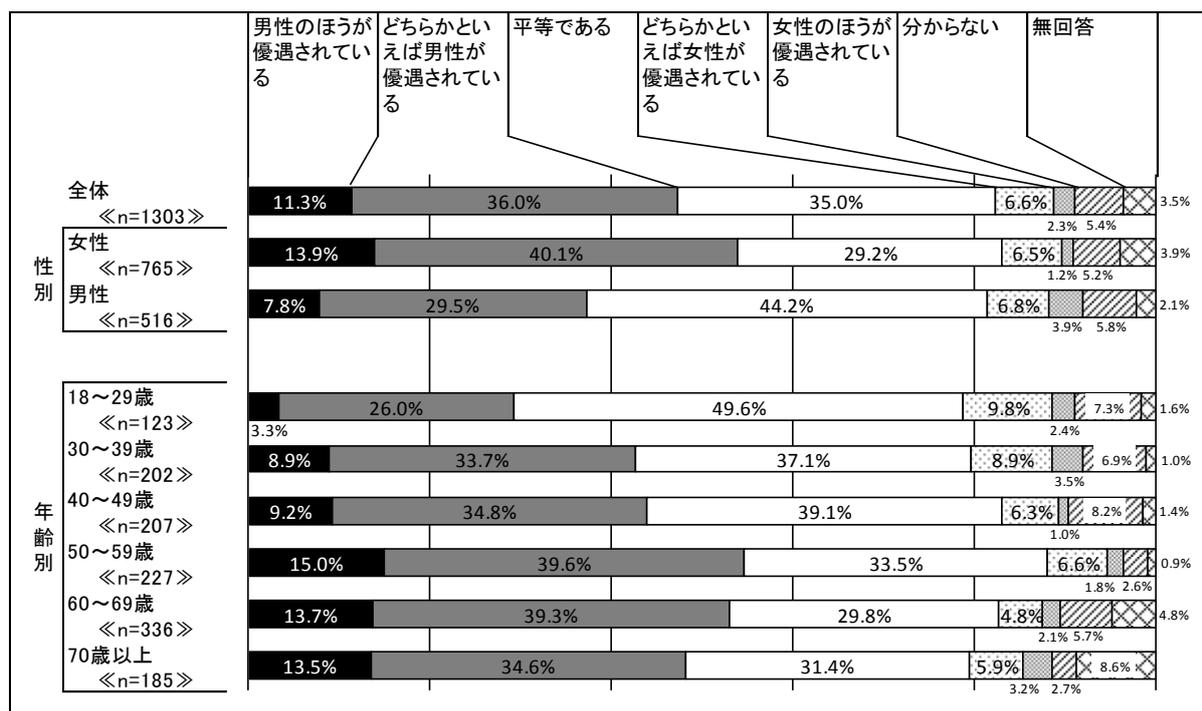
「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは【社会通念・慣習・しきたり】で73.2%、次いで【社会全体】が64.4%と続いています。

①家庭生活

- ◆「平等である」は全体で35.0%となっています。
- ◆「平等である」を性別で見ると女性29.2%、男性44.2%となっています。
- ◆「平等である」は前回調査と比べ性別にかかわらず上昇、全国調査を下回るが群馬県調査を上回ります。

**全体**

「どちらかといえば男性が優遇」36.0% > 「平等である」35.0%  
 > 「男性のほうが優遇」11.3% > 「どちらかといえば女性が優遇」6.6%  
 > 「わからない」5.4% > 「女性のほうが優遇」2.3%



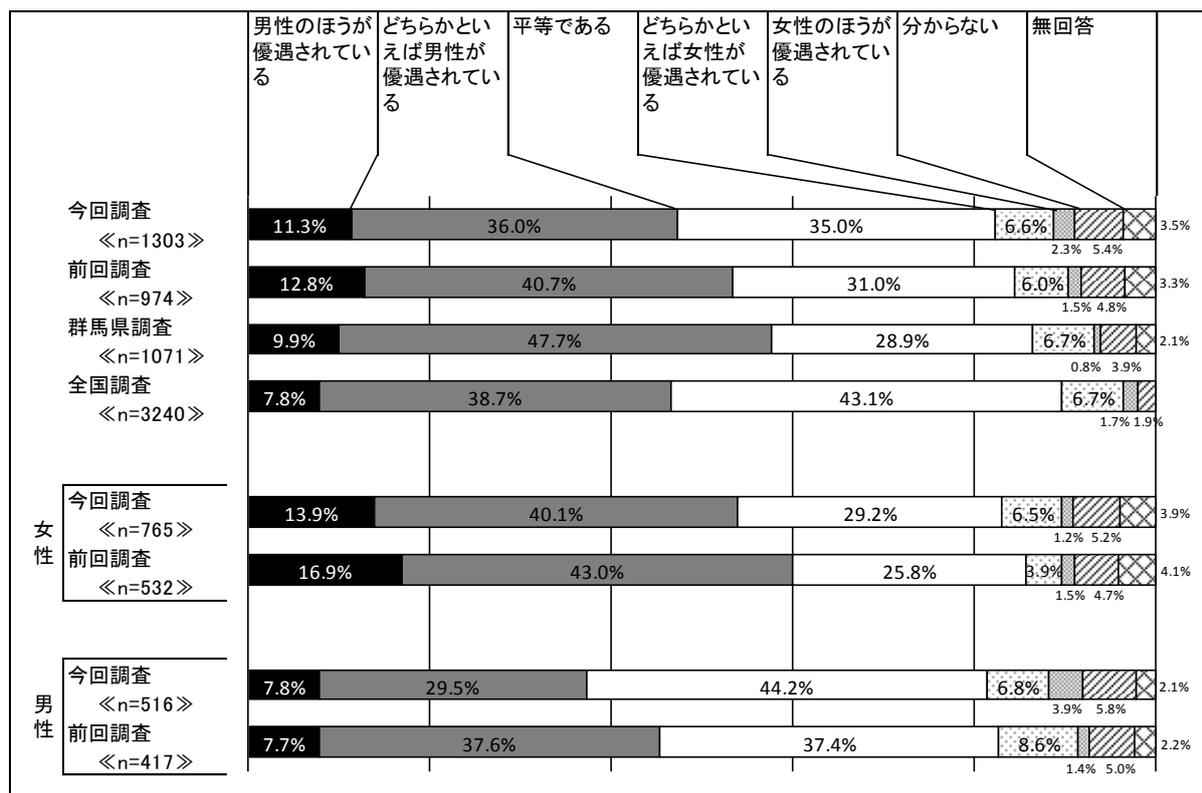
**性別**

「平等である」は女性29.2%、男性44.2%であり、男性が15.0ポイント上回ります。  
 「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、女性7.7%、男性10.7%であり、男性が3.0ポイント上回ります。  
 「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、女性54.0%、男性37.3%であり、女性が16.7ポイント上回ります。

**年齢別**

「平等である」が最も高いのは30歳未満で49.6%、最も低いのは60代の29.8%であり、その差は19.8ポイントとなっています。  
 「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは30代で12.4%、最も低いのは60代の6.9%であり、その差は5.5ポイントとなっています。  
 「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは50代で54.6%、最も低いのは30歳未満の29.3%であり、その差は25.3ポイントとなっています。

前回調査・全国調査との比較



注：全国調査は調査員がその場で聞き取る方法で調査を行っているため「無回答」はありません。

＜前回調査との比較＞

「平等である」は全体で4ポイント増加し、女性では3.4ポイント、男性では6.8ポイント増加しました。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で1.4ポイント増加し、女性では2.3ポイント、男性では0.7ポイント増加しました。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で6.2ポイント減少し、女性では5.9ポイント、男性では8.0ポイント減少しました。

＜群馬県調査との比較＞

「平等である」は6.1ポイント上回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については1.4ポイント上回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合については10.3ポイント下回っています。

＜全国調査との比較＞

「平等である」は8.1ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については0.5ポイント上回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合についても0.8ポイント上回っています。

②地域社会の場

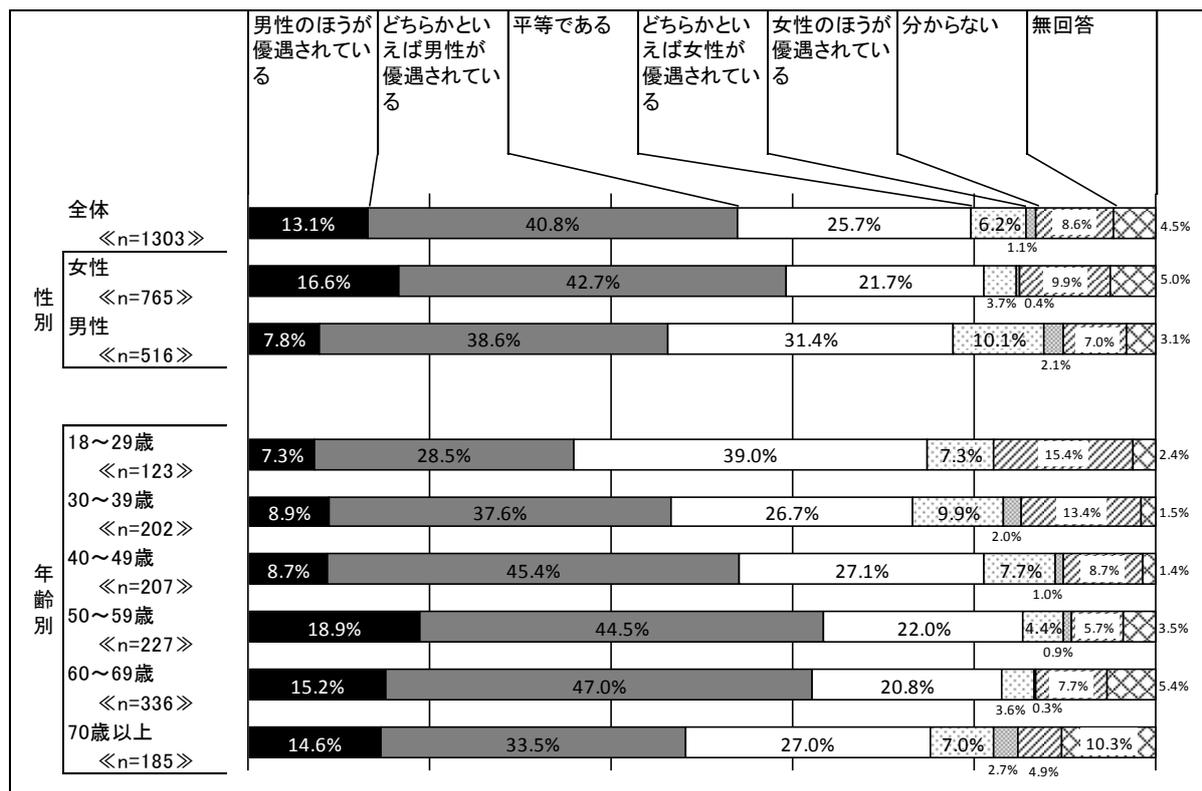
- ◆「平等である」は全体で25.7%となっています。
- ◆「平等である」を性別で見ると女性21.7%、男性31.4%となっています。
- ◆「平等である」は前回調査と比べ性別にかかわらず上昇したが、全国調査、群馬県調査を下回ります。

**全体**

「どちらかといえば男性が優遇」40.8% > 「平等である」25.7%

> 「男性のほうが優遇」13.1% > 「わからない」8.6%

> 「どちらかといえば女性が優遇」6.2% > 「女性のほうが優遇」1.1%



**性別**

「平等である」は女性21.7%、男性31.4%であり、男性が9.7ポイント上回ります。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、女性4.1%、男性12.2%であり、男性が8.1ポイント上回ります。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、女性59.3%、男性46.4%であり、女性が12.9ポイント上回ります。

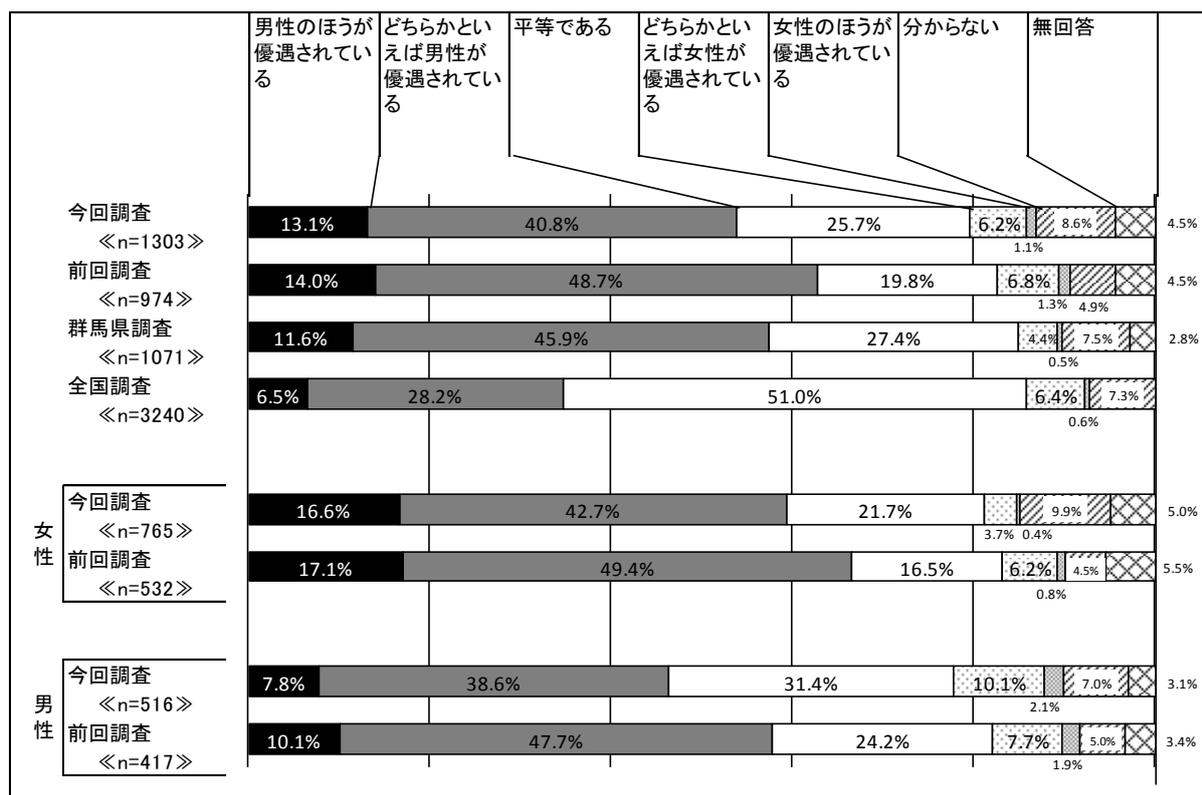
**年齢別**

「平等である」が最も高いのは30歳未満で39.0%、最も低いのは60代の20.8%であり、その差は18.2ポイント。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは30代で11.9%、最も低いのは60代の3.9%であり、その差は8.0ポイントとなっています。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは50代で63.4%、最も低いのは30歳未満の35.8%であり、その差は27.6ポイントとなっています。

前回調査・全国調査との比較



注：全国調査は調査員がその場で聞き取る方法で調査を行っているため「無回答」はありません。

<前回調査との比較>

「平等である」は全体で 5.9 ポイント増加し、女性では 5.2 ポイント、男性では 7.2 ポイント増加しました。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 0.8 ポイント減少し、女性では 2.9 ポイント減少、男性では 2.6 ポイント増加しました。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 8.8 ポイント減少し、女性では 7.2 ポイント、男性では 11.4 ポイント減少しました。

<群馬県調査との比較>

「平等である」は 1.7 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 2.4 ポイント上回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合については 3.6 ポイント下回っています。

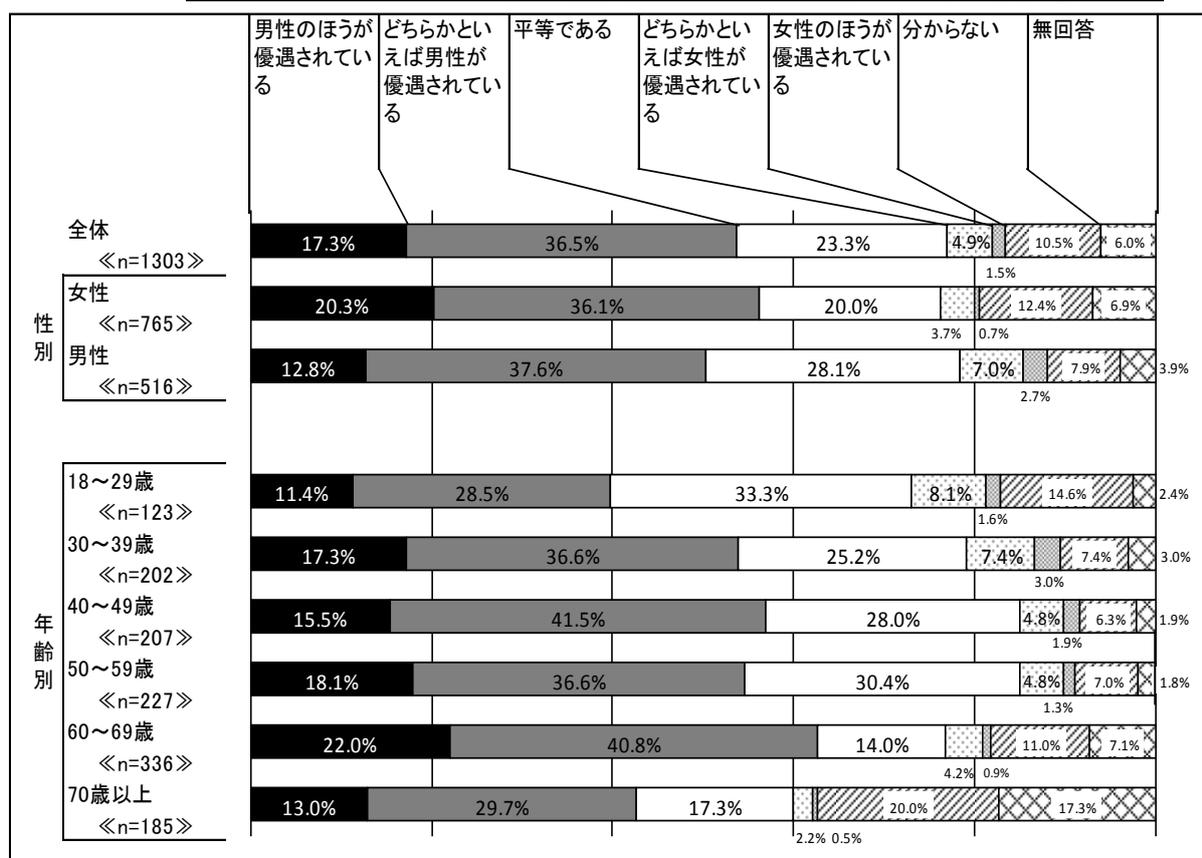
<全国調査との比較>

「平等である」は 25.3 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 0.3 ポイント上回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合についても 19.2 ポイント上回っています。

③職場

- ◆「平等である」は全体で23.3%となっています。
- ◆「平等である」を性別で見ると女性20.0%、男性28.1%となっています。
- ◆「平等である」を就業状況別でみると【会社員・団体職員・公務員】が33.1%となっています。
- ◆「平等である」は前回調査と比べ性別にかかわらず上昇、全国調査を下回るが群馬県調査を上回ります。

**全体** 「どちらかといえば男性が優遇」36.5% > 「平等である」23.3%  
 > 「男性のほうが優遇」17.3% > 「わからない」10.5%  
 > 「どちらかといえば女性が優遇」4.9% > 「女性のほうが優遇」1.5%



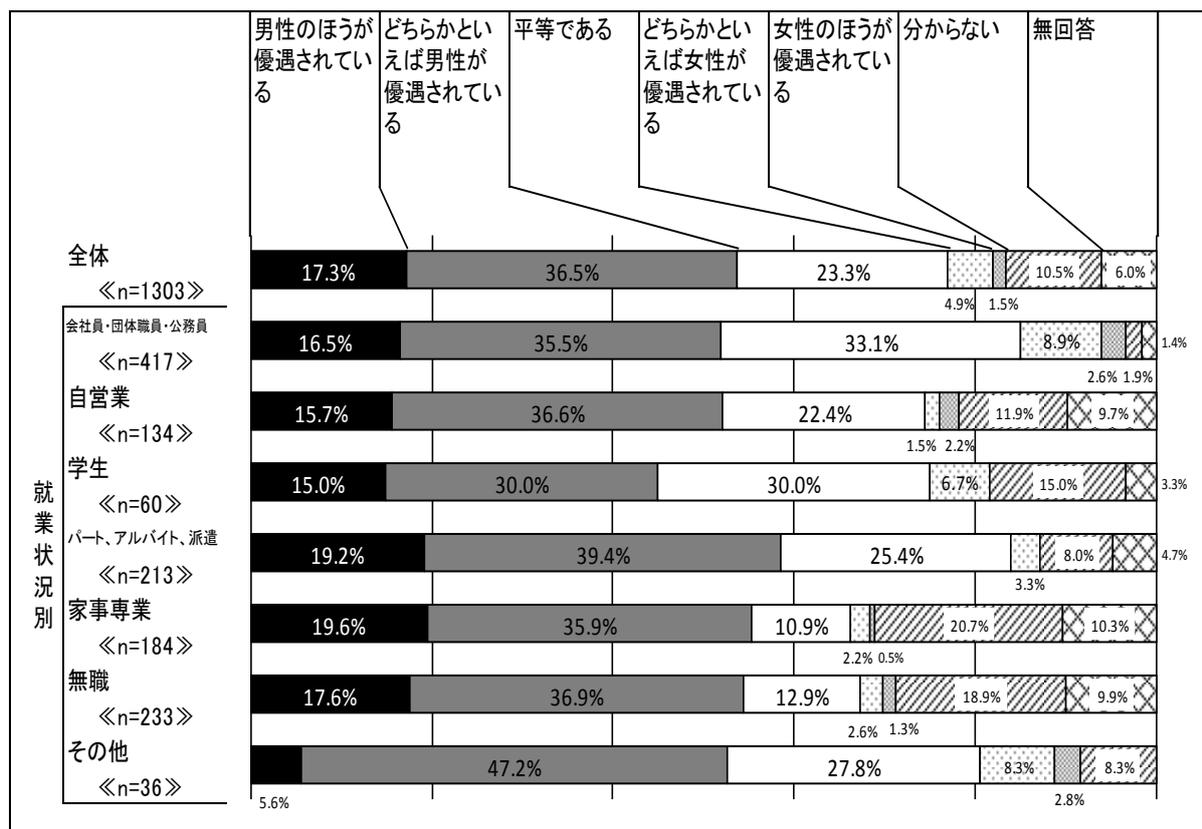
**性別**

「平等である」は女性20.0%、男性28.1%であり、男性が8.1ポイント上回ります。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、女性4.4%、男性9.7%であり、男性が5.3ポイント上回ります。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、女性56.4%、男性50.4%であり、女性が6.0ポイント上回ります。

**年齢別**

「平等である」が最も高いのは30歳未満で33.3%、最も低いのは60代の14.0%であり、その差は19.3ポイント。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは30代で10.4%、最も低いのは70歳以上の2.7%であり、その差は7.7ポイント。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは60代で62.8%、最も低いのは30歳未満の39.9%であり、その差は22.9ポイントとなっています。

就業状況別

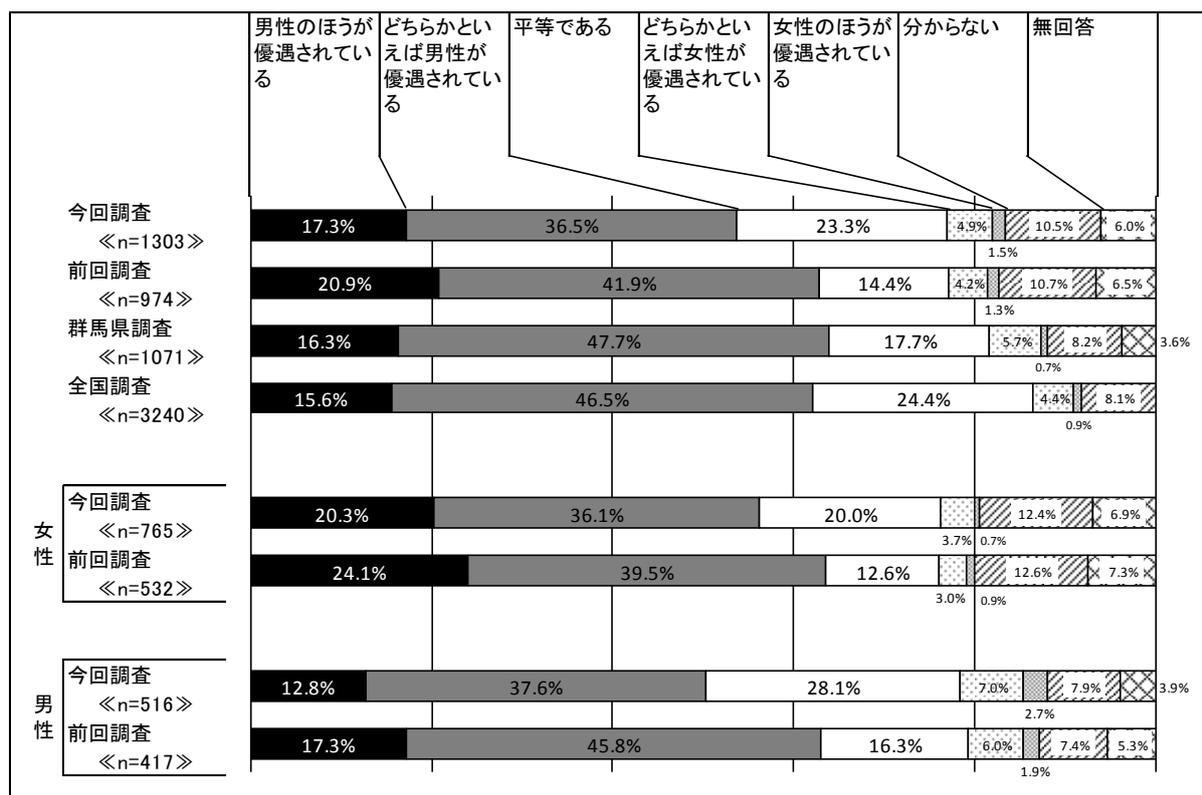


「平等である」が最も高いのは【会社員・団体職員・公務員】33.1%、最も低いのは【家事専業】10.9%となっています。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは【会社員・団体職員・公務員】11.5%、最も低いのは【家事専業】2.7%となっています。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは【パート・アルバイト・派遣】58.6%、最も低いのは【学生】45.0%となっています。

前回調査・全国調査との比較



注：全国調査は調査員がその場で聞き取る方法で調査を行っているため「無回答」はありません。

<前回調査との比較>

「平等である」は全体で 8.9 ポイント増加し、女性では 7.4 ポイント、男性では 11.8 ポイント増加しました。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 0.9 ポイント増加し、女性では 0.5 ポイント、男性では 1.8 ポイント増加しました。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 9 ポイント減少し、女性では 7.2 ポイント、男性では 12.7 ポイント減少しました。

<群馬県調査との比較>

「平等である」は 5.6 ポイント上回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については同率で、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合については 10.2 ポイント下回っています。

<全国調査との比較>

「平等である」は 1.1 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 1.1 ポイント上回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合については 8.3 ポイント下回っています。

④学校教育の場

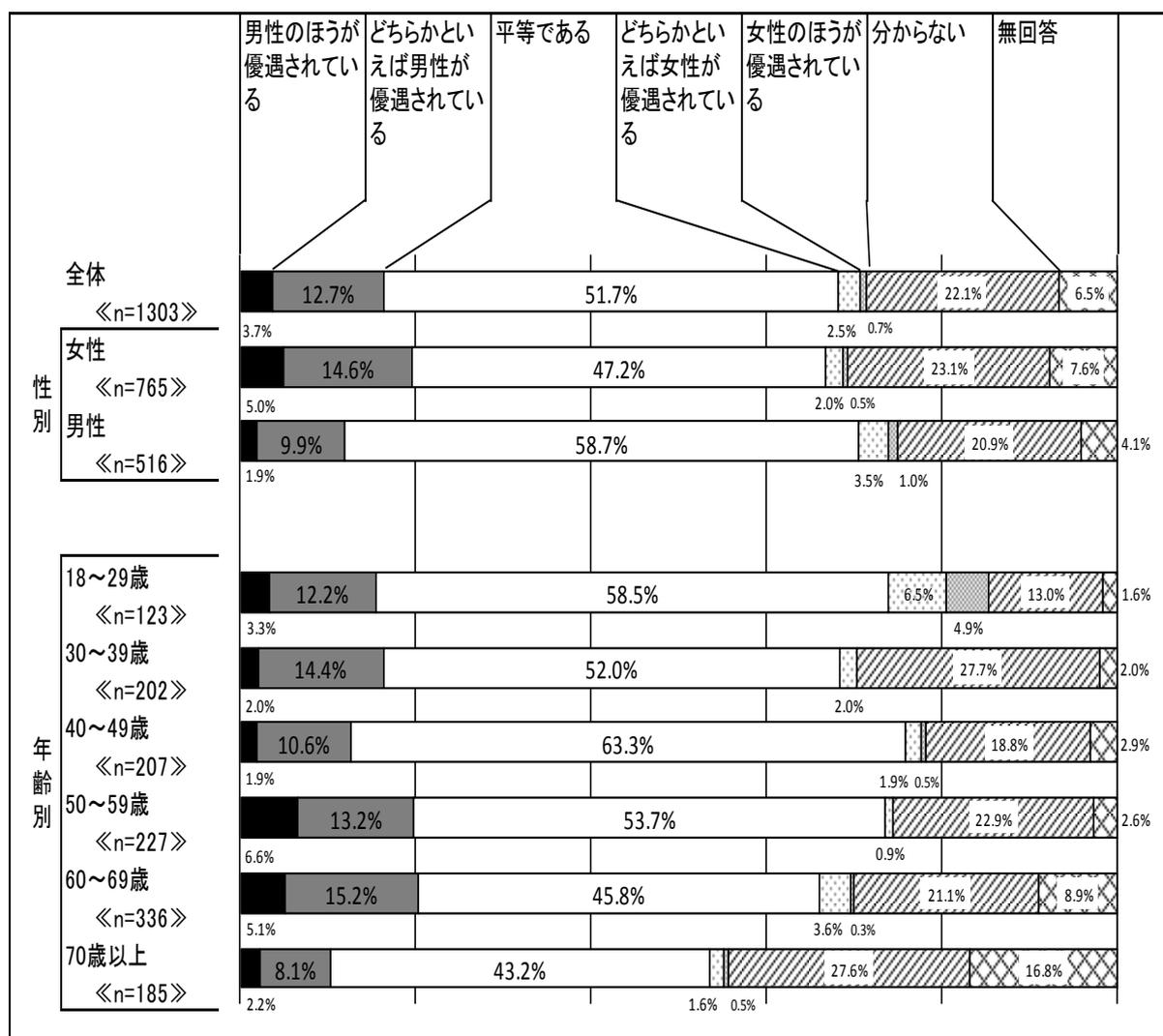
- ◆「平等である」は全体で51.7%となっています。
- ◆「平等である」を性別で見ると女性47.2%、男性58.7%となっています。
- ◆「平等である」は前回調査と比べ性別にかかわらず減少、全国調査、群馬県調査を下回ります。

**全体**

「平等である」51.7% > 「わからない」22.1%

> 「どちらかといえば男性が優遇」12.7% > 「男性のほうが優遇」3.7%

> 「どちらかといえば女性が優遇」2.5% > 「女性のほうが優遇」0.7%



**性別**

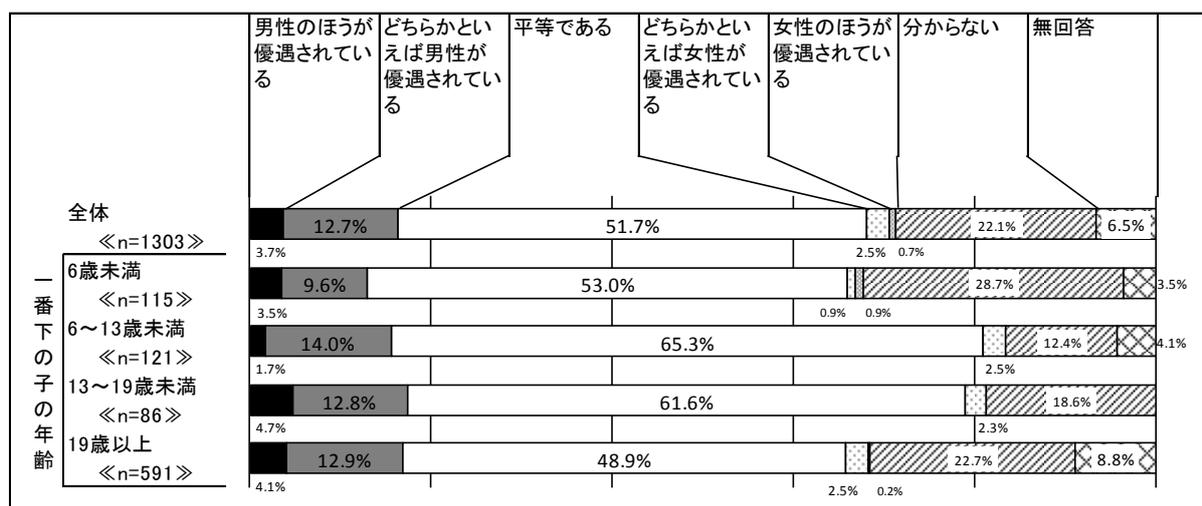
「平等である」は女性 47.2%、男性 58.7%であり、男性が 11.5 ポイント上回ります。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、女性 2.5%、男性 4.5%であり、男性が 2.0 ポイント上回ります。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、女性 19.6%、男性 11.8%であり、女性が 7.8 ポイント上回ります。

**年齢別**

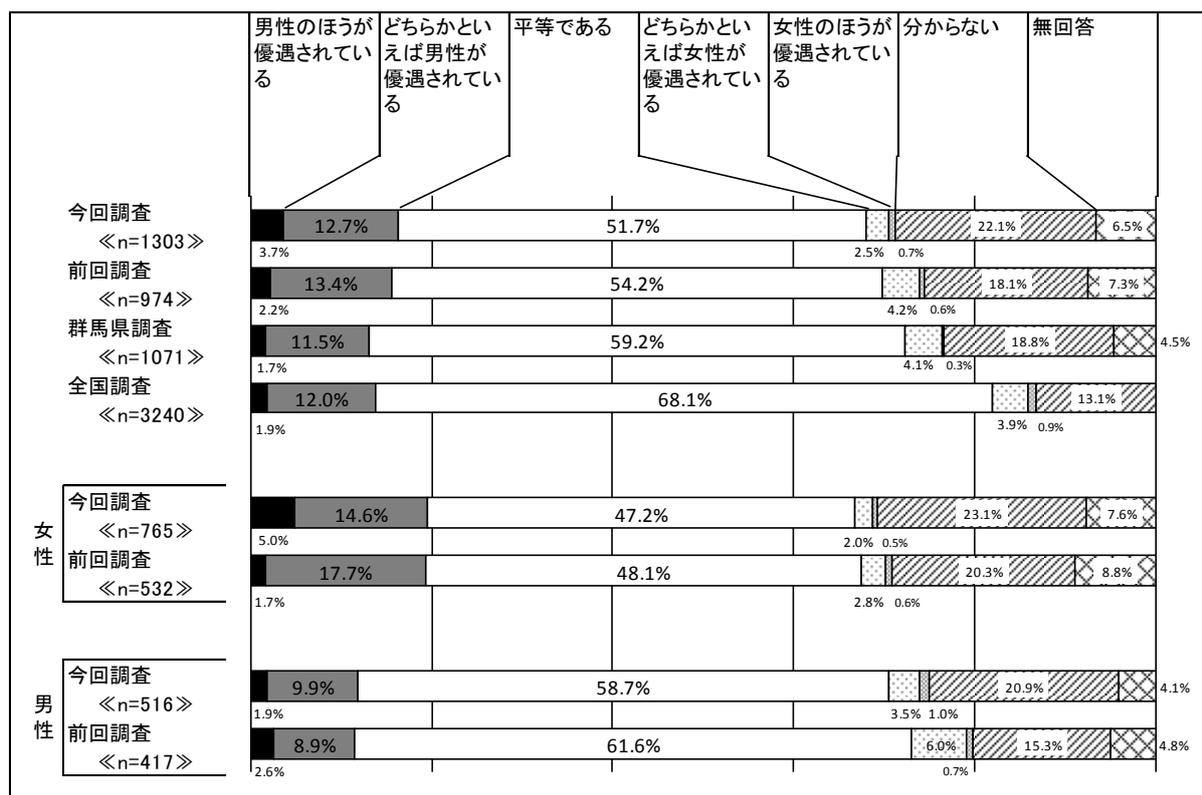
「平等である」が最も高いのは40代で63.3%、最も低いのは70歳以上の43.2%であり、その差は20.1ポイント。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは30歳未満で11.4%、最も低いのは代50の0.9%であり、その差は10.5ポイント。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは60代で20.2%、最も低いのは70歳以上代の10.3%であり、その差は9.9ポイントとなっています。

**詳細分析**

「平等である」が最も高いのは一番下の子が6～13歳未満で65.3%、最も低いのは一番下の子が19歳以上の48.9%であり、その差は16.4ポイント。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは一番下の子が19歳以上で2.7%、最も低いのは一番下の子が6歳未満の1.8%であり、その差は0.9ポイント。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは一番下の子が13～19歳未満で17.5%、最も低いのは一番下の子が6歳未満の13.1%であり、その差は4.4ポイントとなっています。



前回調査・全国調査との比較



注：全国調査は調査員がその場で聞き取る方法で調査を行っているため「無回答」はありません。

<前回調査との比較>

「平等である」は全体で 2.5 ポイント減少し、女性では 0.9 ポイント、男性では 2.9 ポイント減少しました。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 1.6 ポイント減少し、女性では 0.9 ポイント減少、男性では 2.2 ポイント減少しました。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 0.8 ポイント増加し、女性では 0.2 ポイント、男性では 0.3 ポイント増加しました。

<群馬県調査との比較>

「平等である」は 7.5 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 1.2 ポイント下回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合についても 3.2 ポイント上回っています。

<全国調査との比較>

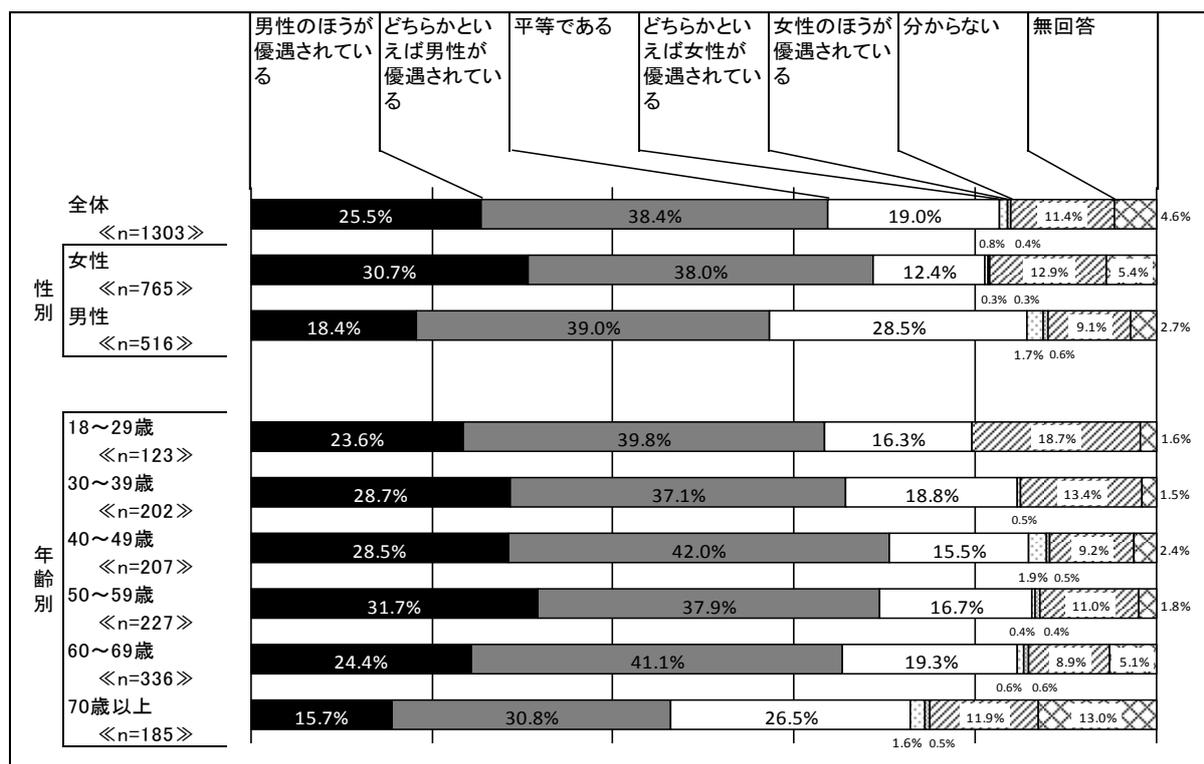
「平等である」は 16.4 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 1.6 ポイント下回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合については 2.5 ポイント上回っています。

⑤政治の場

- ◆「平等である」は全体で19.0%となっています。
- ◆「平等である」を性別で見ると女性12.4%、男性28.5%となっています。
- ◆「平等である」は前回調査と比べやや増加、全国調査は下回るが、群馬県調査を上回ります。

**全体**

「どちらかといえば男性が優遇」38.4% > 「男性のほうが優遇」25.5%  
 > 「平等である」19.0% > 「わからない」11.4%  
 > 「どちらかといえば女性が優遇」0.8% > 「女性のほうが優遇」0.4%



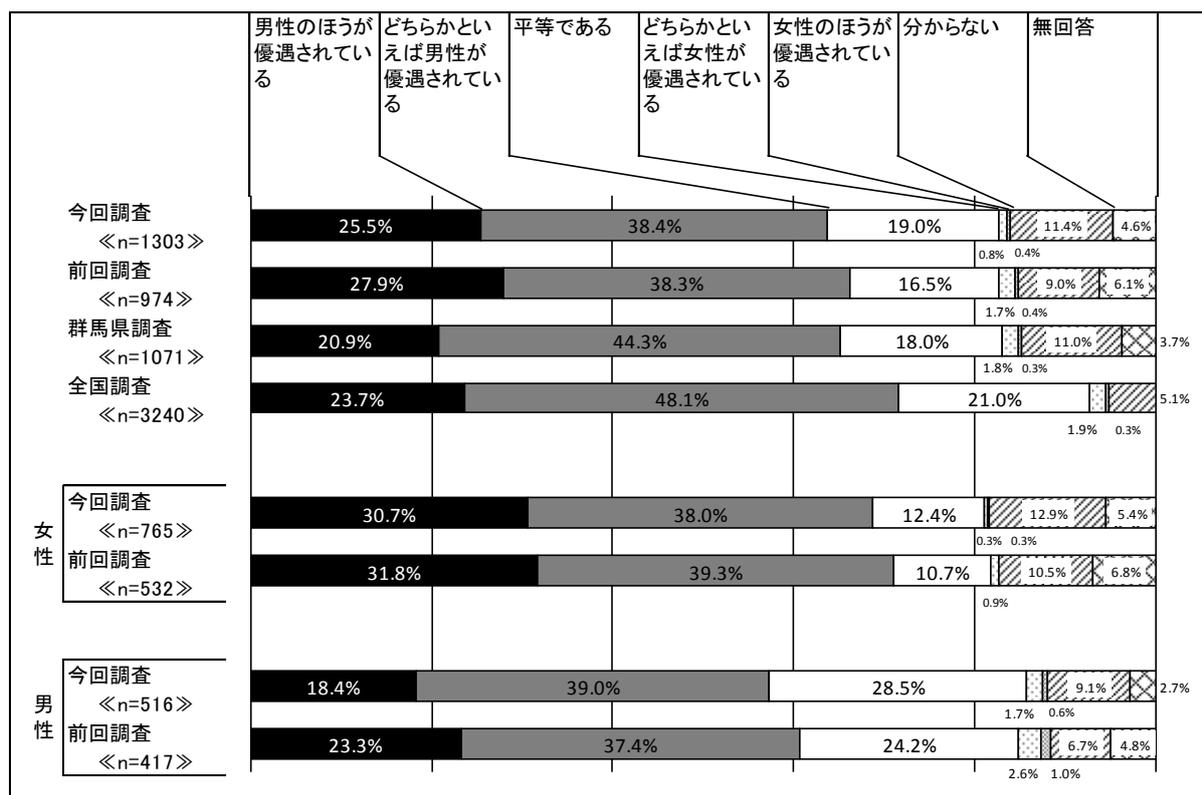
**性別**

「平等である」は女性12.4%、男性28.5%であり、男性が16.1ポイント上回ります。  
 「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、女性0.6%、男性2.3%であり、男性が1.8ポイント上回ります。  
 「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、女性68.7%、男性57.4%であり、女性が11.4ポイント上回ります。

**年齢別**

「平等である」が最も高いのは70歳以上で26.5%、最も低いのは40代の15.5%であり、その差は11.0ポイント。  
 「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは40代で2.4%、最も低いのは30歳未満の0.0%であり、その差は2.4ポイントとなっています。  
 「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは40代で70.5%、最も低いのは70歳以上の46.5%であり、その差は24.0ポイントとなっています。

前回調査・全国調査との比較



注：全国調査は調査員がその場で聞き取る方法で調査を行っているため「無回答」はありません。

<前回調査との比較>

「平等である」は全体で 2.5 ポイント増加し、女性では 1.7 ポイント、男性では 4.3 ポイント増加しました。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 0.9 ポイント減少し、女性では 0.3 ポイント減少、男性では 1.3 ポイント減少しました。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 2.3 ポイント減少し、女性では 2.4 ポイント減少し、男性では 3.3 ポイント減少しました。

<群馬県調査との比較>

「平等である」は 1.0 ポイント上回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 0.9 ポイント下回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合についても 1.3 ポイント下回っています。

<全国調査との比較>

「平等である」は 2.0 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 1.0 ポイント下回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合についても 7.9 ポイント下回っています。

⑥法律や制度上

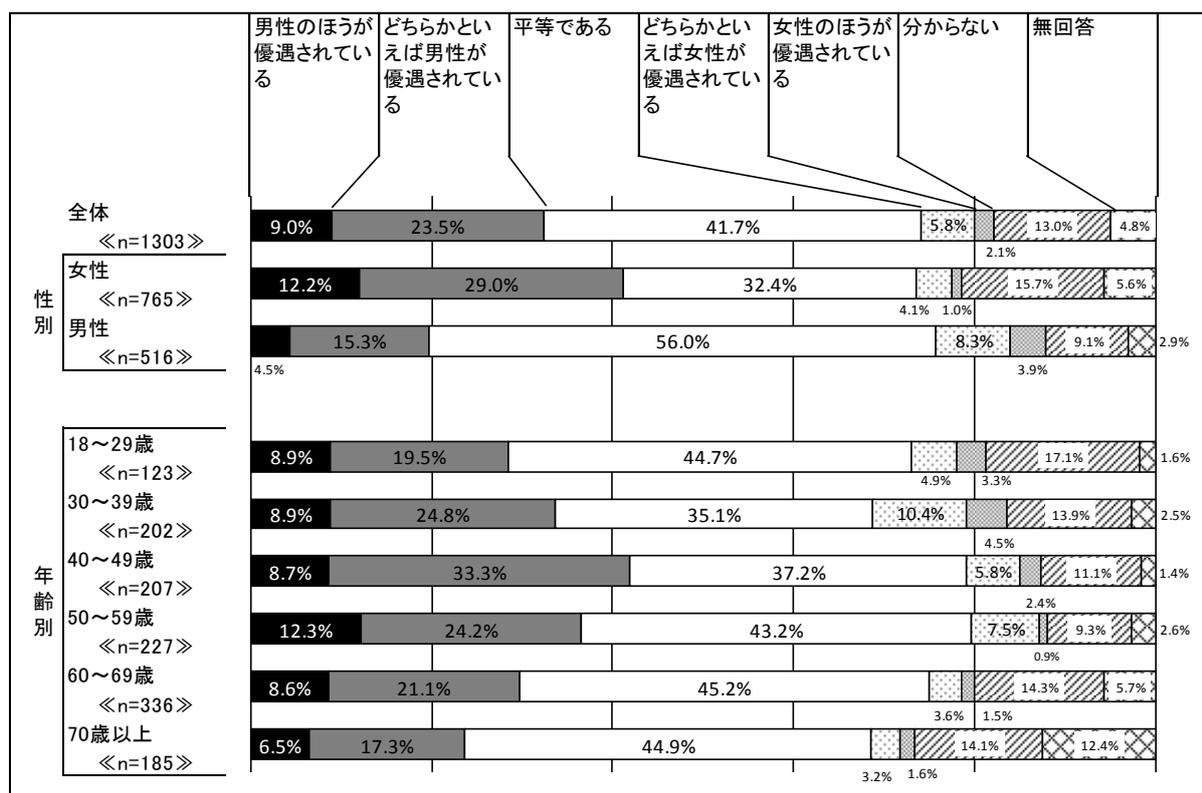
- ◆「平等である」は全体で41.7%となっています。
- ◆「平等である」を性別で見ると女性32.4%、男性56.0%となっています。
- ◆「平等である」は前回調査と比べ性別にかかわらず増加、全国調査は下回るが、群馬県調査を上回ります。

**全体**

「平等である」41.7% > 「どちらかといえば男性が優遇」23.5%

> 「わからない」13.0% > 「男性のほうが優遇」9.0%

> 「どちらかといえば女性が優遇」5.8% > 「女性のほうが優遇」2.1%



**性別**

「平等である」は女性32.4%、男性56.0%であり、男性が23.6ポイント上回ります。

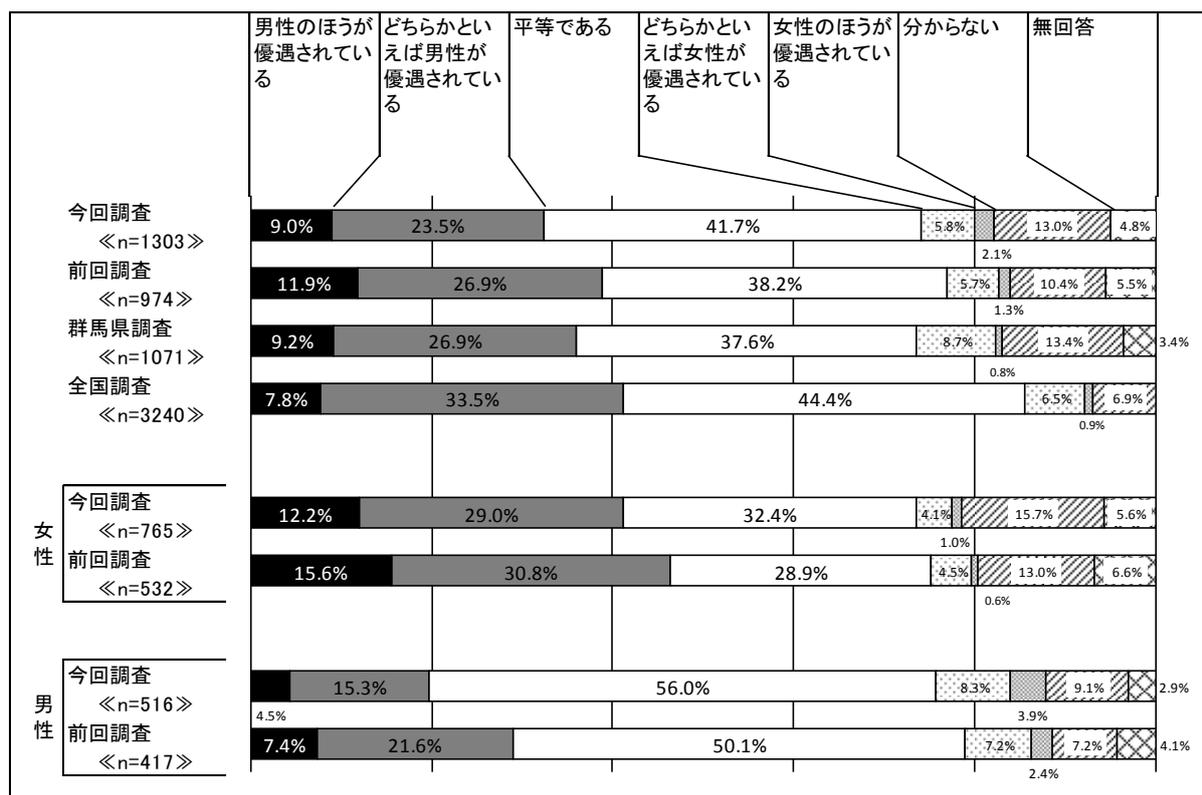
「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、女性5.1%、男性12.2%であり、男性が7.1ポイント上回ります。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、女性41.2%、男性19.8%であり、女性が21.4ポイント上回ります。

**年齢別**

「平等である」が最も高いのは60代で45.2%、最も低いのは30代の35.1%であり、その差は10.1ポイント。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは30代で14.9%、最も低いのは70歳以上の4.8%であり、その差は10.1ポイント。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは40代で42.0%、最も低いのは70歳以上の23.8%であり、その差は18.2ポイントとなっています。

前回調査・全国調査との比較



注：全国調査は調査員がその場で聞き取る方法で調査を行っているため「無回答」はありません。

<前回調査との比較>

「平等である」は全体で 3.5 ポイント増加し、女性では 3.5 ポイント、男性では 5.9 ポイント増加しました。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 0.9 ポイント増加し、女性では変化無し、男性では 2.6 ポイント増加しました。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 6.3 ポイント減少し、女性では 5.2 ポイント、男性では 9.2 ポイント減少しました。

<群馬県調査との比較>

「平等である」は 4.1 ポイント上回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 1.6 ポイント下回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合についても 3.6 ポイント下回っています。

<全国調査との比較>

「平等である」は 2.7 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 0.5 ポイント上回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合については 8.8 ポイント下回っています。

⑦社会通念・慣習・しきたり

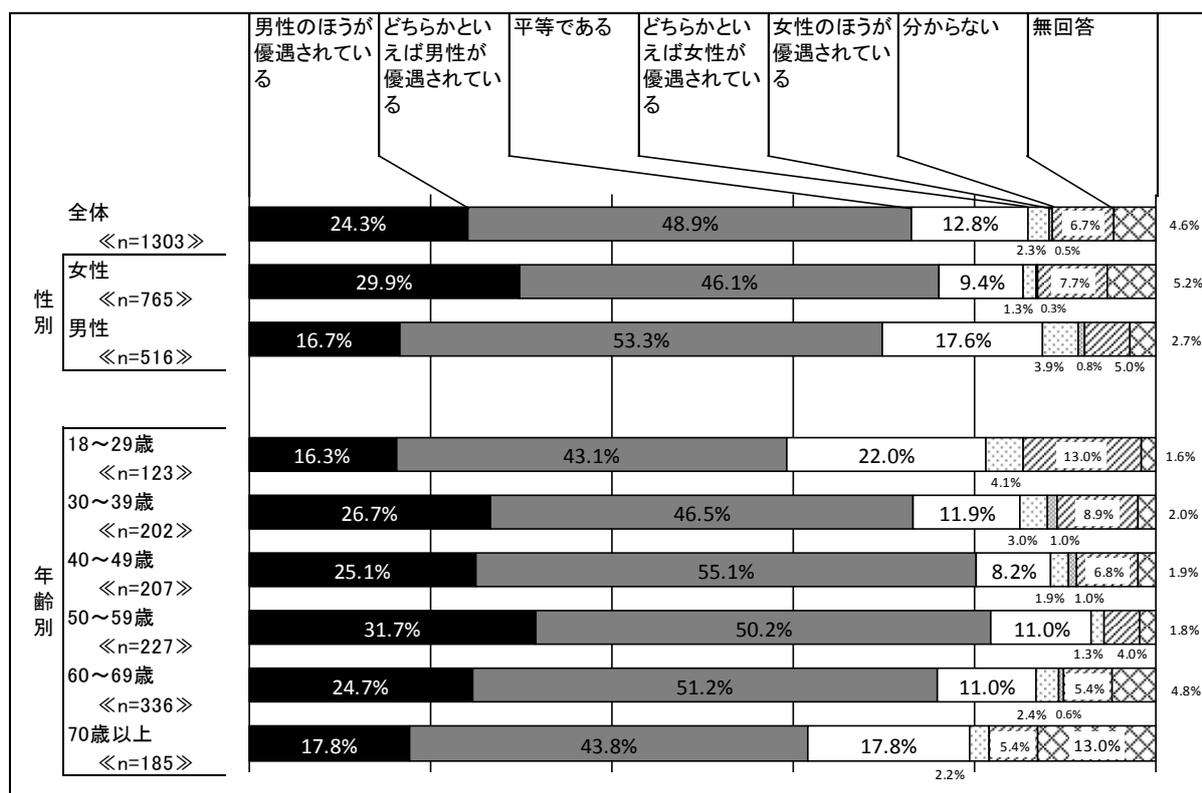
- ◆「平等である」は全体で12.8%となっています。
- ◆「平等である」を性別で見ると女性9.4%、男性17.6%となっています。
- ◆「平等である」は前回調査と比べ性別にかかわらず増加、全国調査を下回り、群馬県調査を上回ります。

**全体**

「どちらかといえば男性が優遇」48.9% > 「男性のほうが優遇」24.3%

> 「平等である」12.8% > 「わからない」6.7%

> 「どちらかといえば女性が優遇」2.3% > 「女性のほうが優遇」0.5%



**性別**

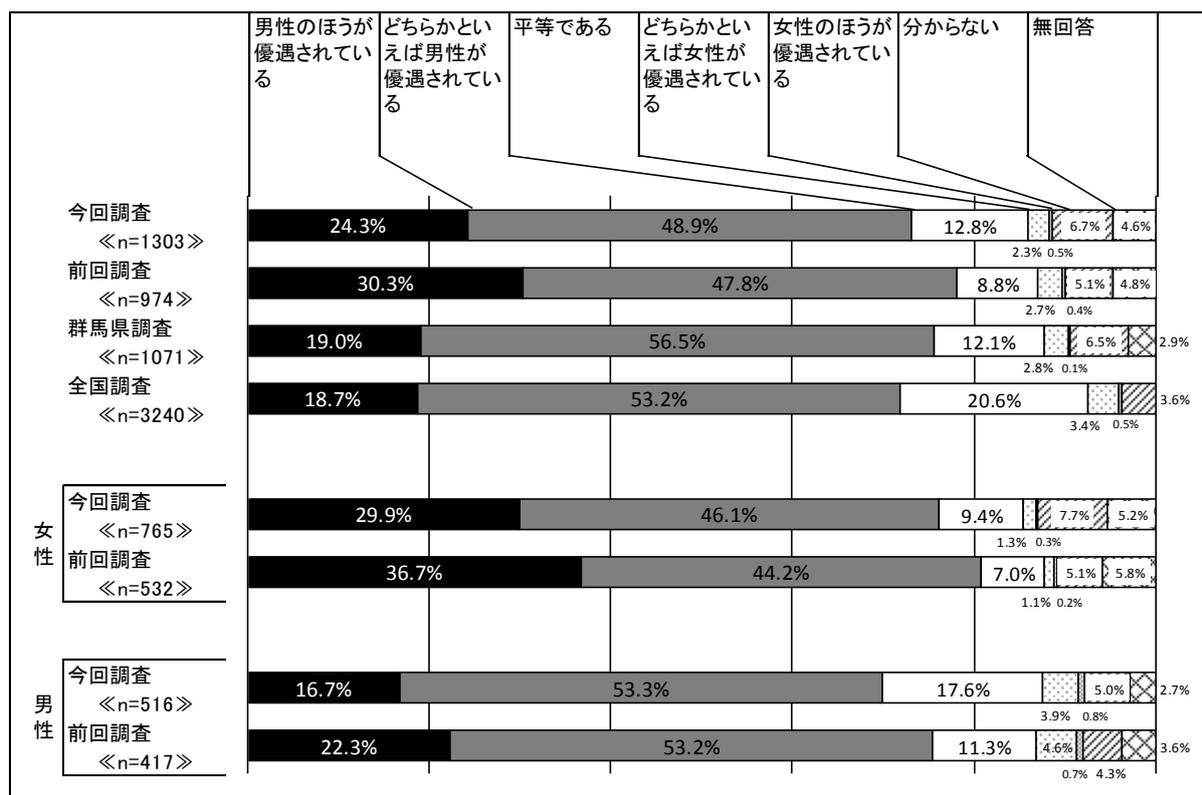
「平等である」は女性9.4%、男性17.6%であり、男性が8.2ポイント上回ります。

「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、女性1.6%、男性4.7%であり、男性が3.1ポイント上回ります。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、女性76.0%、男性70.0%であり、女性が6.0ポイント上回ります。

**年齢別**

「平等である」が最も高いのは30歳未満で22.0%、最も低いのは40代の8.2%であり、その差は13.8ポイント。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは30歳未満で4.1%、最も低いのは50代の1.3%であり、その差は2.8ポイント。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは50代で81.9%、最も低いのは30歳未満の59.4%であり、その差は22.5ポイントとなっています。

前回調査・全国調査との比較



注：全国調査は調査員がその場で聞き取る方法で調査を行っているため「無回答」はありません。

<前回調査との比較>

「平等である」は全体で 4.0 ポイント増加し、女性では 2.4 ポイント、男性では 6.3 ポイント増加しました。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 0.3 ポイント減少し、女性では 0.3 ポイント増加、男性では 0.6 ポイント減少しました。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 4.9 ポイント減少し、女性では 4.9 ポイント、男性では 5.5 ポイント減少しました。

<群馬県調査との比較>

「平等である」は 0.7 ポイント上回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 0.1 ポイント下回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合についても 2.3 ポイント下回っています。

<全国調査との比較>

「平等である」は 7.8 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 1.1 ポイント下回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合については 1.3 ポイント上回っています。

⑧社会全体

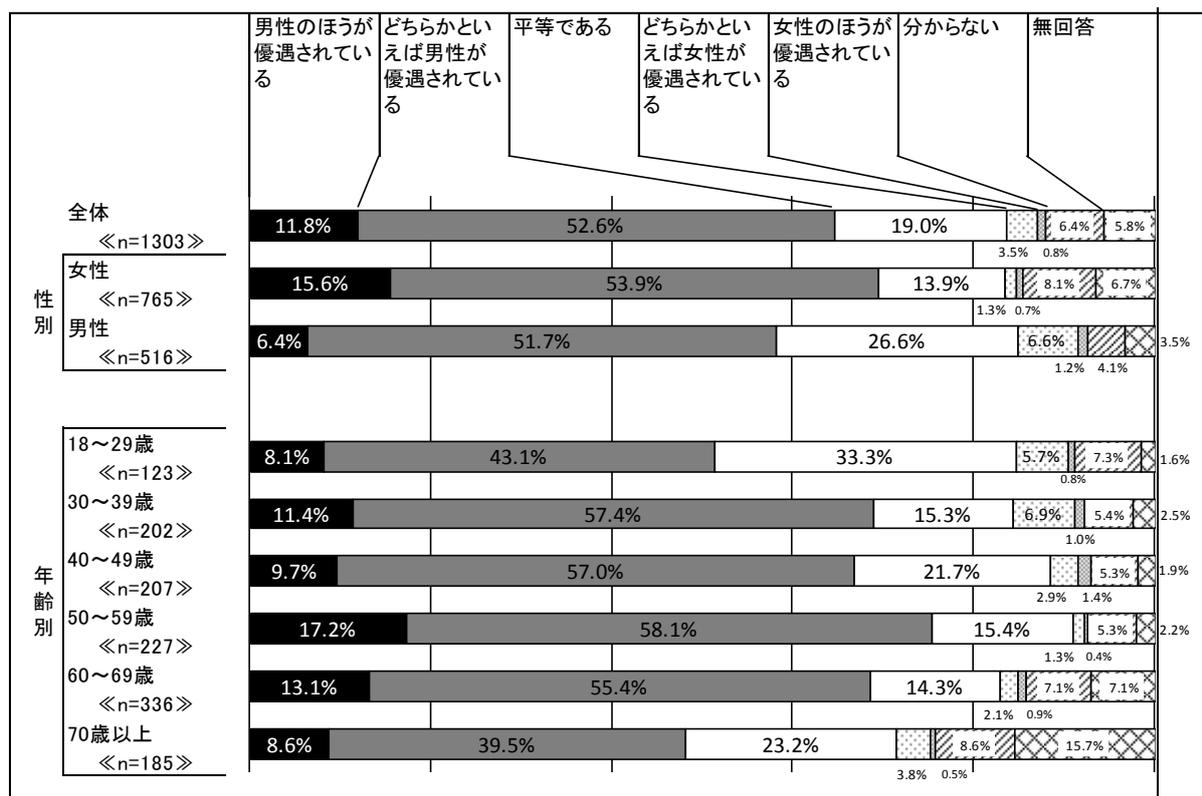
- ◆「平等である」は全体で19.0%となっています。
- ◆「平等である」を性別で見ると女性13.9%、男性26.6%となっています。
- ◆「平等である」は前回調査と比べ性別にかかわらず増加、全国調査は下回るが、群馬県調査を上回ります。

**全体**

「どちらかといえば男性が優遇」52.6% > 「平等である」19.0%

> 「男性のほうが優遇」11.8% > 「わからない」6.4%

> 「どちらかといえば女性が優遇」3.5% > 「女性のほうが優遇」0.8%



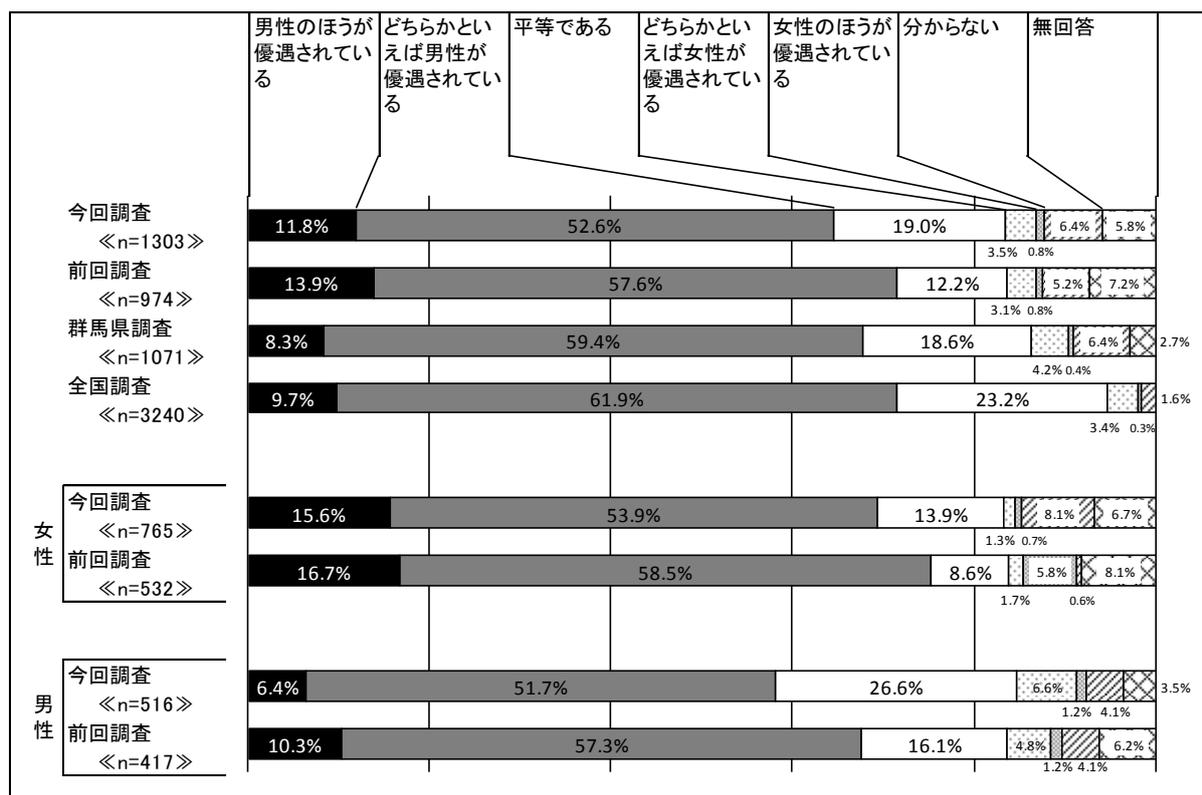
**性別**

「平等である」は女性13.9%、男性26.6%であり、男性が12.7ポイント上回ります。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、女性2.0%、男性7.8%であり、男性が5.8ポイント上回ります。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、女性69.5%、男性58.1%であり、女性が11.4ポイント上回ります。

**年齢別**

「平等である」が最も高いのは30歳未満で33.3%、最も低いのは60代の14.3%であり、その差は19.0ポイント。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは30代で7.9%、最も低いのは50代の1.7%であり、その差は6.2ポイント。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合で、最も高いのは50代で75.3%、最も低いのは70歳以上の48.1%であり、その差は27.2ポイントとなっています。

前回調査・全国調査との比較



注：全国調査は調査員がその場で聞き取る方法で調査を行っているため「無回答」はありません。

<前回調査との比較>

「平等である」は全体で 6.8 ポイント増加し、女性では 5.3 ポイント、男性では 10.5 ポイント増加しました。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 0.4 ポイント増加し、女性では 5.5 ポイント減少、男性では 1.8 ポイント増加しました。「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合は、全体で 7.1 ポイント減少し、女性では 5.7 ポイント、男性では 9.5 ポイント減少しました。

<群馬県調査との比較>

「平等である」は 0.4 ポイント上回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 0.3 ポイント下回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合についても 3.3 ポイント下回っています。

<全国調査との比較>

「平等である」は 4.2 ポイント下回っています。「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合については 0.6 ポイント上回っており、「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合については 7.2 ポイント下回っています。

（2）社会で男性が優遇されている原因について

問1-1 問1「⑧ 社会全体では」の項目で、「男性のほうが優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」とお答えした方にお聞きします。社会全体の中で、男性のほうが優遇されている原因は何だと思えますか。（〇は3つまで）

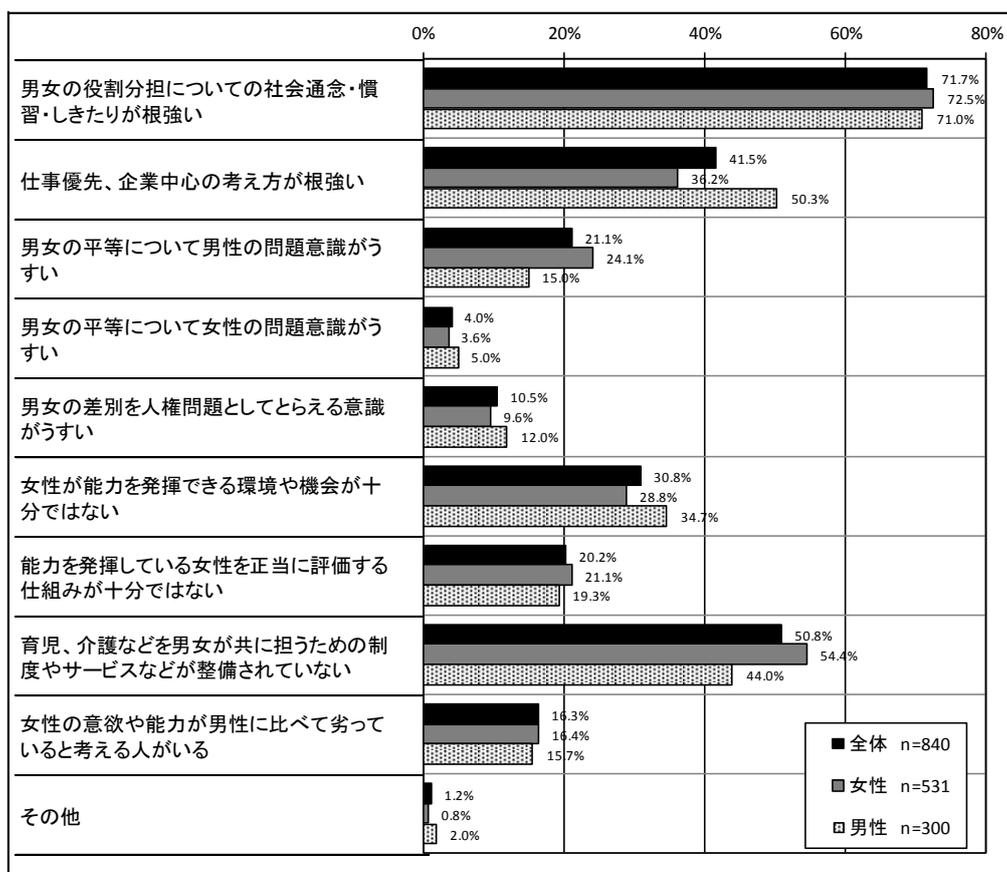
- ◆全体で、最も高い原因は「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」で71.7%（女性72.5%、男性71.0%）となっています。
- ◆性別で見ると、最も差が大きい項目は「仕事優先、企業中心の考え方が根強い」で14.1ポイント、差が最も小さい項目は「女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる」で0.7ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、減少が最も大きい項目は「女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる」で6.0ポイント減、増加が最も大きい項目は「女性が能力を発揮できる環境や機会が十分でない」で1.6ポイント増となっています。

**全体**

「男女の役割分担について社会通念・慣習・しきたりが根強い」71.7%

> 「育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整備されていない」50.8%

> 「仕事優先、企業中心の考え方が根強い」41.5%

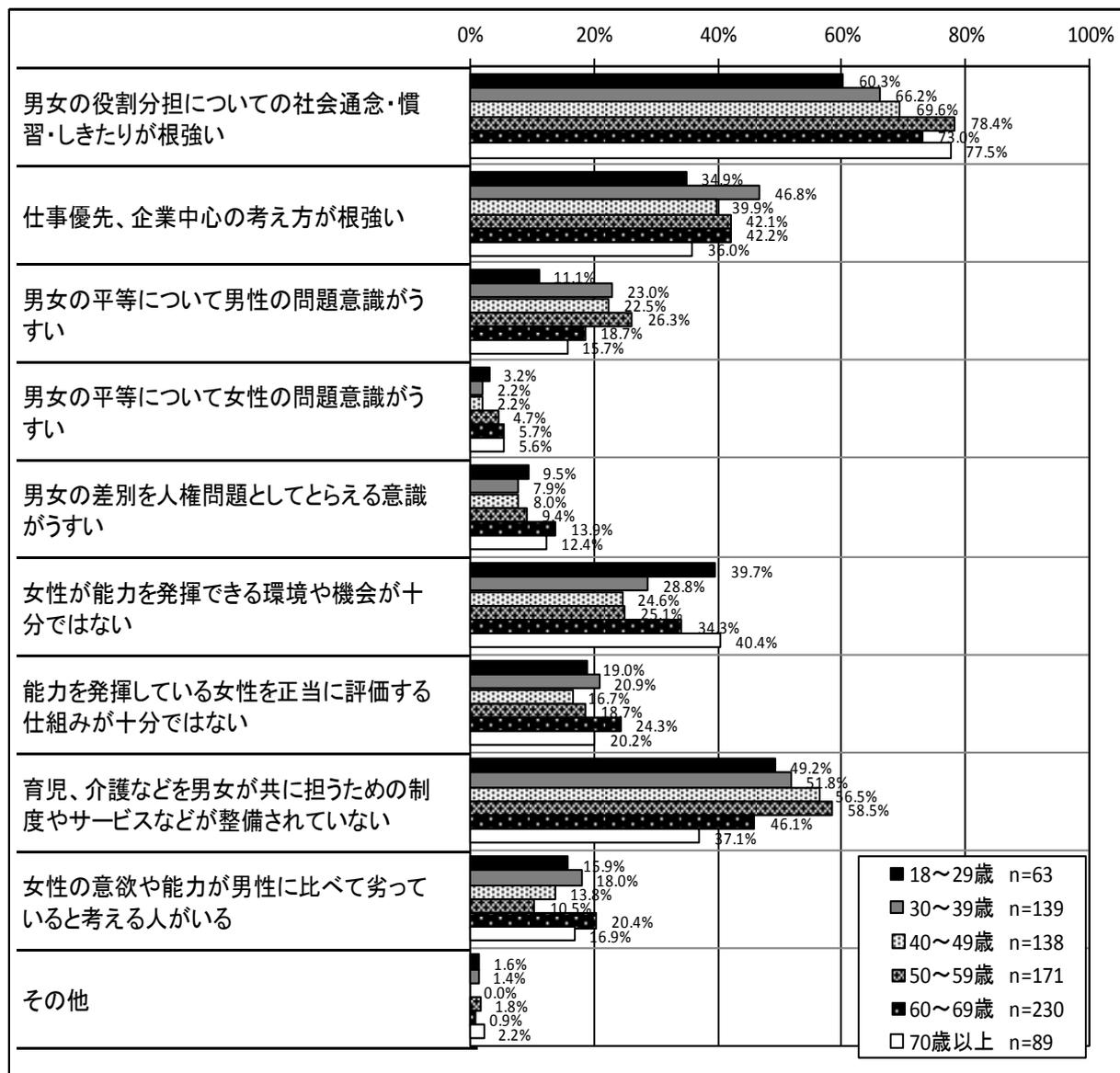


問1「⑧社会全体では」において、「男性のほうが優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した方は、全体の64.4%（女性69.5%・男性58.1%）になります。

**性別**

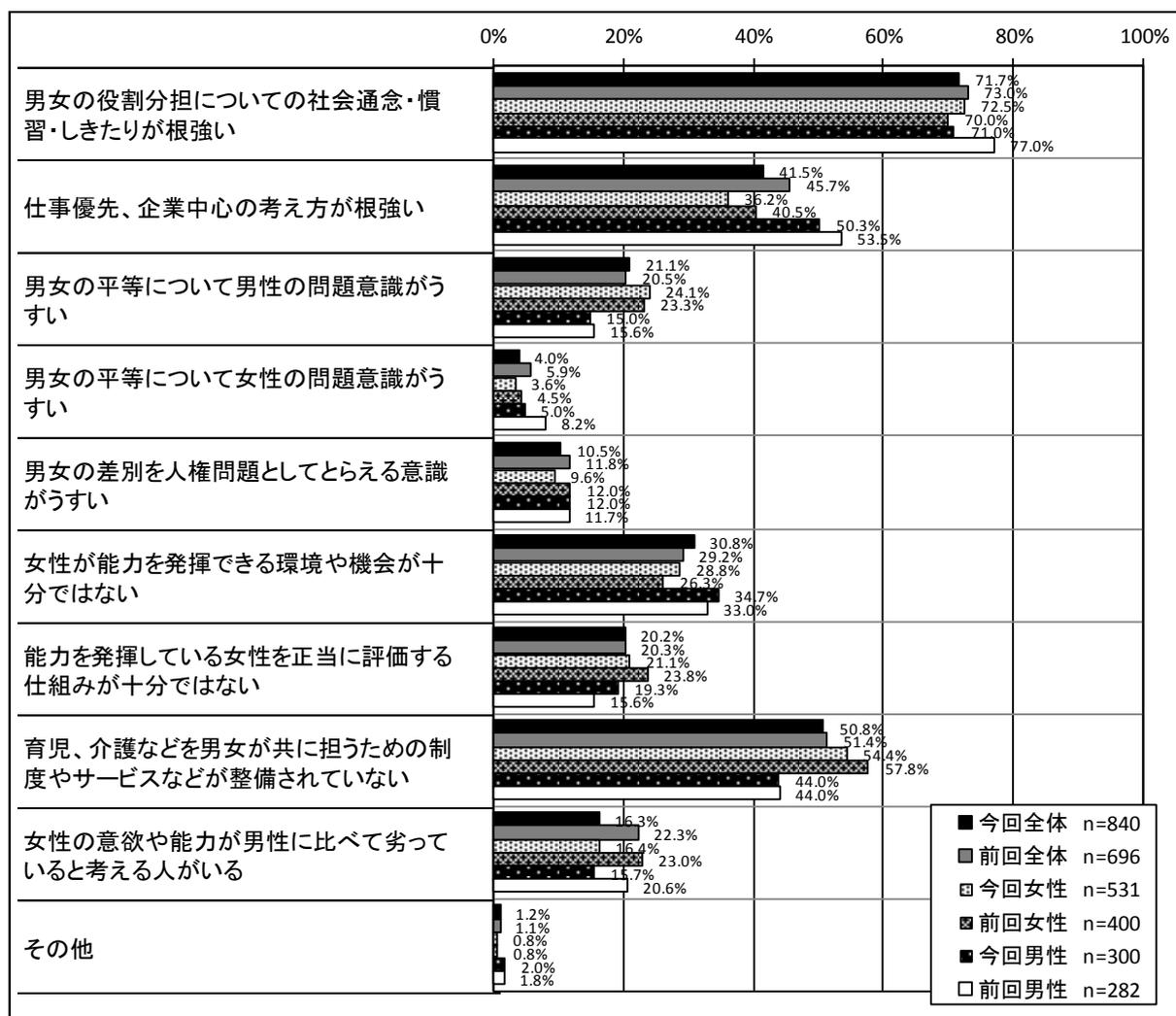
性別で差がある項目で、女性が上回っている項目は「育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスが整備されていない」で、女性 54.4%、男性 44.0%であり、女性が 10.4 ポイント上回ります。男性が上回っている項目は「仕事優先、企業中心の考え方が根強い」で、女性 36.2%、男性 50.3%であり、男性が 14.1 ポイント上回ります。

**年齢別**



年齢別で差があるもののうち最も差が大きいのは、「育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない」であり、その差は 21.4 ポイントで、最も高いのは 50代で 58.5%、最も低いのは 70歳以上で 37.1%となっています。次いで、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」であり、その差は 18.1 ポイントで、最も高いのは 50代の 78.4%、最も低いのは 30歳未満で 60.3%となっています。3番目に差が大きいのは、「女性が能力を発揮できる環境や機会が十分ではない」であり、その差は 15.8 ポイントで、最も高いのは 70歳以上で 40.4%、最も低いのは 40代で 24.6%となっています。

前回調査との比較



9項目中（その他除く）7項目が前回調査を下回り、「女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる」（6.0ポイント減）、「仕事優先、企業中心の考え方が根強い」（4.2ポイント減）、「男女の平等について女性の問題意識がうすい」（1.9ポイント減）となっています。

一方、前回調査を上回るのは2項目で、「女性が能力を発揮できる環境や機会が十分ではない」（1.6ポイント増）「男女の平等について男性の問題意識がうすい」（0.6ポイント増）となっています。

### 3 人権について

(1) 女性の人権が尊重されていないと感じること

|     |   |
|-----|---|
| 問 2 | 問 2 女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。【複数回答】 |
|-----|---|

◆全体で、最も高い原因は「昇給・昇進の格差など、職業における男女の差」で50.1%、「『男は仕事、女は家庭』という考え方」で46.3%と続いています。

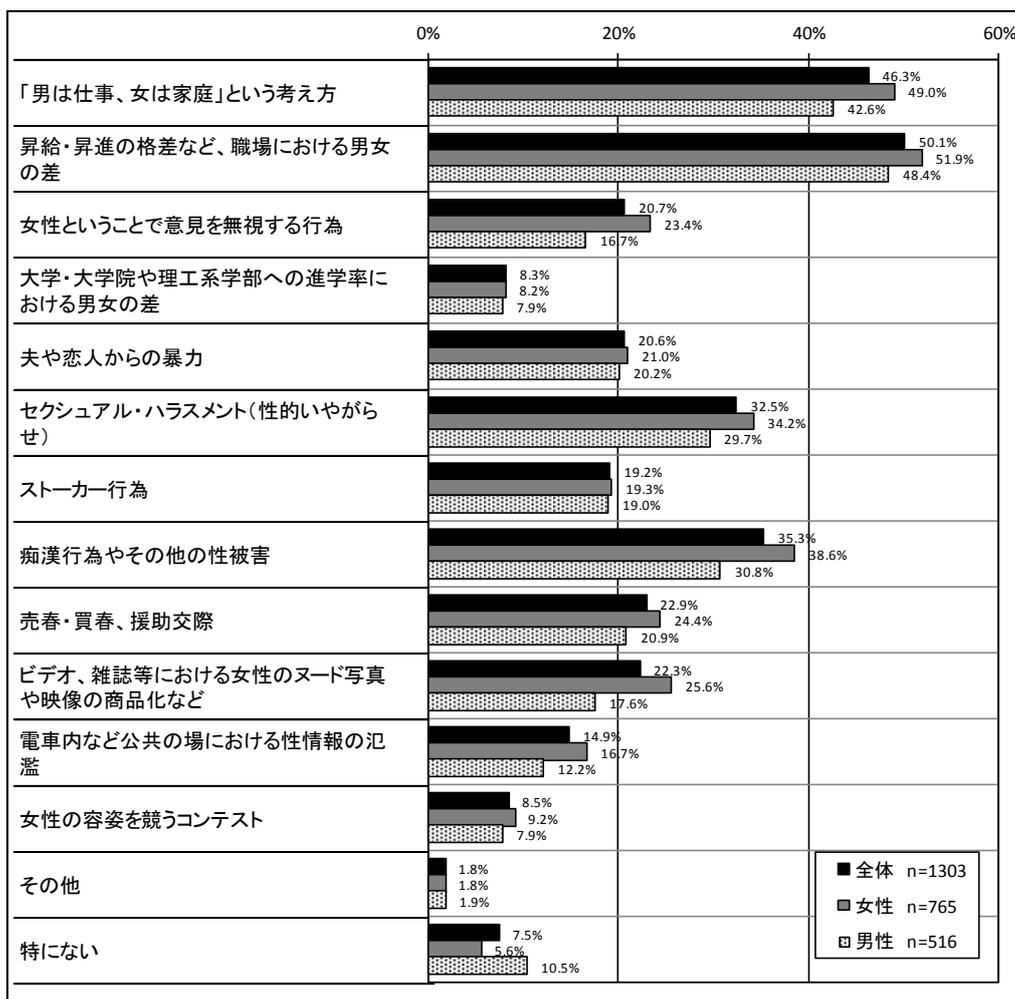
◆性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは「ビデオ、雑誌等における女性のヌード写真や映像の商品化」で8ポイント、男性が上回るもので最も差が大きいものは「特にない」で4.9ポイントとなっています。

◆前回調査と比べ、減少が最も大きい項目は「『男は仕事、女は家庭』という考え方」で9.8ポイント減、増加が最も大きい項目は「特にない」で2.6ポイント増となっています。（前回と比較可能な項目に限ります。）

**全体**

「昇給・昇進の格差など、職場における男女の差」50.1%

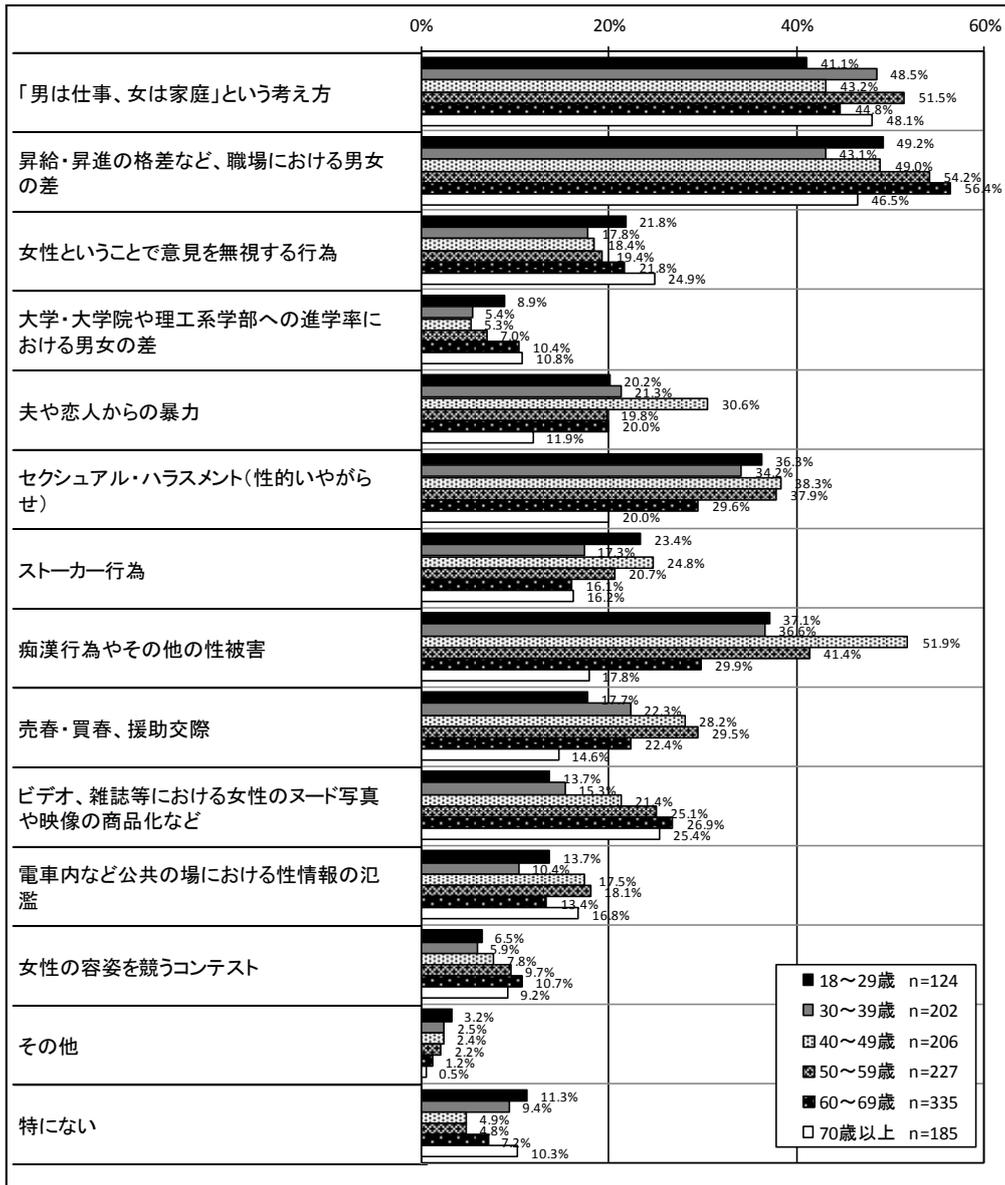
>「『男は仕事、女は家庭』という考え方」46.3% > 「痴漢行為やその他の性被害」35.3%



**性別**

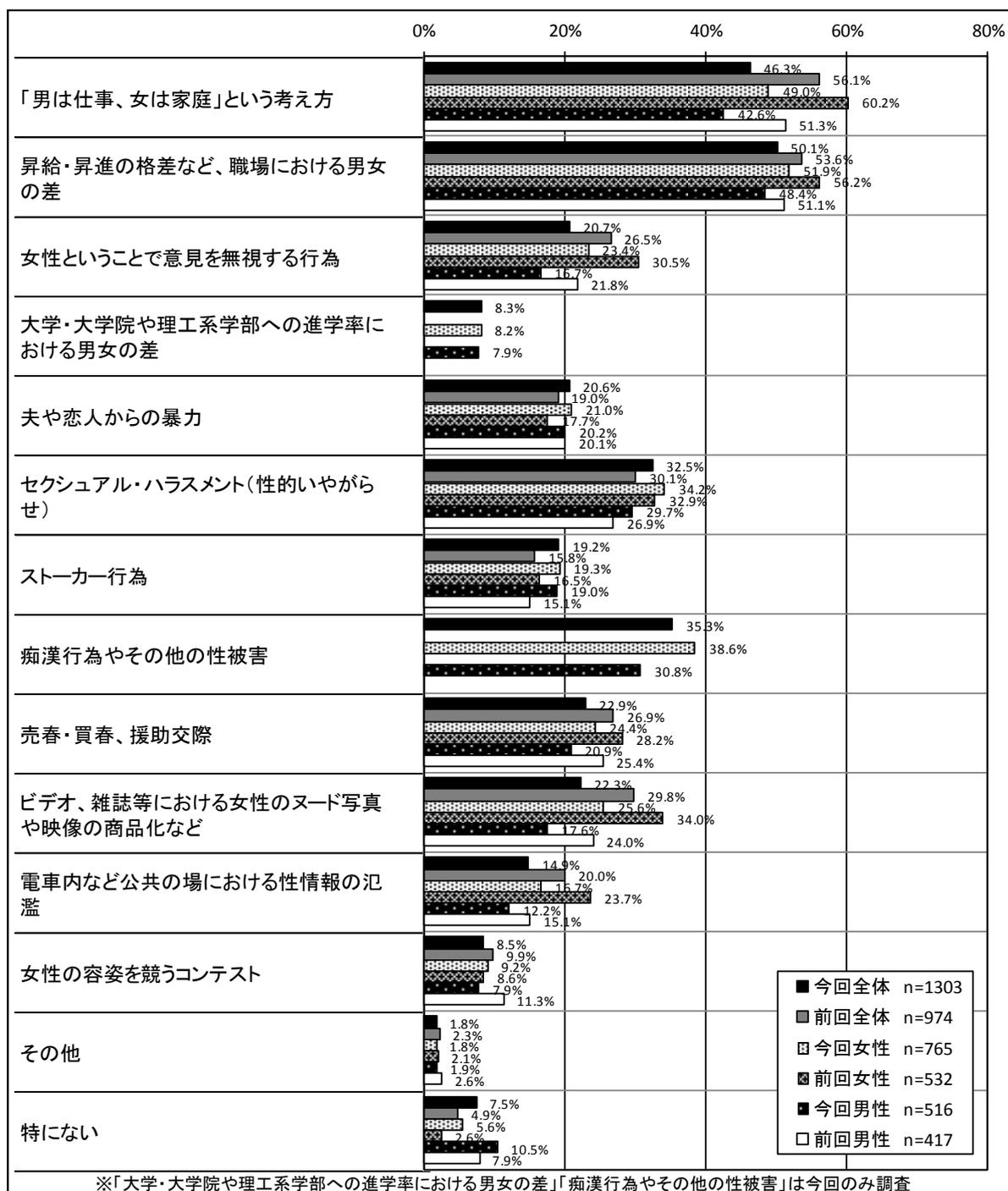
性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「ビデオ、雑誌等における女性のヌード写真や映像の商品化など」で女性 25.6%、男性 17.6%であり、女性が 8.0 ポイント上回ります。次いで「痴漢行為やその他の性被害」で女性 38.6%、男性 30.8%であり、女性が 7.8 ポイント上回ります。また、「女性ということで意見を無視する行為」(女性 23.4%、男性 16.7%)は 6.7 ポイント、「男は仕事、女は家庭」という考え方(女性 49.0%、男性 42.6%)は 6.4 ポイント、女性が上回っています。男性が上回る項目は「特にない」(女性 5.6%、男性 10.5%)で、男性が 4.9 ポイント上回ります。

**年齢別**



年齢別で差がある項目で最も差が大きいのは、「痴漢行為やその他の性被害」34.1 ポイントで、最も高いのは40代の 51.9%、最も低いのは70歳以上の 17.8%。次いで、「夫や恋人からの暴力」であり、その差は 18.7 ポイントで、最も高いのは40代の 30.6%、最も低いのは70歳以上の 11.9%となっています。3番目に差が大きいのは、「セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」で 18.3 ポイント、最も高いのは40代の 38.3%、最も低いのは70歳以上の 20.0%となっています。

前回調査との比較



前回調査より上回っている項目のうち、上位は、「ストーカー行為」(3.4ポイント)、「特にない」(2.6ポイント)、「セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」(2.4ポイント)

一方、前回調査を下回っている項目のうち、上位は、「『男は仕事、女は家庭』という考え方」(9.8ポイント)、「ビデオ、雑誌等における女性のヌード写真や映像の商品化など」(7.5ポイント)、「女性ということで意見を無視する行為」(5.8ポイント)、「電車内など公共の場における性情報の氾濫」(5.1ポイント)となっています。

今回調査から新しく追加された項目は、「痴漢行為やその他の性被害」が35.3%で、今回調査で3番目に高い割合になっています。

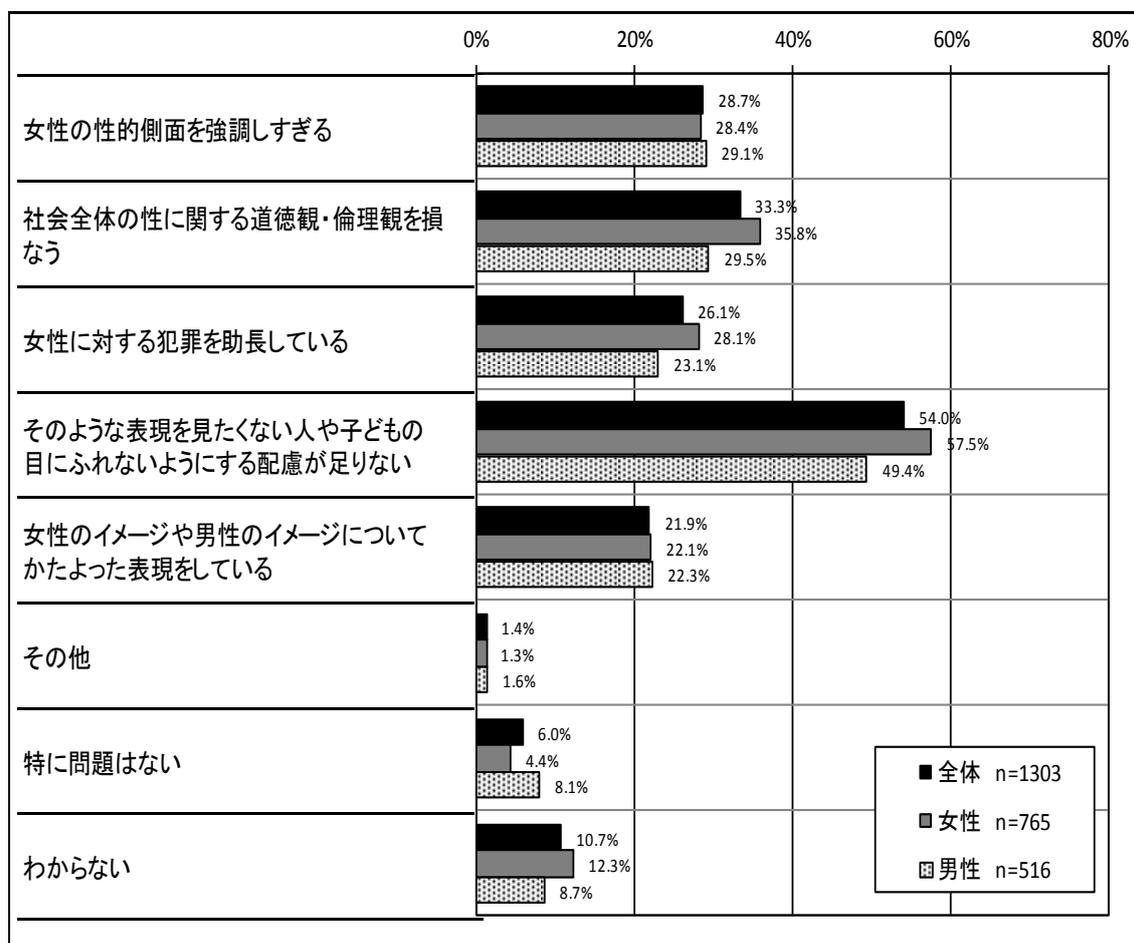
（2）メディアにおける性や暴力の表現について

|     |   |
|-----|---|
| 問 3 | 新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどメディアにおける性や暴力（DV等）の表現について、どのように思いますか。【複数回答】 |
|-----|---|

- ◆全体で最も高いのは、「そのような表現を見たくない人や子どもの目にふれないようにする配慮が足りない」で54.0%、次いで、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」で33.3%、「女性の性的側面を強調しすぎる」で28.7%となっています。
- ◆性別で見ると、差が大きいものは、「そのような表現を見たくない人や子どもの目にふれないようにする配慮が足りない」で8.1ポイント、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」で6.3ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、減少が大きい項目は「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」で13.1ポイント減少、「女性の性的側面を強調しすぎる」で9.0ポイント減少、増加した項目は「わからない」で3.1ポイント増となっています。

**全体**

- 「そのような表現を見たくない人や子どもの目にふれないようにする配慮が足りない」54.0%
- > 「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」33.3%
- > 「女性の性的側面を強調しすぎる」28.7%

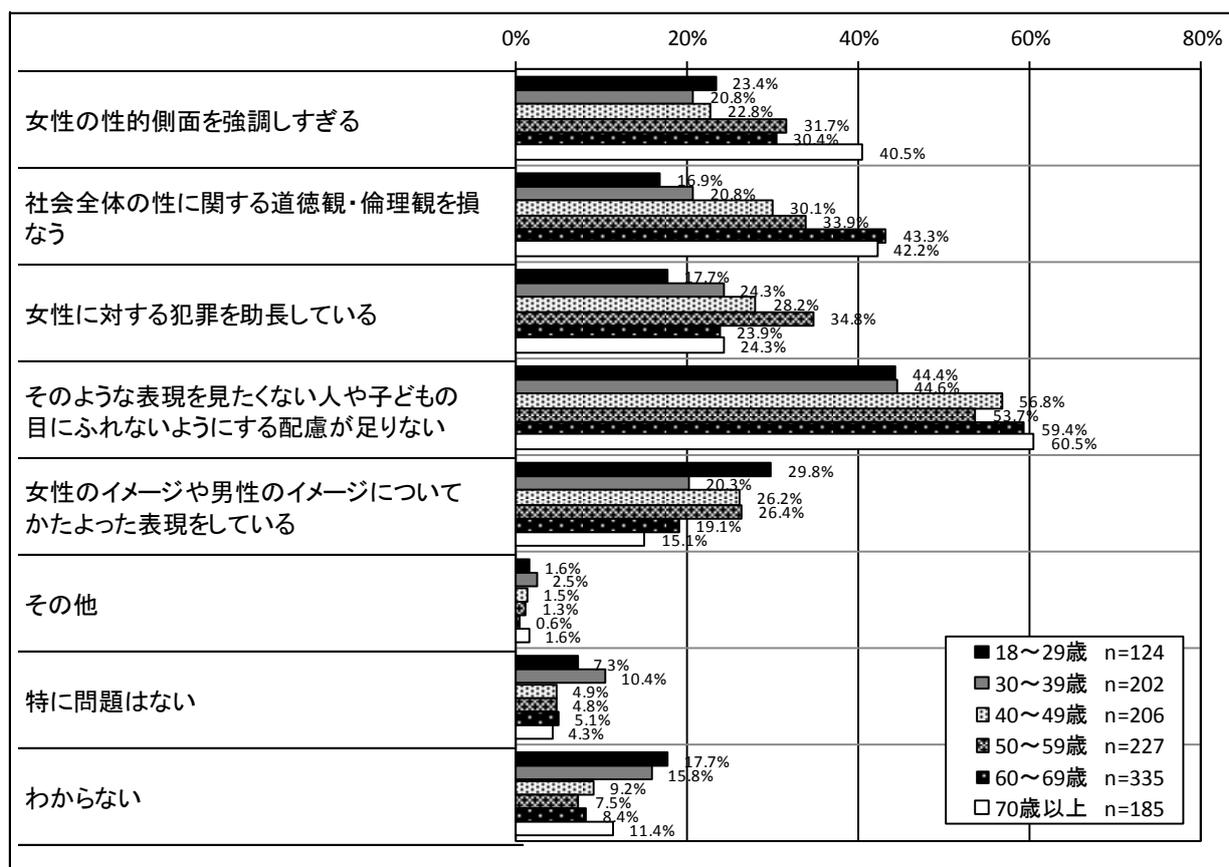


**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は、「そのような表現を見たくない人や子どもの目にふれないようにする配慮が足りない」で女性 57.5%、男性 49.4%であり、女性が 8.1 ポイント上回ります。また、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」（女性 35.8%、男性 29.5%）は 6.3 ポイント、「女性に対する犯罪を助長している」（女性 28.1%、男性 23.1%）は 5.0 ポイント、女性が上回っています。

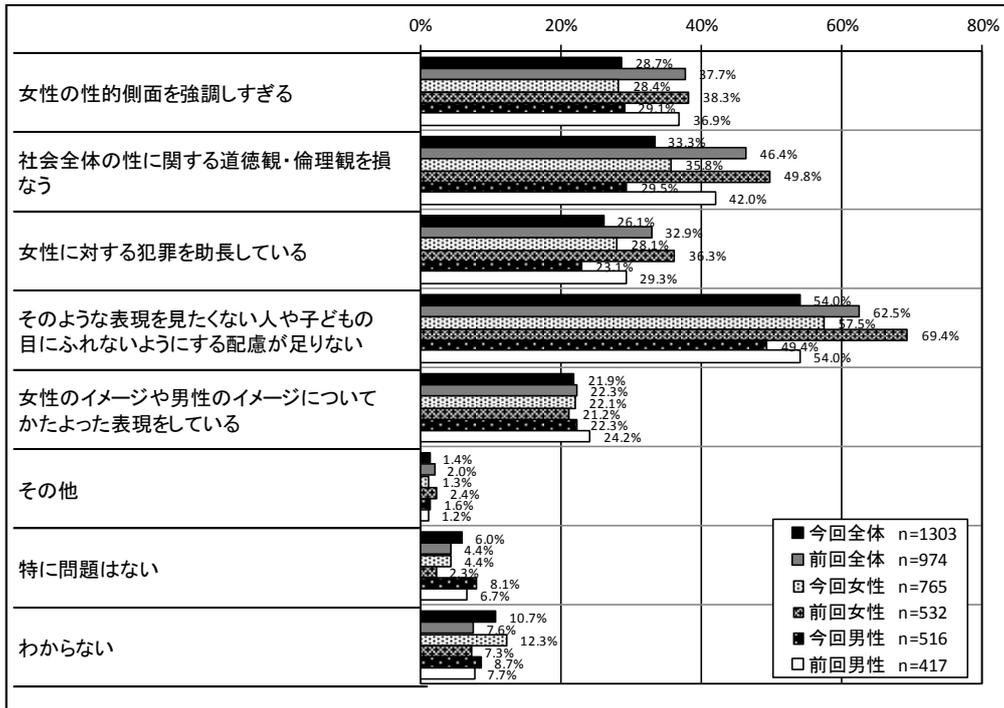
男性が上回る項目は「特に問題はない」（女性 4.4%、男性 8.1%）で 3.7 ポイント、「女性の性的側面を強調しすぎる」（女性 28.4%、男性 29.1%）で 0.7 ポイント、男性が上回っています。

**年齢別**



年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」であり、最も高いのは 60代で 43.3%、最も低いものは 30歳未満で 16.9%であり、その差は 26.4 ポイント。次いで、「女性の性的側面を強調しすぎる」であり、最も高いのは 70歳以上で 40.5%、最も低いのは 30代で 20.8%であり、その差は 19.7 ポイント。3 番目に差が大きいのは、「女性に対する犯罪を助長している」であり、最も高いのは 50代で 34.8%、最も低いのは 30歳未満で 17.7%であり、その差は 17.1 ポイントとなっています。

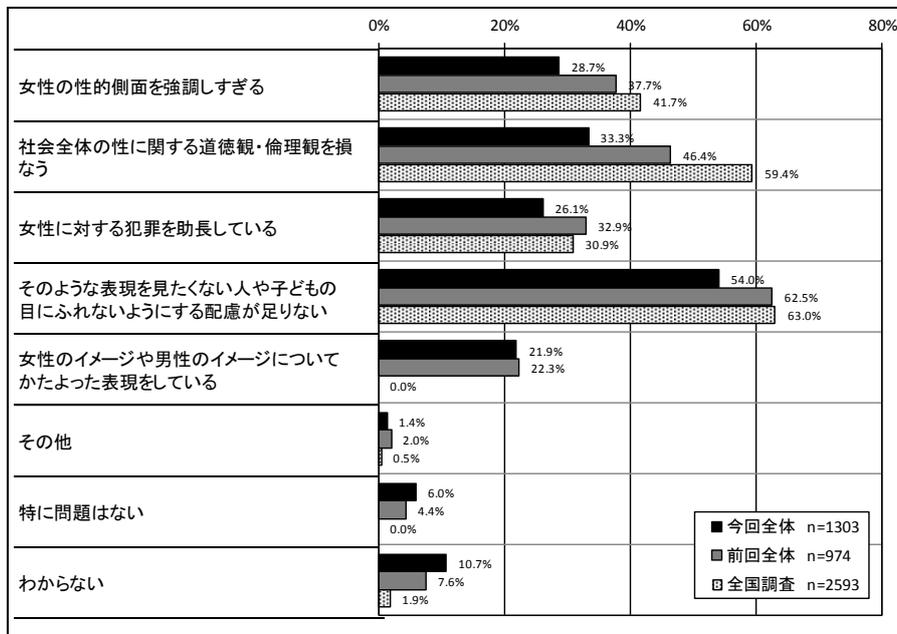
**前回調査との比較**



<前回調査との比較>

前回調査より下回る項目は、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」（13.1ポイント）、「女性の性的側面を強調しすぎる」（9.0ポイント）、「そのような表現を見たくない人や子供の目にふれないようにする配慮が足りない」（8.5ポイント）と続いています。

**全国調査との比較**



<全国調査との比較>

全国調査より下回る項目（比較可能な項目について）は「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」26.1ポイント、「女性の性的側面を強調しすぎる」13.0ポイントと続いています。

（3）女性の人権を守るためにすべきこと

問 4      これから女性の人権を守るために、どうしたらよいと思いますか。  
【複数回答】

- ◆全体で最も高い項目は、「男女が共に、家庭と仕事を両立できる支援策を充実する」で63.5%、次いで、「男女平等や性についての教育を充実させる」で38.9%、「DV等の暴力からの保護が必要な女性のための支援体制を充実する」で34.9%、「法律・制度の制定や見直しを行う」で32.8%と続いています。
- ◆性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは「男女が共に、家庭と仕事を両立できる支援策を充実する」で9.5ポイントとなっています。
- ◆「DV等の暴力からの保護が必要な女性のための支援体制を充実する」は前回調査を上回り、「固定的な性差別意識を変えるためのはたらきかけを行う」や「男女平等や性についての教育を充実させる」は前回調査を下回ります。

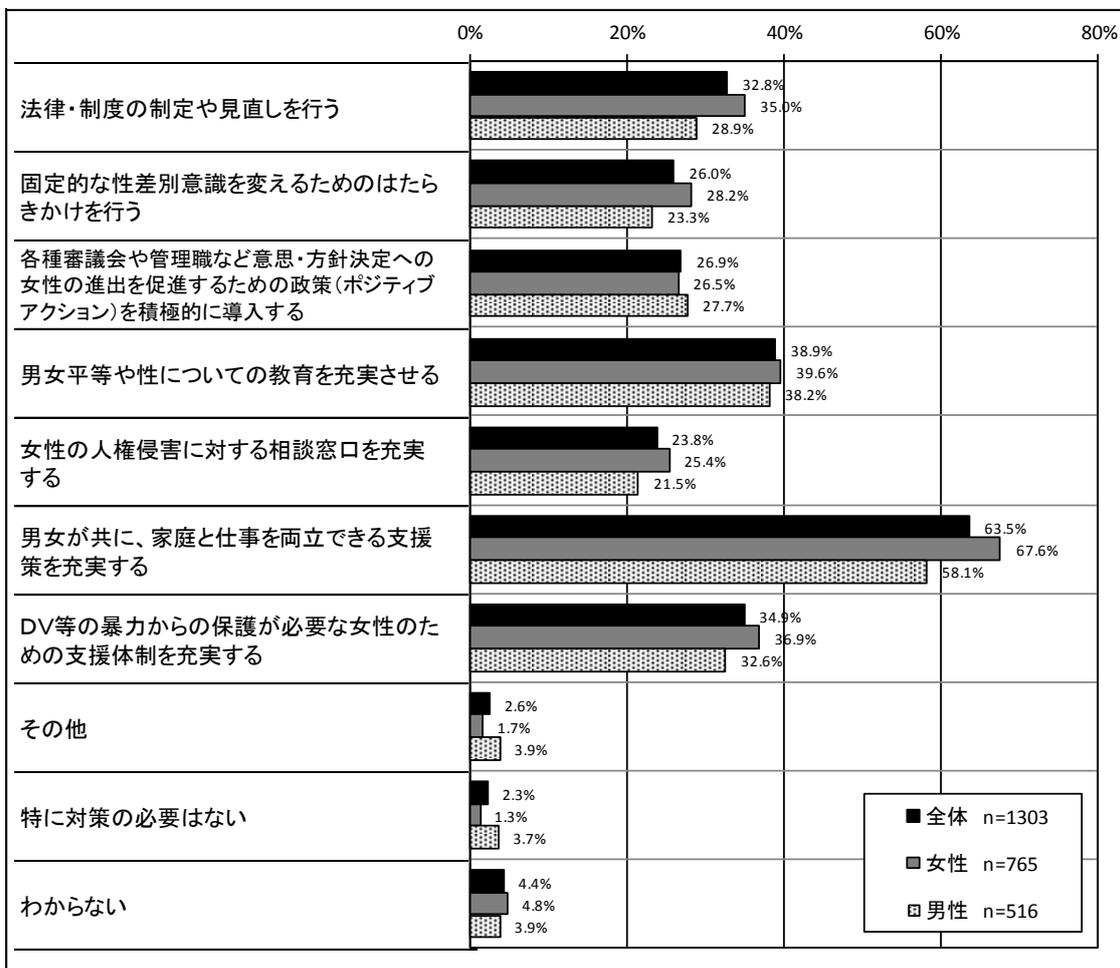
**全体**

**「男女が共に、家庭と仕事を両立できる支援策を充実する」63.5%**

＞ **「男女平等や性についての教育を充実させる」38.9%**

＞ **「DV等の暴力からの保護が必要な女性のための支援体制を充実する」34.9%**

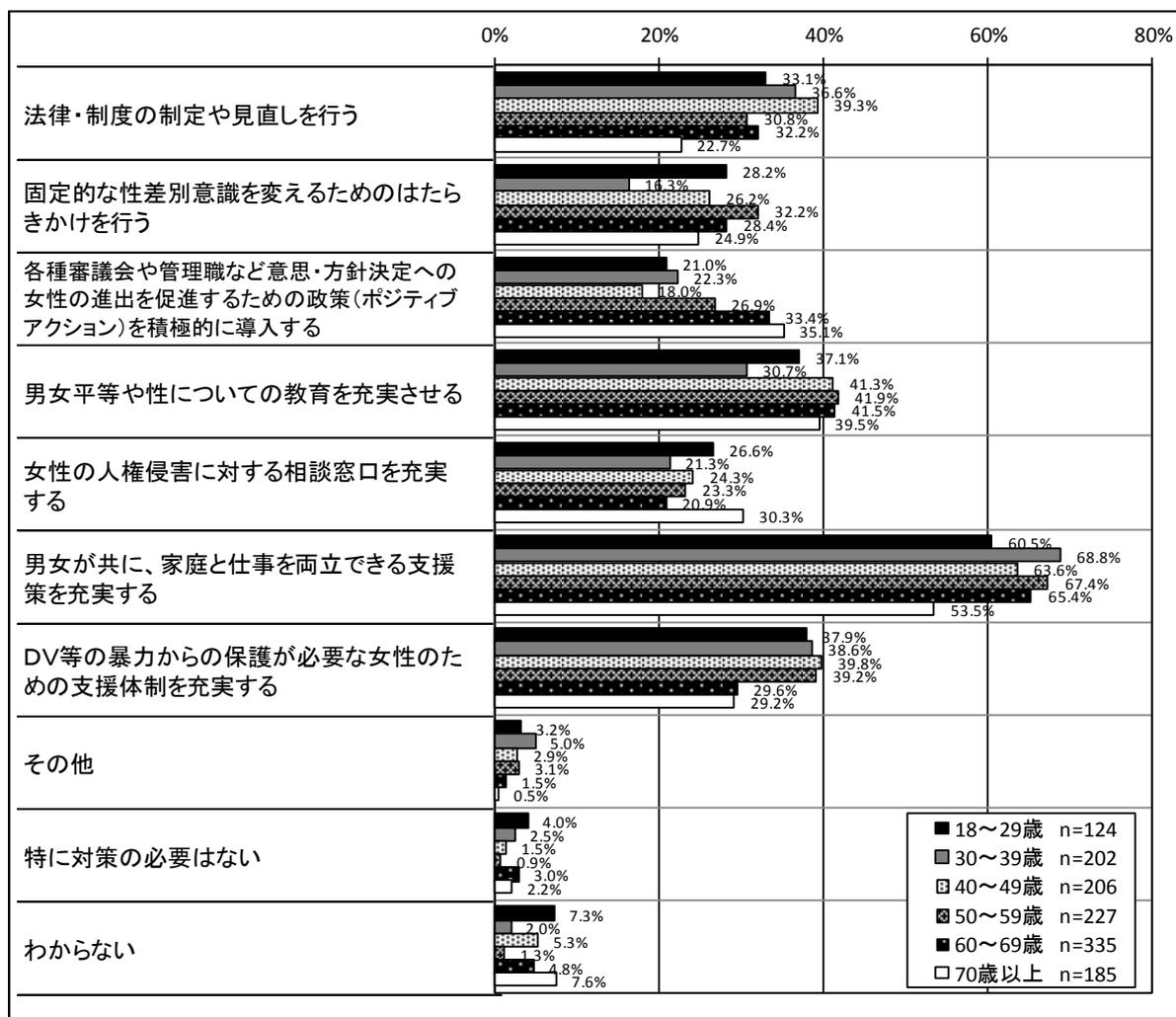
＞ **「法律・制度の制定や見直しを行う」32.8%**



**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は、「男女が共に、家庭と仕事を両立できる支援策を充実する」で女性 67.6%、男性 58.1%であり、女性が 9.5 ポイント上回ります。次いで、「法律・制度の制定や見直しを行う」で女性 35.0%、男性 28.9%であり、女性が 6.1 ポイント、「固定的な性差別意識を変えるためのはたらきかけを行う」で女性 28.2%、男性 23.3%であり、女性が 4.9 ポイント上回ります。

**年齢別**

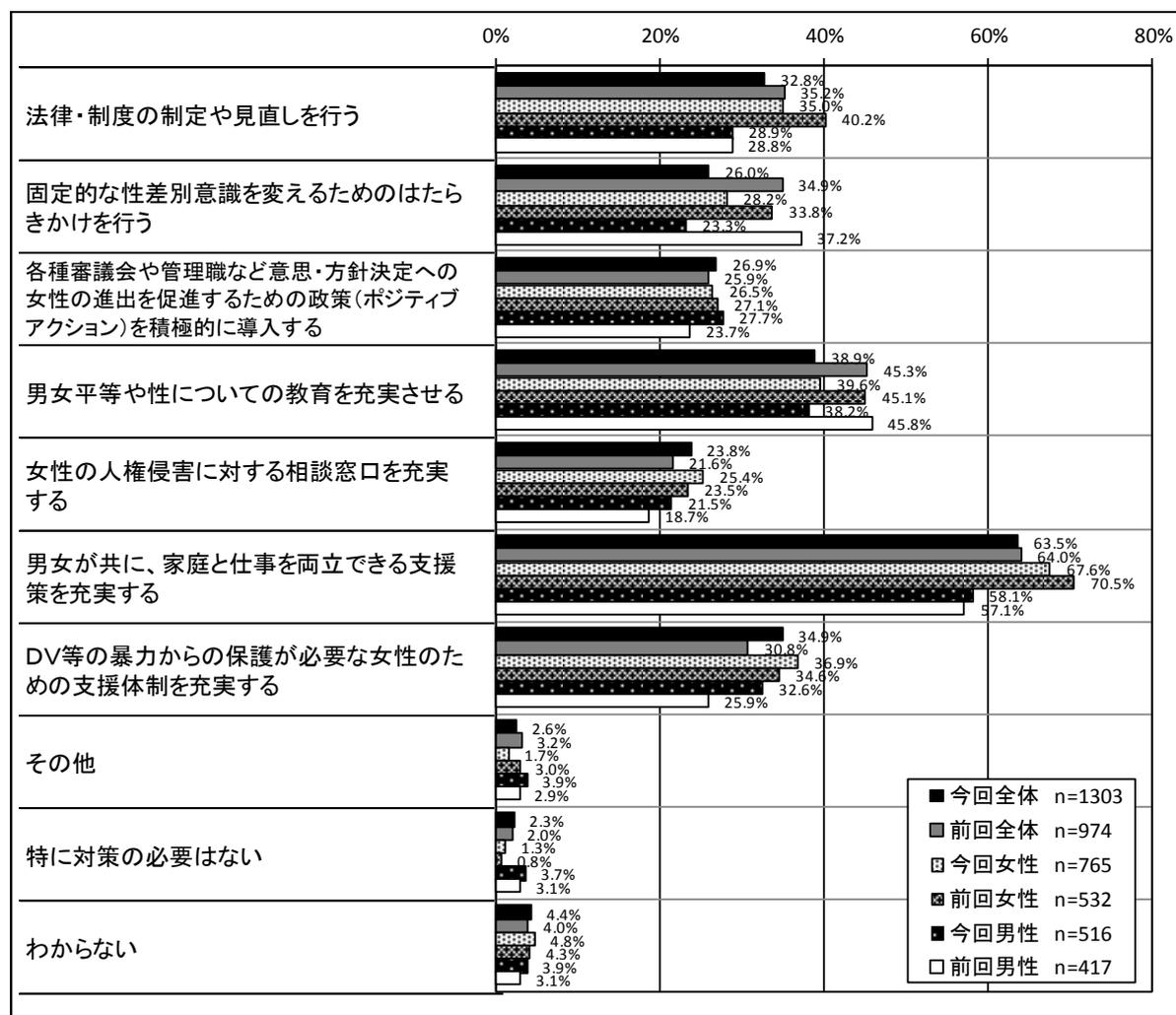


年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「各種審議会や管理職など意思・方針決定への女性の進出を促進するための政策（ポジティブアクション）を積極的に導入する」であり、最も高いのは 70 歳以上で 35.1%、最も低いものは 40 代で 18.0%であり、その差は 17.1 ポイントとなっています。

次いで、「法律・制度の制定や見直しを行う」であり、最も高いのは 40 代で 39.3%、最も低いのは 70 歳以上で 22.7%であり、その差は 16.6 ポイント。

3 番目に差が大きいのは、「固定的な性差別意識を変えるためのはたらきかけを行う」であり、最も高いのは 50 代で 32.2%、最も低いのは 30 代で 16.3%であり、その差は 15.9 ポイントとなっています。

前回調査との比較



前回調査より上回っている項目は、「DV等の暴力からの保護が必要な女性のための支援体制を充実する」4.1ポイント（女性 2.3ポイント増、男性 6.7ポイント増）、「女性の人権侵害に対する相談窓口を充実する」2.2ポイント（女性 1.9ポイント増、男性 2.8ポイント増）と続いています。

一方、前回調査より下回っている項目は、「固定的な性差別意識を変えるためのはたらきかけを行う」（8.9ポイント）、「男女平等や性についての教育を充実させる」（6.4ポイント）、「法律・制度の制定や見直しを行う」（2.4ポイント）と続いています。

男女別に前回調査と差が大きい項目のうち、女性は「固定的な性差別意識を変えるためのはたらきかけを行う」が 5.6ポイント、「男女平等や性についての教育を充実させる」が 5.5ポイント、前回調査を下回りました。

男性は、「固定的な性差別意識を変えるためのはたらきかけを行う」が 13.9ポイント、「男女平等や性についての教育を充実させる」が 7.6ポイント、前回調査を下回りました。

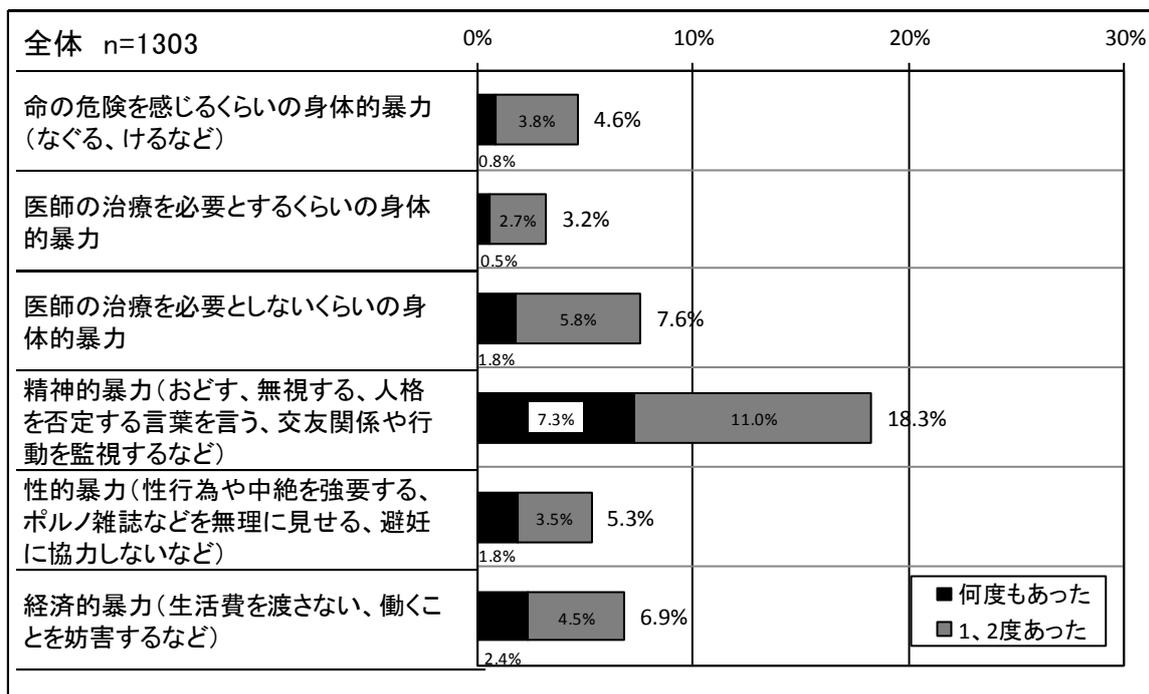
(4) 暴力被害の経験

|    |   |
|----|---|
| 問5 | これまでに配偶者や恋人などから、次にあげるような暴力を受けたことがありますか。【複数回答】 |
|----|---|

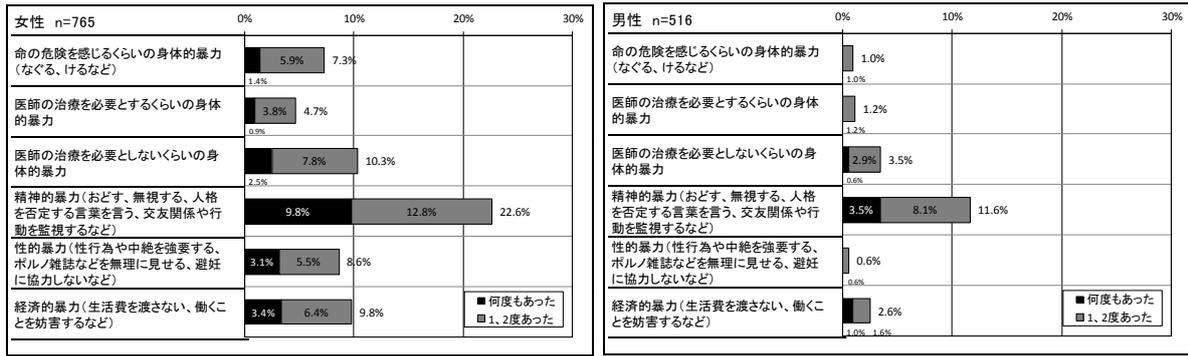
- ◆全体で、最も高いのは【精神的暴力】で、「何度もあった」「1、2度あった」をあわせると18.3%となっています。
- ◆性別でみると、全ての項目で女性のほうが高く、「何度もあった」「1、2度あった」をあわせると、女性で最も多い項目は【精神的暴力】22.6%で、次いで【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】10.3%と続いています。男性では、最も多い項目で【精神的暴力】11.6%、次いで【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】3.5%と続いています。
- ◆前回調査と比べ、増加が最も大きい項目は【経済的暴力】で1.2ポイント増、減少が最も大きい項目は、【精神的暴力】で1.5ポイント減となっています。

**全体** (「何度もあった」「1、2度あった」をあわせた割合)

「精神的暴力」18.3% > 「医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力」7.6%  
> 「経済的暴力」6.9%

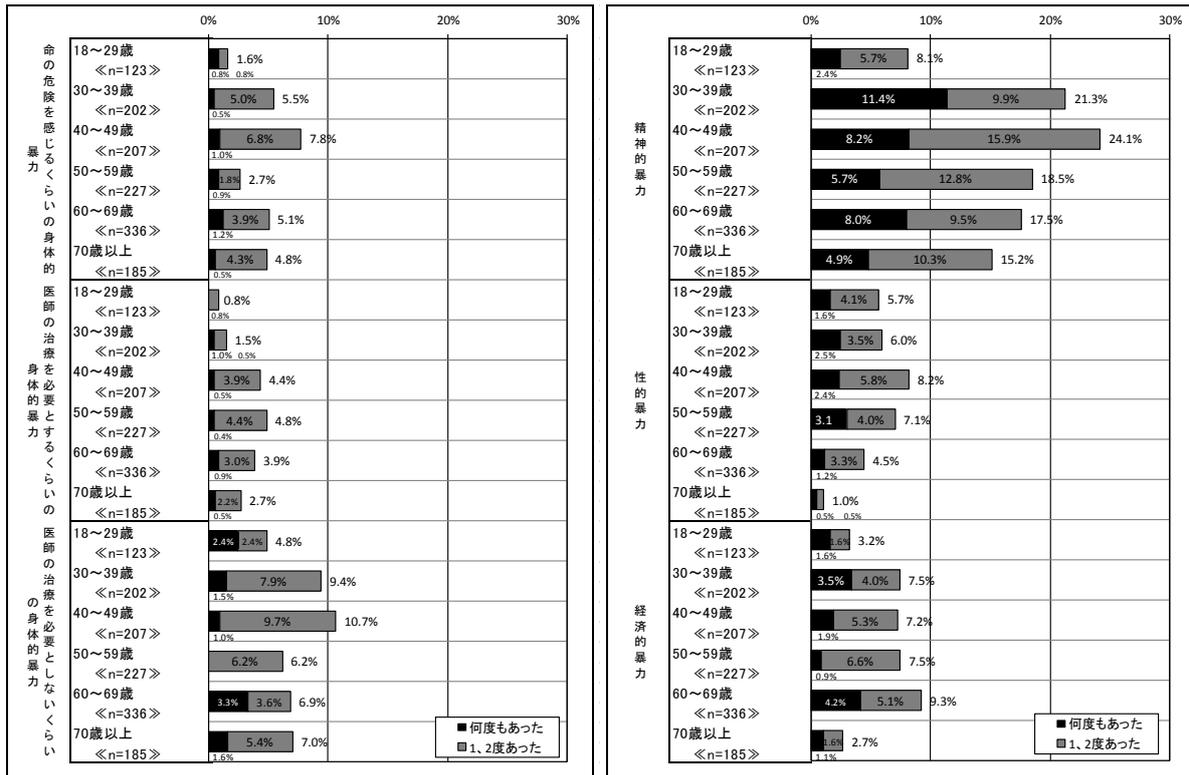


**性別**



性別で分けた項目(「何度もあった」「1、2度あった」をあわせたもの)で最も高いのは「女性への【精神的暴力】」(22.6%)、次いで「男性への【精神的暴力】」(11.6%)、「女性への【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】」(10.3%)、「女性への【経済的暴力】」(9.8%)、「女性への【性的暴力】」(8.6%)、「女性への【命の危険を感じるくらいの身体的暴力】」(7.3%)、「女性への【医師の必要を必要とするくらいの身体的暴力】」(4.7%)、「男性への【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】」(3.5%)と続いています。

**年齢別**

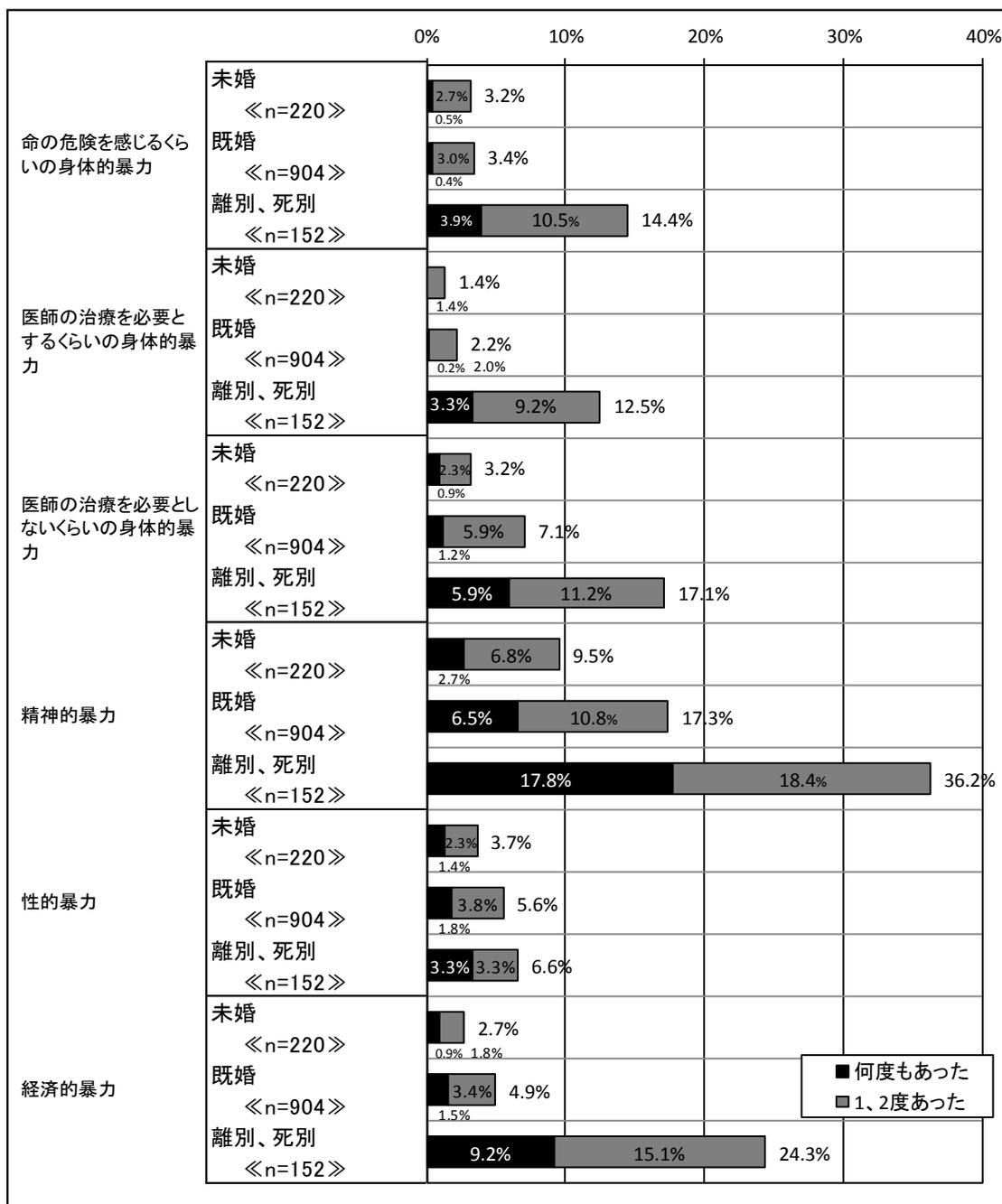


年齢別で分けた項目(「何どもあった」「1、2度あった」をあわせたもの)で最も差が大きいのは、【精神的暴力】であり、その差は 16.0 ポイントで、最も高いのは 40 代で 24.1%、最も低いのは 30 歳未満で 8.1%となっています。

次いで、【性的暴力】であり、その差は 7.2 ポイントで、最も高いのは 40 代の 8.2%、最も低いのは 70 歳以上で 1.0%となっています。

3 番目に差が大きいのは、【経済的暴力】であり、その差は 6.6 ポイントで、最も高いのは 60 代で 9.3%、最も低いのは 70 歳以上で 2.7%となっています。

婚姻状況別

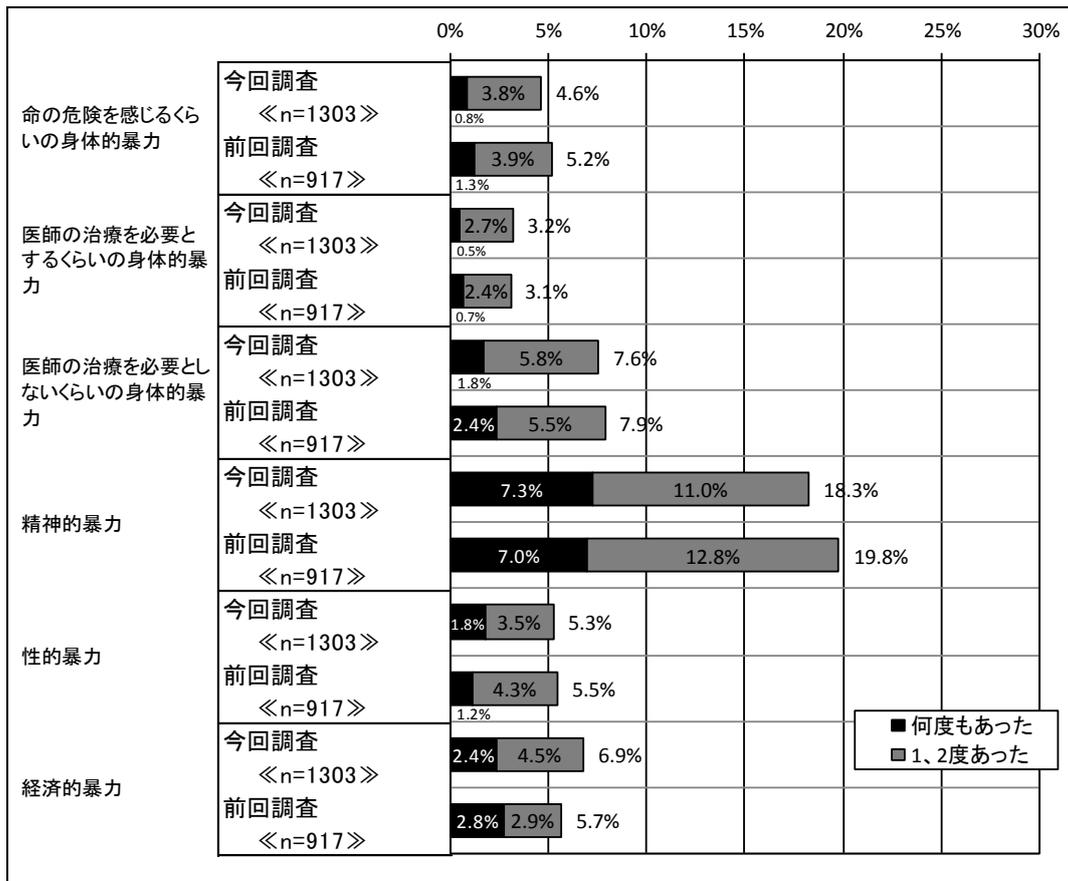


「何度もあった」「1、2度あった」をあわせた割合を婚姻状況別で比べると、「未婚」で最も高い項目は【精神的暴力】9.5%、次いで【性的暴力】3.7%、【命の危険を感じるくらいの身体的暴力】【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】が同率 3.2%と続いています。

「既婚」で最も高い項目は【精神的暴力】17.3%、次いで【医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力】7.1%、【性暴力】5.6%と続いています。

「離婚、死別」で最も多い項目は【精神的暴力】36.2%、次いで【経済的暴力】24.3%、【医師の治療を必要としないくらいの暴力】17.1%と続いています。

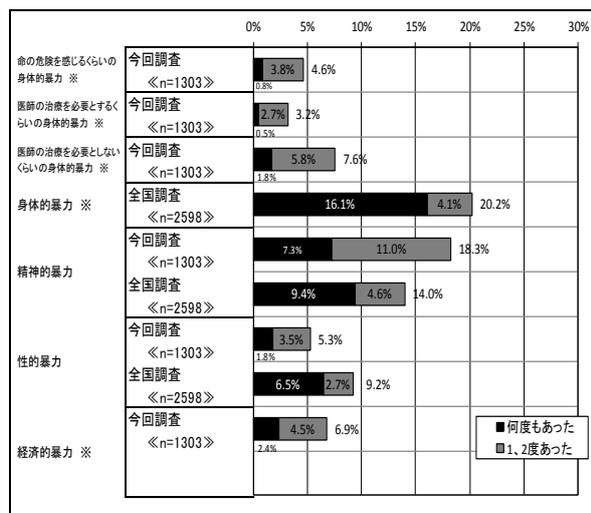
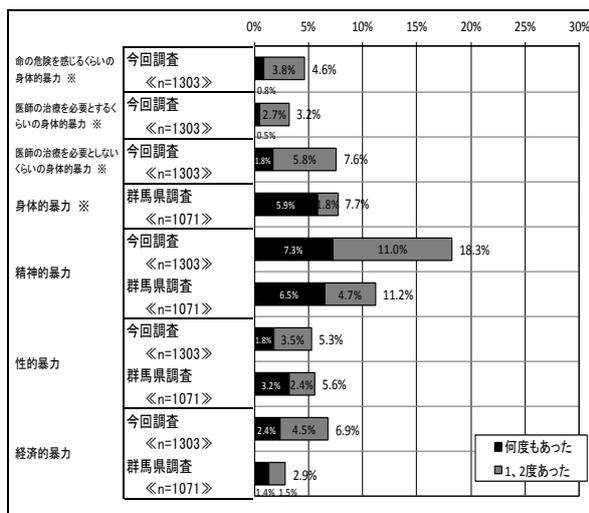
前回調査との比較



「何度もあった」「1、2度あった」をあわせた割合を前回調査と比べると、前回調査を上回っている項目は「経済的暴力」（1.2ポイント）となっています。

一方、前回調査より下回っている項目のうち、上位は、「精神的暴力」（1.5ポイント）、「命の危険を感じるくらいの身体的暴力」（0.6ポイント）となっています。

群馬県調査・全国調査（参考）



※群馬県調査、全国調査では、身体的暴力の程度の差は聞いていない。

※全国調査では、「経済的暴力」の選択肢はない。

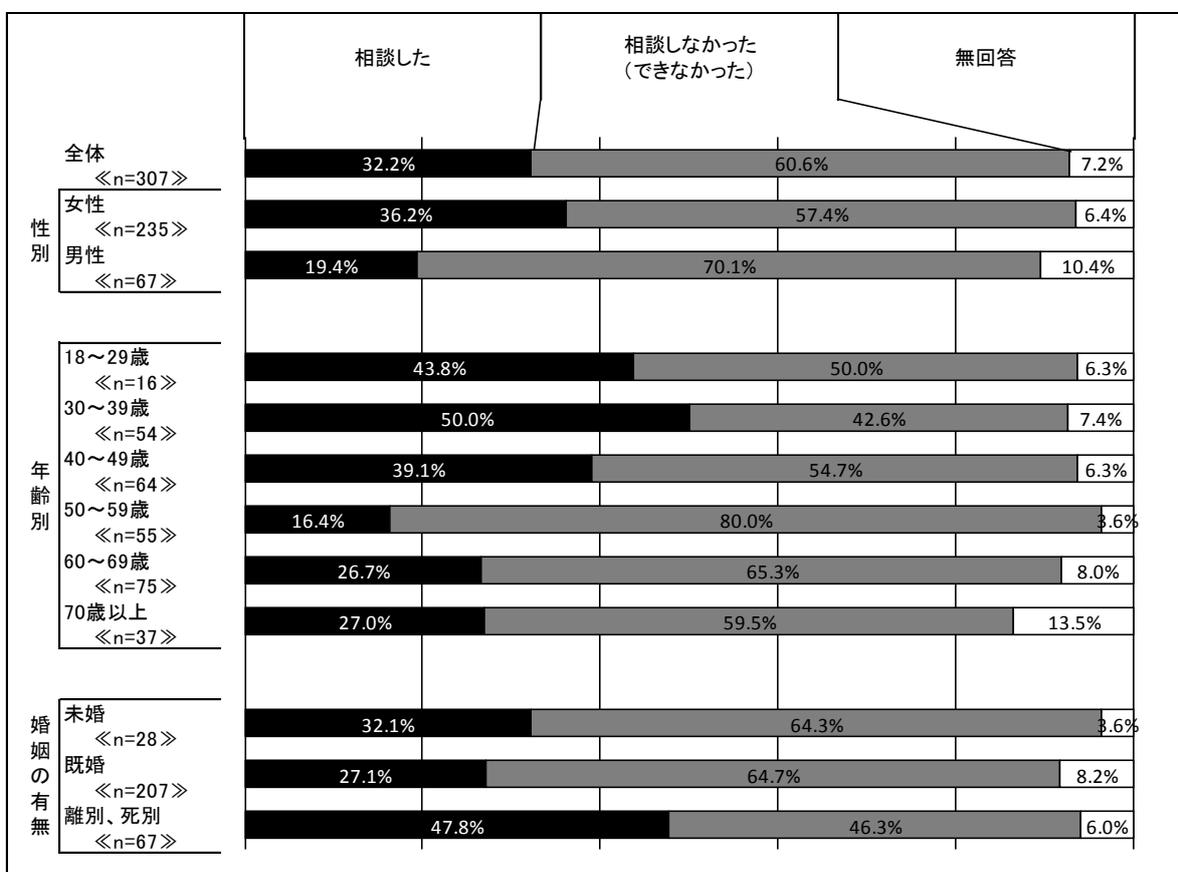
（5）暴力を受けた時の相談先

問5-1 「何度もあった」「1,2度あった」とお答えした方にお聞きします。これまでに、だれ（どこ）かにうちあげたり、相談したりしましたか。

- ◆全体で「相談した」と回答したのは32.2%となっています。
- ◆「相談した」を性別で見ると、女性36.2%、男性19.4%となっています。
- ◆前回調査を上回ったが、群馬県調査を下回ります。

**全体**

「相談しなかった(できなかった)」60.6% > 「相談した」32.2%



問5で「何度もあった」「1,2度あった」とお答えした方は307人（女性235人、男性67人）

**性別**

「相談した」は女性36.2%、男性19.4%であり、女性が16.8ポイント上回ります。「相談しなかった」は女性57.4%、男性70.1%であり、男性が12.7ポイント上回ります。

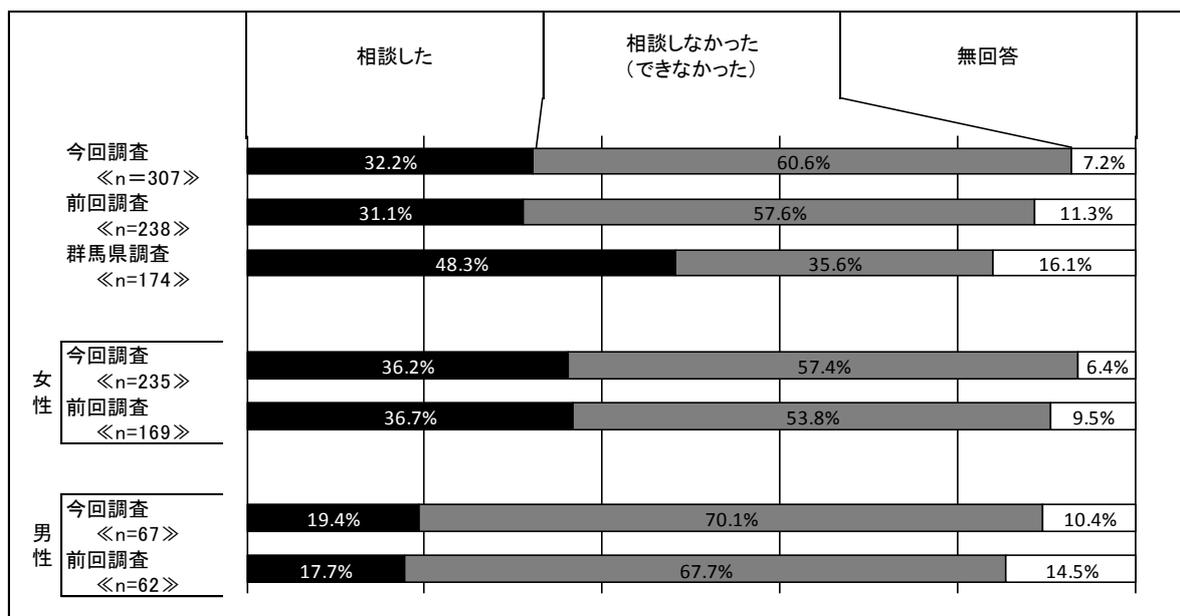
**年齢別**

「相談した」が最も高いのは30代で50.0%、最も低いのは50代の16.4%で、その差は33.6ポイント。

**婚姻の状況別**

「相談した」は【離別、死別】47.8%、【未婚】32.1%、【既婚】27.1%と続いています。

**前回調査・群馬県調査との比較**



＜前回調査との比較＞

「相談した」は、全体で1.1ポイント増加し、女性は0.5ポイント減少、男性は1.7ポイント増加しました。

「相談しなかった」は、全体で3ポイント増加し、女性は3.6ポイント、男性は2.4ポイント増加しました。

＜群馬県調査との比較＞

「相談した」は16.1ポイント下回っています。

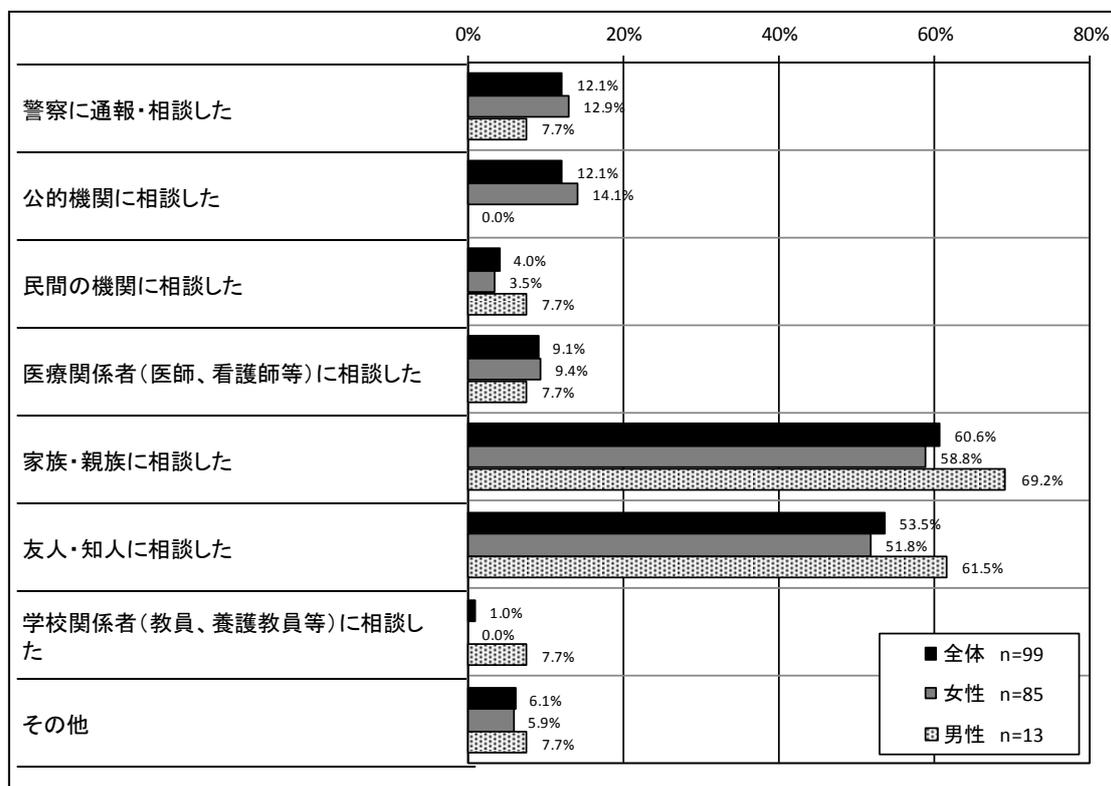
「相談しなかった」は25ポイント上回っています。

問5-2 相談したとお答えした方にお聞きします。  
そのとき、だれ（どこ）に相談しましたか。【複数回答】

- ◆全体では、【家族・親族に相談】60.6%、次いで【友人・知人に相談】53.5%、【公的機関に相談】、【警察に通報・相談】が同率12.1%と続いています。
- ◆性別でみると、差が最も大きいのは【公的機関に相談】で14.1ポイント差、最も差が小さいのは【医療関係者に相談】で1.7ポイント差となっています。
- ◆前回調査と比べ上回った項目は【家族・親族に相談】【医療関係者に相談】【警察に通報・相談】【民間の機関に相談】、下回った項目は【友人・知人に相談】【公的機関に相談】【学校関係者に相談】となっています。

**全体**

「家族・親族に相談」60.6% > 「友人・知人に相談」53.5%  
> 「公的機関に相談」12.1% = 「警察に通報・相談」12.1%

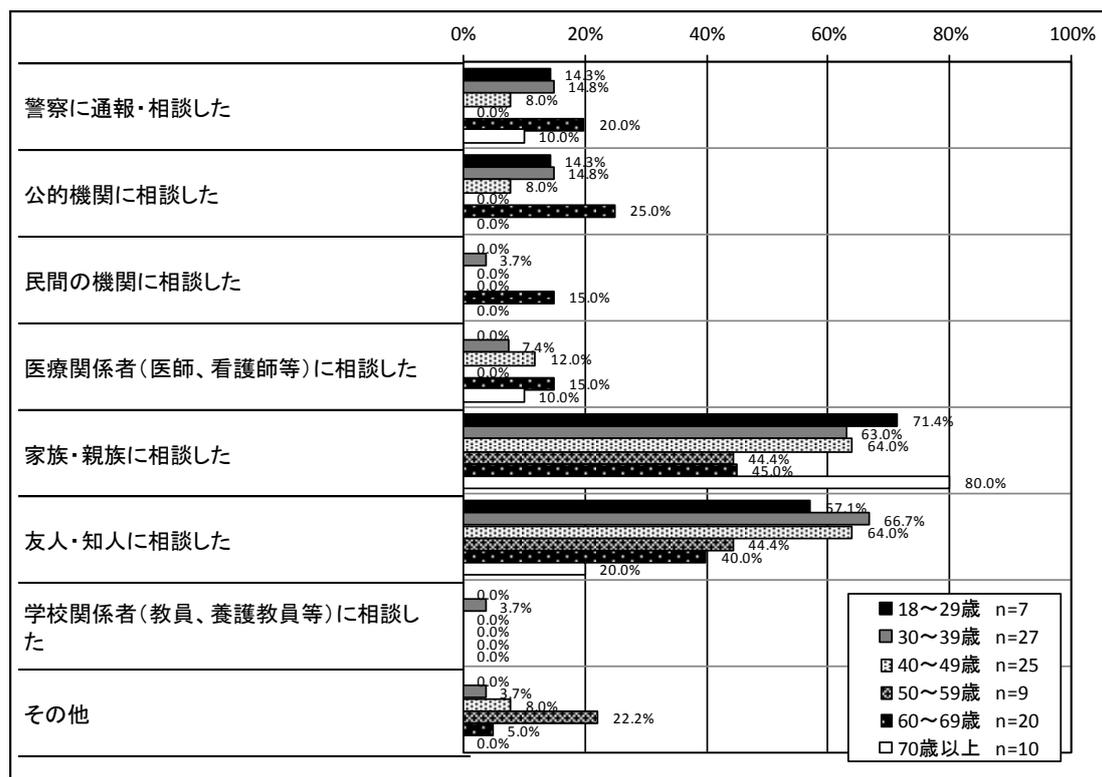


**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「公的機関に相談」で女性 14.1%、男性 0.0%であり、女性が 14.1 ポイント上回ります。次いで「警察に通報・相談」で女性 12.9%、男性 7.7%であり、女性が 5.2 ポイント上回ります。

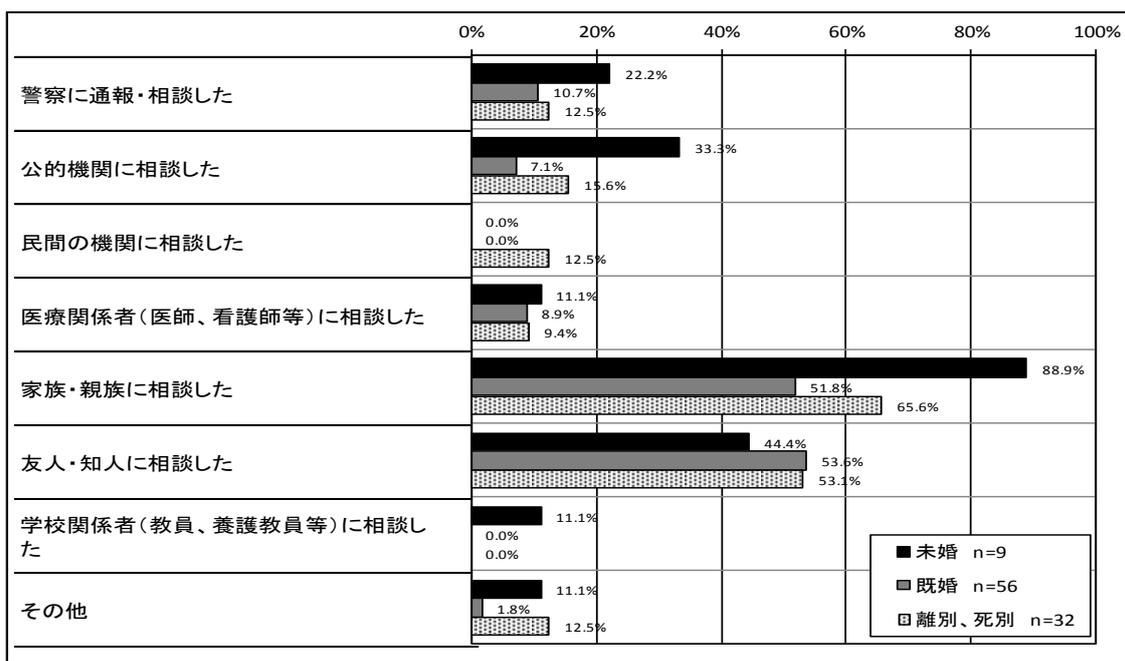
男性が上回る項目は、「家族・親族に相談」で女性 58.8%、男性 69.2%であり、男性が 10.4 ポイント上回ります。次いで「友人・知人に相談」で女性 51.8%、男性 61.5%であり、男性が 9.7 ポイント上回ります。

**年齢別**



年齢別で差がある項目で最も差が大きいのは、「友人・知人に相談」であり、最も高いのは30代で66.7%、最も低いのは70歳以上の20.0%で、その差は46.7ポイントとなっています。次いで、「家族・親族に相談」で、最も高いのは70歳以上で80.0%、最も低いのは50代の44.4%で、その差は35.6ポイントとなっています。3番目に差が大きいのは「公的機関に相談」で、最も高いのは60代で25.0%、最も低いのは50代、70歳以上が同率0.0%で、その差は25.0ポイントとなっています。

**婚姻の状況別**



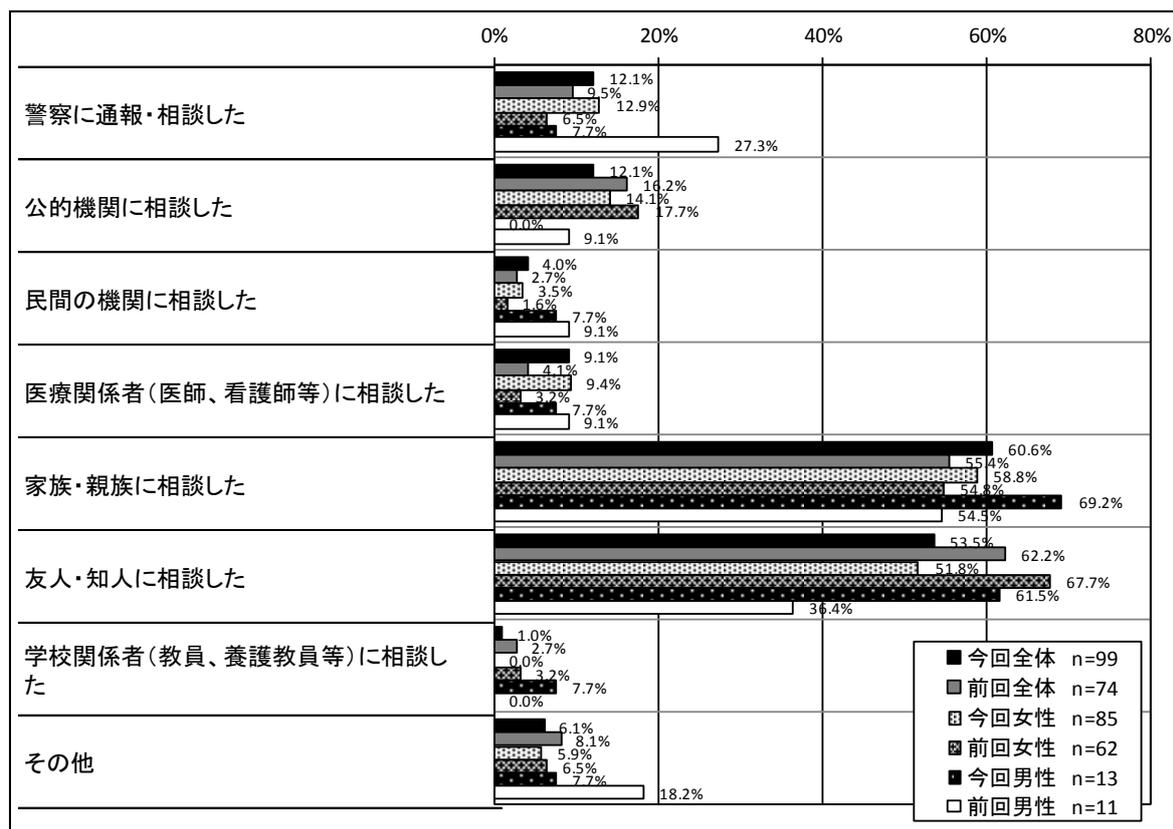
## II 調査結果（3 人権について）

【未婚】で最も高い項目は「家族・親族に相談」88.9%、次いで「友人・知人に相談」44.4%、「公的機関に相談」33.3%、「警察に通報・相談」が22.2%と続いています。

【既婚】で最も高い項目は「友人・知人に相談」53.6%、次いで「家族・親族に相談」51.8%、「警察に通報・相談」10.7%、「医療関係者に相談」8.9%と続いています。

【離婚、死別】で最も高い項目は「家族・親族に相談」65.6%、次いで「友人・知人に相談」53.1%、「公的機関に相談」15.6%、「警察に通報・相談」「民間の機関に相談」が同率12.5%と続いています。

### 前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「家族・親族に相談」（5.2 ポイント増）、「医療関係者に相談」（5 ポイント増）、「警察に通報・相談」（2.6 ポイント増）、「民間の相談機関に相談」（1.3 ポイント増）となります。前回調査を下回った項目は、「友人・知人に相談」（8.7 ポイント減）、「公的機関に相談」（4.1 ポイント減）、「学校関係者に相談」（1.7 ポイント減）と続いています。

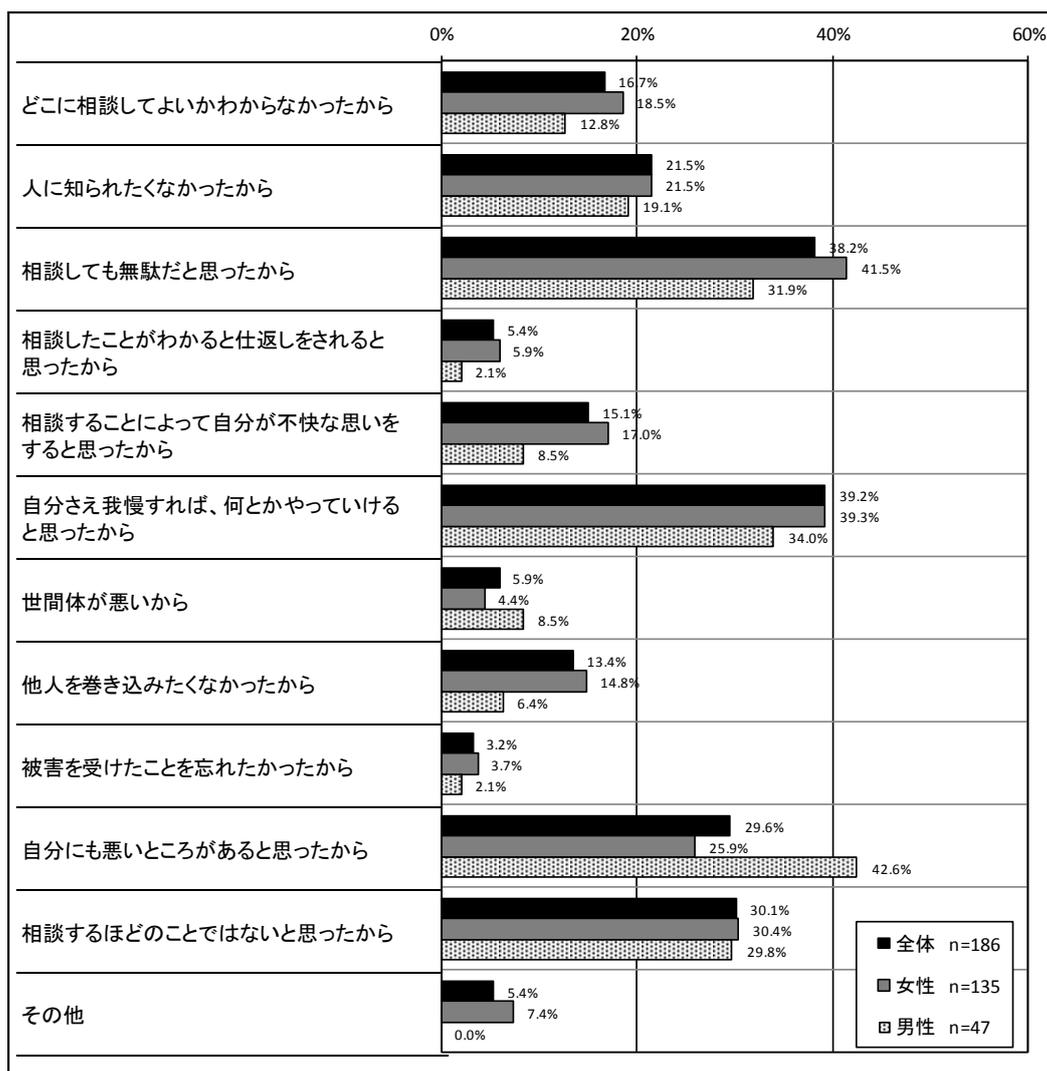
### ※公的機関の相談先（参考）

公的機関に相談したと回答した方で、配偶者暴力支援センターを利用された方は5名、前橋市男女共同参画相談室を利用された方は2名となっています。

問5-3 相談しなかったとお答えの方にお聞きします。だれ（どこ）にも相談しなかった、できなかった理由は何か。【複数回答】

- ◆全体では、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」39.2%、次いで「相談しても無駄だと思ったから」38.2%、「相談するほどのことではないと思ったから」30.1%、「自分にも悪いところがあると思ったから」29.6%と続いています。
- ◆性別でみると、差が最も大きいのは「自分にも悪いところがあると思ったから」で16.7ポイント差、最も差が小さいのは「相談するほどのことではないと思ったから」で0.6ポイント差となっています。
- ◆前回調査を下回った項目は「世間体が悪いから」「自分にも悪いところがあると思ったから」と続き、上回った項目は「他人を巻き込みたくなかったから」「どこに相談して良いかわからなかったから」と続いています。

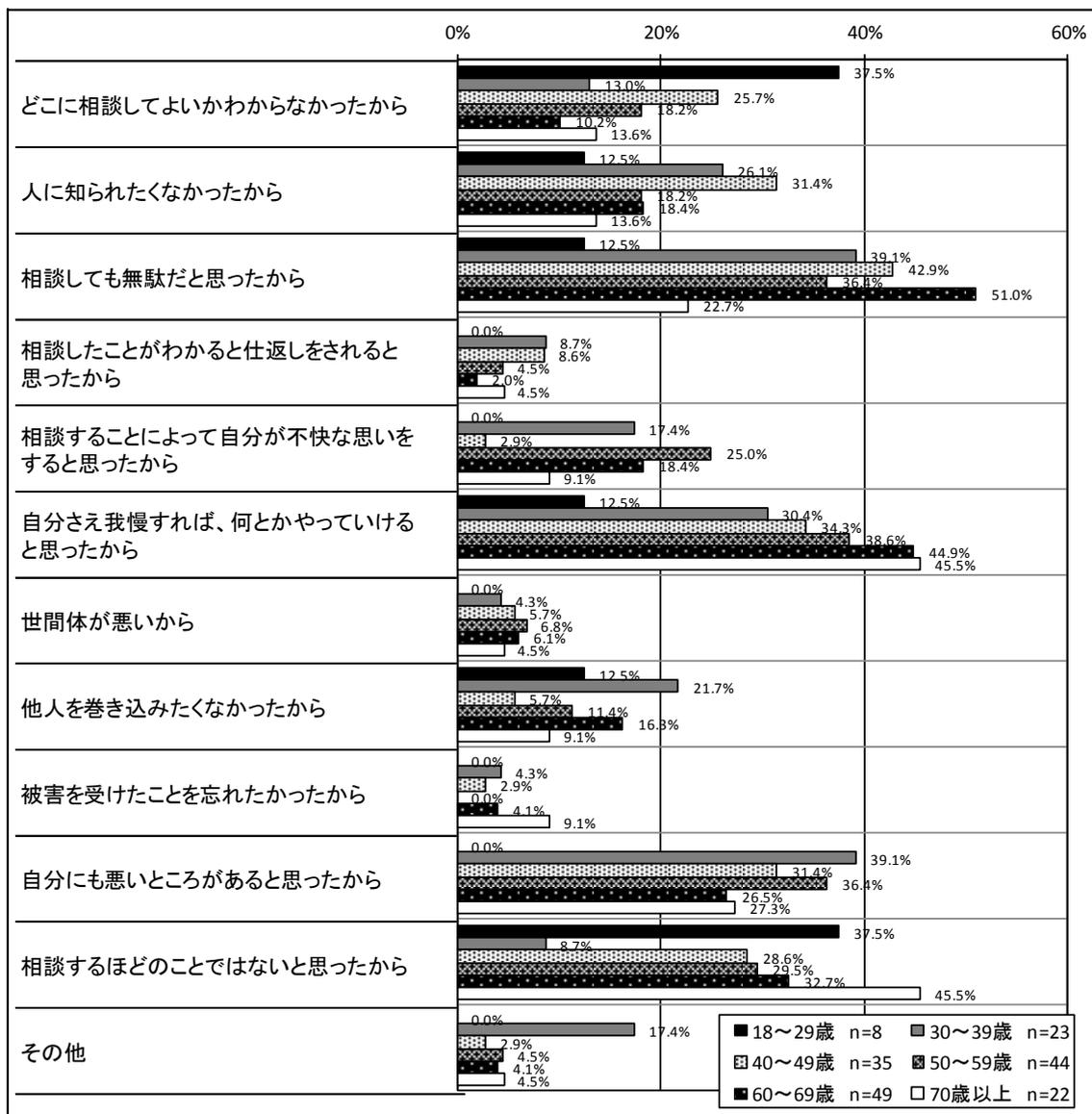
**全体** 「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」39.2%  
 > 「相談しても無駄だと思ったから」38.2%  
 > 「相談するほどのことではないと思ったから」30.1%  
 > 「自分にも悪いところがあると思ったから」29.6%



**性別**

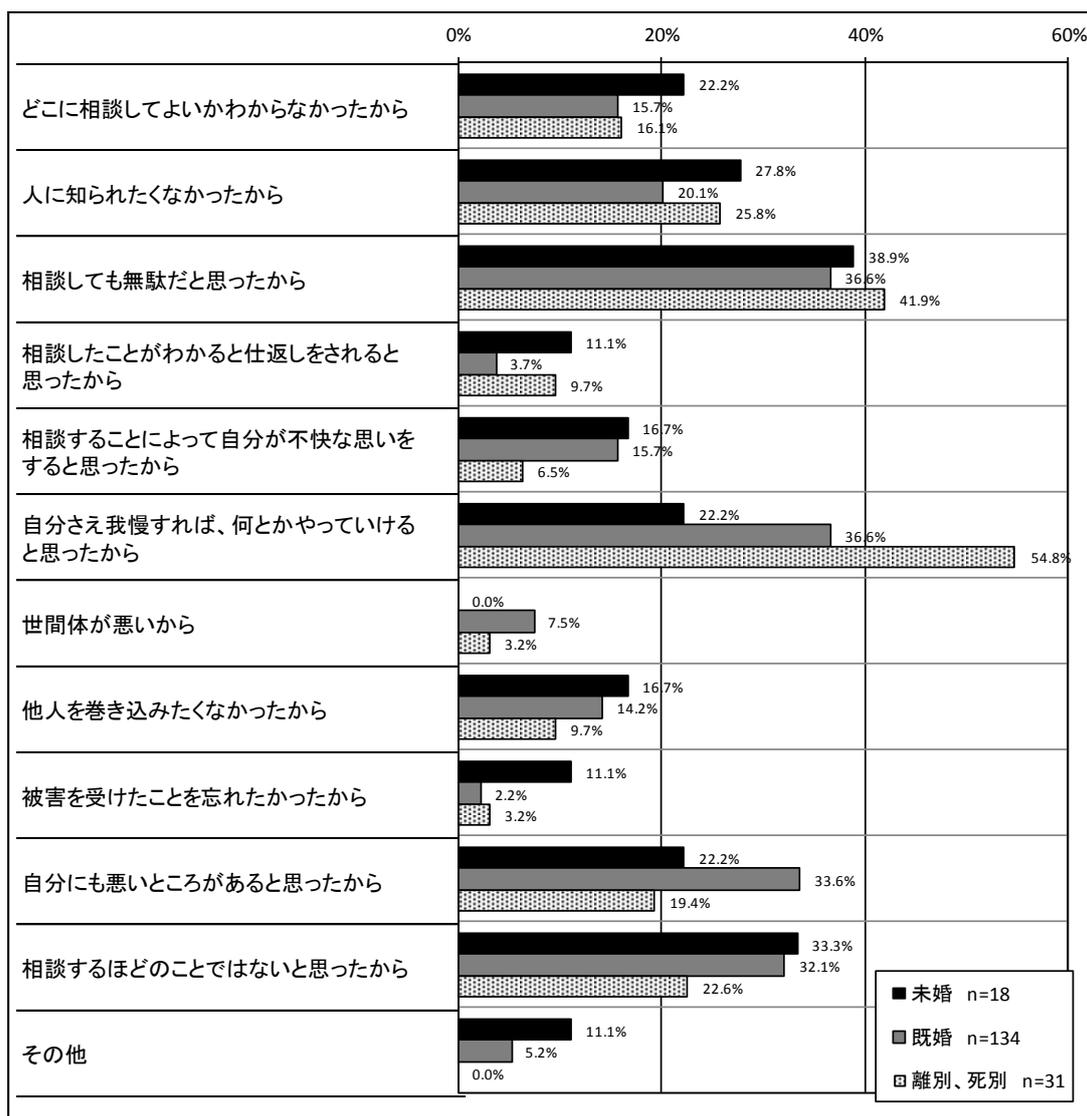
性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「相談しても無駄だと思ったから」で女性 41.5%、男性 31.9%であり、女性が 9.6 ポイント上回ります。次いで「他人を巻き込みたくなかったから」で女性 14.8%、男性 6.4%であり、女性が 8.4 ポイント上回ります。男性が上回る項目は、「自分にも悪いところがあると思ったから」で女性 25.9%、男性 42.6%であり、男性が 16.7 ポイント上回ります。次いで「世間体が悪いから」で女性 4.4%、男性 8.5%であり、男性が 4.1 ポイント上回ります。

**年齢別**



年齢別で差があるもののうち最も差が大きいのは、「自分にも悪いところがあると思ったから」であり、その差は 39.1 ポイントで、最も高いのは 30 代で 39.1%、最も低いのは 30 歳未満で 0.0%となっています。次いで、「相談しても無駄だと思ったから」であり、その差は 38.5 ポイントで、最も高いのは 60 代で 51.0%、最も低いのは 30 歳未満で 12.5%となっています。3 番目に差が大きいのは、「相談するほどのことではないと思ったから」であり、その差は 36.8 ポイントで、最も高いのは 70 歳以上で 45.5%、最も低いのは 30 代で 8.7%となっています。

**婚姻の状況別**

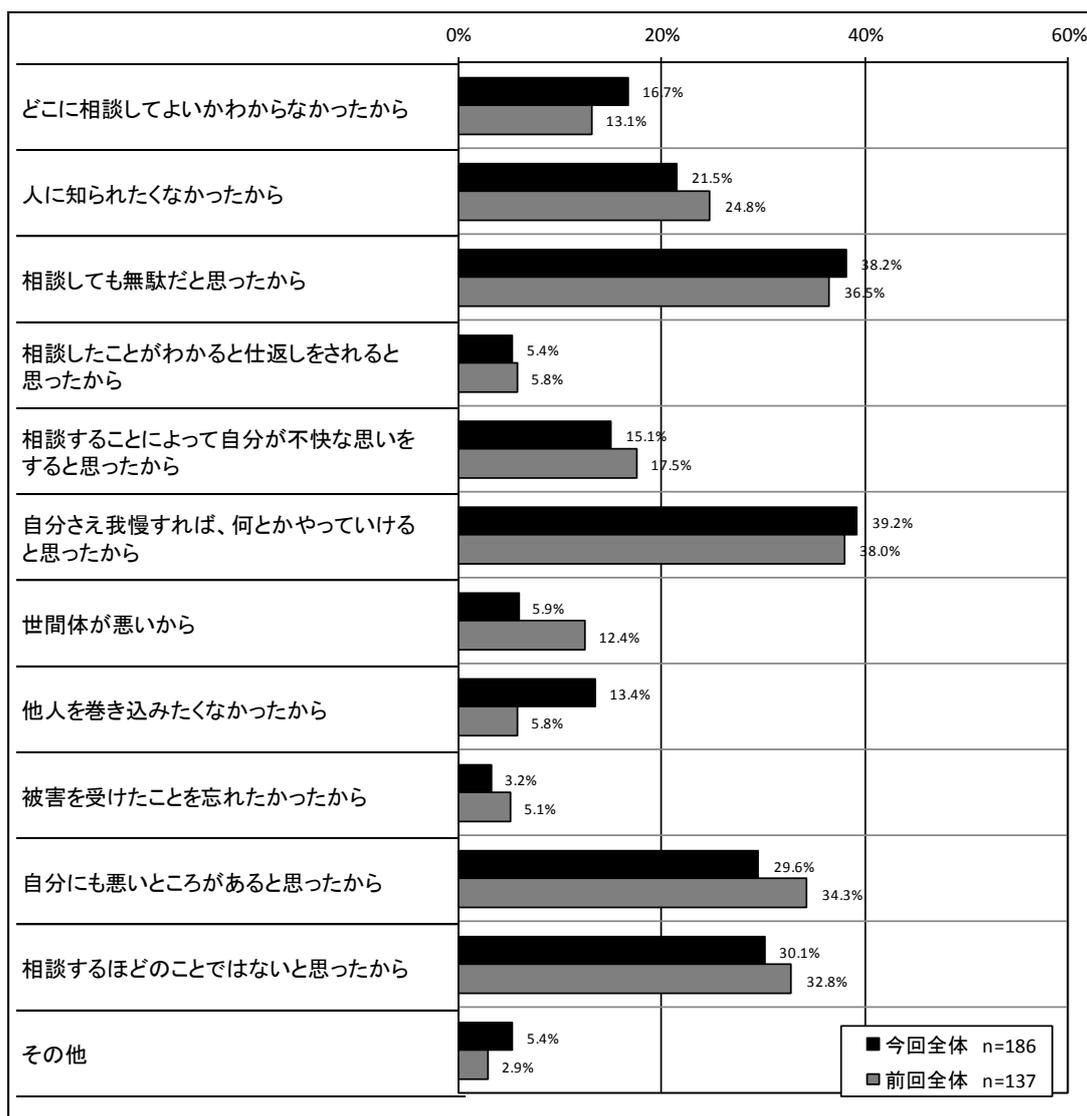


【未婚】で最も高い項目は「相談しても無駄だと思ったから」38.9%、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」33.3%、「人に知られたくなかったから」27.8%と続いています。

【既婚】で最も高い項目は「相談しても無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」が同率で 36.6%、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」33.6%、「相談するほどのことではないと思ったから」32.1%と続いています。

【離婚、死別】で最も高い項目は「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」54.8%、次いで「相談しても無駄だと思ったから」41.9%、「人に知られたくなかったから」25.8%と続いています。

前回調査との比較



前回調査を下回った項目は「世間体が悪いから」（6.5ポイント減）「自分にも悪いところがあると思ったから」（4.7ポイント減）「人に知られたいくなかったから」（3.3ポイント減）と続き、前回調査を上回った項目は「他人を巻き込みたくなかったから」（7.6ポイント増）「どこに相談して良いかわからなかったから」（3.6ポイント増）「相談しても無駄だと思ったから」（1.7ポイント増）と続いています。

## 4 学校教育について

### （1）学校教育で重要なこと

|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 問 6 | 学校教育において、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで) |
|-----|-------------------------------------|

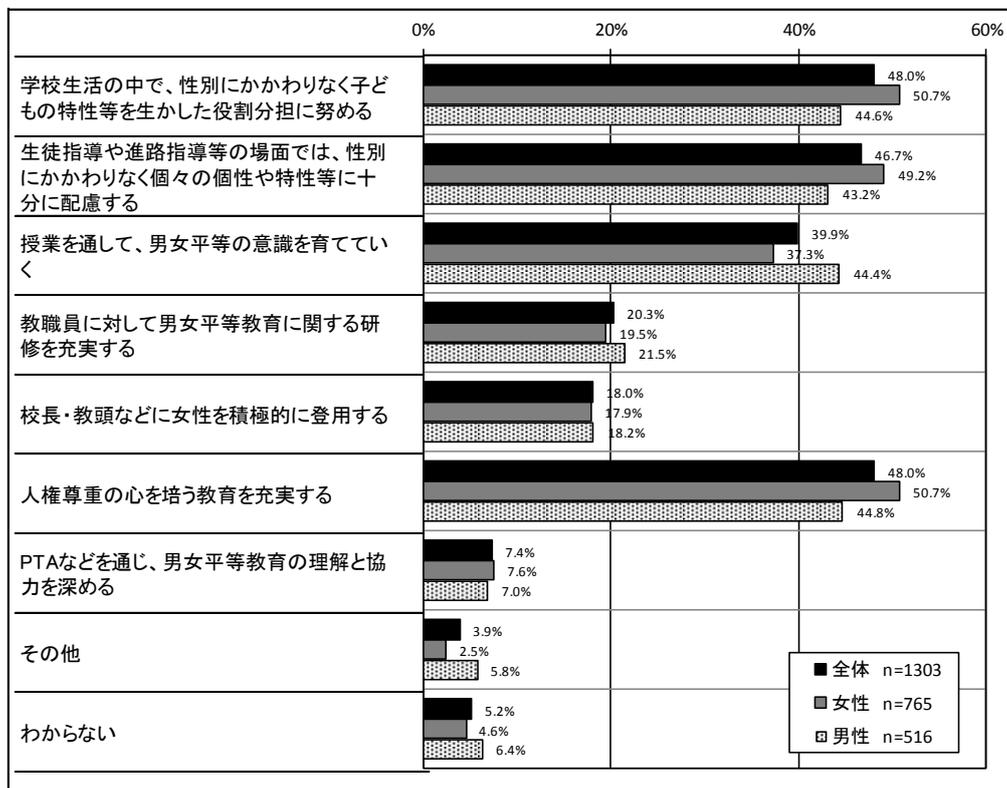
- ◆全体では、「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」と「人権尊重の心を培う教育を充実する」がともに48.0%となっています。
- ◆性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」で6.1ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「授業を通して、男女平等の意識を育てていく」で7.1ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が最も大きい項目は、「生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の個性や特性等に十分に配慮する」で14.1ポイント増、減少が最も大きい項目は「人権尊重の心を培う教育を充実する」で9.1ポイント減となっています。

#### 全体

「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」48.0%

= 「人権尊重の心を培う教育を充実する」48.0%

> 「生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の個性や特性等に十分に配慮する」46.7%

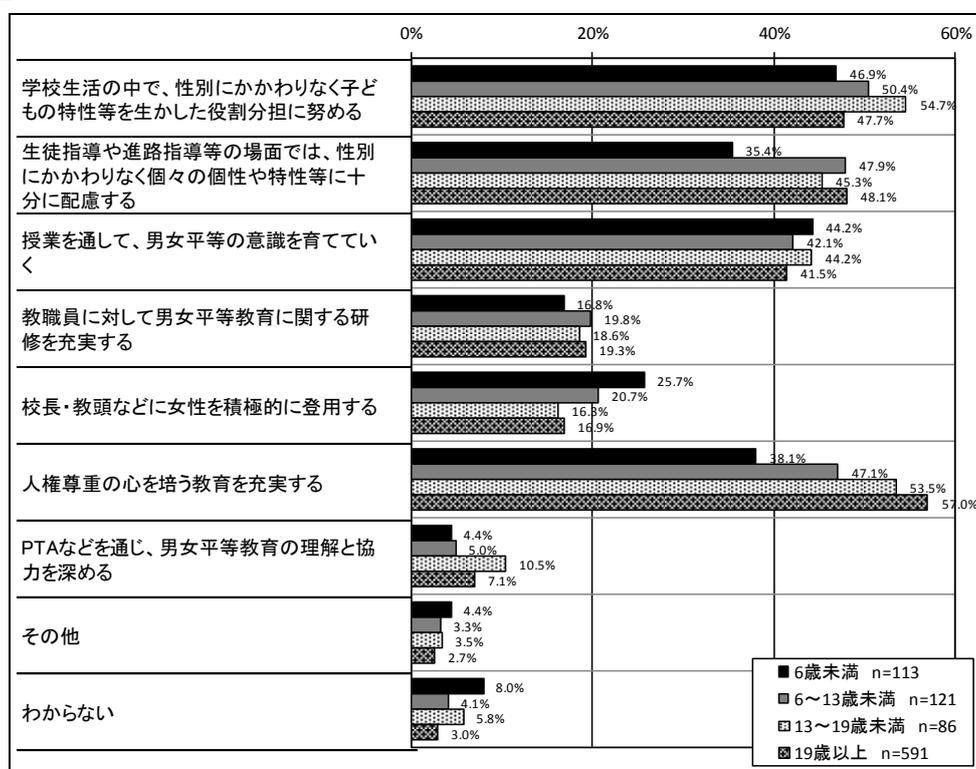


**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は、「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」で女性 50.7%、男性 44.6%であり、女性が 6.1 ポイント上回ります。次いで、「生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の個性や特性等に十分に配慮する」で女性 49.2%、男性 43.2%であり、女性が6.0ポイント上回ります。また、「人権尊重の心を培う教育を充実する」で女性 50.7%、男性 44.8%であり、女性が 5.9 ポイント上回ります。

男性が上回る項目は、「授業を通して、男女平等の意識を育てていく」で女性 37.3%、男性 44.4%であり、男性が 7.1 ポイント上回ります。次いで、「教職員に対して男女平等教育に関する研修を充実する」で女性 19.5%、男性 21.5%であり、男性が 2.0 ポイント上回ります。

**詳細分析**

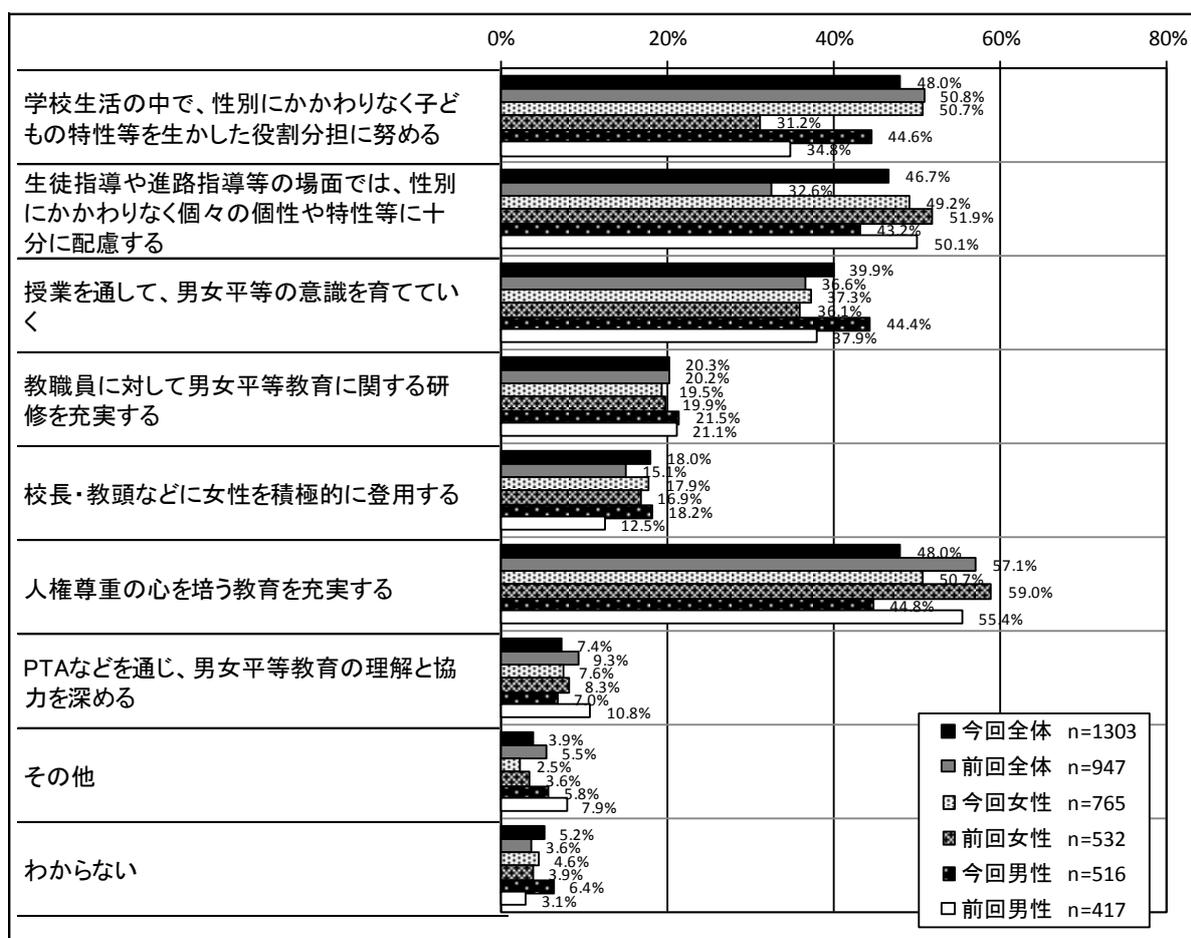


一番下の子の年齢別で差があるもののうち、最も差が大きいものは、「人権尊重の心を培う教育を充実する」であり、最も高いのは 19 歳以上で 57.0%、最も低いのは 6 歳未満で 38.1%であり、その差は 18.9 ポイントとなっています。

次いで、「生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の個性や特性等に十分に配慮する」であり、最も高いのは 19 歳以上で 48.1%、最も低いのは 6 歳未満で 35.4%であり、その差は 12.7%となっています。

3 番目に差が大きいのは「校長・教頭などに女性を積極的に登用する」であり、最も高いのは 6 歳未満で 25.7%、最も低いのは 13~19 歳未満で 16.3%であり、その差は 9.4 ポイントとなっています。

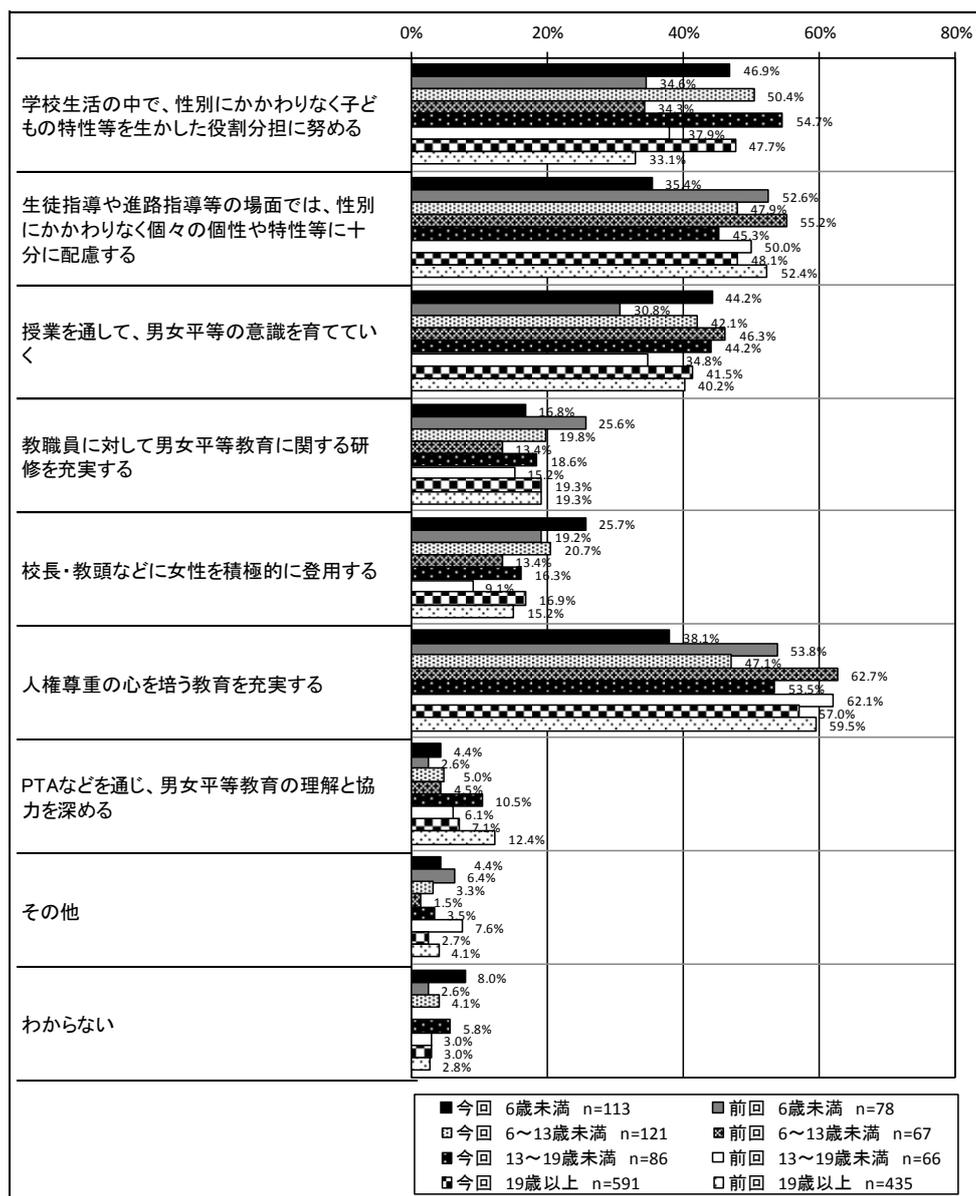
前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の個性や特性等に十分に配慮する」が 14.1 ポイント、「授業を通して、男女平等の意識を育てていく」が 3.3 ポイントと続いています。

前回調査を下回った項目は、「人権尊重の心を培う教育を充実する」が 9.1 ポイント、「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」が 2.8 ポイントと続いています。

## II 調査結果（4 学校教育について）



前回調査と比べ上回った項目について、一番下の子の年齢別でみると、「一番下の子の年齢が6歳未満」では、「授業を通して、男女平等の意識を育てていく」が13.4ポイント、「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」が12.3ポイントと続いています。

“一番下の子の年齢が6～13歳未満”では、「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」が16.1ポイント、「校長・教頭などに女性を積極的に登用する」が7.3ポイントと続いています。

“一番下の子の年齢が13～19歳未満”では、「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」が16.8ポイント、「授業を通して、男女平等の意識を育てていく」が9.4ポイントと続いています。

“一番下の子の年齢が19歳以上”では、「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める」が14.6ポイント、「校長・教頭などに女性を積極的に登用する」が1.7ポイントと続いています。

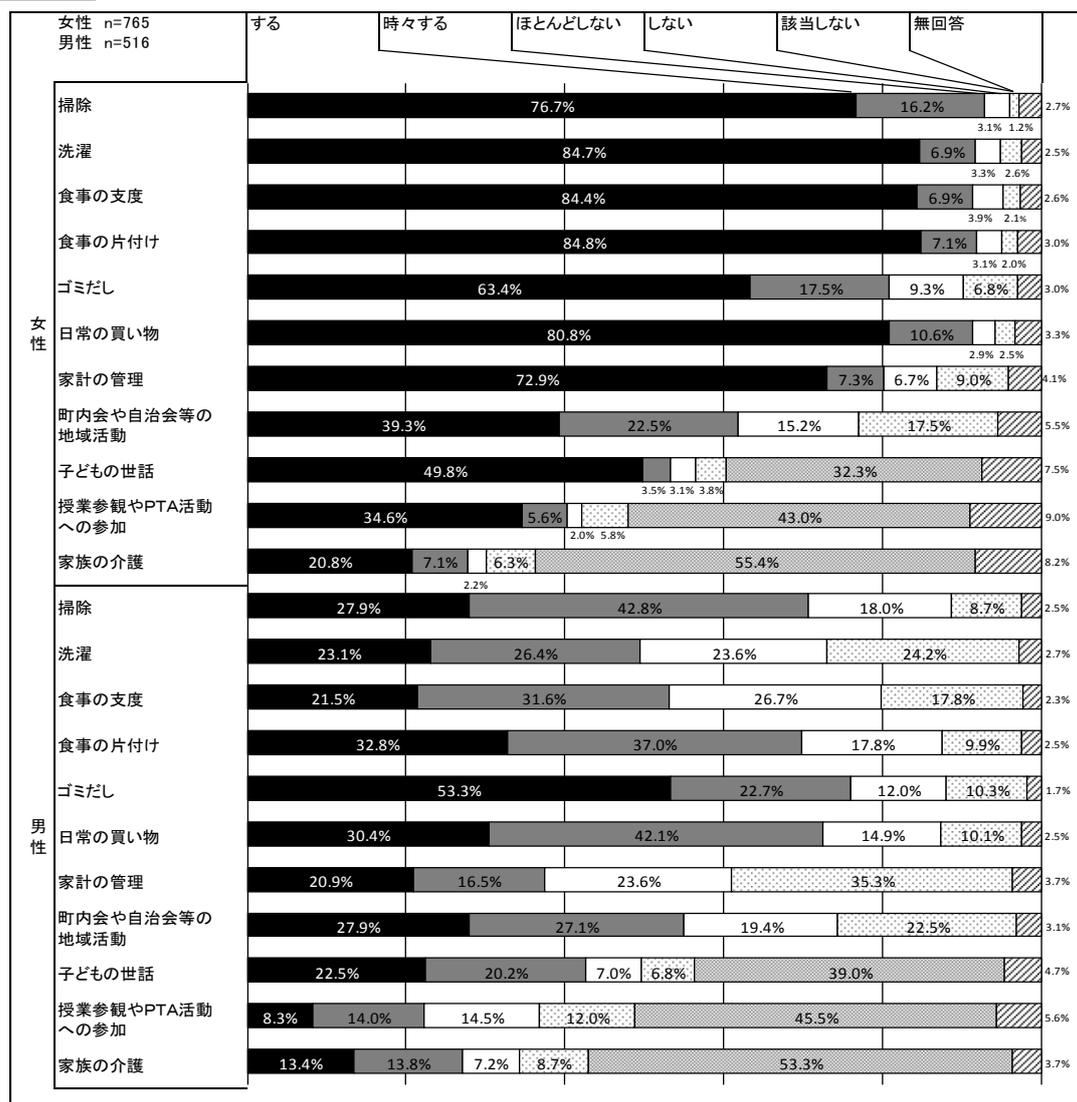
## 5 家庭生活について

### (1) 家庭生活で行っていること

問7 家庭生活に関して、次のことをどの程度行っていますか。

- ◆女性で「する」が最も高いのは【食事の片付け】84.8%、次いで【洗濯】84.7%と続いています。
- ◆男性で「する」が最も高いのは【ゴミだし】53.3%、次いで【食事の片付け】32.8%と続いています。

#### 全体・性別



注：【掃除】から【地域活動】までは全ての人が回答する設問であるため、「該当しない」という選択肢はありません。

【子どもの世話】について、「する」「時々する」をあわせた割合は女性 53.3%（「該当しない」は 32.3%）、男性 42.7%（「該当しない」は 39.0%）となっています。

【授業参観や PTA 活動への参加】について、「する」「時々する」をあわせた割合は女性 40.2%（「該当しない」は 43.0%）、男性 22.3%（「該当しない」は 45.5%）。

【家族の介護】について、「する」「時々する」をあわせた割合は女性 27.9%（「該当しない」は 55.4%）、男性 27.2%（「該当しない」は 53.3%）となっています。

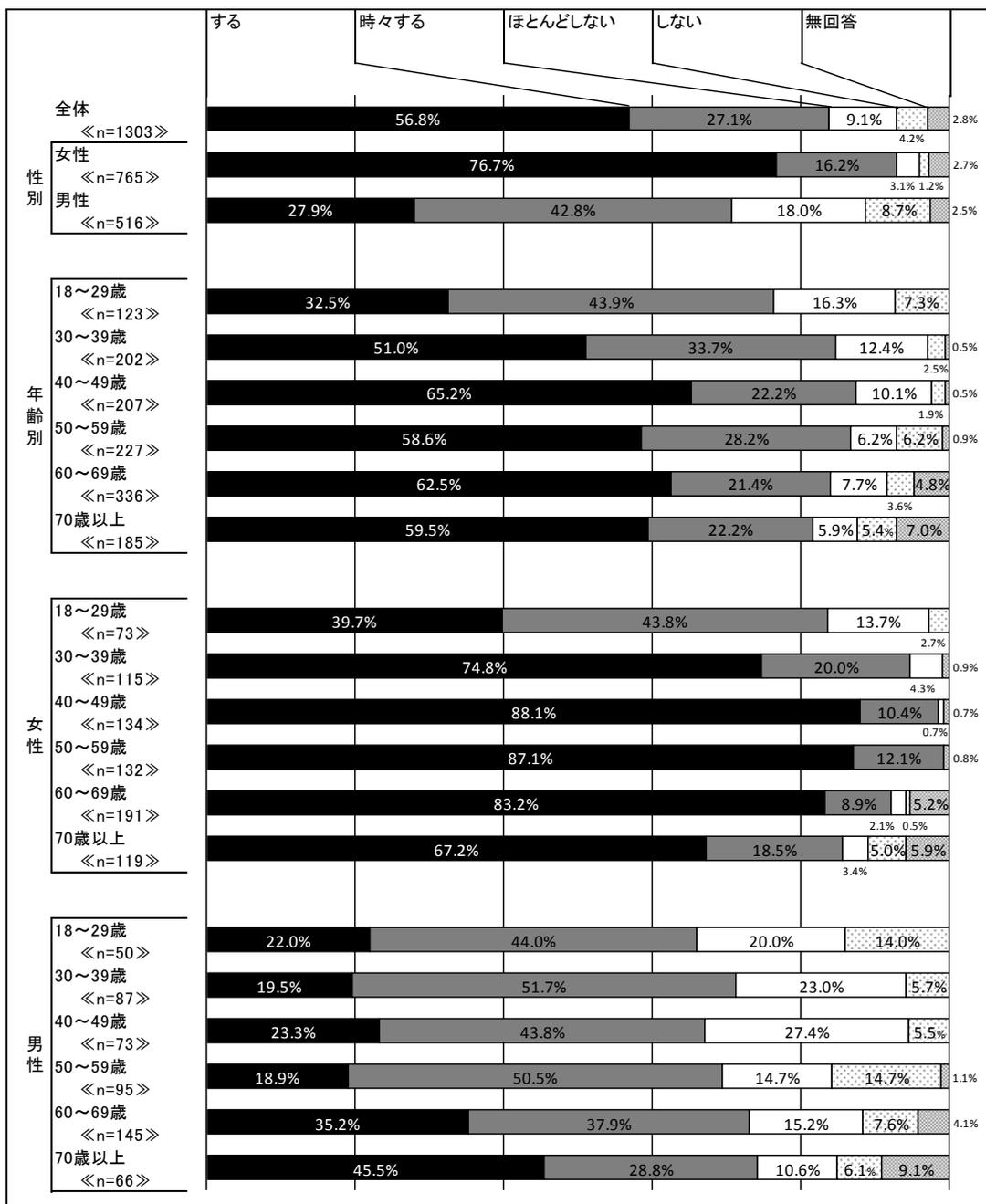
詳細分析<項目別>

①掃除

- ◆「する」は全体で56.8%となっています。
- ◆「する」を性別で見ると女性76.7%、男性27.9%となっています。
- ◆共働き世帯で「する」は女性77.6%、男性26.8%となっています。
- ◆「する」は前回調査と比べ性別にかかわらず上回ります。

全体

「する」56.8% > 「時々する」27.1% > 「ほとんどしない」9.1% > 「しない」4.2%



**性別**

「する」は女性 76.7%、男性 27.9%であり、女性が 48.8 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 92.9%、男性 70.7%であり、女性が 22.2 ポイント上回ります。

**年齢別**

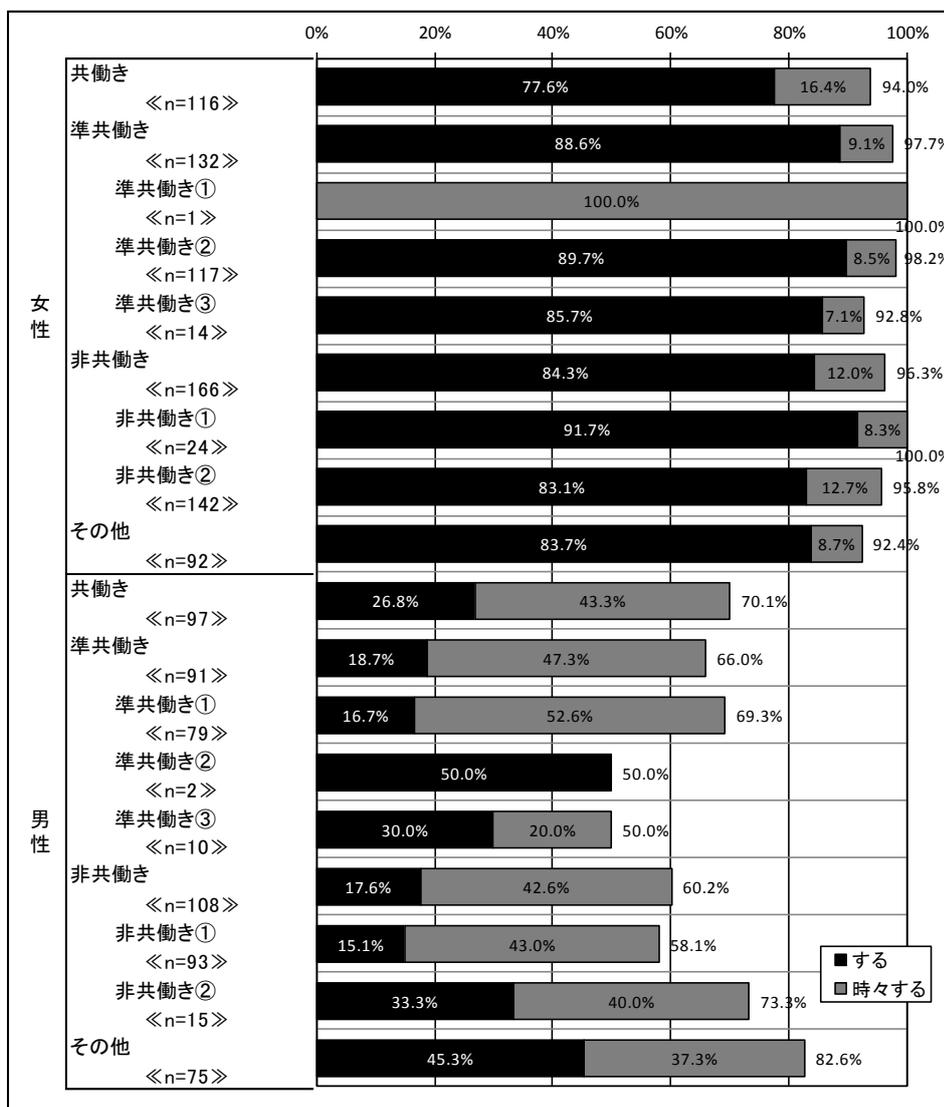
「する」が最も高いのは 40 代で 65.2%、最も低いのは 30 歳未満の 32.5%であり、その差は 32.7 ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 87.4%、最も低いのは 30 歳未満の 76.4%であり、その差は 11.0 ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは 50 代で女性 87.1%、男性 18.9%であり、その差は 68.2 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 39.7%、男性 22.0%であり、その差は 17.7 ポイントとなっています。

「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、40 代で女性 98.5%、男性 67.1%であり、その差は 31.4 ポイント。最も差が小さいのは 70 歳以上で女性 85.7%、男性 74.3%であり、その差は 11.4 ポイントとなっています。

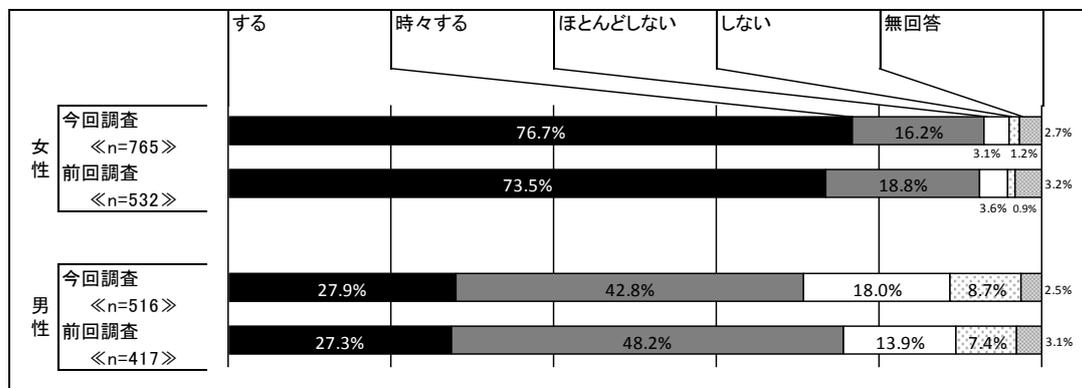
**共働き状況**



## II 調査結果（5 家庭生活について）

共働き世帯における「する」は女性 77.6%、男性 26.8%であり、女性が 50.8 ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 94.0%、男性 70.1%であり、女性が 23.9 ポイント上回ります。

### 前回調査との比較



「する」は女性で 3.2 ポイント増加し、男性では 0.6 ポイント増加しました。

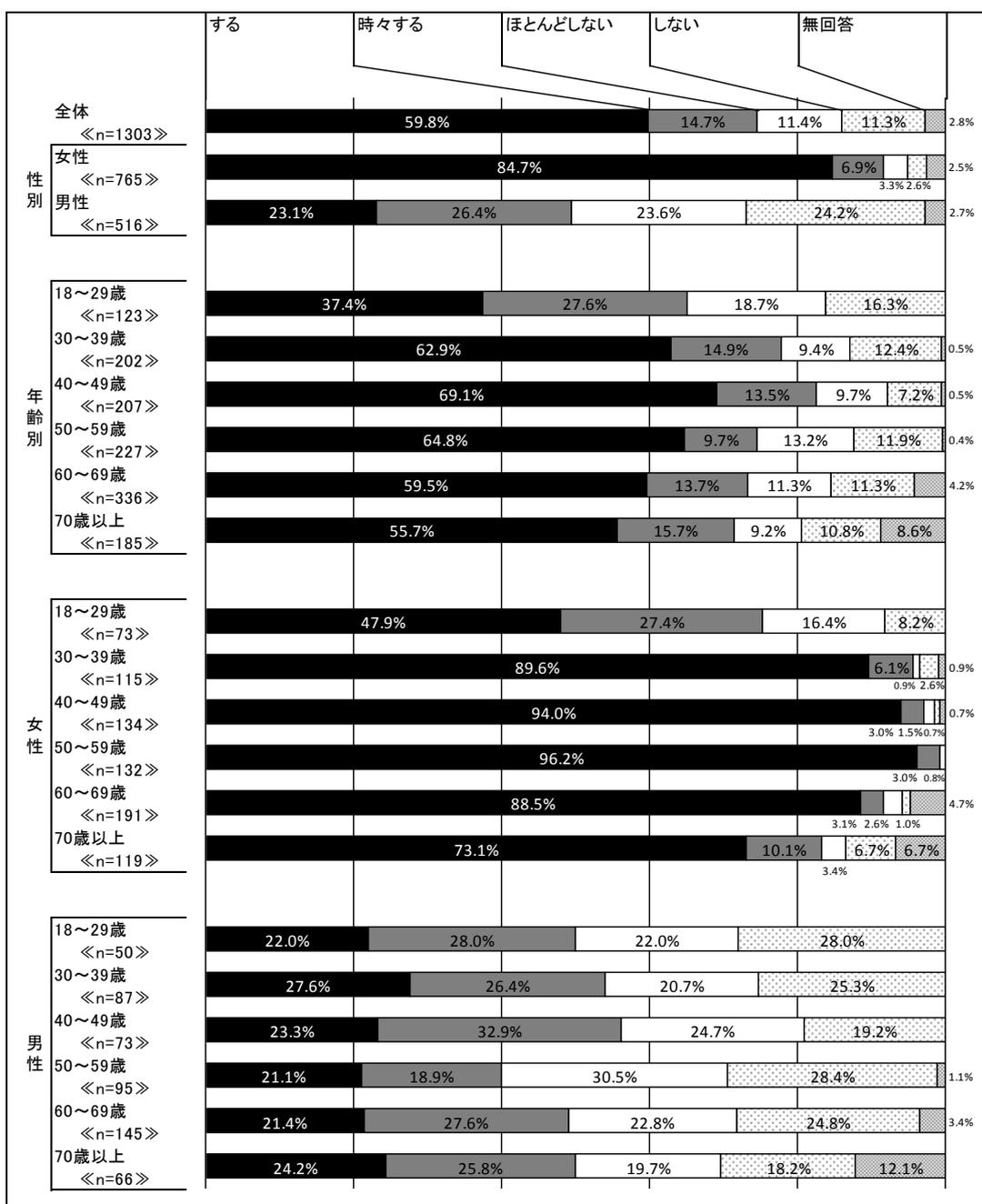
「する」「時々する」を合わせた割合は、女性で 0.6 ポイント増加、男性では 4.8 ポイント減少しました。

②洗濯

- ◆「する」は全体で59.8%となっています。
- ◆「する」を性別で見ると女性84.7%、男性23.1%となっています。
- ◆共働き世帯で「する」は女性89.7%、男性24.7%となっています。
- ◆「する」は前回調査と比べ、女性は上回り、男性は下回ります。

**全体**

「する」59.8% > 「時々する」14.7% > 「ほとんどしない」11.4% > 「しない」11.3%



**性別**

「する」は女性 84.7%、男性 23.1%であり、女性が 61.6 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 91.6%、男性 49.5%であり、女性が 42.1 ポイント上回ります。

**年齢別**

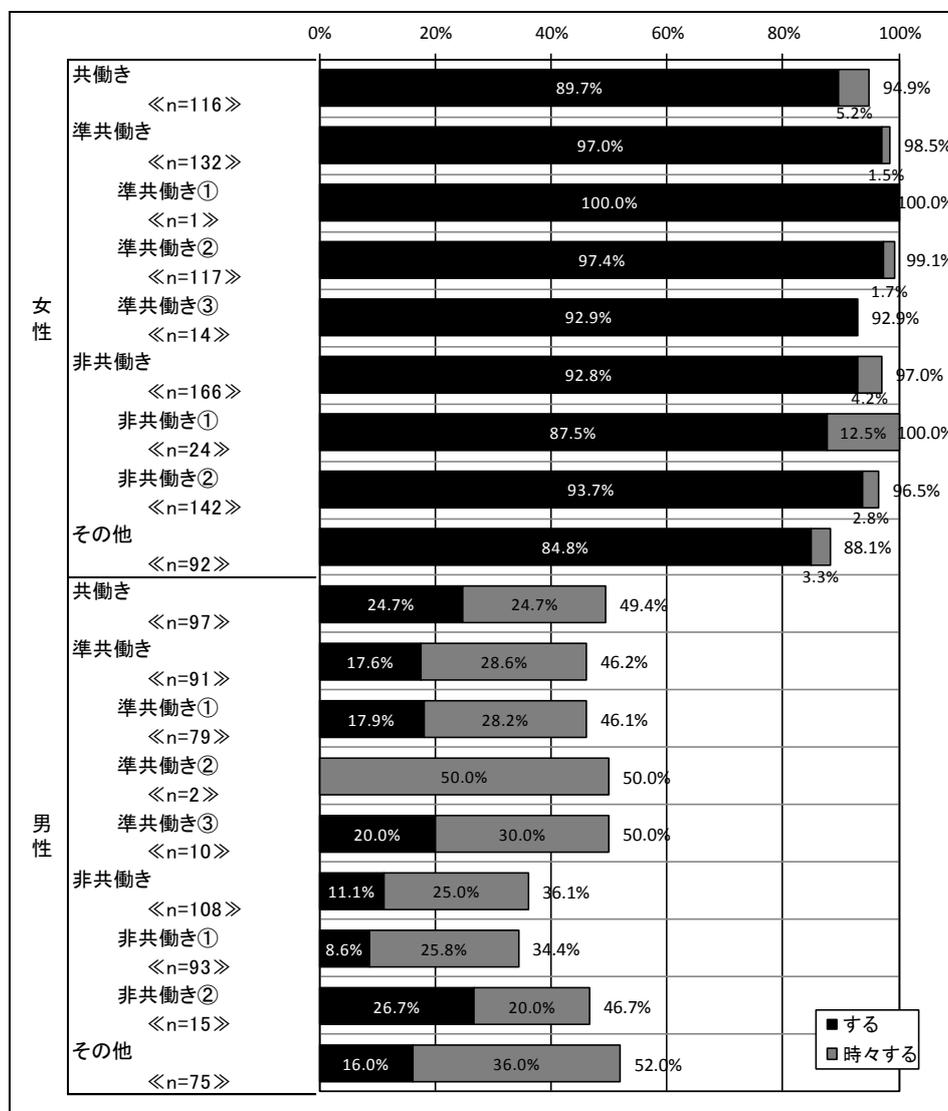
「する」が最も高いのは 40 代で 69.1%、最も低いのは 30 歳未満の 37.4%であり、その差は 31.7 ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 82.6%、最も低いのは 30 歳未満の 65.0%であり、その差は 17.6 ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは 50 代で女性 96.2%、男性 21.1%であり、その差は 75.1 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 47.9%、男性 22.0%であり、その差は 25.9 ポイントとなっています。

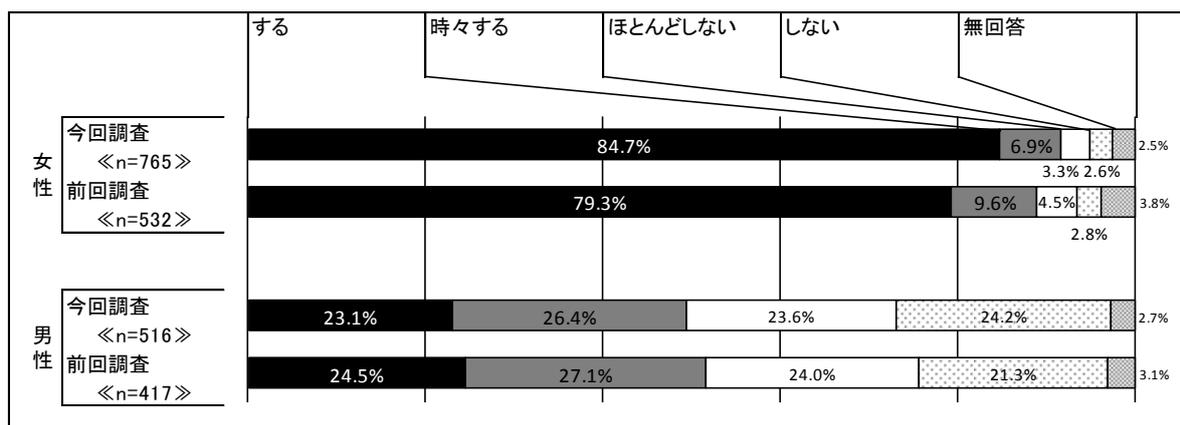
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、50 代で女性 99.2%、男性 40.0%であり、その差は 59.2 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 75.3%、男性 50.0%であり、その差は 25.3 ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性 89.7%、男性 24.7%であり、女性が 65.0 ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 94.9%、男性 49.4%であり、女性が 45.5 ポイント上回ります。

前回調査との比較



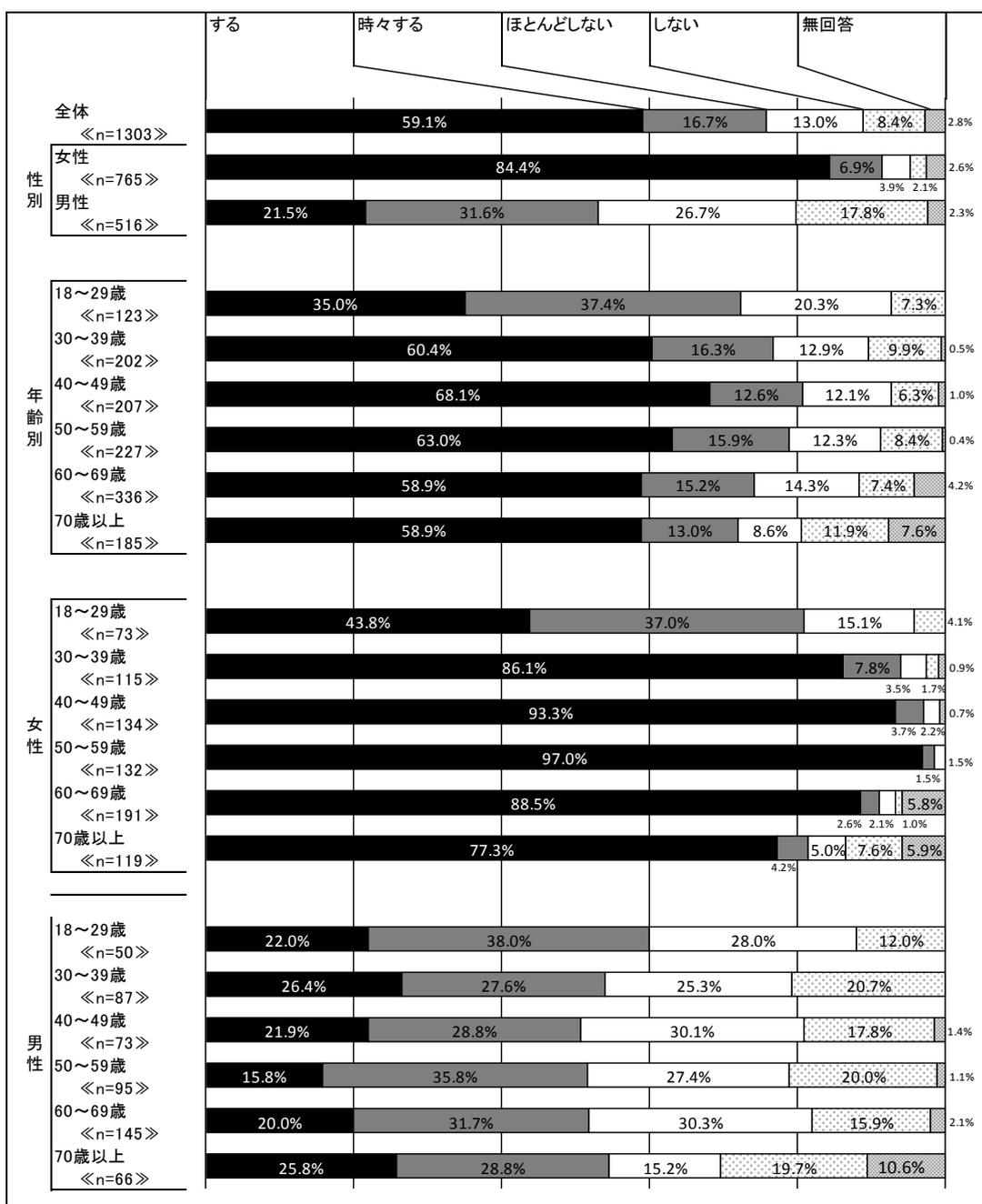
「する」は女性で5.4ポイント増加し、男性では1.4ポイント減少しました。  
 「する」「時々する」を合わせた割合は、女性で2.7ポイント増加、男性では2.1ポイント減少しました。

③食事の支度

- ◆「する」は全体で59.1%となっています。
- ◆「する」を性別で見ると女性84.4%、男性21.5%となっています。
- ◆共働き世帯で「する」は女性90.5%、男性25.8%となっています。
- ◆「する」は前回調査と比べ、性別にかかわらず上回ります。

**全体**

「する」59.1% > 「時々する」16.7% > 「ほとんどしない」13.0% > 「しない」8.4%



**性別**

「する」は女性 84.4%、男性 21.5%であり、女性が 62.9 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 91.3%、男性 53.1%であり、女性が 38.2 ポイント上回ります。

**年齢別**

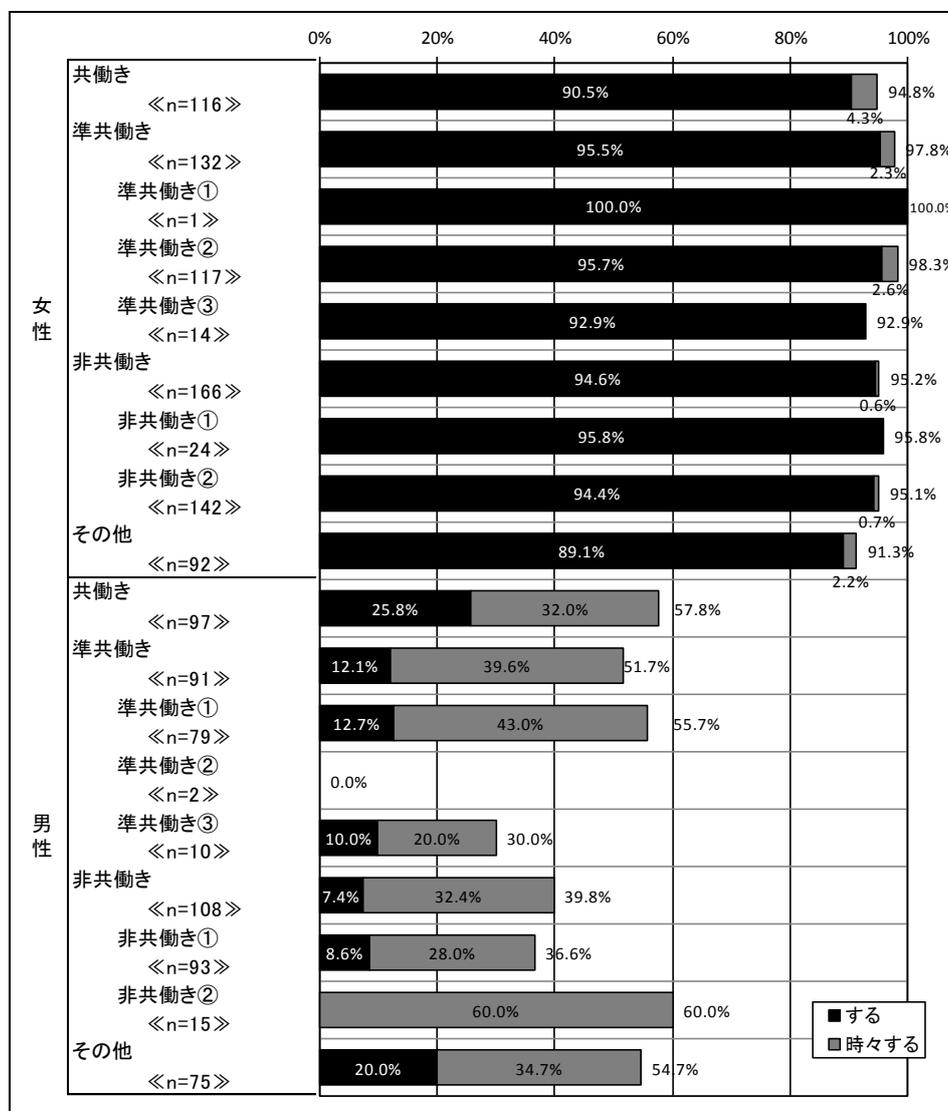
「する」が最も高いのは 40 代で 68.1%、最も低いのは 30 歳未満の 35.0%であり、その差は 33.1 ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 80.7%、最も低いのは 70 歳以上の 71.9%であり、その差は 8.8 ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは 50 代で女性 97.0%、男性 15.8%であり、その差は 81.2 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 43.8%、男性 22.0%であり、その差は 21.8 ポイントとなっています。

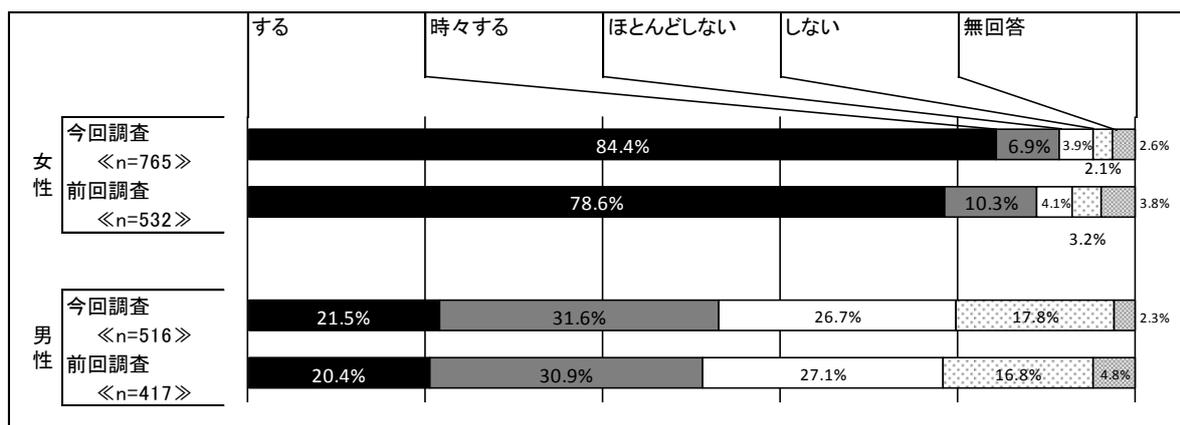
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、50 代で女性 98.5%、男性 51.6%であり、その差は 46.9 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 80.8%、男性 60.0%であり、その差は 20.8 ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性 90.5%、男性 25.8%であり、女性が 64.7 ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 94.8%、男性 57.8%であり、女性が 37.0 ポイント上回ります。

前回調査との比較



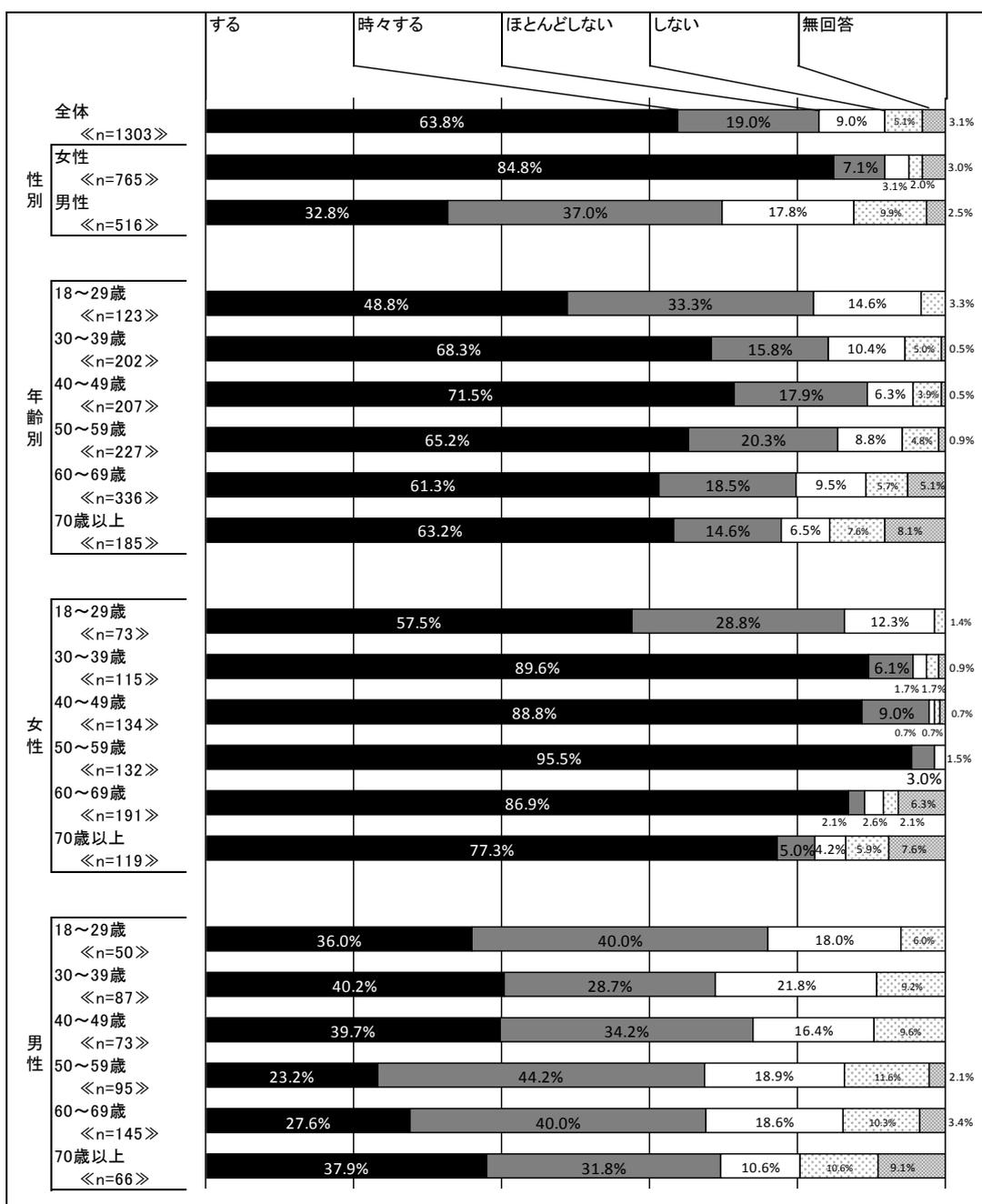
「する」は女性で5.8ポイント増加し、男性では1.1ポイント増加しました。  
 「する」「時々する」を合わせた割合は、女性で2.4ポイント増加、男性では1.8ポイント減少しました。

④ 食事の片付け

- ◆ 「する」は全体で63.8%となっています。
- ◆ 「する」を性別で見ると女性84.8%、男性32.8%となっています。
- ◆ 共働き世帯で「する」は女性87.1%、男性37.1%となっています。
- ◆ 「する」は前回調査と比べ、性別にかかわらず上回ります。

**全体**

「する」63.8% > 「時々する」19.0% > 「ほとんどしない」9.0% > 「しない」5.1%



**性別**

「する」は女性 84.8%、男性 32.8%であり、女性が 52.0 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 91.9%、男性 69.8%であり、女性が 22.1 ポイント上回ります。

**年齢別**

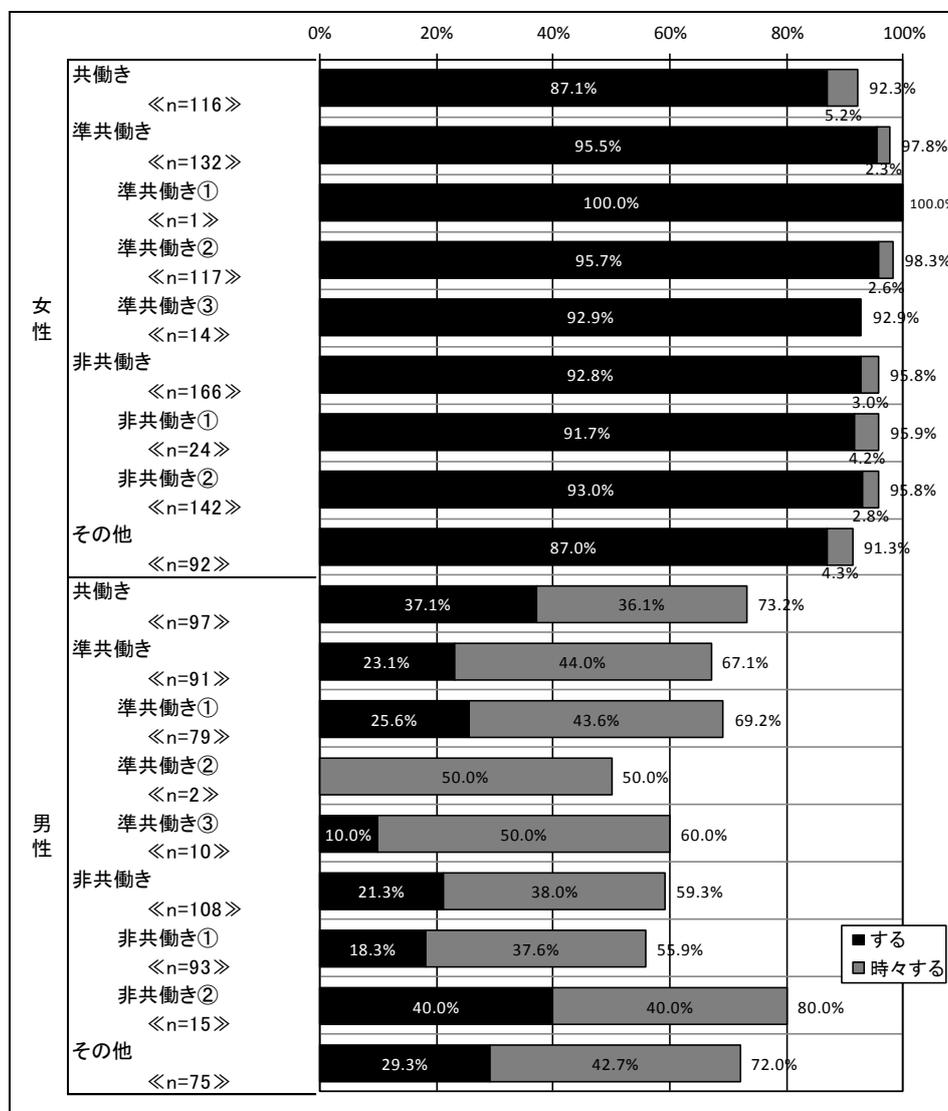
「する」が最も高いのは 40 代で 71.5%、最も低いのは 30 歳未満の 48.8%であり、その差は 22.7 ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 89.4%、最も低いのは 70 歳以上の 77.8%であり、その差は 11.6 ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは 50 代で女性 95.5%、男性 23.2%であり、その差は 72.3 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 57.5%、男性 36.0%であり、その差は 21.5 ポイントとなっています。

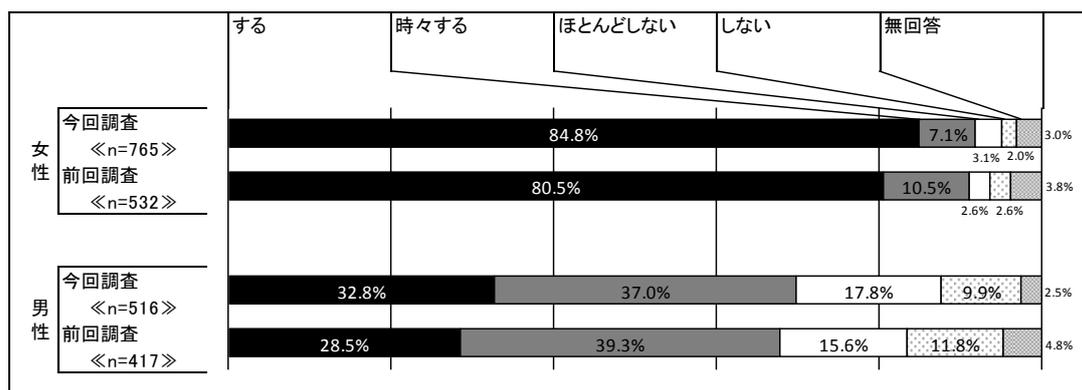
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、50 代で女性 98.5%、男性 67.4%であり、その差は 31.1 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 86.3%、男性 76.0%であり、その差は 10.3 ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性 87.1%、男性 37.1%であり、女性が 50 ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 92.3%、男性 73.2%であり、女性が 19.1 ポイント上回ります。

前回調査との比較



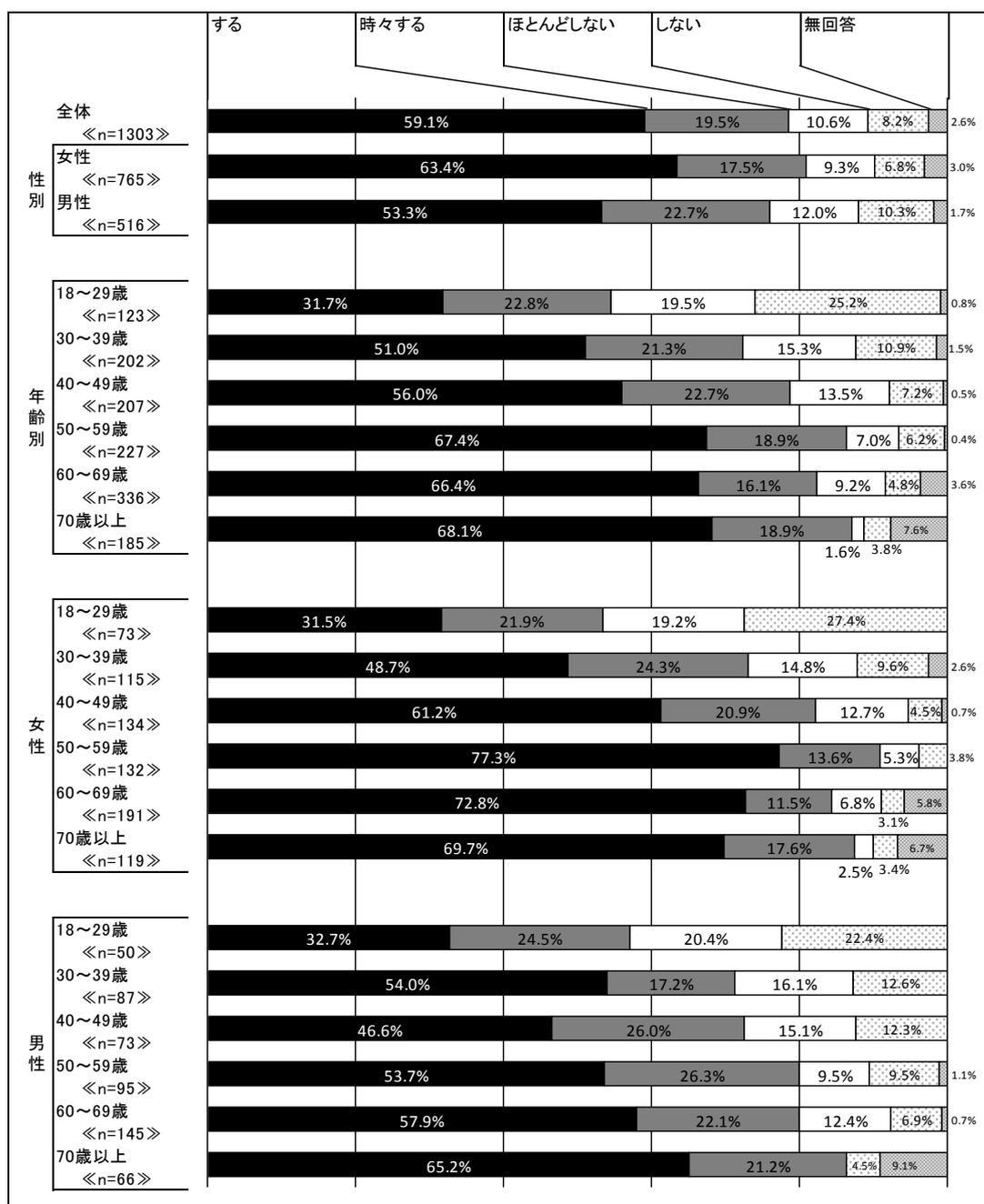
「する」は女性、男性ともに 4.3 ポイント増加しました。  
 「する」「時々する」を合わせた割合は、女性で 0.9 ポイント増加、男性では 2.0 ポイント増加しました。

⑤ ゴミだし

- ◆ 「する」は全体で59.1%となっています。
- ◆ 「する」を性別でみると女性63.4%、男性53.3%となっています。
- ◆ 共働き世帯で「する」は女性58.6%、男性52.6%となっています。
- ◆ 「する」は前回調査と比べ、女性は下回り、男性は上回ります。

**全体**

「する」59.1% > 「時々する」19.5% > 「ほとんどしない」10.6% > 「しない」8.2%



**性別**

「する」は女性 63.4%、男性 53.3%であり、女性が 10.1 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 80.9%、男性 76.0%であり、女性が 4.9 ポイント上回ります。

**年齢別**

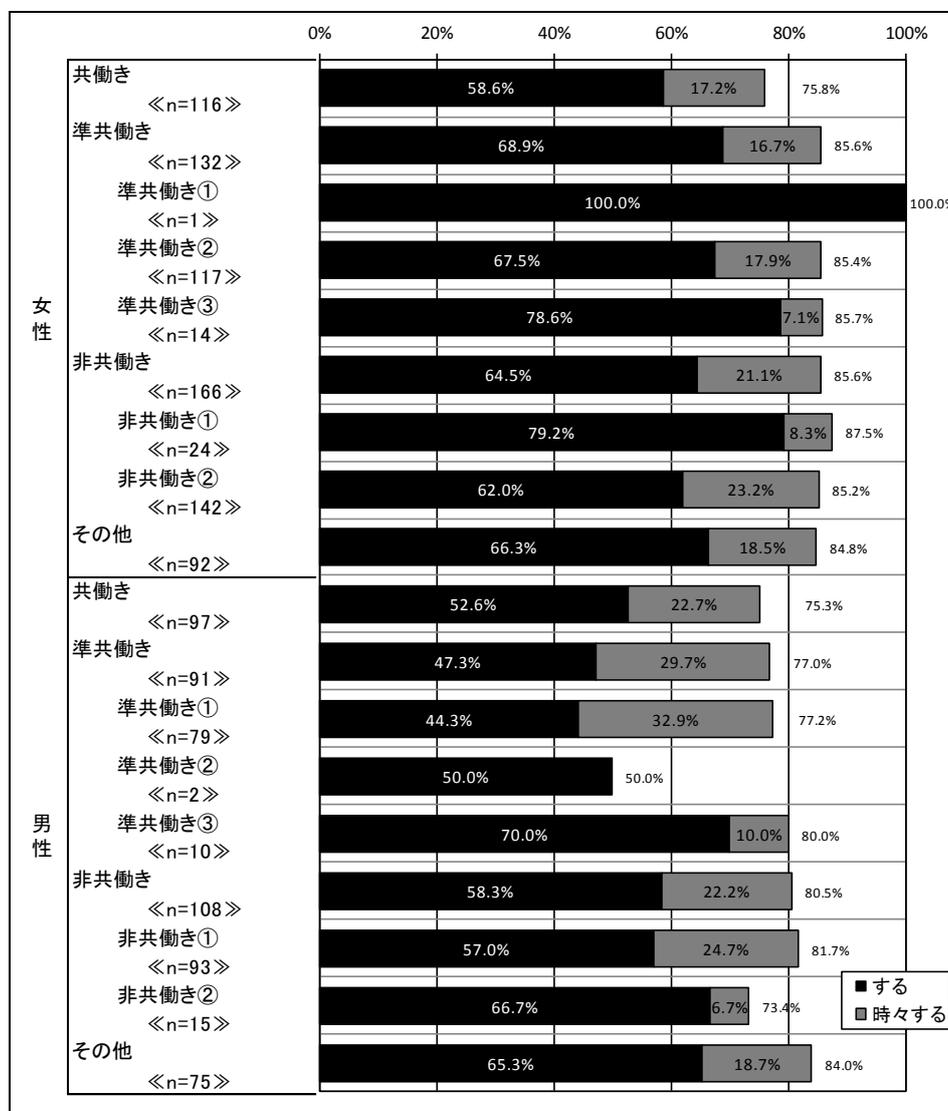
「する」が最も高いのは70歳以上で68.1%、最も低いのは30歳未満の31.7%であり、その差は36.4ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは70歳以上で87.0%、最も低いのは30歳未満の54.5%であり、その差は32.5ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは50代で女性77.3%、男性53.7%であり、その差は23.6ポイント。最も差が小さいのは30歳未満で女性31.5%、男性32.7%であり、その差は1.2ポイントとなっています。

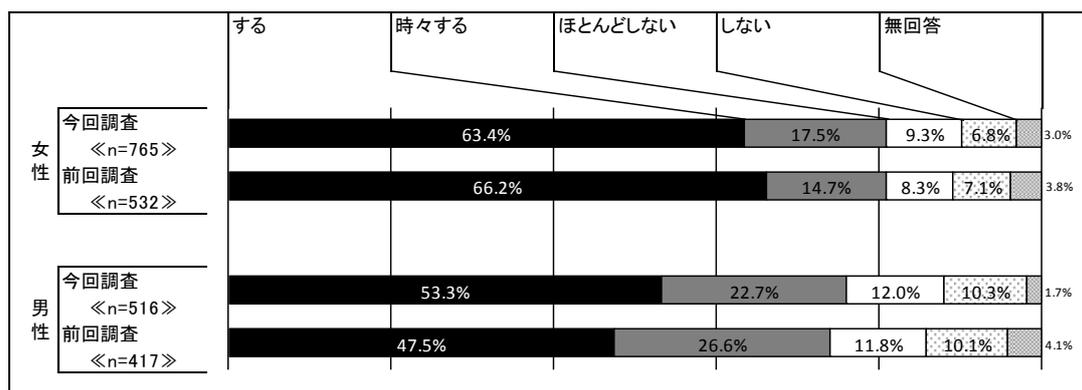
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、50代で女性90.9%、男性80.0%であり、その差は10.9ポイント。最も差が小さいのは70歳以上で女性87.3%、男性86.4%であり、その差は0.9ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性58.6%、男性52.6%であり、女性が6.0ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性75.8%、男性75.3%であり、女性が0.5ポイント上回ります。

前回調査との比較



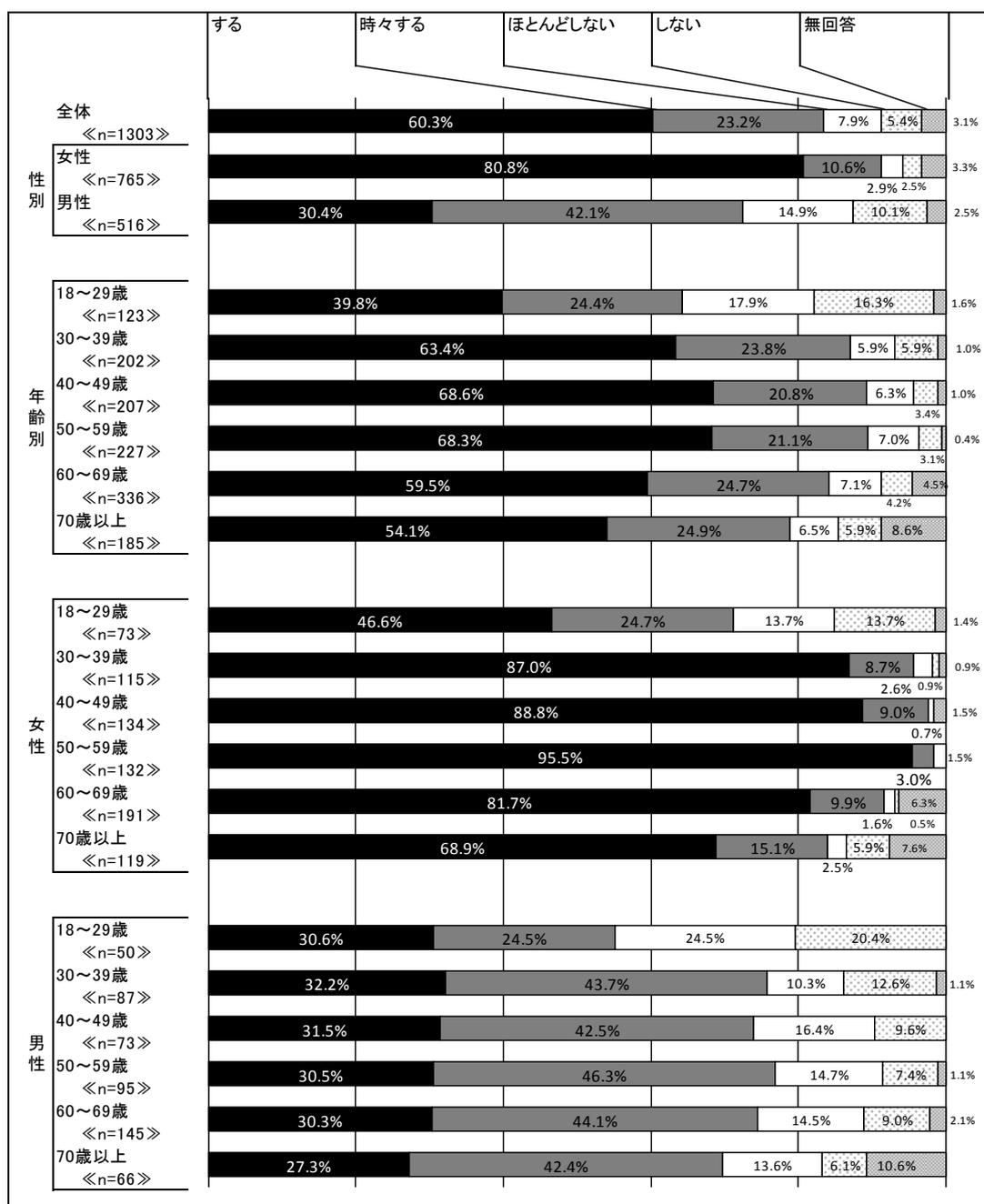
「する」は女性で 2.8 ポイント減少し、男性では 5.8 ポイント増加しました。  
 「する」「時々する」を合わせた割合は、女性は変化無し、男性では 1.9 ポイント増加しました。

⑥ 日常の買い物

- ◆ 「する」は全体で60.3%となっています。
- ◆ 「する」を性別で見ると女性は80.8%、男性30.4%となっています。
- ◆ 共働き世帯で「する」は女性81.0%、男性30.9%となっています。
- ◆ 「する」は前回調査と比べ、女性は上回り、男性は下回ります。

**全体**

「する」60.3% > 「時々する」23.2% > 「ほとんどしない」7.9% > 「しない」5.4%



**性別**

「する」は女性 80.8%、男性 30.4%であり、女性が 50.4 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 91.4%、男性 72.5%であり、女性が 18.9 ポイント上回ります。

**年齢別**

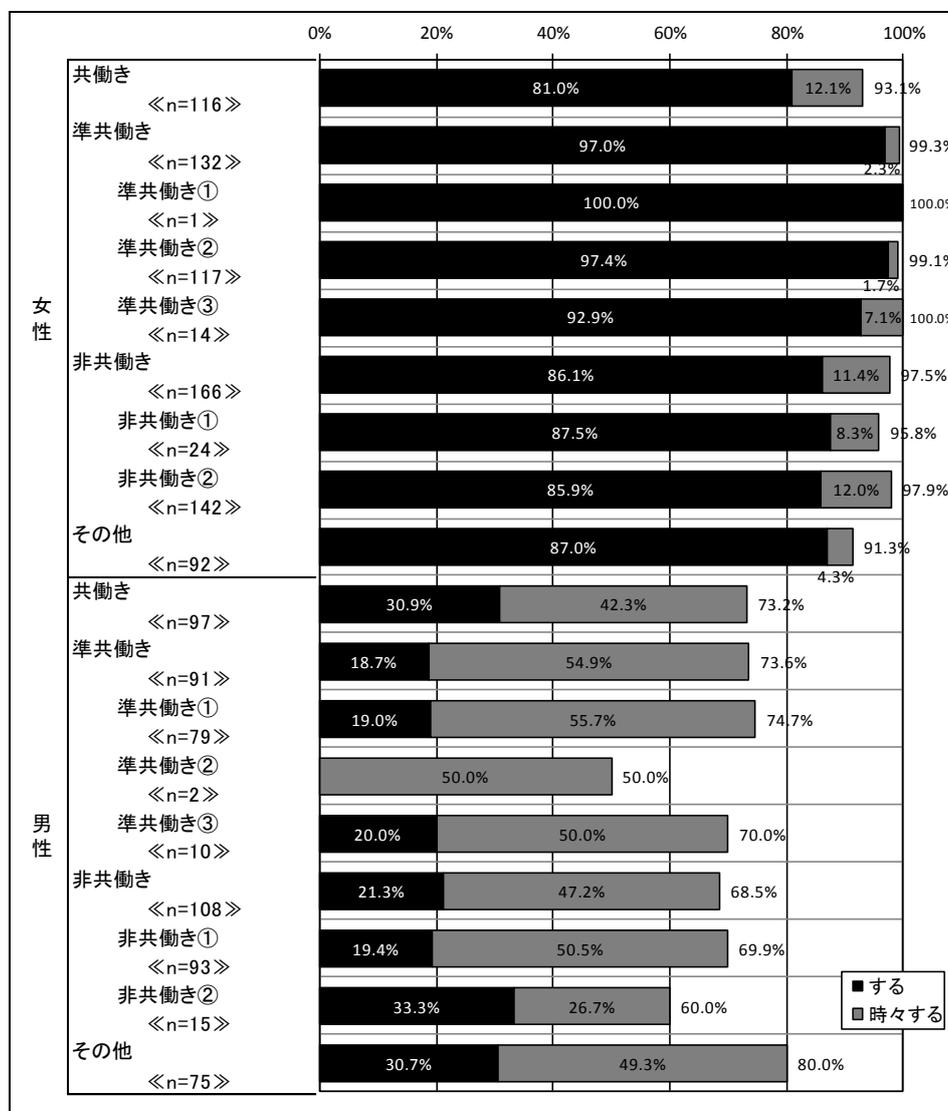
「する」が最も高いのは 40 代で 68.6%、最も低いのは 30 歳未満で 39.8%であり、その差は 28.8 ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 89.4%、最も低いのは 30 歳未満で 64.2%であり、その差は 25.2 ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは 50 代で女性 95.5%、男性 30.5%であり、その差は 65.0 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 46.6%、男性 30.6%であり、その差は 16.0 ポイントとなっています。

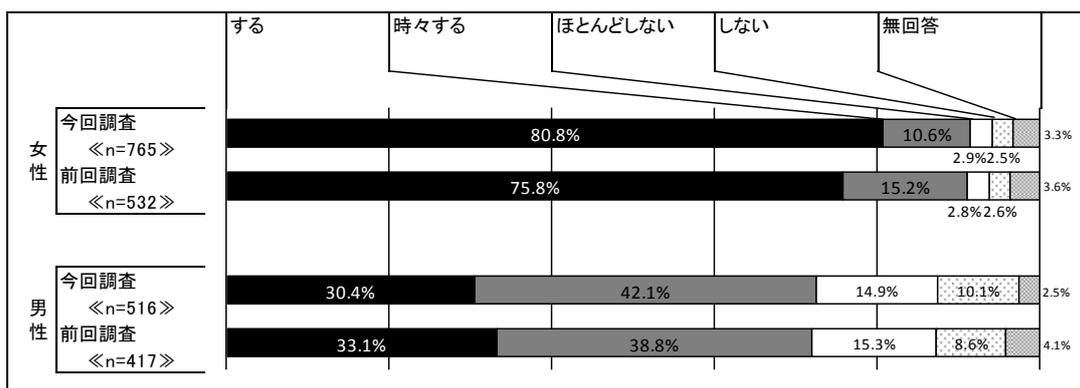
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、40 代で女性 97.8%、男性 74.0%であり、その差は 23.8 ポイント。最も差が小さいのは 70 歳以上で女性 84.0%、男性 69.7%であり、その差は 14.3 ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性 81.0%、男性 30.9%であり、女性が 50.1 ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 93.1%、男性 73.2%であり、女性が 19.9 ポイント上回ります。

前回調査との比較



「する」は女性で5.0ポイント増加し、男性では2.7ポイント減少しました。

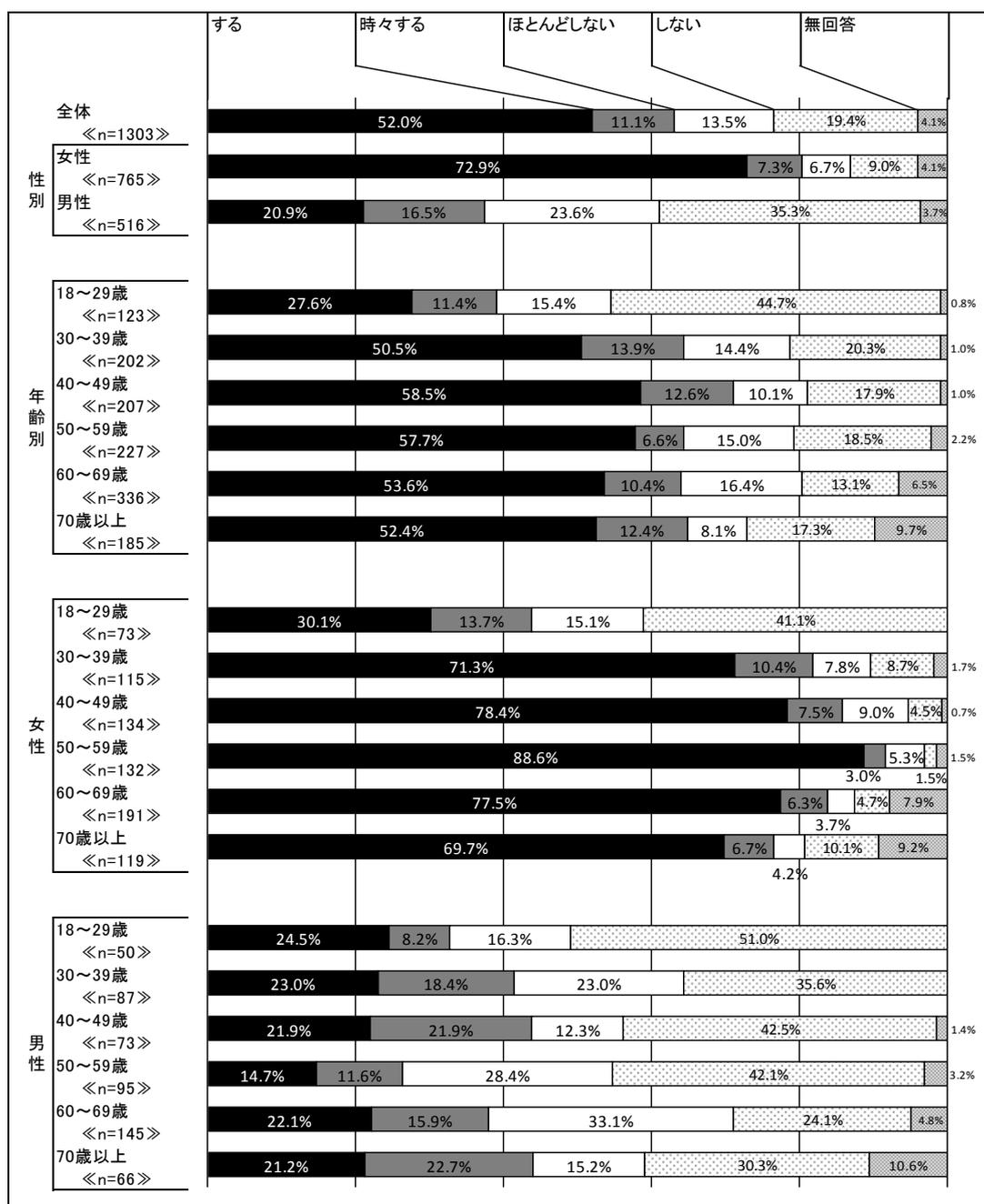
「する」「時々する」を合わせた割合では、女性0.4ポイント増加、男性では0.6ポイント増加しました。

⑦家計の管理

- ◆「する」は全体で52.0%となっています。
- ◆「する」を性別で見ると女性は72.9%、男性20.9%となっています。
- ◆共働き世帯で「する」は女性73.3%、男性19.6%となっています。
- ◆「する」は前回調査と比べ、女性は上回り、男性は下回ります。

**全体**

「する」52.0% > 「ほとんどしない」13.5% > 「しない」19.4% > 「時々する」11.1%



**性別**

「する」は女性 72.9%、男性 20.9%であり、女性が 52.0 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 80.2%、男性 37.4%であり、女性が 42.8 ポイント上回ります。

**年齢別**

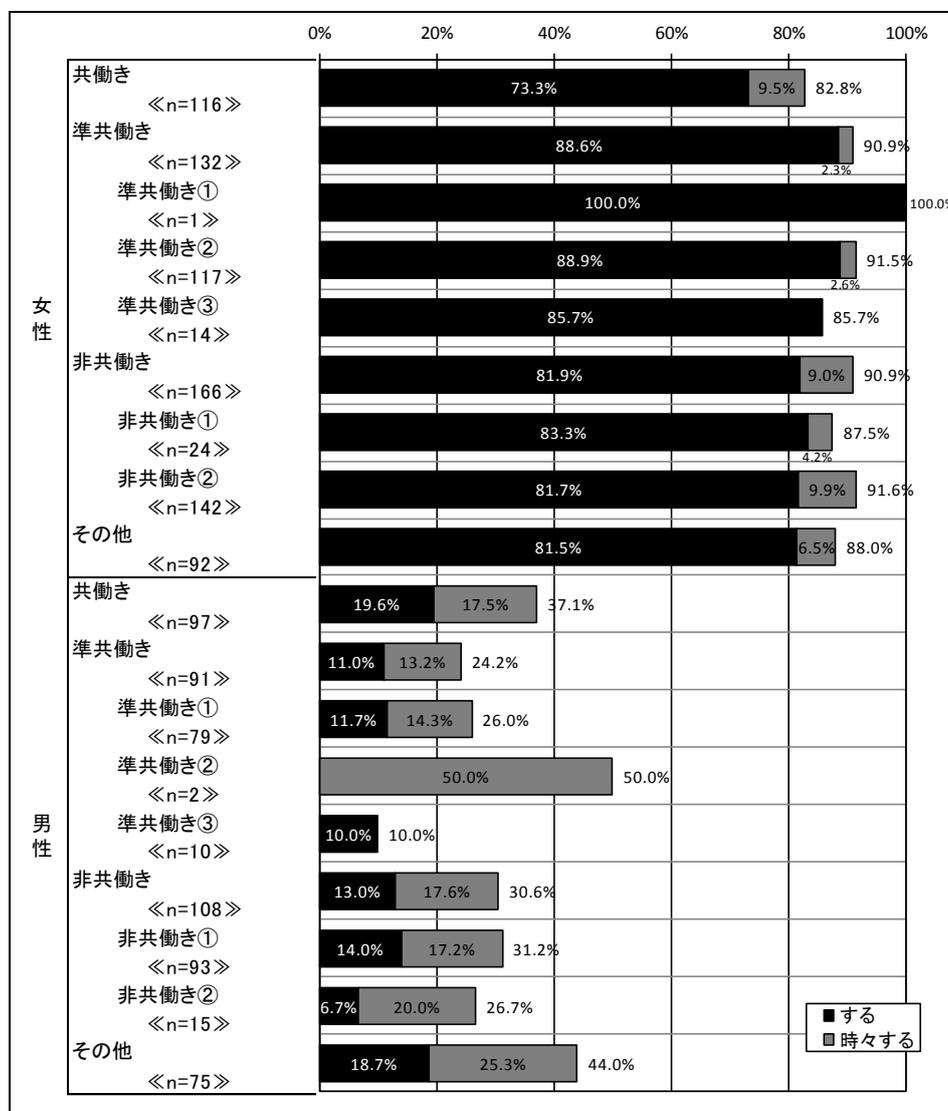
「する」が最も高いのは 40 代で 58.5%、最も低いのは 30 歳未満で 27.6%であり、その差は 30.9 ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 71.1%、最も低いのは 30 歳未満で 39.0%であり、その差は 32.1 ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは 50 代で女性 88.6%、男性 14.7%であり、その差は 73.9 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 30.1%、男性 24.5%であり、その差は 5.6 ポイントとなっています。

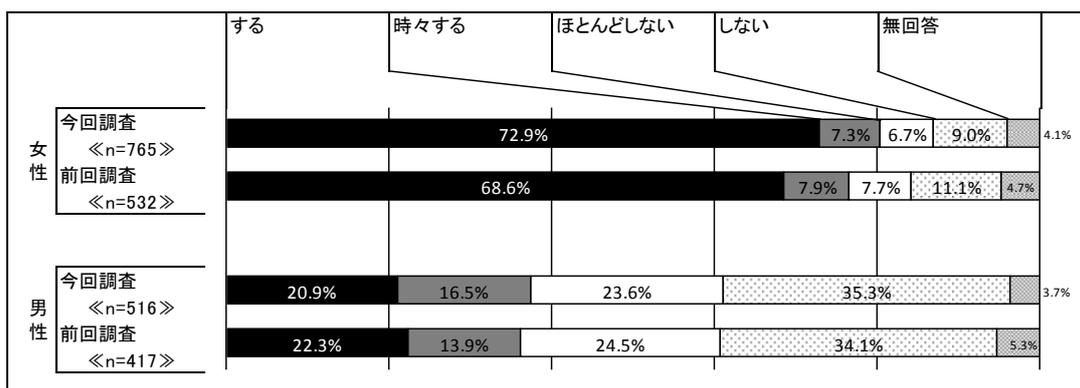
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは 50 代で女性 91.6%、男性 26.3%であり、その差は 65.3 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 43.8%、男性 32.7%であり、その差は 11.1 ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性 73.3%、男性 19.6%であり、女性が 53.7 ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 82.8%、男性 37.1%であり、女性が 45.7 ポイント上回ります。

前回調査との比較



「する」は女性で 4.3 ポイント増加し、男性では 1.4 ポイント減少しました。

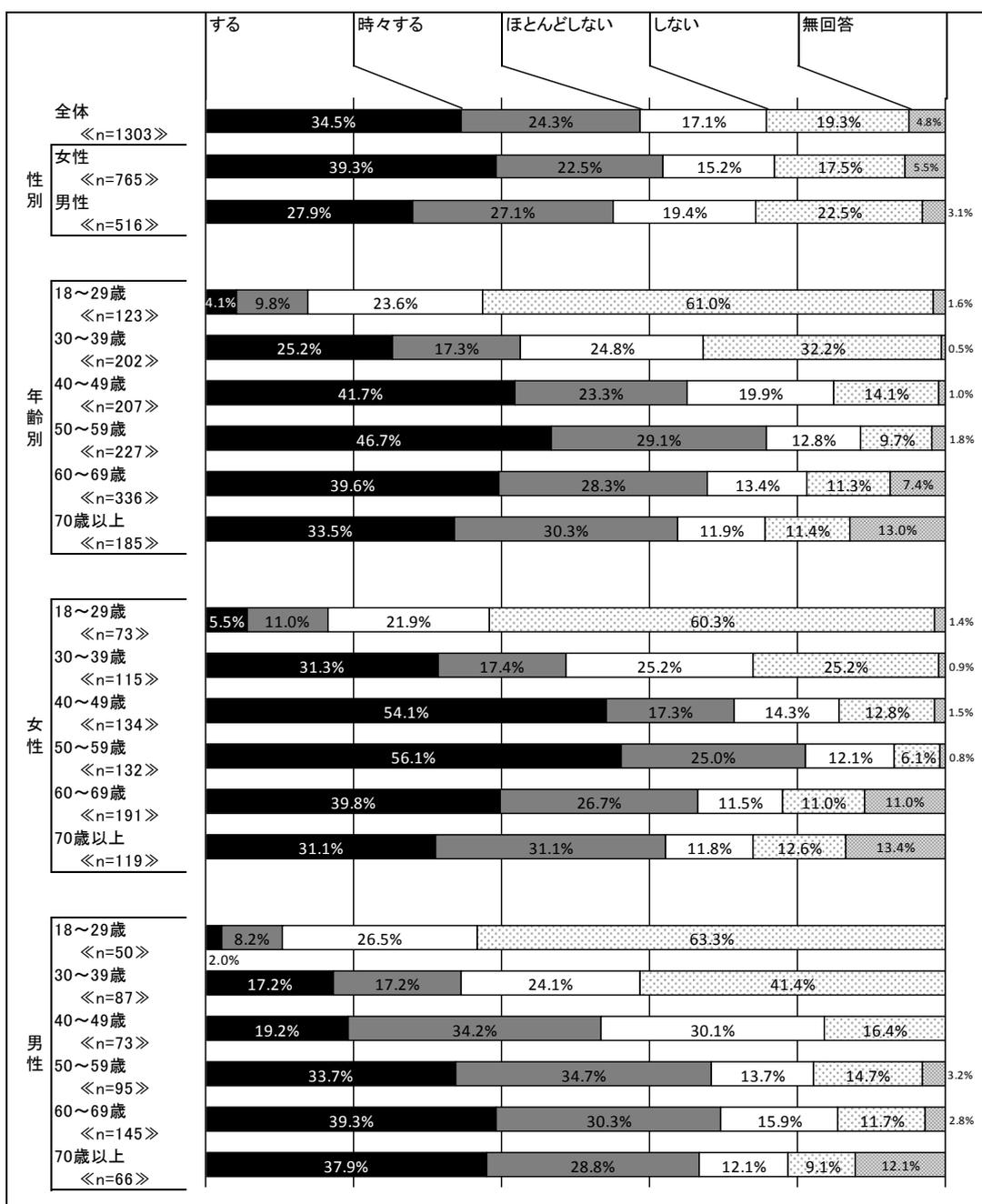
「する」「時々する」を合わせた割合では、女性では 3.7 ポイント増加、男性では 1.2 ポイント増加しました。

⑧地域活動

- ◆「する」は全体で34.5%となっています。
- ◆「する」を性別で見ると女性は39.3%、男性27.9%となっています。
- ◆共働き世帯で「する」は女性41.4%、男性43.3%となっています。
- ◆「する」は前回調査と比べ、女性は上回り、男性は下回ります。

全体

「する」34.5% > 「時々する」24.3% > 「しない」19.3% > 「ほとんどしない」17.1%



性別

「する」は女性 39.3%、男性 27.9%であり、女性が 11.4 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 61.8%、男性 55.0%であり、女性が 6.8 ポイント上回ります。

**年齢別**

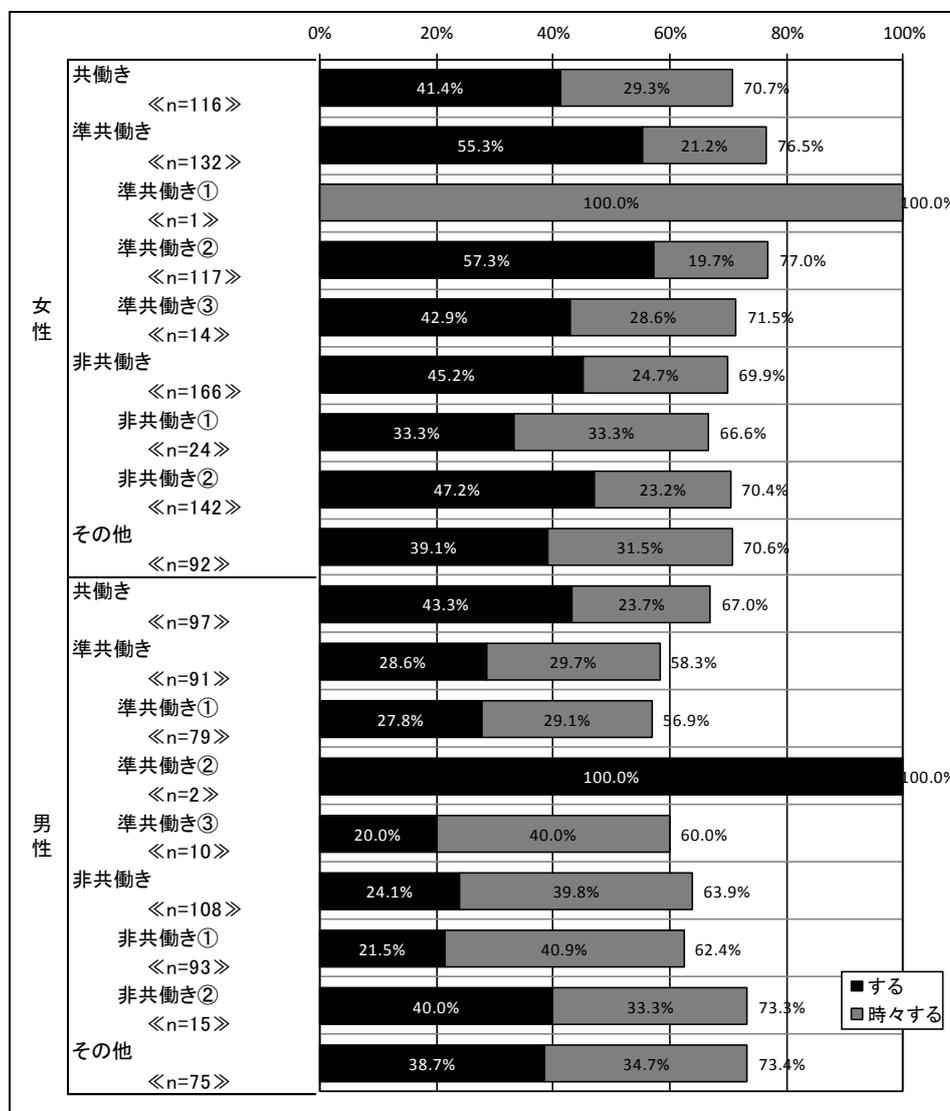
「する」が最も高いのは50代で46.7%、最も低いのは30歳未満で4.1%であり、その差は42.6ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは50代で75.8%、最も低いのは30歳未満で13.9%であり、その差は61.9ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは40代で女性54.1%、男性19.2%であり、その差は34.2ポイント。最も差が小さいのは60代で女性39.8%、男性39.3%であり、その差は0.5ポイントとなっています。

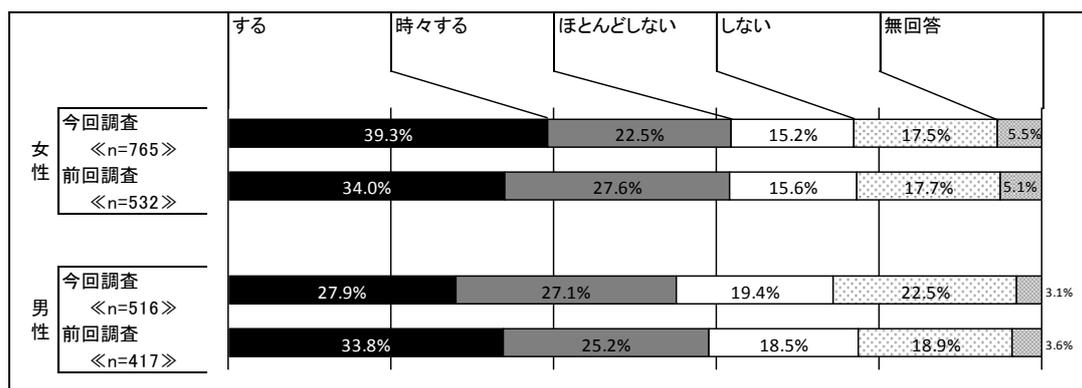
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、40代で女性71.4%、男性53.4%であり、その差は18.0ポイント。最も差が小さいのは60代で女性66.5%、男性69.6%であり、その差は3.1ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性41.4%、男性43.3%であり、女性が1.9ポイント下回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性70.7%、男性67.0%であり、女性が3.7ポイント上回る。

前回調査との比較



「する」は女性で5.3ポイント増加し、男性では5.9ポイント減少しました。

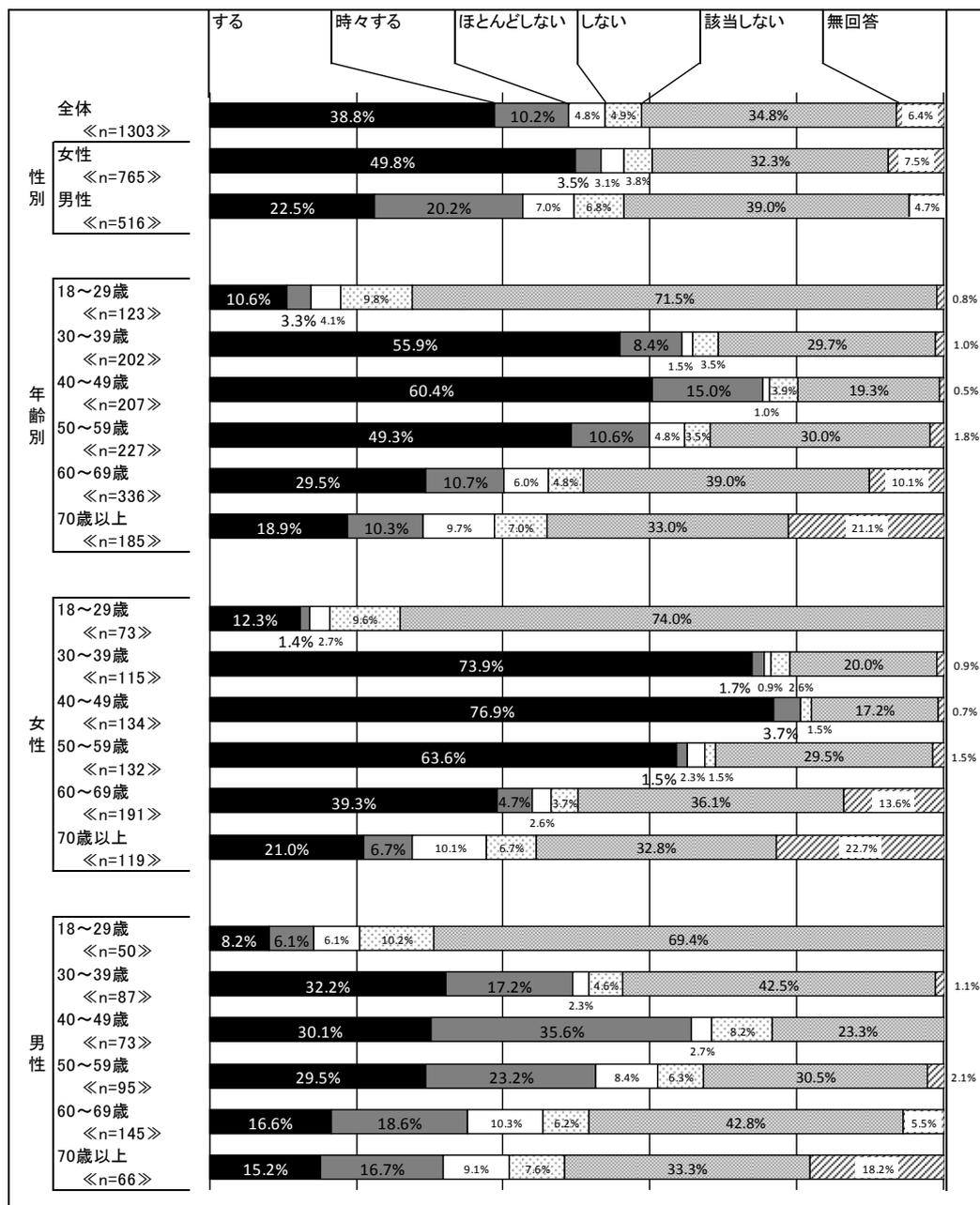
「する」「時々する」を合わせた割合では、女性では0.2ポイント増加、男性では4.0ポイント減少しました。

⑨子どもの世話

- ◆「する」は全体で38.8%となっています。
- ◆「する」を性別で見ると女性は49.8%、男性22.5%となっています。
- ◆共働き世帯で「する」は女性67.2%、男性47.4%となっています。
- ◆「する」は前回調査と比べ、女性は上回り、男性も上回ります。

**全体**

「する」38.8% > 「該当しない」34.8% > 「時々する」10.2% > 「しない」4.9%  
> 「ほとんどしない」4.8%



**性別**

「する」は女性 49.8%、男性 22.5%であり、女性が 27.3 ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 53.3%、男性 42.7%であり、女性が 10.6 ポイント上回ります。

**年齢別**

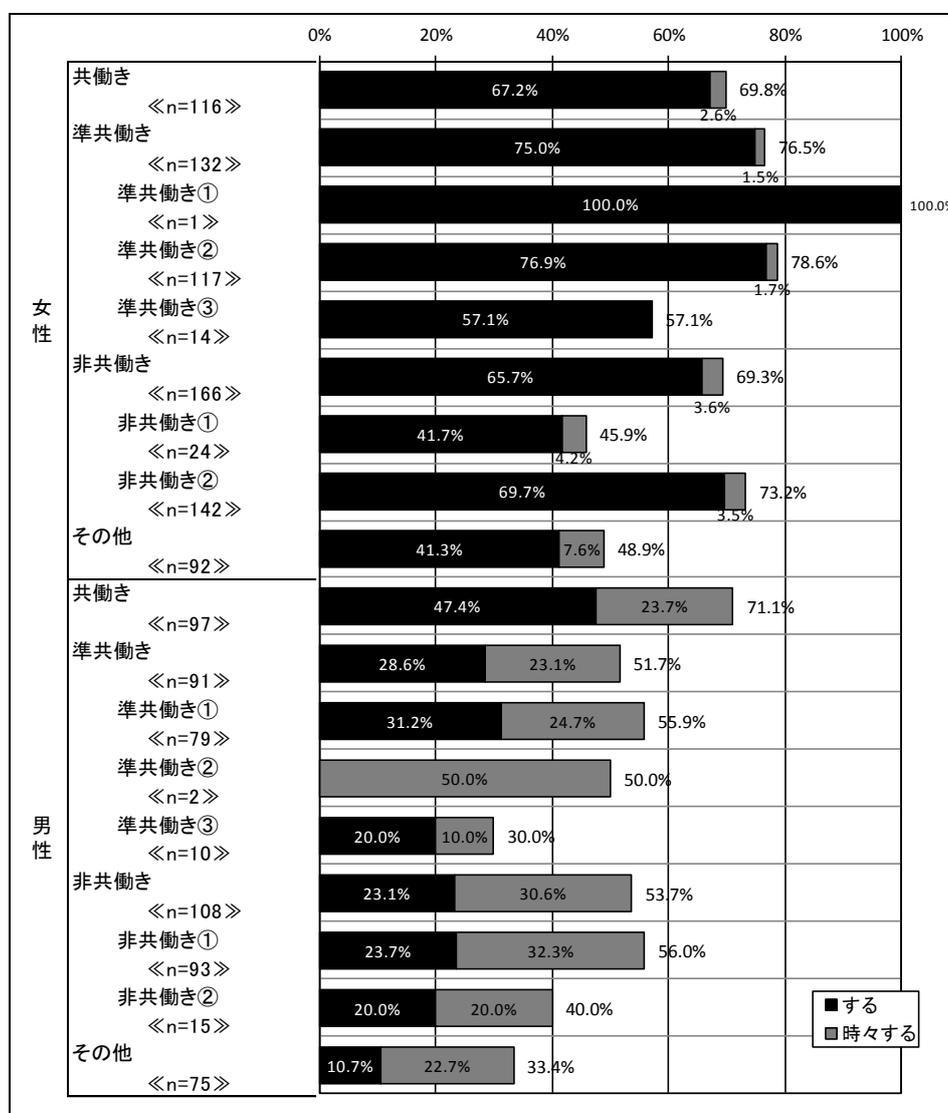
「する」が最も高いのは 40 代で 60.4%、最も低いのは 30 歳未満で 10.6%であり、その差は 49.8 ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 75.4%、最も低いのは 30 歳未満で 13.9%であり、その差は 61.5 ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは 40 代で女性 76.9%、男性 30.1%であり、その差は 46.8 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 12.3%、男性 8.2%であり、その差は 4.1 ポイントとなっています。

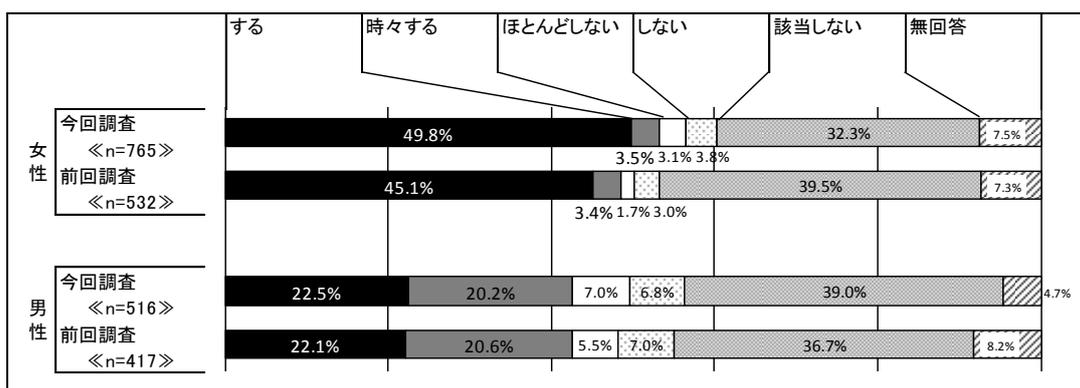
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、30 代で女性 75.6%、男性 49.4%であり、その差は 26.2 ポイント。最も差が小さいのは 30 歳未満で女性 13.7%、男性 14.3%であり、その差は 0.6 ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性 67.2%、男性 47.4%であり、女性が 19.8 ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性 69.8%、男性 71.1%であり、女性が 1.3 ポイント下回ります。

前回調査との比較



「する」は女性で 4.7 ポイント増加し、男性では 0.4 ポイント増加しました。

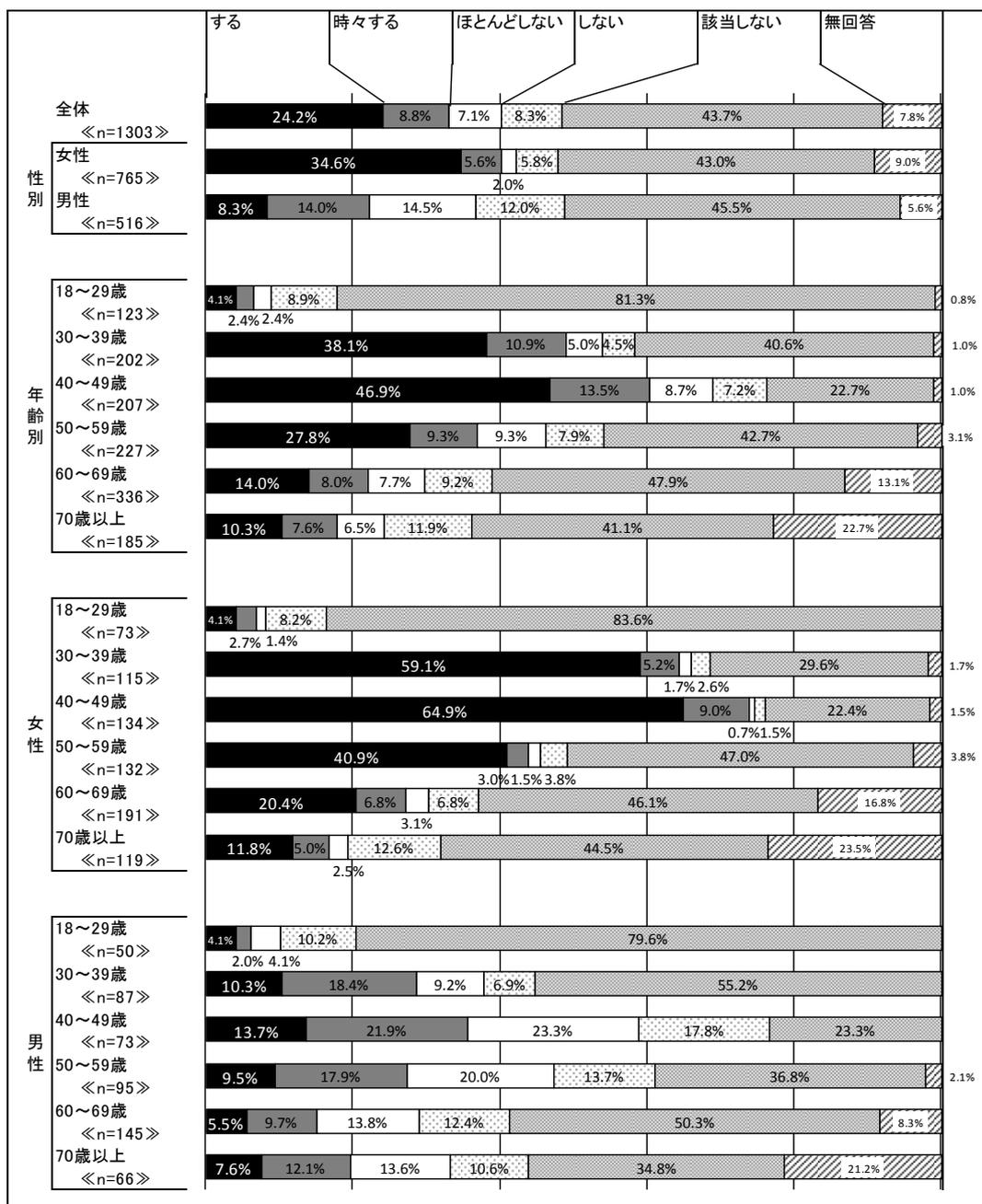
「する」「時々する」を合わせた割合では、女性で 4.8 ポイント増加、男性は変化がありません。

⑩授業参観やPTA活動への参加

- ◆「する」は全体で24.2%となっています。
- ◆「する」を性別で見ると女性は34.6%、男性8.3%となっています。
- ◆共働き世帯で「する」は女性49.1%、男性16.5%となっています。
- ◆「する」は前回調査と比べ、女性は上回り、男性は下回ります。

**全体**

「該当しない」43.7% > 「する」24.2% > 「時々する」8.8% > 「しない」8.3%  
> 「ほとんどしない」7.1%



**性別**

「する」は女性34.6%、男性8.3%であり、女性が26.3ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性40.2%、男性22.3%であり、女性が17.9ポイント上回ります。

**年齢別**

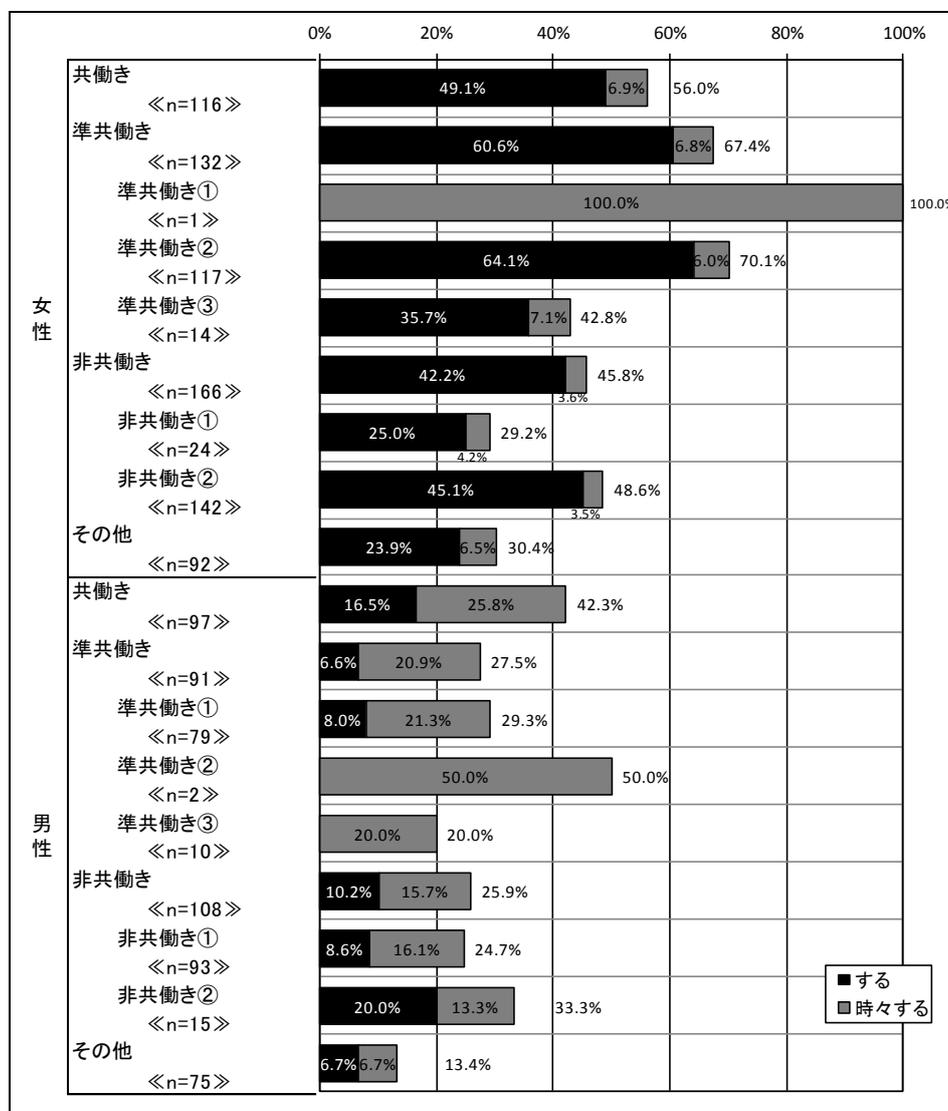
「する」が最も高いのは40代で46.9%、最も低いのは30歳未満の4.1%であり、その差は42.8ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは40代で60.4%、最も低いのは30歳未満で6.5%であり、その差は53.9ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは40代で女性64.9%、男性13.7%であり、その差は51.2ポイント。最も差が小さいのは30歳未満で女性4.1%、男性4.1%であり、その差は0.0ポイントとなっています。

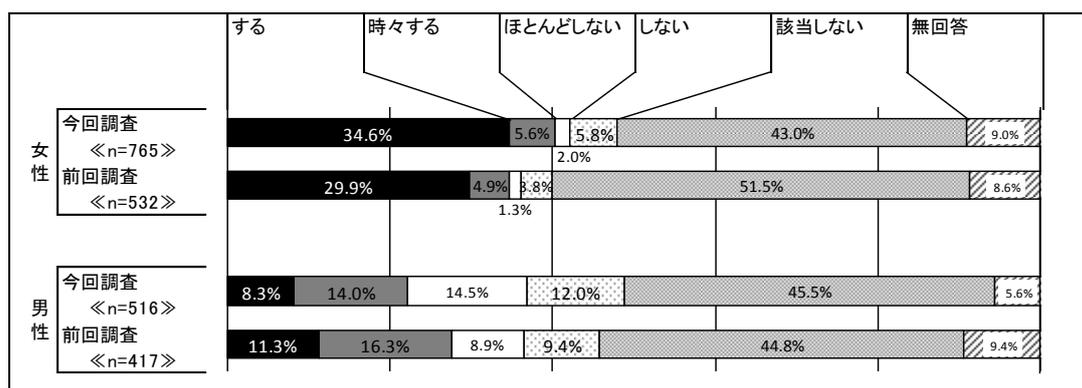
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、40代で女性73.9%、男性35.6%であり、その差は38.3ポイント。最も差が小さいのは30歳未満で女性6.8%、男性6.1%であり、その差は0.7ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性49.1%、男性16.5%であり、女性が32.6ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性56.0%、男性42.3%であり、女性が13.7ポイント上回ります。

前回調査との比較



「する」は女性で 4.7 ポイント増加し、男性では 3.0 ポイント減少しました。

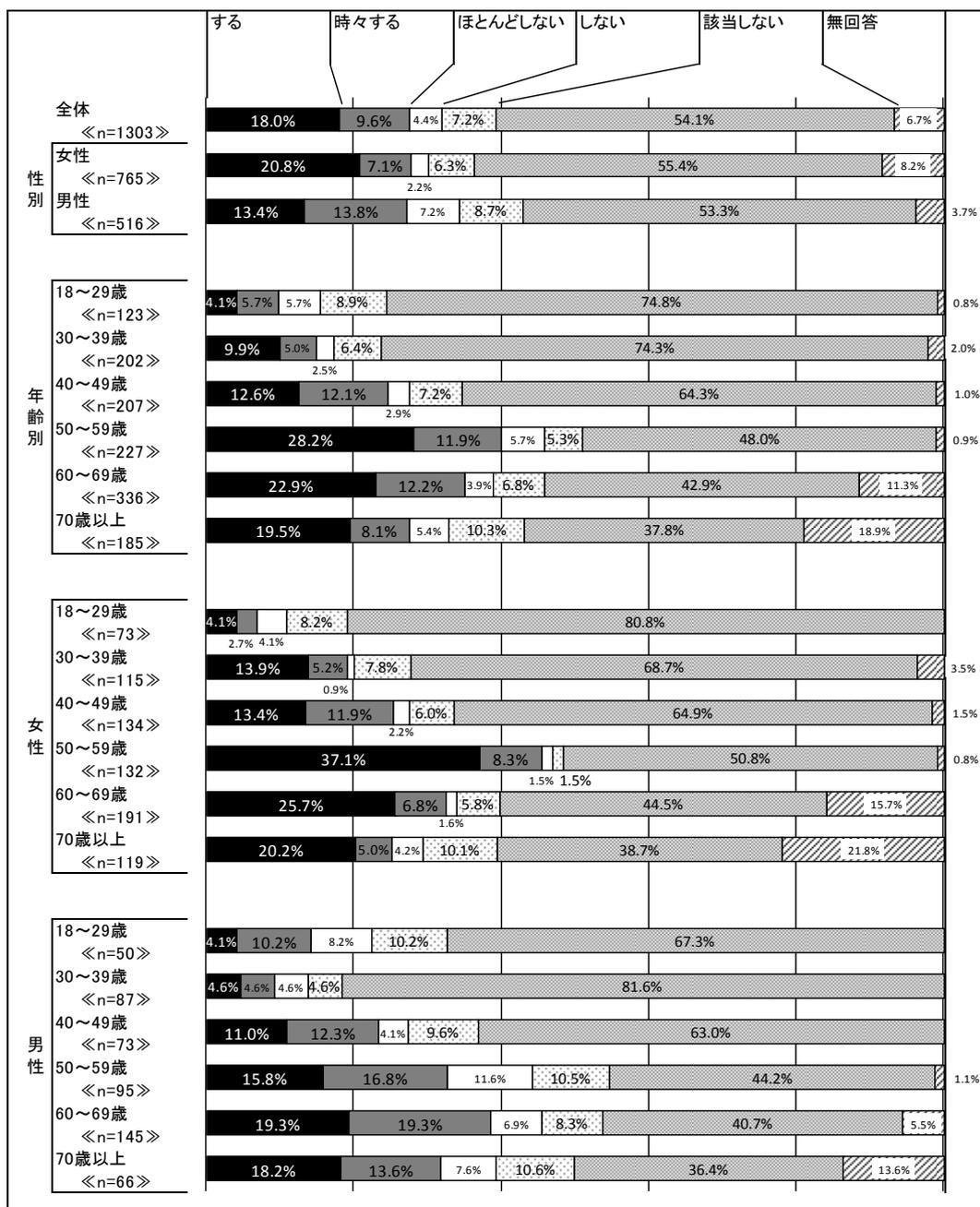
「する」「時々する」を合わせた割合では、女性で 5.4 ポイント増加、男性では 5.3 ポイント減少しました。

⑪ 家族の介護

- ◆ 「する」は全体で18.0%となっています。
- ◆ 「する」を性別で見ると女性は20.8%、男性13.4%となっています。
- ◆ 共働き世帯で「する」は女性22.4%、男性14.4%となっています。
- ◆ 「する」は前回調査と比べ、女性は上回り、男性は上回ります。

**全体**

「該当しない」54.1% > 「する」18.0% > 「時々する」9.6% > 「しない」7.2% > 「ほとんどしない」4.4%



**性別**

「する」は女性20.8%、男性13.4%であり、女性が7.4ポイント上回ります。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性27.9%、男性27.2%であり、女性が0.7ポイント上回ります。

**年齢別**

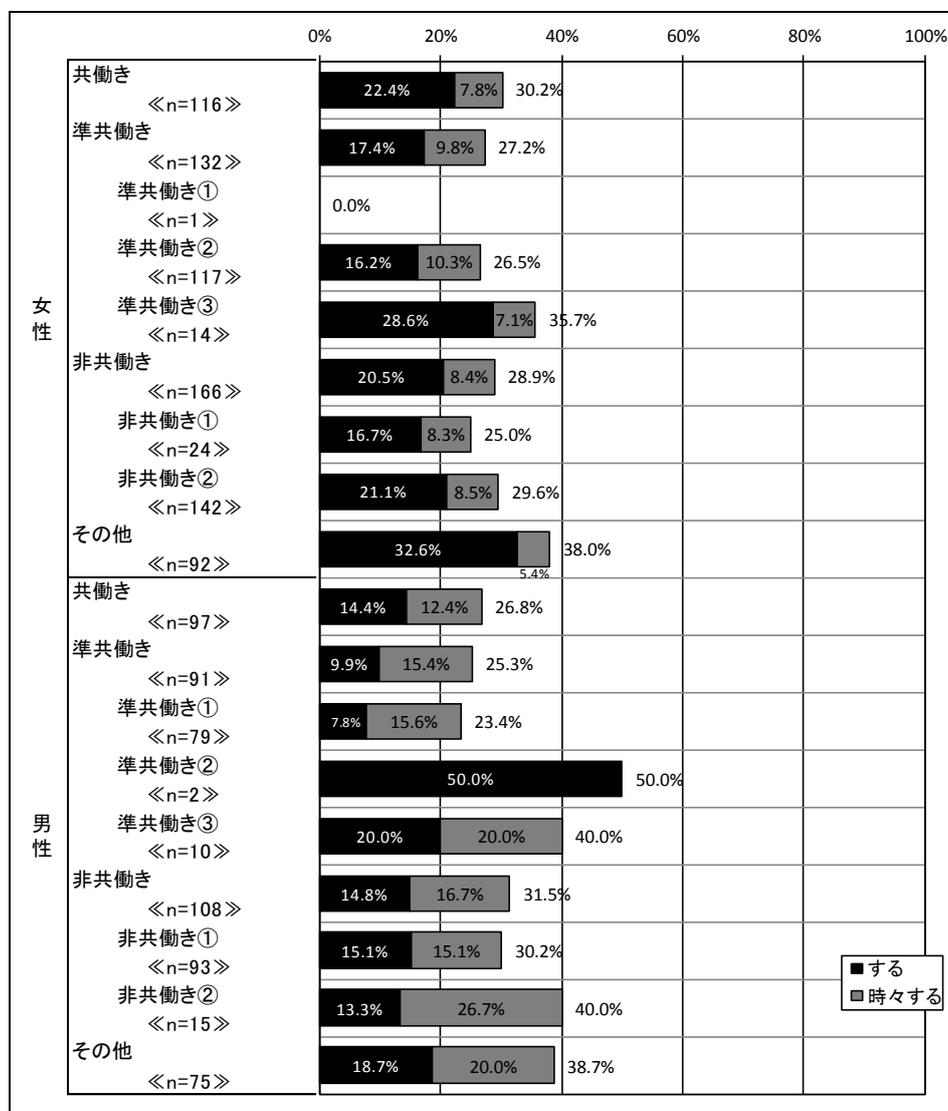
「する」が最も高いのは50代で28.2%、最も低いのは30歳未満の4.1%であり、その差は24.1ポイント。「する」「時々する」を合わせた割合で最も高いのは50代で40.1%、最も低いのは30歳未満で9.8%であり、その差は30.3ポイントとなっています。

**年齢と性別**

「する」で最も差が大きいのは50代で女性37.1%、男性15.8%であり、その差は21.3ポイント。最も差が小さいのは30歳未満で女性4.1%、男性4.1%であり、その差は0.0ポイントとなっています。

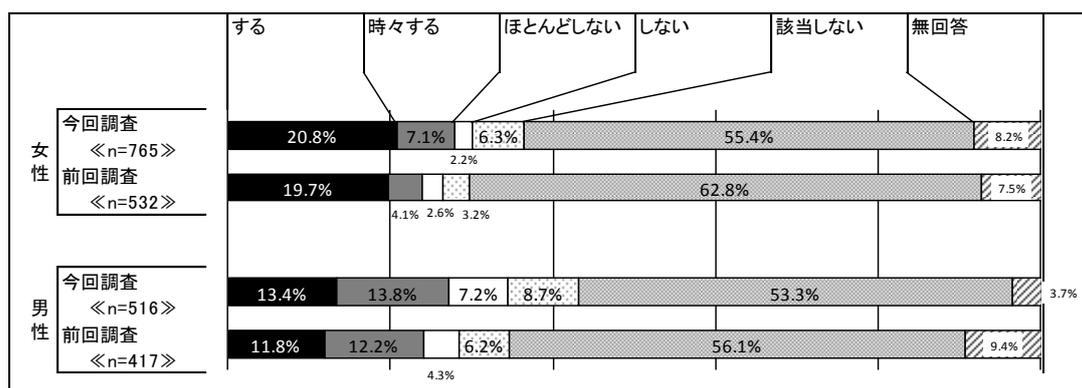
「する」「時々する」を合わせた割合で最も差が大きいのは、50代で女性45.4%、男性32.6%であり、その差は12.8ポイント。最も差が小さいのは40代で女性25.3%、男性23.3%であり、その差は2.0ポイントとなっています。

**共働き状況**



共働き世帯における「する」は女性22.4%、男性14.4%であり、女性が8.0ポイント上回る。「する」「時々する」を合わせた割合では、女性30.2%、男性26.8%であり、女性が3.4ポイント上回ります。

前回調査との比較



「する」は女性で 1.1 ポイント増加し、男性では 1.6 ポイント増加しました。

「する」「時々する」を合わせた割合では、女性では 4.1 ポイント増加、男性では 3.2 ポイント増加しました。

（2）生活に関する時間について（1日の生活時間）

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 問 8 | 平日、次のようなことに使う時間はどのくらいですか。 |
|-----|---------------------------|

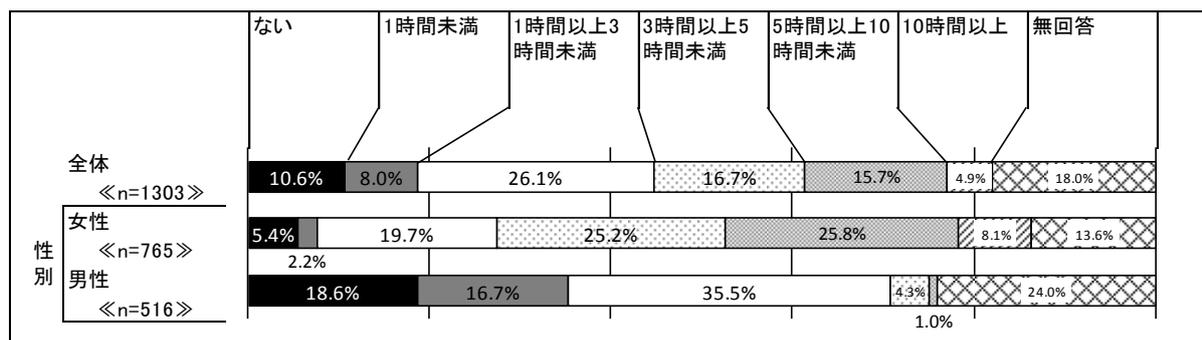


①家事・育児・介護の時間

- ◆家事・育児・介護の平均時間は、全体で3時間17分。女性は4時間37分、男性は1時間00分となっています。
- ◆平均時間の男女差は、女性が共働き家庭で2時間57分、準共働き家庭で4時間5分、非共働き家庭で6時間3分、男性を上回ります。
- ◆《一番下の子が6歳未満》では、男女の平均時間の差は9時間23分となっています。
- ◆前回調査と比べ、家事・育児・介護の平均時間は、女性で増加、男性で減少しています。

**全体**

「1時間以上3時間未満」26.1% > 「3時間以上5時間未満」16.7%  
 > 「5時間以上10時間未満」15.7% > 「ない」10.6% > 「1時間未満」8.0%  
 > 「10時間以上」4.9%



**性別**

女性は「5時間以上10時間未満」が25.8%と最も高く、男性は「1時間以上3時間未満」が35.5%と最も高くなっています。

平均時間は、女性4時間37分、男性1時間00分であり、その差は3時間37分となっています。

**年齢別**

平均時間は以下のとおりで、最も長いのは30代で4時間45分、最も短いのは30歳未満で1時間51分、その差は2時間54分となっています。

女性で最も長いのは30代で7時間10分、最も短いのは20歳未満で2時間30分、その差は4時間40分となっています。

男性で最も長いのは30代と70歳以上の1時間10分、最も短いのは50代の47分、その差は23分となっています。

| 平均時間 | 30歳未満  | 30代    | 40代    | 50代    | 60代    | 70歳以上  |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 全体   | 1時間51分 | 4時間45分 | 3時間15分 | 3時間02分 | 3時間04分 | 3時間07分 |
| 女性   | 2時間30分 | 7時間10分 | 4時間20分 | 4時間22分 | 4時間26分 | 3時間58分 |
| 男性   | 0時間51分 | 1時間10分 | 1時間00分 | 0時間47分 | 1時間04分 | 1時間10分 |

**詳細分析＜共働き状況＞**

共働き家庭では、女性 4 時間 03 分、男性 1 時間 06 分、その差は 2 時間 57 分。  
 準共働き家庭では、女性 4 時間 53 分、男性 48 分、その差は 4 時間 5 分。  
 非共働き家庭では、女性 7 時間 05 分、男性 1 時間 02 分、その差は 6 時間 3 分。

| 平均時間 | 共働き家庭     | 準共働き家庭    | 非共働き家庭    |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 全体   | 2 時間 52 分 | 3 時間 21 分 | 4 時間 59 分 |
| 女性   | 4 時間 03 分 | 4 時間 53 分 | 7 時間 05 分 |
| 男性   | 1 時間 06 分 | 0 時間 48 分 | 1 時間 02 分 |

**詳細分析＜末子の年齢＞**

平均時間が最も長いのは「一番下の子が 6 歳未満」で 6 時間 56 分、最も短いのは「一番下の子が 13～19 歳未満」で 3 時間 08 分、その差は 3 時間 48 分。

男女差が最も大きいのは「一番下の子が 6 歳未満」で、その差は 9 時間 23 分。最も差が小さいのは「一番下の子が 13～19 歳未満」と「一番下の子が 19 歳以上」で、その差は 3 時間 24 分。

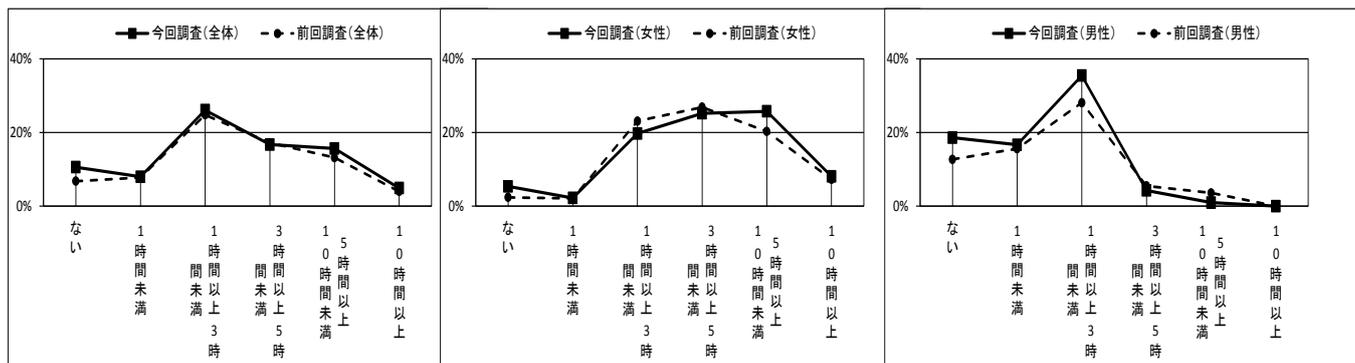
| 平均時間 | 一番下の子が 6 歳未満 | 一番下の子が 6～13 歳未満 | 一番下の子が 13～19 歳未満 | 一番下の子が 19 歳以上 |
|------|--------------|-----------------|------------------|---------------|
| 全体   | 6 時間 56 分    | 4 時間 07 分       | 3 時間 08 分        | 3 時間 09 分     |
| 女性   | 10 時間 44 分   | 5 時間 26 分       | 4 時間 23 分        | 4 時間 22 分     |
| 男性   | 1 時間 21 分    | 0 時間 59 分       | 0 時間 59 分        | 0 時間 58 分     |

**前回調査との比較**

全体の平均時間は、前回調査より 1 分減少。女性は 6 分増加。男性は 18 分減少。

(単位：%)

|                | 今回調査 (全体) | 前回調査 (全体) | 今回調査 (女性) | 前回調査 (女性) | 今回調査 (男性) | 前回調査 (男性) |
|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ない             | 10.6%     | 6.8%      | 5.4%      | 2.4%      | 18.6%     | 12.7%     |
| 1 時間未満         | 8.0%      | 7.8%      | 2.2%      | 2.1%      | 16.7%     | 15.6%     |
| 1 時間以上 3 時間未満  | 26.1%     | 24.8%     | 19.7%     | 23.1%     | 35.5%     | 28.1%     |
| 3 時間以上 5 時間未満  | 16.7%     | 17.2%     | 25.2%     | 26.9%     | 4.3%      | 5.5%      |
| 5 時間以上 10 時間未満 | 15.7%     | 13.2%     | 25.8%     | 20.3%     | 1.0%      | 3.6%      |
| 10 時間以上        | 4.9%      | 4.0%      | 8.1%      | 7.3%      | 0.0%      | 0.0%      |
| 無回答            | 18.0%     | 26.1%     | 13.6%     | 17.9%     | 24.0%     | 34.5%     |
| 平均(時間)         | 3 時間 17 分 | 3 時間 18 分 | 4 時間 37 分 | 4 時間 31 分 | 1 時間 00 分 | 1 時間 18 分 |

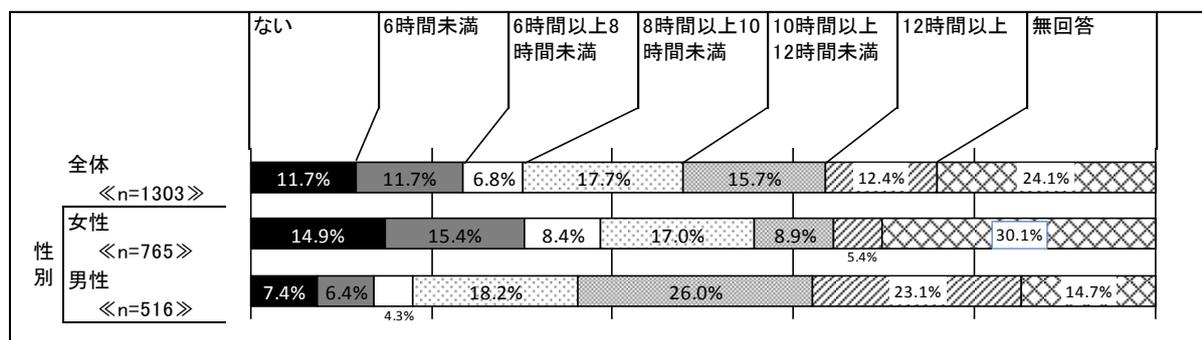


②仕事の時間（通勤時間を含む）

- ◆仕事の平均時間は、全体で7時間25分。女性は6時間01分、男性は9時間06分となります。
- ◆平均時間の男女差は、女性が共働き家庭で1時間51分、準共働き家庭で4時間47分、非共働き家庭で6時間40分、男性を下回ります。
- ◆《一番下の子が6歳未満》では、男女の平均時間の差は6時間38分となっています。
- ◆前回調査と比べ、仕事の平均時間は女性で減少、男性で増加しています。

**全体**

「8時間以上10時間未満」17.7% > 「10時間以上12時間未満」15.7%  
 > 「12時間以上」12.4% > 「6時間未満」11.7% > 「ない」11.7%  
 > 「6時間以上8時間未満」6.8%



**性別**

女性は「8時間以上10時間未満」が17.0%と最も高く、男性は「10時間以上12時間未満」が26.0%と最も高くなっています。平均時間は、女性6時間01分、男性9時間06分であり、その差は3時間05分となっています。

**年齢別**

平均時間は以下のとおりで、最も長いのは40代で8時間47分、最も短いのは70歳以上で3時間17分、その差は5時間30分となっています。

女性で最も長いのは40代で7時間38分、最も短いのは70歳以上で2時間58分、その差は4時間40分となっています。

男性で最も長いのは30代の10時間53分、最も短いのは70歳以上の3時間41分、その差は7時間12分となっています。

| 平均時間 | 30歳未満  | 30代     | 40代     | 50代     | 60代    | 70歳以上  |
|------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 全体   | 7時間09分 | 8時間18分  | 8時間47分  | 8時間31分  | 6時間09分 | 3時間17分 |
| 女性   | 6時間29分 | 6時間02分  | 7時間38分  | 6時間39分  | 4時間32分 | 2時間58分 |
| 男性   | 8時間06分 | 10時間53分 | 10時間47分 | 10時間42分 | 7時間35分 | 3時間41分 |

**詳細分析＜共働き状況＞**

共働き家庭では、女性8時間27分、男性10時間18分、その差は1時間51分。

準共働き家庭では、女性5時間47分、男性10時間34分、その差は4時間47分。

非共働き家庭では、女性3時間24分、男性10時間04分、その差は6時間40分。

| 平均時間 | 共働き家庭   | 準共働き家庭  | 非共働き家庭  |
|------|---------|---------|---------|
| 全体   | 9時間17分  | 7時間45分  | 6時間51分  |
| 女性   | 8時間27分  | 5時間47分  | 3時間24分  |
| 男性   | 10時間18分 | 10時間34分 | 10時間04分 |

**詳細分析＜末子の年齢＞**

平均時間が最も長いのは「一番下の子が 13～19 歳未満」で 8 時間 45 分、最も短いのは「一番下の子が 19 歳以上」で 6 時間 23 分、その差は 2 時間 22 分。

男女差が最も大きいのは「一番下の子が 6 歳未満」で、その差は 6 時間 38 分。最も差が小さいのは「一番下の子が 19 歳以上」で、その差は 2 時間 38 分。

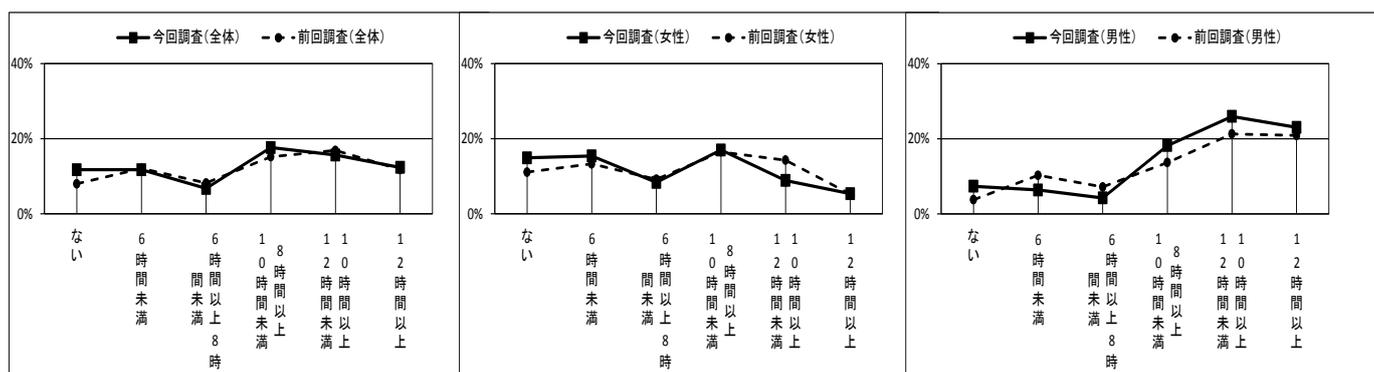
| 平均時間 | 一番下の子が<br>6 歳未満 | 一番下の子が<br>6～13 歳未満 | 一番下の子が<br>13～19 歳未満 | 一番下の子が<br>19 歳以上 |
|------|-----------------|--------------------|---------------------|------------------|
| 全体   | 7 時間 38 分       | 7 時間 54 分          | 8 時間 45 分           | 6 時間 23 分        |
| 女性   | 4 時間 24 分       | 6 時間 04 分          | 7 時間 27 分           | 5 時間 08 分        |
| 男性   | 11 時間 02 分      | 11 時間 33 分         | 10 時間 28 分          | 7 時間 46 分        |

**前回調査との比較**

全体の平均時間は、前回調査より 14 分減少。女性は 40 分減少。男性は 13 分増加。

（単位：％）

|                 | 今回調査<br>(全体) | 前回調査<br>(全体) | 今回調査<br>(女性) | 前回調査<br>(女性) | 今回調査<br>(男性) | 前回調査<br>(男性) |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ない              | 11.7%        | 8.0%         | 14.9%        | 11.1%        | 7.4%         | 3.8%         |
| 6 時間未満          | 11.7%        | 12.1%        | 15.4%        | 13.3%        | 6.4%         | 10.3%        |
| 6 時間以上 8 時間未満   | 6.8%         | 8.2%         | 8.4%         | 9.2%         | 4.3%         | 7.2%         |
| 8 時間以上 10 時間未満  | 17.7%        | 15.2%        | 17.0%        | 16.5%        | 18.2%        | 13.7%        |
| 10 時間以上 12 時間未満 | 15.7%        | 16.9%        | 8.9%         | 14.3%        | 26.0%        | 21.3%        |
| 12 時間以上         | 12.4%        | 11.8%        | 5.4%         | 5.3%         | 23.1%        | 20.9%        |
| 無回答             | 24.1%        | 27.7%        | 30.1%        | 30.3%        | 14.7%        | 22.8%        |
| 平均(時間)          | 7 時間 25 分    | 7 時間 39 分    | 6 時間 01 分    | 6 時間 41 分    | 9 時間 06 分    | 8 時間 53 分    |



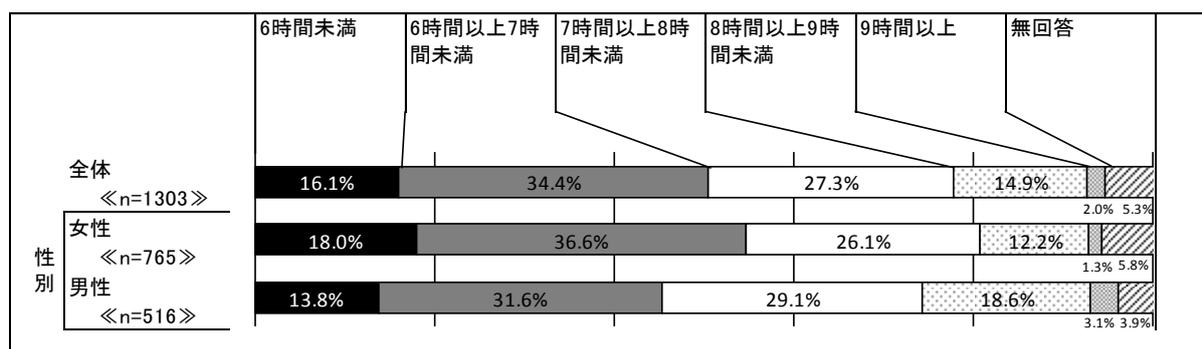
③睡眠時間

- ◆睡眠の平均時間は、全体で6時間23分。女性は6時間25分、男性は6時間41分となっています。
- ◆平均時間の男女差は、女性が共働き家庭で30分、準共働き家庭で18分、非共働き家庭で7分、男性を下回ります。
- ◆《一番下の子が19歳以上》では、男女の平均時間の差は35分となっています。
- ◆前回調査と比べ、睡眠の平均時間は男女ともに減少しています。

全体

「6時間以上7時間未満」34.4% > 「7時間以上8時間未満」27.3%

> 「6時間未満」16.1% > 「8時間以上9時間未満」14.9% > 「9時間以上」2.0%



性別

女性は「6時間以上7時間未満」が36.6%と最も高く、男性は「6時間以上7時間未満」が31.6%と最も高くなっています。

平均時間は、女性6時間25分、男性6時間41分であり、その差は16分となっています。

年齢別

平均時間は以下のとおりで、最も長いのは70歳以上で6時間53分、最も短いのは40代で6時間19分、その差は34分となっています。

女性で最も長いのは70歳以上で6時間37分、最も短いのは50代で6時間18分、その差は19分となっています。

男性で最も長いのは70歳以上で7時間22分、最も短いのは40代の6時間17分、その差は1時間5分となっています。

| 平均時間 | 30歳未満  | 30代    | 40代    | 50代    | 60代    | 70歳以上  |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 全体   | 6時間28分 | 6時間25分 | 6時間19分 | 6時間29分 | 6時間36分 | 6時間53分 |
| 女性   | 6時間31分 | 6時間26分 | 6時間20分 | 6時間18分 | 6時間23分 | 6時間37分 |
| 男性   | 6時間22分 | 6時間24分 | 6時間17分 | 6時間45分 | 6時間50分 | 7時間22分 |

詳細分析<共働き状況>

共働き家庭では、女性6時間26分、男性6時間51分、その差は25分。

準共働き家庭では、女性6時間21分、男性6時間39分、その差は18分。

非共働き家庭では、女性6時間30分、男性6時間37分、その差は7分。

| 平均時間 | 共働き家庭  | 準共働き家庭 | 非共働き家庭 |
|------|--------|--------|--------|
| 全体   | 6時間37分 | 6時間29分 | 6時間33分 |
| 女性   | 6時間26分 | 6時間21分 | 6時間30分 |
| 男性   | 6時間51分 | 6時間39分 | 6時間37分 |

**詳細分析＜末子の年齢＞**

平均時間が最も長いのは「一番下の子が6歳未満」で6時間41分、最も短いのは「一番下の子が13～19歳未満」で6時間11分、その差は30分。

男女差が最も大きいのは「一番下の子が19歳以上」で、その差は35分。最も差が小さいのは「一番下の子が6歳未満」と「一番下の子が13～19歳未満」で、その差は3分。

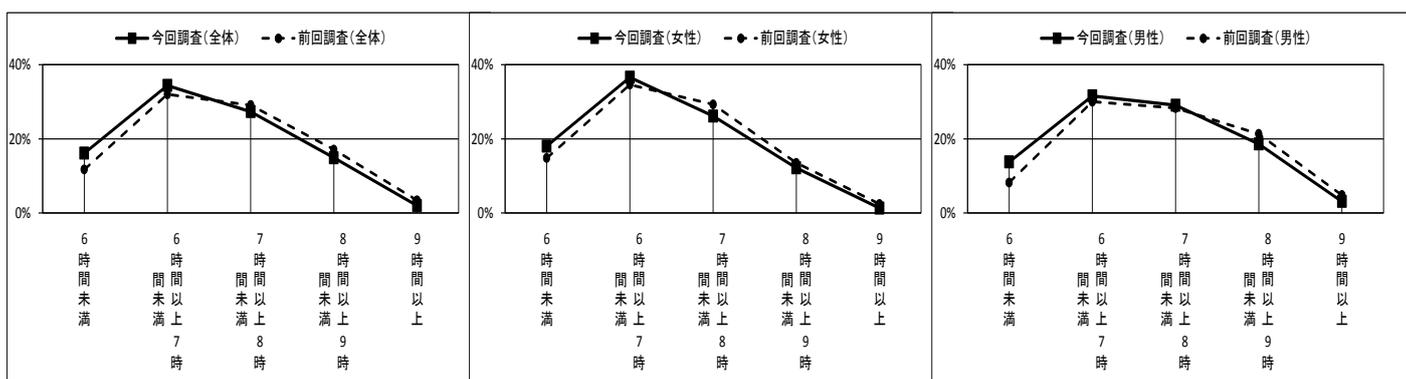
| 平均時間 | 一番下の子が<br>6歳未満 | 一番下の子が<br>6～13歳未満 | 一番下の子が<br>13～19歳未満 | 一番下の子が<br>19歳以上 |
|------|----------------|-------------------|--------------------|-----------------|
| 全体   | 6時間41分         | 6時間22分            | 6時間11分             | 6時間39分          |
| 女性   | 6時間42分         | 6時間18分            | 6時間10分             | 6時間25分          |
| 男性   | 6時間39分         | 6時間31分            | 6時間13分             | 7時間00分          |

**前回調査との比較**

全体の平均時間は、前回調査より11分減少。女性は9分減少。男性は13分減少。

（単位：％）

|            |        |        |        |        |        |        |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 6時間未満      | 16.1%  | 11.7%  | 18.0%  | 14.8%  | 13.8%  | 8.2%   |
| 6時間以上7時間未満 | 34.4%  | 32.0%  | 36.6%  | 34.6%  | 31.6%  | 30.0%  |
| 7時間以上8時間未満 | 27.3%  | 29.1%  | 26.1%  | 29.3%  | 29.1%  | 28.3%  |
| 8時間以上9時間未満 | 14.9%  | 17.1%  | 12.2%  | 13.5%  | 18.6%  | 21.3%  |
| 9時間以上      | 2.0%   | 3.4%   | 1.3%   | 2.4%   | 3.1%   | 4.8%   |
| 無回答        | 5.3%   | 6.7%   | 5.8%   | 5.3%   | 3.9%   | 7.4%   |
| 平均（時間）     | 6時間32分 | 6時間43分 | 6時間25分 | 6時間34分 | 6時間41分 | 6時間54分 |

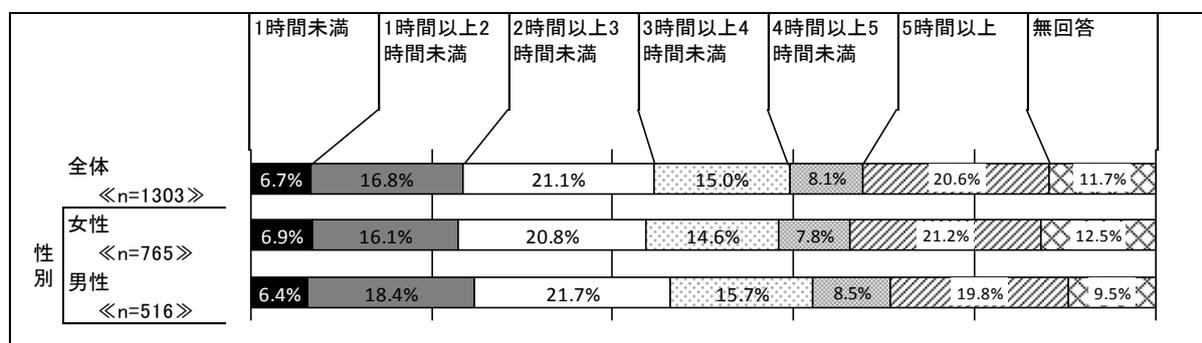


④自分自身のための自由な時間

- ◆自由な時間の平均時間は、全体で3時間28分。女性は3時間28分、男性は3時間27分となっています。
- ◆平均時間の男女差は、女性が共働き家庭では男性を2分下回り、準共働き家庭で25分、非共働き家庭で16分、男性を上回ります。
- ◆《一番下の子が19歳以上》では、男女の平均時間の差は35分となっています。
- ◆前回調査と比べ、自由時間は女性で増加、男性で減少しています。

**全体**

「1時間以上2時間未満」16.8% > 「3時間以上4時間未満」15.0%  
 > 「2時間以上3時間未満」21.1% > 「5時間以上」20.6%  
 > 「4時間以上5時間未満」8.1% > 「1時間未満」6.7%



**性別**

女性は「5時間以上」が21.2%と最も高く、男性は「2時間以上3時間未満」が21.7%と最も高くなっています。

平均時間は、女性3時間28分、男性3時間27分であり、その差は1分となっています。

**年齢別**

平均時間は以下のとおりで、最も長いのは70歳以上で6時間10分、最も短いのは30代で2時間02分、その差は4時間8分となっています。

女性で最も長いのは70歳以上で5時間46分、最も短いのは30代で1時間52分、その差は3時間54分となっています。

男性で最も長いのは70歳以上で6時間53分、最も短いのは50代の2時間12分、その差は4時間41分となっています。

| 平均時間 | 30歳未満  | 30代    | 40代    | 50代    | 60代    | 70歳以上  |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 全体   | 3時間19分 | 2時間02分 | 2時間31分 | 2時間35分 | 4時間23分 | 6時間10分 |
| 女性   | 3時間28分 | 1時間52分 | 2時間30分 | 2時間52分 | 4時間27分 | 5時間46分 |
| 男性   | 3時間06分 | 2時間14分 | 2時間34分 | 2時間12分 | 4時間19分 | 6時間53分 |

**詳細分析＜共働き状況＞**

共働き家庭では、女性 1 時間 59 分、男性 2 時間 01 分、その差は 2 分。

準共働き家庭では、女性 2 時間 33 分、男性 2 時間 08 分、その差は 25 分。

非共働き家庭では、女性 3 時間 20 分、男性 3 時間 04 分、その差は 16 分。

| 平均時間 | 共働き家庭     | 準共働き家庭    | 非共働き家庭    |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 全体   | 2 時間 05 分 | 2 時間 23 分 | 3 時間 12 分 |
| 女性   | 1 時間 59 分 | 2 時間 33 分 | 3 時間 20 分 |
| 男性   | 2 時間 01 分 | 2 時間 08 分 | 3 時間 04 分 |

**詳細分析＜末子の年齢＞**

平均時間が最も長いのは「一番下の子が 19 歳以上」で 4 時間 14 分、最も短いのは「一番下の子が 6 歳未満」で 1 時間 32 分、その差は 2 時間 42 分。

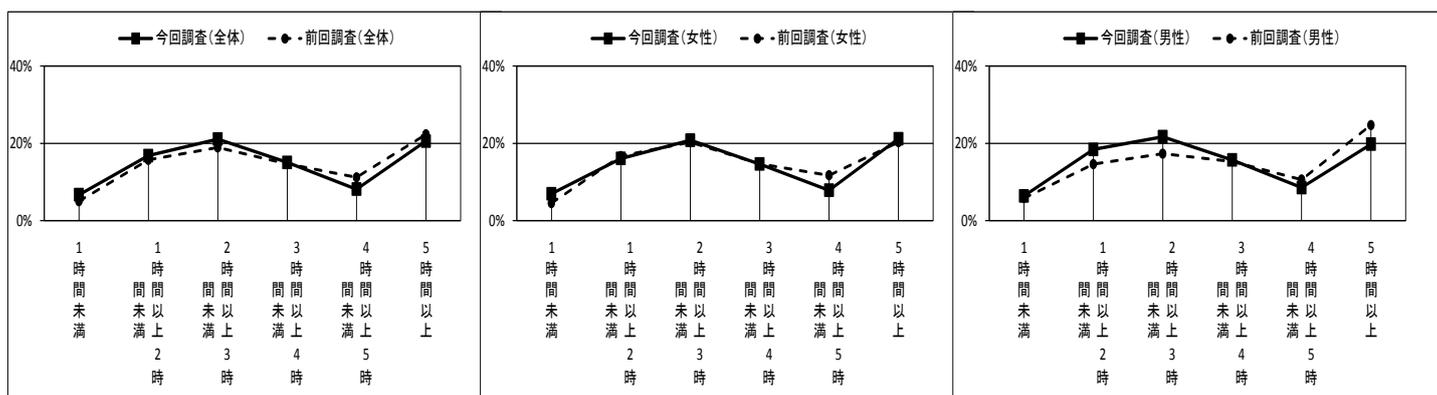
男女差が最も大きいのは「一番下の子が 6～13 歳未満」で、その差は 21 分。最も差が小さいのは「一番下の子が 13～19 歳未満」で、その差は 8 分。

| 平均時間 | 一番下の子が<br>6 歳未満 | 一番下の子が<br>6～13 歳未満 | 一番下の子が<br>13～19 歳未満 | 一番下の子が<br>19 歳以上 |
|------|-----------------|--------------------|---------------------|------------------|
| 全体   | 1 時間 32 分       | 1 時間 59 分          | 2 時間 24 分           | 4 時間 14 分        |
| 女性   | 1 時間 36 分       | 2 時間 06 分          | 2 時間 21 分           | 4 時間 06 分        |
| 男性   | 1 時間 29 分       | 1 時間 45 分          | 2 時間 29 分           | 4 時間 26 分        |

**前回調査との比較**

全体の平均時間は、前回調査より 5 分減少。女性は 12 分増加。男性は 27 分減少。

|               | 今回調査<br>(全体) | 前回調査<br>(全体) | 今回調査<br>(女性) | 前回調査<br>(女性) | 今回調査<br>(男性) | 前回調査<br>(男性) |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1 時間未満        | 6.7%         | 5.0%         | 6.9%         | 4.5%         | 6.4%         | 5.8%         |
| 1 時間以上 2 時間未満 | 16.8%        | 15.7%        | 16.1%        | 16.7%        | 18.4%        | 14.6%        |
| 2 時間以上 3 時間未満 | 21.1%        | 18.9%        | 20.8%        | 20.3%        | 21.7%        | 17.3%        |
| 3 時間以上 4 時間未満 | 15.0%        | 14.7%        | 14.6%        | 14.7%        | 15.7%        | 15.3%        |
| 4 時間以上 5 時間未満 | 8.1%         | 11.2%        | 7.8%         | 11.7%        | 8.5%         | 10.6%        |
| 5 時間以上        | 20.6%        | 22.3%        | 21.2%        | 20.3%        | 19.8%        | 24.7%        |
| 無回答           | 11.7%        | 12.2%        | 12.5%        | 11.8%        | 9.5%         | 11.8%        |
| 平均(時間)        | 3 時間 28 分    | 3 時間 33 分    | 3 時間 28 分    | 3 時間 16 分    | 3 時間 27 分    | 3 時間 54 分    |

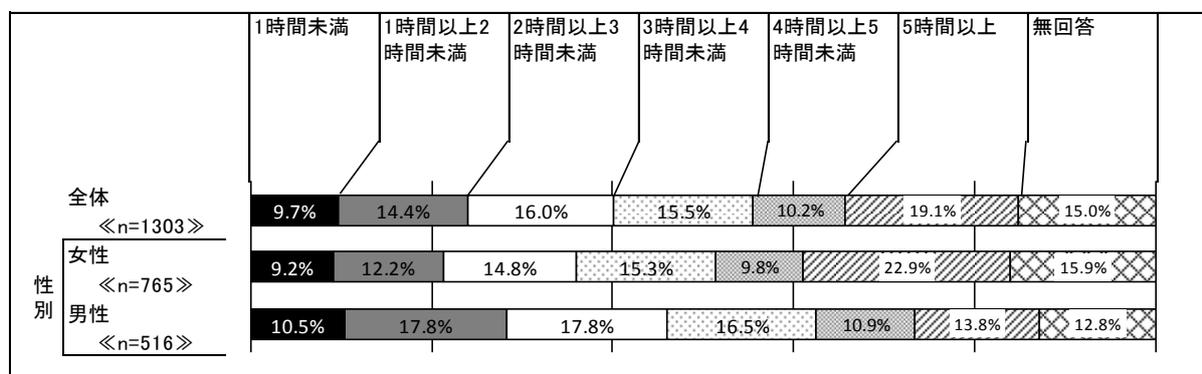


⑤家族とともに過ごす時間

- ◆家族と共に過ごす平均時間は、全体で3時間41分。女性は4時間00分、男性は3時間10分となっています。
- ◆平均時間の男女差は、女性が共働き家庭で56分、準共働き家庭で2時間30分、非共働き家庭で1時間38分、男性を上回ります。
- ◆《一番下の子が6歳未満》では、男女の平均時間の差は5時間28分となっています。
- ◆前回調査と比べ、家族と過ごす平均時間は、女性で増加、男性で減少しています。

**全体**

「5時間以上」19.1% > 「2時間以上3時間未満」16.0%  
 > 「3時間以上4時間未満」15.5% > 「1時間以上2時間未満」14.4%  
 > 「4時間以上5時間未満」10.2% > 「1時間未満」9.7%



**性別**

女性は「5時間以上」が22.9%と最も高く、男性は「1時間以上2時間未満」と「2時間以上3時間未満」が17.8%と最も高くなっています。

平均時間は、女性4時間00分、男性3時間10分であり、その差は50分となっています。

**年齢別**

平均時間は以下のとおりで、最も長いのは70歳以上で5時間23分、最も短いのは40代で2時間46分、その差は2時間37分となっています。

女性で最も長いのは70歳以上で5時間29分、最も短いのは50代で2時間59分、その差は2時間30分となっています。

男性で最も長いのは70歳以上で5時間15分、最も短いのは30歳未満の1時間45分、その差は3時間30分となっています。

| 平均時間 | 30歳未満  | 30代    | 40代    | 50代    | 60代    | 70歳以上  |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 全体   | 2時間52分 | 4時間00分 | 2時間46分 | 2時間53分 | 4時間08分 | 5時間23分 |
| 女性   | 3時間35分 | 4時間59分 | 3時間09分 | 2時間59分 | 4時間14分 | 5時間29分 |
| 男性   | 1時間45分 | 2時間40分 | 2時間02分 | 2時間45分 | 4時間01分 | 5時間15分 |

**詳細分析＜共働き状況＞**

共働き家庭では、女性 3 時間 38 分、男性 2 時間 42 分、その差は 56 分。  
 準共働き家庭では、女性 3 時間 44 分、男性 2 時間 46 分、その差は 58 分。  
 非共働き家庭では、女性 5 時間 05 分、男性 3 時間 27 分、その差は 1 時間 38 分。

| 平均時間 | 共働き家庭     | 準共働き家庭    | 非共働き家庭    |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 全体   | 3 時間 11 分 | 3 時間 21 分 | 4 時間 28 分 |
| 女性   | 3 時間 38 分 | 3 時間 44 分 | 5 時間 05 分 |
| 男性   | 2 時間 42 分 | 2 時間 46 分 | 3 時間 27 分 |

**詳細分析＜末子の年齢＞**

平均時間が最も長いのは「一番下の子が 6 歳未満」で 5 時間 28 分、最も短いのは「一番下の子が 13～19 歳未満」で 2 時間 43 分、その差は 2 時間 45 分。

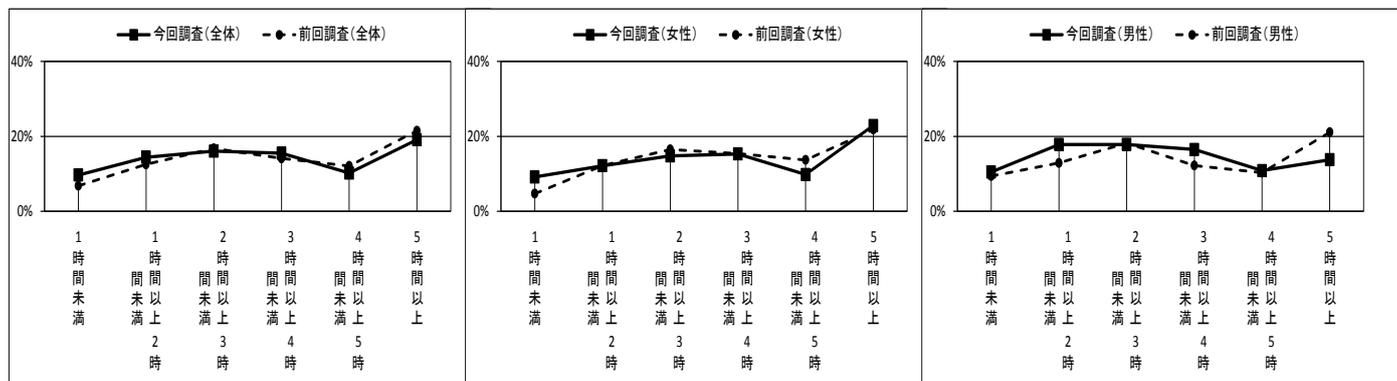
男女差が最も大きいのは「一番下の子が 6 歳未満」で、その差は 4 時間 53 分。最も差が小さいのは「一番下の子が 19 歳以上」で、その差は 7 分。

| 平均時間 | 一番下の子が<br>6 歳未満 | 一番下の子が<br>6～13 歳未満 | 一番下の子が<br>13～19 歳未満 | 一番下の子が<br>19 歳以上 |
|------|-----------------|--------------------|---------------------|------------------|
| 全体   | 5 時間 28 分       | 3 時間 35 分          | 2 時間 43 分           | 4 時間 00 分        |
| 女性   | 7 時間 28 分       | 4 時間 06 分          | 2 時間 58 分           | 3 時間 59 分        |
| 男性   | 2 時間 35 分       | 2 時間 31 分          | 2 時間 18 分           | 4 時間 06 分        |

**前回調査との比較**

全体の平均時間は、前回調査より 2 分増加。女性は 2 分増加。男性は 30 分減少。

|               | 今回調査<br>(全体) | 前回調査<br>(全体) | 今回調査<br>(女性) | 前回調査<br>(女性) | 今回調査<br>(男性) | 前回調査<br>(男性) |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1 時間未満        | 9.7%         | 6.8%         | 9.2%         | 4.7%         | 10.5%        | 9.4%         |
| 1 時間以上 2 時間未満 | 14.4%        | 12.5%        | 12.2%        | 12.2%        | 17.8%        | 12.9%        |
| 2 時間以上 3 時間未満 | 16.0%        | 16.8%        | 14.8%        | 16.5%        | 17.8%        | 18.2%        |
| 3 時間以上 4 時間未満 | 15.5%        | 14.1%        | 15.3%        | 15.4%        | 16.5%        | 12.2%        |
| 4 時間以上 5 時間未満 | 10.2%        | 12.1%        | 9.8%         | 13.7%        | 10.9%        | 10.3%        |
| 5 時間以上        | 19.1%        | 21.5%        | 22.9%        | 21.8%        | 13.8%        | 21.1%        |
| 無回答           | 15.0%        | 16.2%        | 15.9%        | 15.6%        | 12.8%        | 15.8%        |
| 平均(時間)        | 3 時間 41 分    | 3 時間 39 分    | 4 時間 00 分    | 3 時間 58 分    | 3 時間 10 分    | 3 時間 40 分    |



○生活に関する時間について（1日の生活時間）

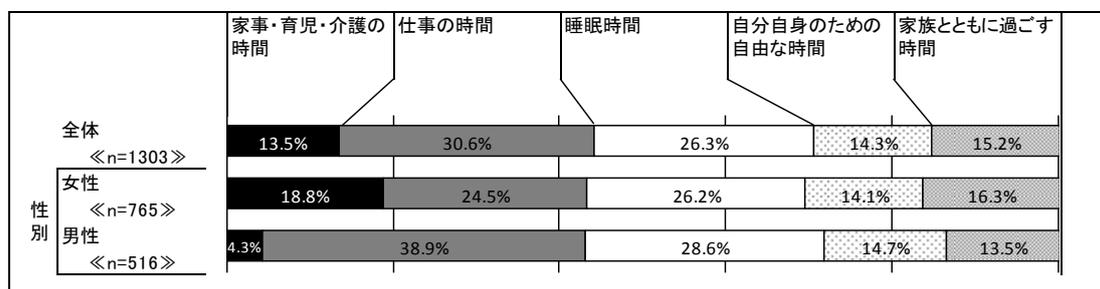
- ◆ 1日の生活時間は、全体では仕事の時間が7時間25分で30.6%となっています。
- ◆ 「家事・育児・介護の時間」は女性が男性を上回り、「仕事の時間」は男性が女性を上回ります。

**全体**

「仕事の時間」30.6% > 「睡眠時間」26.3% > 「家族と共に過ごす時間」15.2%  
 > 「自分自身のための自由な時間」14.3% > 「家事・育児・介護の時間」13.5%

|    | 家事・育児・<br>介護の時間   | 仕事の時間             | 睡眠時間              | 自分自身の<br>ための自由<br>な時間 | 家族ととも<br>に過ごす時<br>間 | 合計時間<br>(注) |
|----|-------------------|-------------------|-------------------|-----------------------|---------------------|-------------|
| 全体 | 3時間17分<br>(13.5%) | 7時間25分<br>(30.6%) | 6時間23分<br>(26.3%) | 3時間28分<br>(14.3%)     | 3時間41分<br>(15.2%)   | 24時間14分     |
| 女性 | 4時間37分<br>(18.8%) | 6時間01分<br>(24.5%) | 6時間25分<br>(26.2%) | 3時間28分<br>(14.1%)     | 4時間00分<br>(16.3%)   | 24時間31分     |
| 男性 | 1時間00分<br>(4.3%)  | 9時間06分<br>(38.9%) | 6時間41分<br>(28.6%) | 3時間27分<br>(14.7%)     | 3時間10分<br>(13.5%)   | 23時間24分     |

(注) 合計時間は、平均時間（回答あった項目のみの平均）を合計しているため、必ずしも24時間になるわけではありません。



**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「家事・育児・介護の時間」で女性18.8%、男性4.3%であり、女性が14.5ポイント上回ります。次いで、「家族とともに過ごす時間」で女性16.3%、男性13.5%であり、女性が2.8ポイント上回ります。

男性が上回る項目は「仕事の時間」で女性24.5%、男性38.9%であり、男性が14.4ポイント上回ります。次いで、「睡眠時間」で女性26.2%、男性28.6%であり、男性が2.4ポイント上回ります。

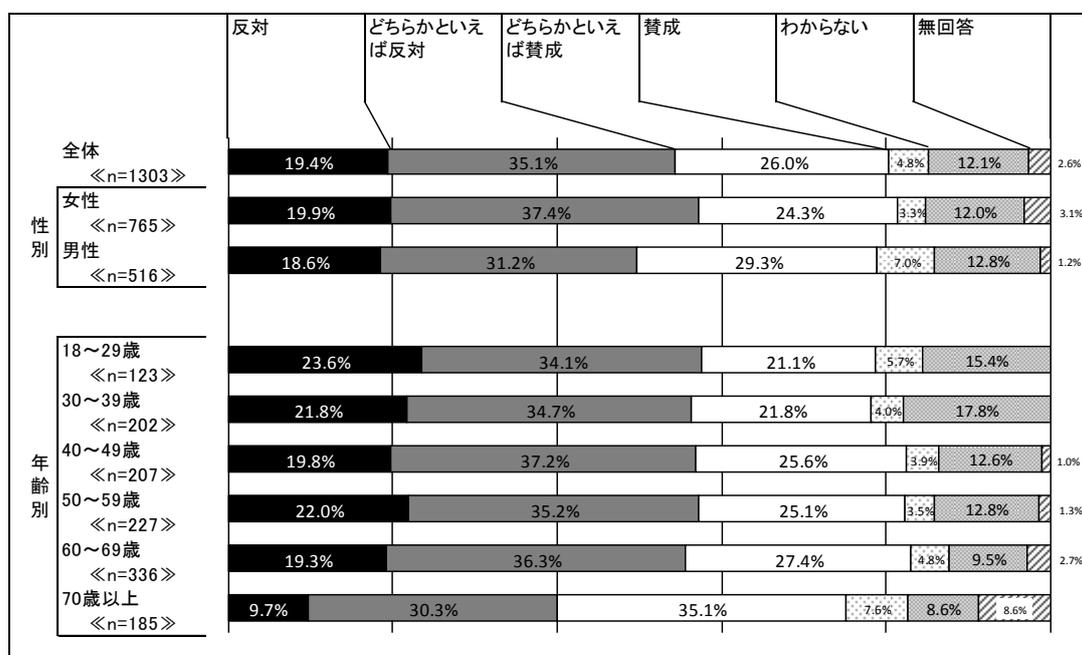
(3) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 問 9 | 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。 |
|-----|-------------------------------|

- ◆ 「反対」は全体で19.4%、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせると54.5%となっています。
- ◆ 「反対」を性別で見ると女性19.9%、男性18.6%となっています。
- ◆ 共働き世帯で「反対」は女性28.4%、男性16.5%となっています。
- ◆ 「反対」は前回調査と比べ、男女ともに上回ります。

**全体**

「どちらかといえば反対」35.1% > 「どちらかといえば賛成」26.0%  
 > 「反対」19.4% > 「わからない」12.1% > 「賛成」4.8%



**性別**

「反対」は女性19.9%、男性18.6%であり、女性が1.3ポイント上回ります。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合では、女性57.3%、男性49.8%であり、女性が7.5ポイント上回ります。

**年齢別**

「反対」が最も高いのは30歳未満で23.6%、最も低いのは70歳以上の9.7%であり、その差は13.9ポイント。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合で最も高いのは30歳未満で57.7%、最も低いのは70歳未満の40.0%であり、その差は17.7ポイントとなっています。

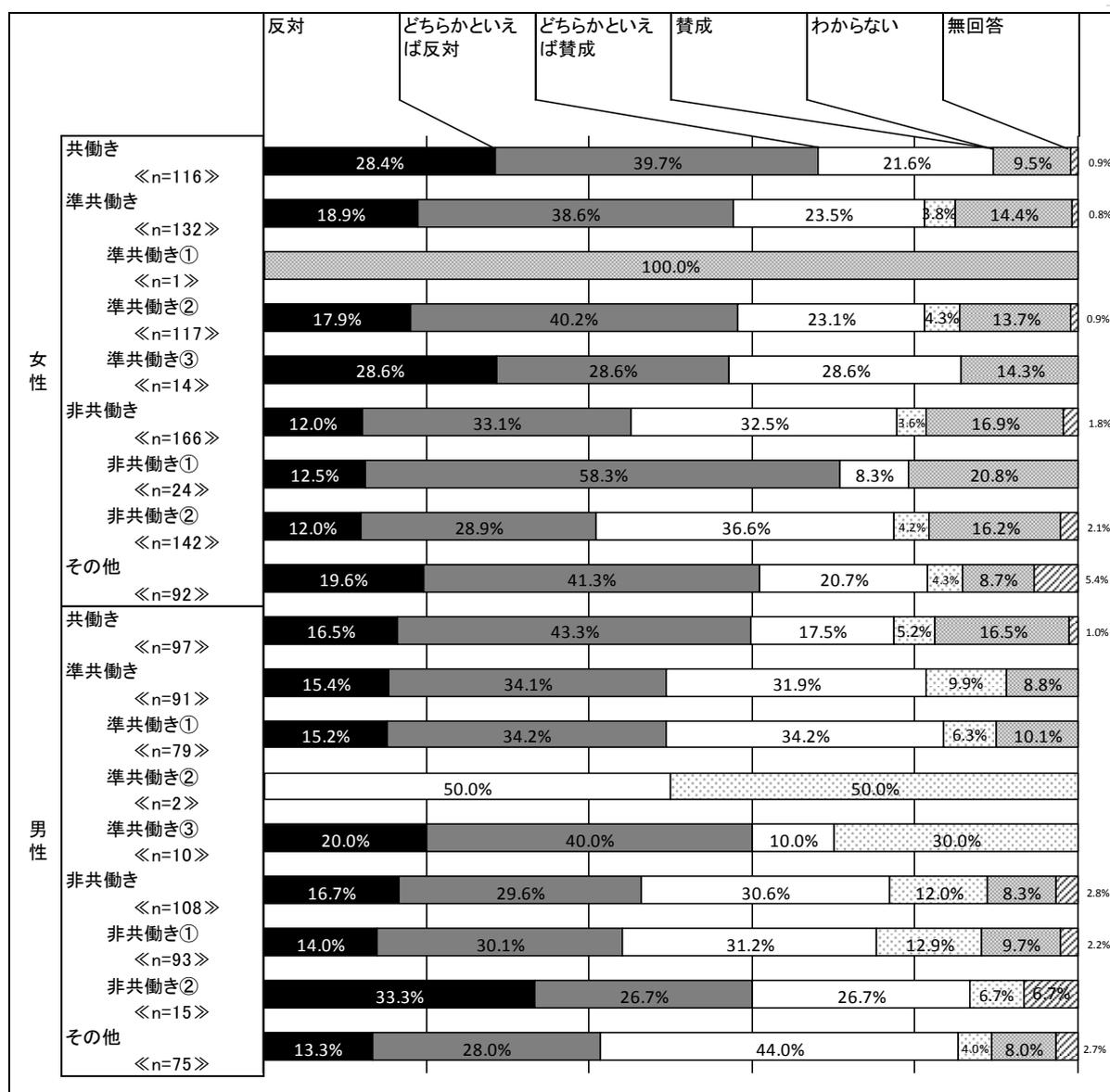
**年齢と性別**

「反対」で最も差が大きいのは 50 代で女性 25.8%、男性 16.8%であり、その差は 8.9 ポイント。最も差が小さいのは 70 歳以上で女性 10.1%、男性 9.1%であり、その差は 1.0 ポイント。30 歳未満、30 代、60 代では、男性が女性を上回ります。

「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合で最も差が大きいのは、50 代で女性 63.6%、男性 48.4%であり、その差は 15.2 ポイント。最も差が小さいのは 40 代で女性 57.4%、男性 55.2%であり、その差は 2.2 ポイントとなっています。

**詳細分析**

共働き世帯における「反対」は女性 28.4%、男性 16.5%であり、女性が 11.9 ポイント上回る。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合では、女性 68.1%、男性 59.8%であり、女性が 8.3 ポイント上回ります。



**前回調査・全国調査との比較**

＜前回調査との比較＞

「反対」は全体で 2.4 ポイント増加し、女性で 0.4 ポイント増加し、男性では 4.7 ポイント増加しました。

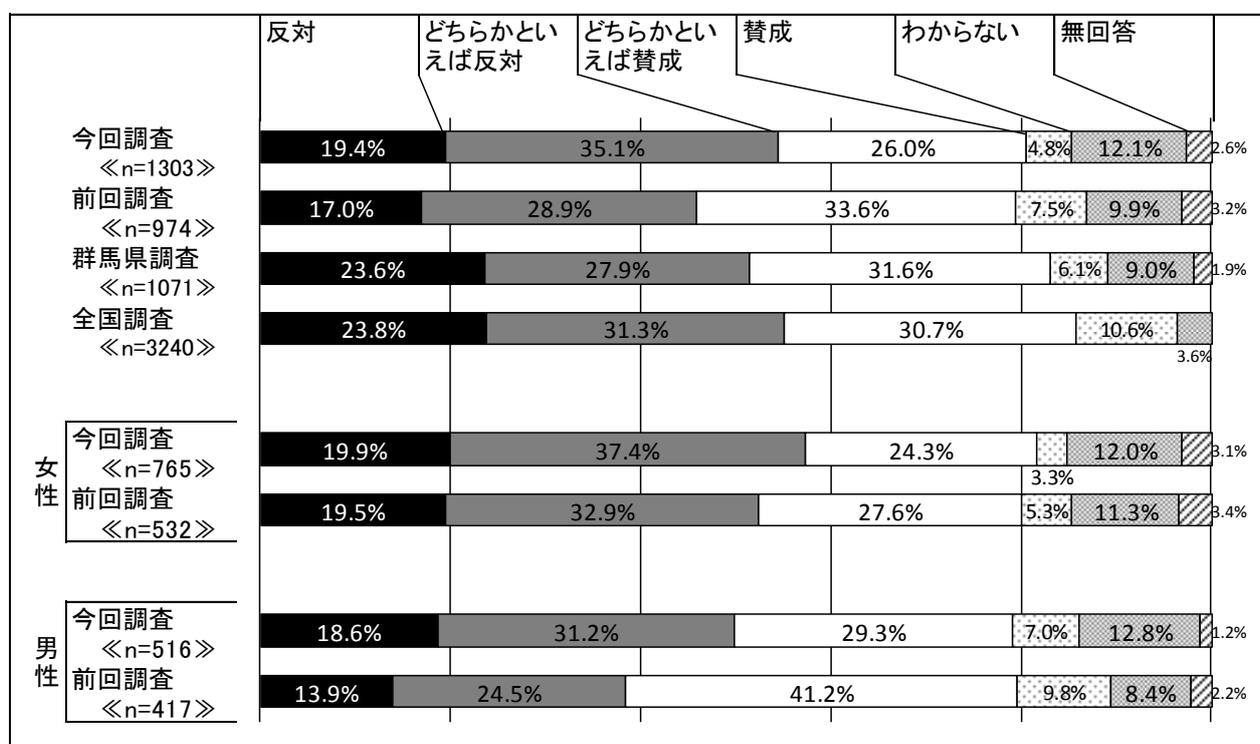
「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、女性は 4.9 ポイント増加し、男性で 11.4 ポイント増加しました。

＜群馬県調査との比較＞

「反対」は 4.2 ポイント下回ります。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、3.0 ポイント上回ります。

＜全国調査との比較＞

「反対」は 4.4 ポイント下回ります。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、0.6 ポイント下回ります。



(4) 家庭生活に関する意識について

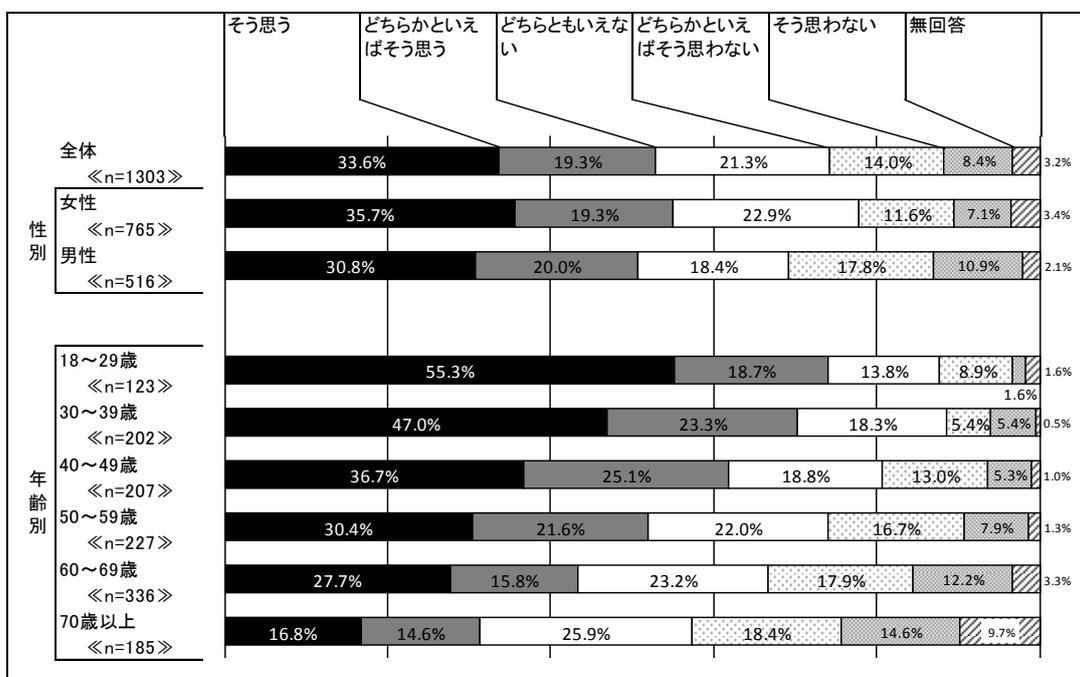
問 10 結婚・家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。

①結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい

- ◆「そう思う」は全体で 33.6%。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 52.9%となっています。
- ◆「そう思う」を性別で見ると女性 35.7%、男性 30.8%となっています。
- ◆「そう思う」は未婚で 49.5%、既婚で 29.6%、離別、死別で 34.2%となっています。
- ◆「そう思う」は前回調査と比べ、女性は増加し、男性は減少しています。

**全体**

「そう思う」33.6% > 「どちらともいえない」21.3%  
 > 「どちらかといえばそう思う」19.3% > 「どちらかといえばそう思わない」14.0%  
 > 「そう思わない」8.4%



**性別**

「そう思う」は女性 35.7%、男性 30.8%であり、女性が 4.9 ポイント上回ります。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では、女性 55.0%、男性 50.8%であり、女性が 4.2 ポイント上回ります。

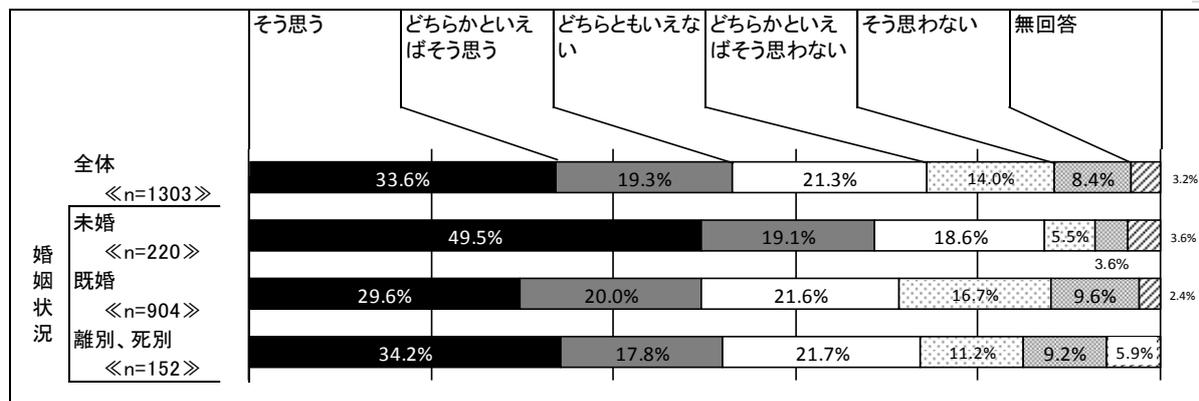
**年齢別**

「そう思う」が最も高いのは 30 歳未満で 55.3%、最も低いのは 70 歳以上の 16.8%であり、その差は 38.5 ポイント。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは 30 歳未満で 74.0%、最も低いのは 70 歳以上の 31.4%であり、その差は 42.6 ポイントとなっています。

**詳細分析**

婚姻状況別では、「そう思う」が最も高いのは未婚で49.5%、最も低いのは既婚の29.6%であり、その差は19.9ポイントとなっています。

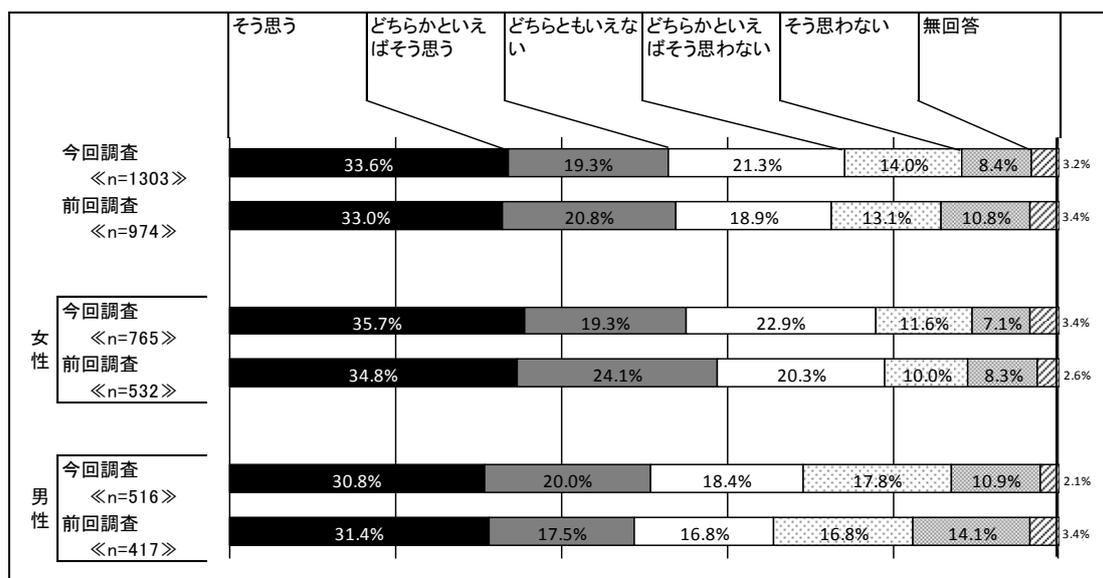
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは未婚で68.6%、最も低いのは既婚の49.6%であり、その差は19.0ポイントとなっています。



**前回調査との比較**

「そう思う」は全体で0.6ポイント増加し、女性で0.9ポイント増加し、男性では0.6ポイント減少しました。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体で0.9ポイント減少し、女性は3.9ポイント減少し、男性で1.9ポイント増加しました。

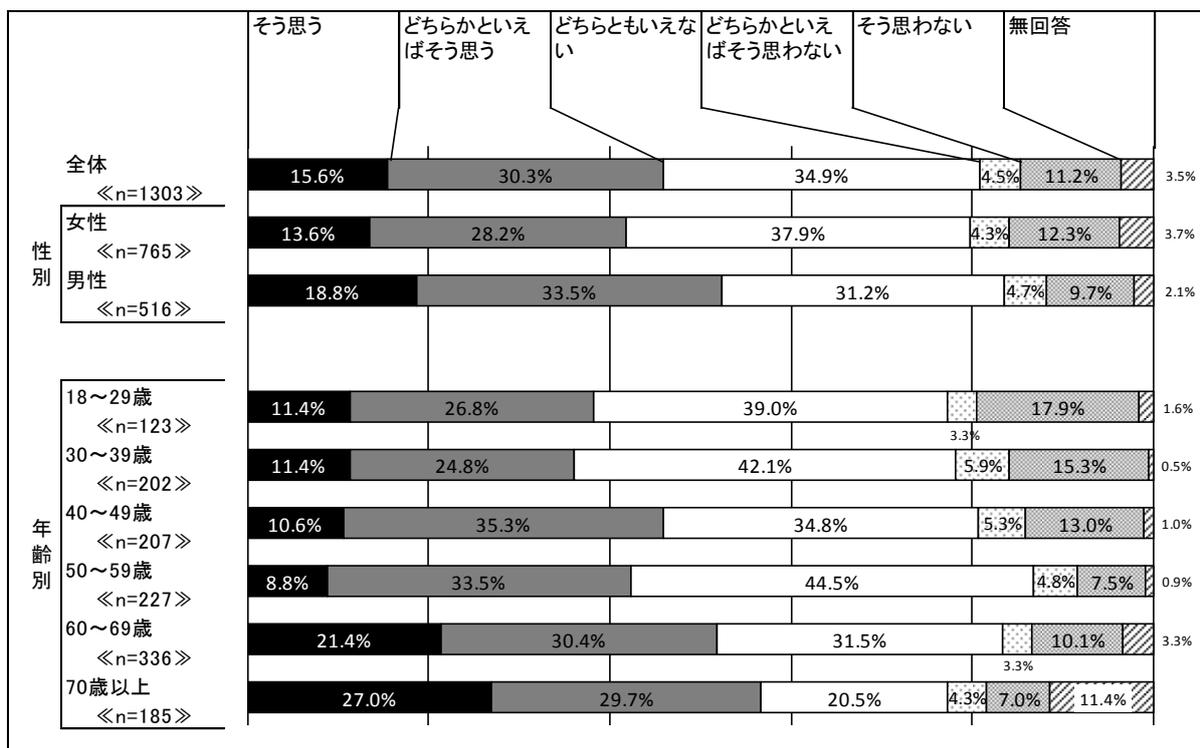


②精神的にも経済的にも安定するから結婚した方がよい

- ◆「そう思う」は全体で 15.6%。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 45.9%。となっています
- ◆「そう思う」を性別で見ると女性 13.6%、男性 18.8%となっています。
- ◆「そう思う」は未婚で 11.8%、既婚で 16.7%、離別、死別で 15.1%となっています。
- ◆「そう思う」は前回調査と比べ、女性は増加し、男性は減少しています。

**全体**

「どちらともいえない」34.9% > 「どちらかといえばそう思う」30.3%  
 > 「そう思う」15.6% > 「そう思わない」11.2%  
 > 「どちらかといえばそう思わない」4.5%



**性別**

「そう思う」は女性 13.6%、男性 18.8%であり、女性が 5.2 ポイント下回ります。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では、女性 41.8%、男性 52.3%であり、女性が 10.5 ポイント下回ります。

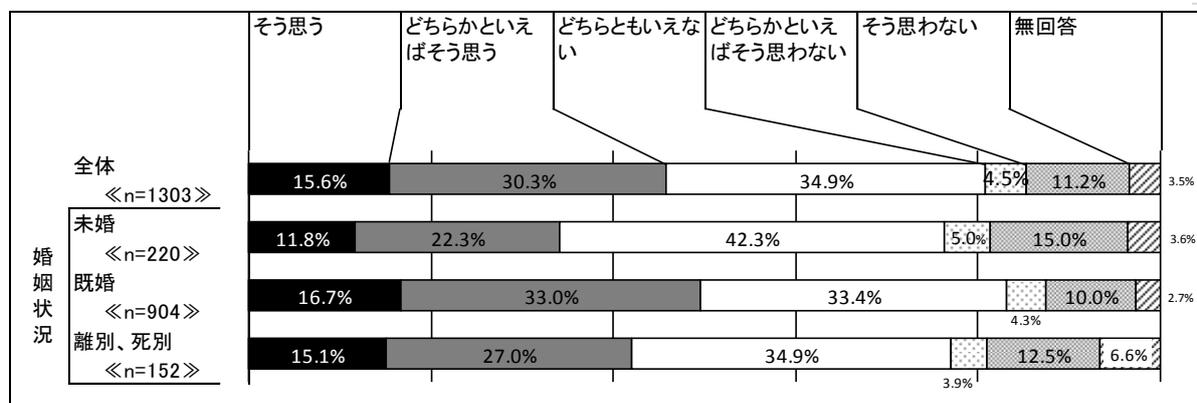
**年齢別**

「そう思う」が最も高いのは 70 歳以上で 27.0%、最も低いのは 50 代の 8.8%であり、その差は 18.2 ポイント。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは 70 歳以上で 56.7%、最も低いのは 30 代の 36.2%であり、その差は 20.5 ポイントとなっています。

**詳細分析**

婚姻状況別では、「そう思う」が最も高いのは既婚で 16.7%、最も低いのは未婚の 11.8% であり、その差は 4.9 ポイントとなっています。

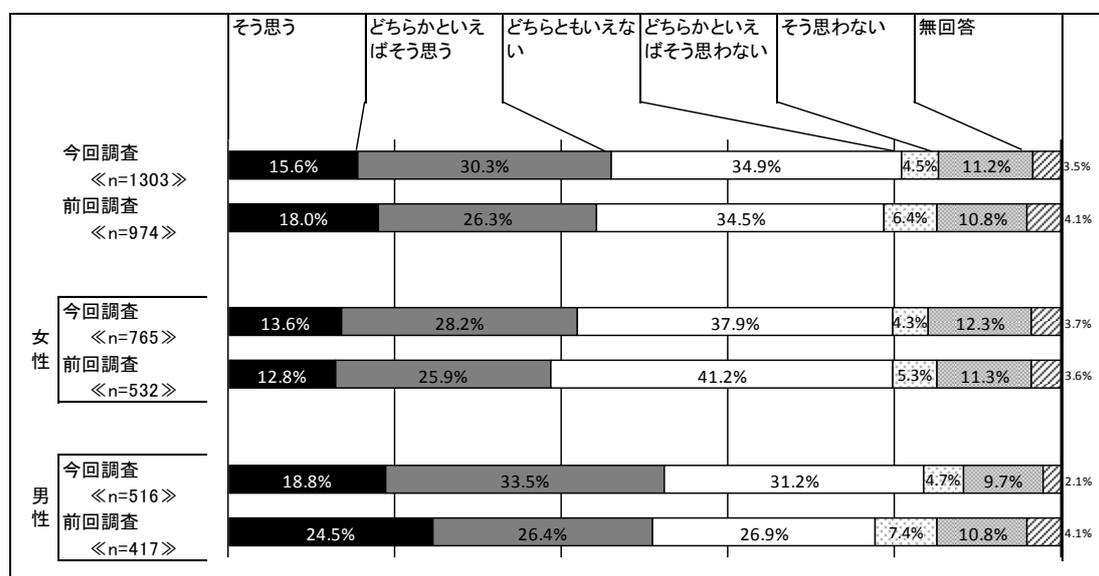
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは既婚で 49.7%、最も低いのは未婚の 34.1% であり、その差は 15.6 ポイントとなっています。



**前回調査との比較**

「そう思う」は全体で 2.4 ポイント減少し、女性で 0.8 ポイント増加し、男性では 5.7 ポイント減少しました。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体で 1.6 ポイント増加し、女性は 3.1 ポイント増加し、男性で 1.4 ポイント増加しました。

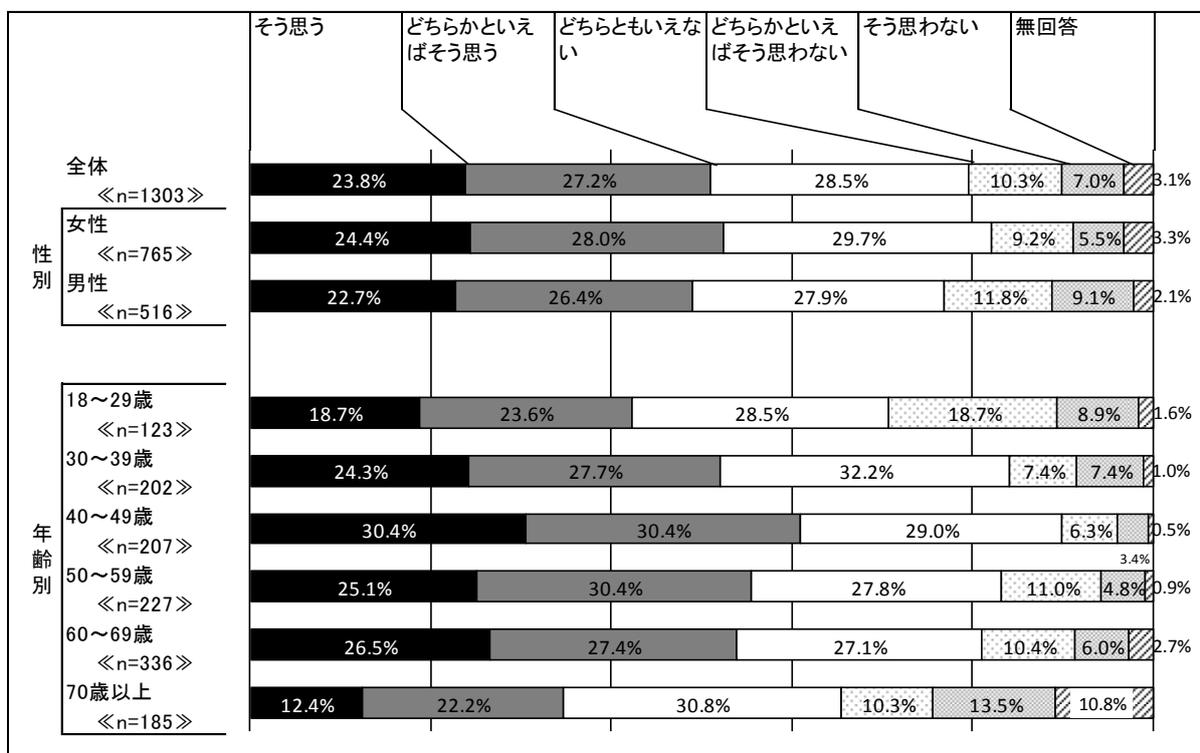


③結婚してもうまくいかなければ離婚してもかまわない

- ◆「そう思う」は全体で23.8%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると51.0%となっています。
- ◆「そう思う」を性別で見ると女性24.4%、男性22.7%となっています。
- ◆「そう思う」は未婚で25.0%、既婚で22.7%、離別、死別で28.9%となっています。
- ◆「そう思う」は前回調査と比べ、女性は減少し、男性は増加しています。

**全体**

「どちらともいえない」28.5% > 「どちらかといえばそう思う」27.2%  
 > 「そう思う」23.8% > 「どちらかといえばそう思わない」10.3%  
 > 「そう思わない」7.0%



**性別**

「そう思う」は女性24.4%、男性22.7%であり、女性が1.7ポイント上回ります。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では、女性52.4%、男性49.1%であり、女性が3.3ポイント上回ります。

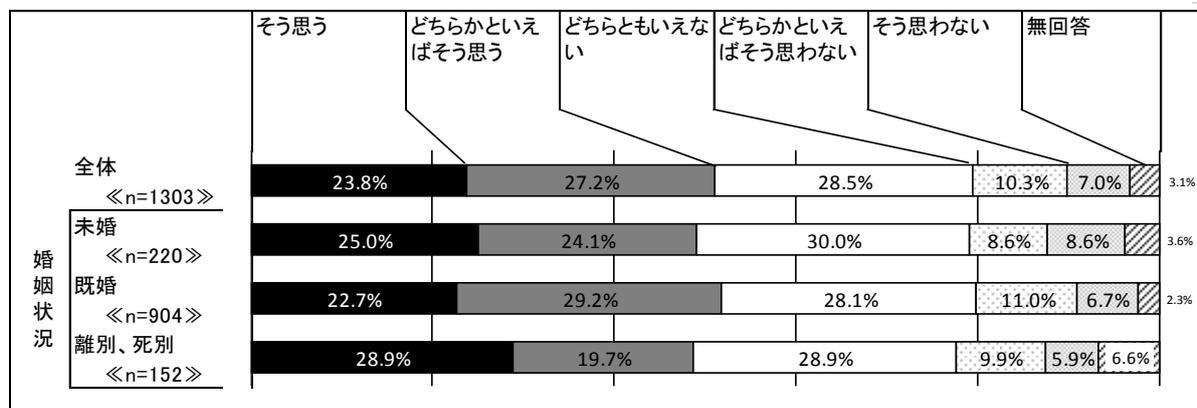
**年齢別**

「そう思う」が最も高いのは40代で30.4%、最も低いのは70歳以上の12.4%であり、その差は18.0ポイントとなっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは40代で60.8%、最も低いのは70歳以上の34.6%であり、その差は26.2ポイントとなっています。

**詳細分析**

婚姻状況別では、「そう思う」が最も高いのは離別、死別で28.9%、最も低いのは既婚の22.7%であり、その差は6.2ポイントとなっています。

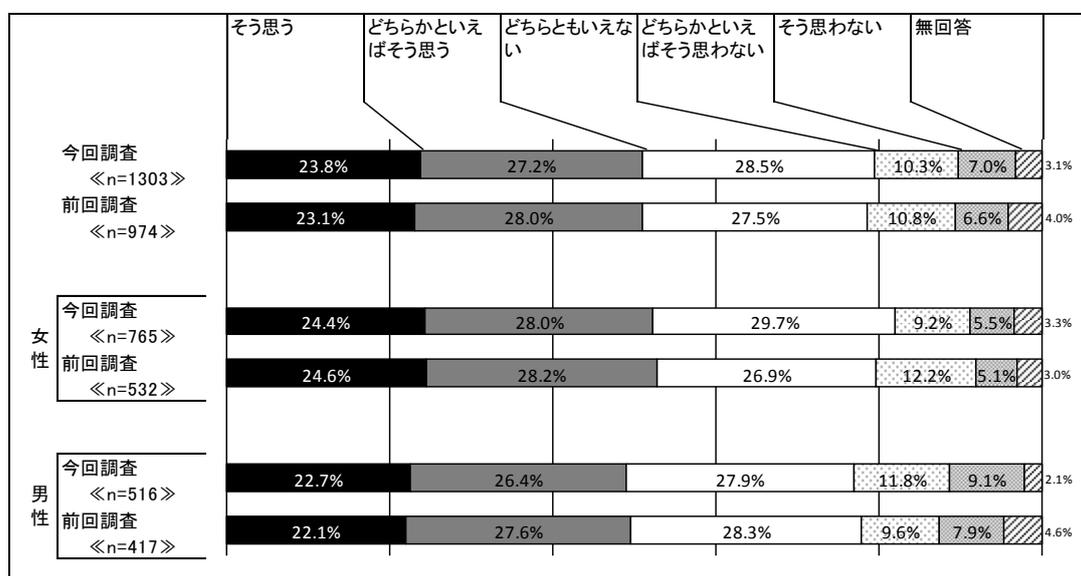
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは既婚で51.9%、最も低いのは離別、死別の48.6%であり、その差は3.3ポイントとなっています。



**前回調査との比較**

「そう思う」は全体で0.7ポイント増加し、女性で0.2ポイント減少し、男性では0.6ポイント増加しました。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体で0.1ポイント減少し、女性は0.4ポイント減少し、男性で0.6ポイント減少しました。



④結婚しても子どもを持つことにこだわらない

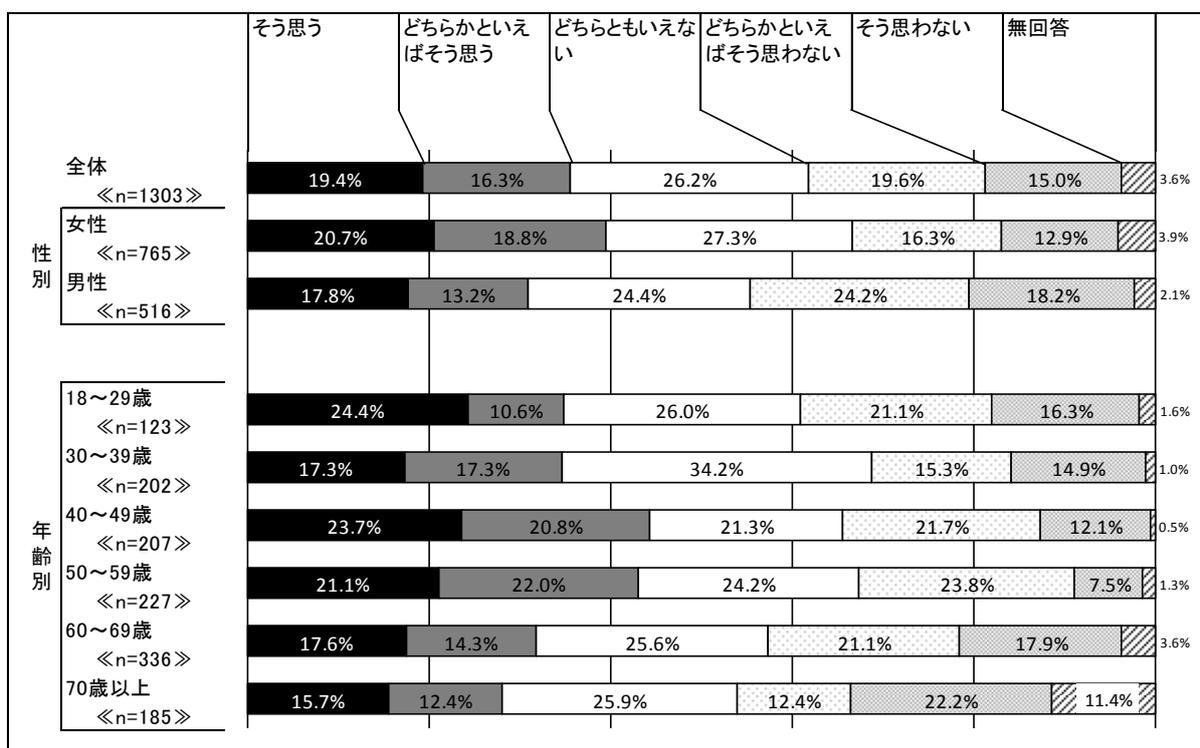
- ◆「そう思う」は全体で19.4%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると35.7%となっています。
- ◆「そう思う」を性別で見ると女性20.7%、男性17.8%となっています。
- ◆「そう思う」は未婚で23.6%、既婚で17.7%、離別、死別で21.1%となっています。
- ◆「そう思う」は前回調査と比べ、女性は減少し、男性は増加しています。

**全体**

「どちらともいえない」26.2% > 「どちらかといえばそう思わない」19.6%

> 「そう思う」19.4% > 「どちらかといえばそう思う」16.3%

> 「そう思わない」15.0%



**性別**

「そう思う」は女性 20.7%、男性 17.8%であり、女性が 2.9 ポイント上回ります。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では、女性 39.5%、男性 31.0%であり、女性が 8.5 ポイント上回ります。

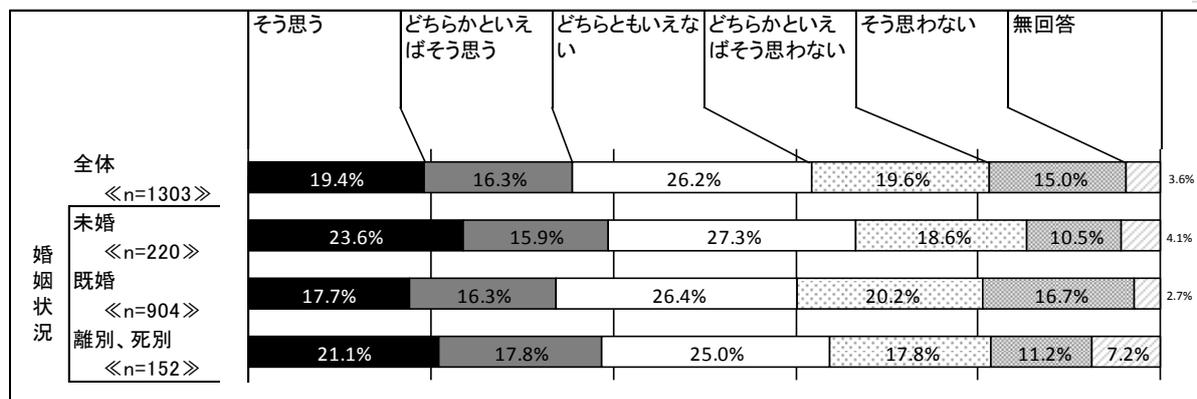
**年齢別**

「そう思う」が最も高いのは 30 歳未満で 24.4%、最も低いのは 70 歳以上の 15.7%であり、その差は 8.7 ポイント。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 44.5%、最も低いのは 70 歳以上の 28.1%であり、その差は 16.4 ポイントとなっています。

**詳細分析**

婚姻状況別では、「そう思う」が最も高いのは未婚で23.6%、最も低いのは既婚の17.7%であり、その差は5.9ポイントとなっています。

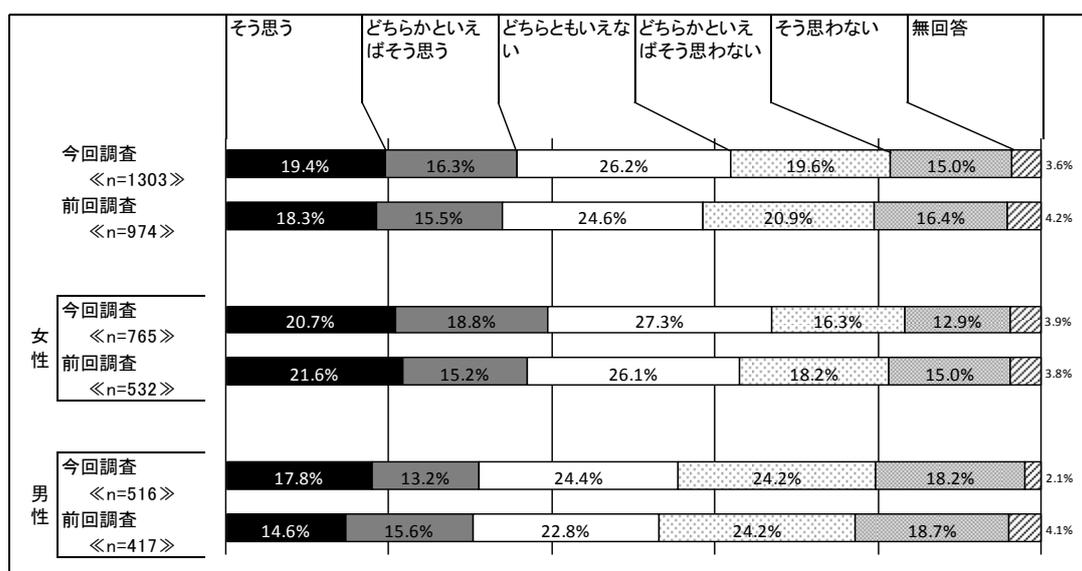
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは未婚で39.5%、最も低いのは既婚の34.0%であり、その差は5.5ポイントとなっています。



**前回調査との比較**

「そう思う」は全体で1.1ポイント増加し、女性で0.9ポイント減少し、男性では3.2ポイント増加しました。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体で1.9ポイント増加し、女性は2.7ポイント増加し、男性で0.8ポイント増加しました。

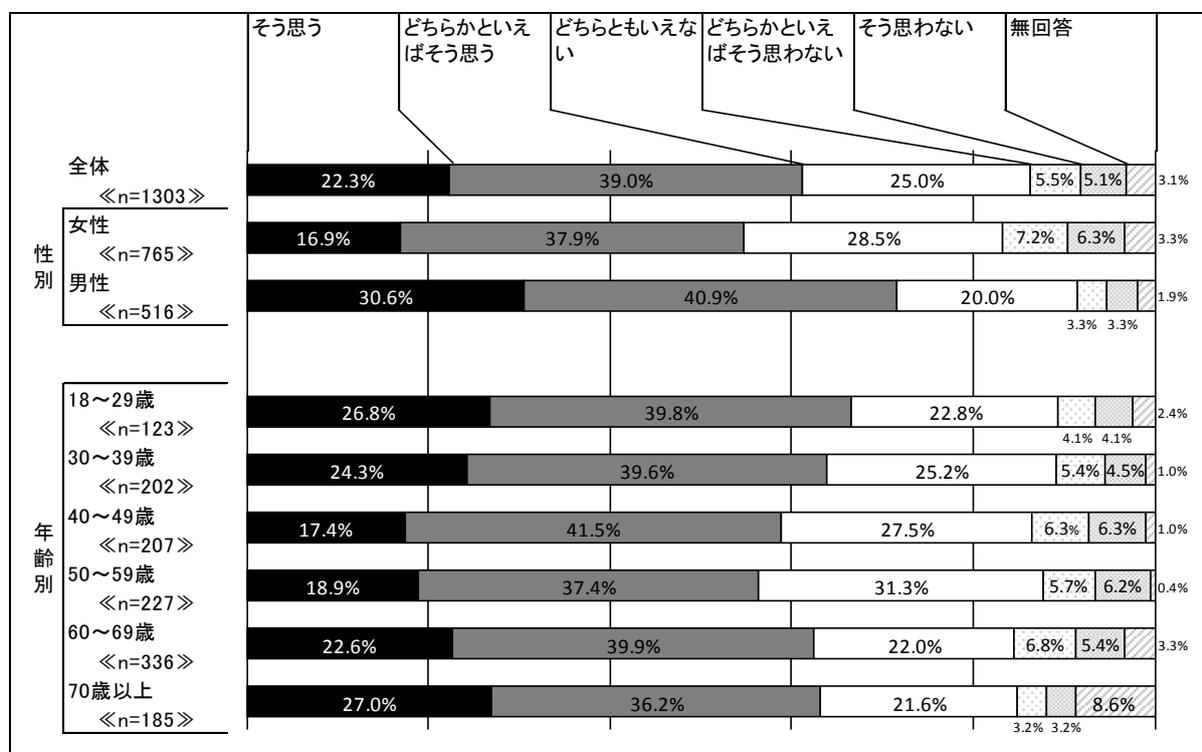


⑤結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい

- ◆「そう思う」は全体で22.3%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると61.3%となっています。
- ◆「そう思う」を性別で見ると女性16.9%、男性30.6%となっています。
- ◆「そう思う」は未婚で22.3%、既婚で22.1%、離別、死別で22.4%となっています。
- ◆「そう思う」は前回調査と比べ、女性は減少し、男性は増加しています。

**全体**

「どちらかといえばそう思う」39.0% > 「どちらともいえない」25.0%  
 > 「そう思う」22.3% > 「どちらかといえばそう思わない」5.5%  
 > 「そう思わない」5.1%



**性別**

「そう思う」は女性 16.9%、男性 30.6%であり、女性が 13.7 ポイント下回ります。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では、女性 54.8%、男性 71.5%であり、女性が 16.7 ポイント下回ります。

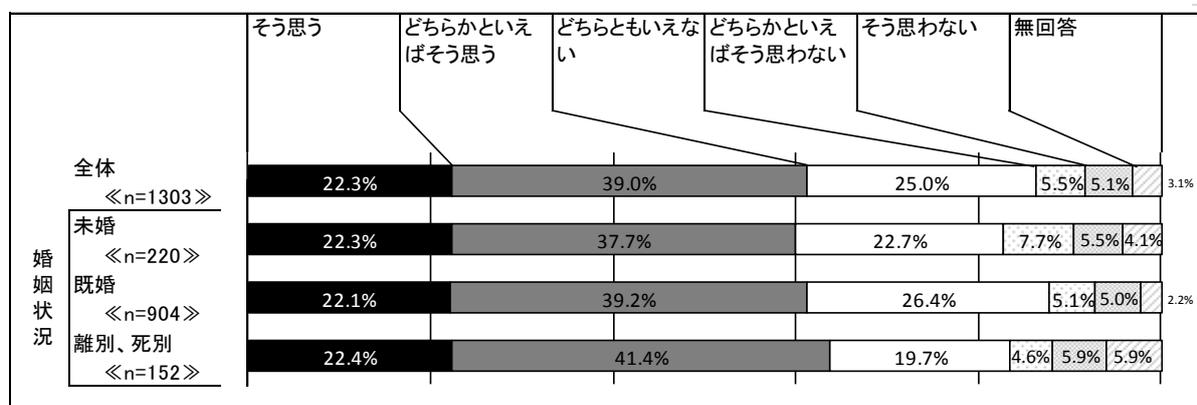
**年齢別**

「そう思う」が最も高いのは 70 歳以上で 27.0%、最も低いのは 40 代の 17.4%であり、その差は 9.6 ポイント。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは 30 歳未満で 66.6%、最も低いのは 50 代の 56.3%であり、その差は 10.3 ポイントとなっています。

**詳細分析**

婚姻状況別では、「そう思う」が最も高いのは離別、死別で22.4%、最も低いのは既婚の22.1%であり、その差は0.3ポイントとなっています。

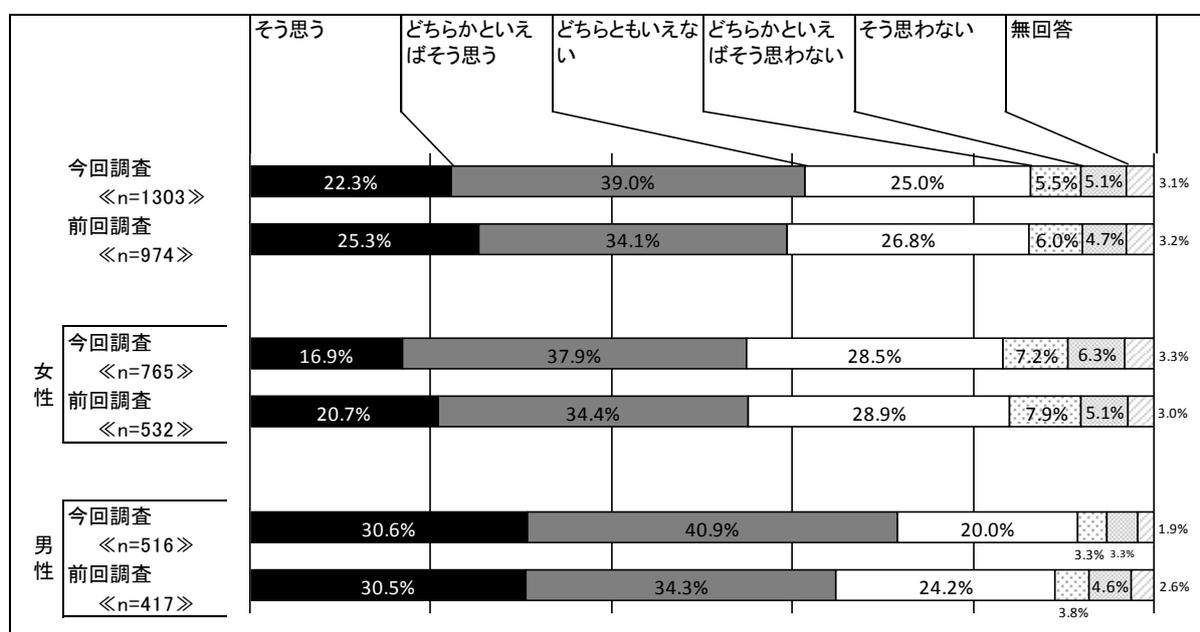
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは離別、死別で63.8%、最も低いのは未婚の60.0%であり、その差は3.8ポイントとなっています。



**前回調査との比較**

「そう思う」は全体で3.0ポイント減少し、女性で3.8ポイント減少し、男性では0.1ポイント増加しました。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体で1.9ポイント増加し、女性は0.3ポイント減少し、男性は6.7ポイント増加しました。

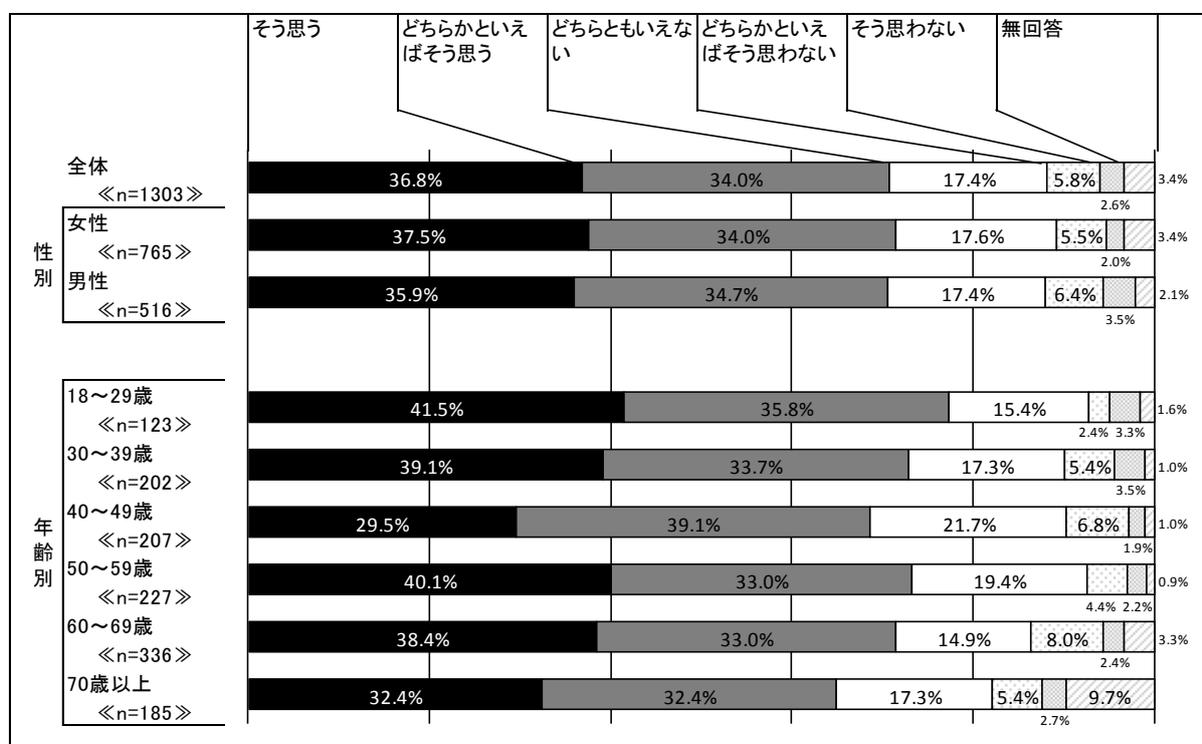


⑥子どもは、女の子らしさ、男の子らしさにこだわらず、個性を重視して育てたほうがよい

- ◆「そう思う」は全体で36.8%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると70.8%となっています。
- ◆「そう思う」を性別で見ると女性37.5%、男性35.9%となっています。
- ◆「そう思う」は未婚で38.2%、既婚で36.9%、離別、死別で34.2%となっています。
- ◆「そう思う」は前回調査と比べ、男女ともに下回ります。

**全体**

「**そう思う**」36.8% > 「**どちらかといえばそう思う**」34.0%  
 > 「**どちらともいえない**」17.4% > 「**どちらかといえばそう思わない**」5.8%  
 > 「**そう思わない**」2.6%



**性別**

「そう思う」は女性37.5%、男性35.9%であり、女性が1.6ポイント上回ります。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では、女性71.5%、男性70.6%であり、女性が0.9ポイント上回ります。

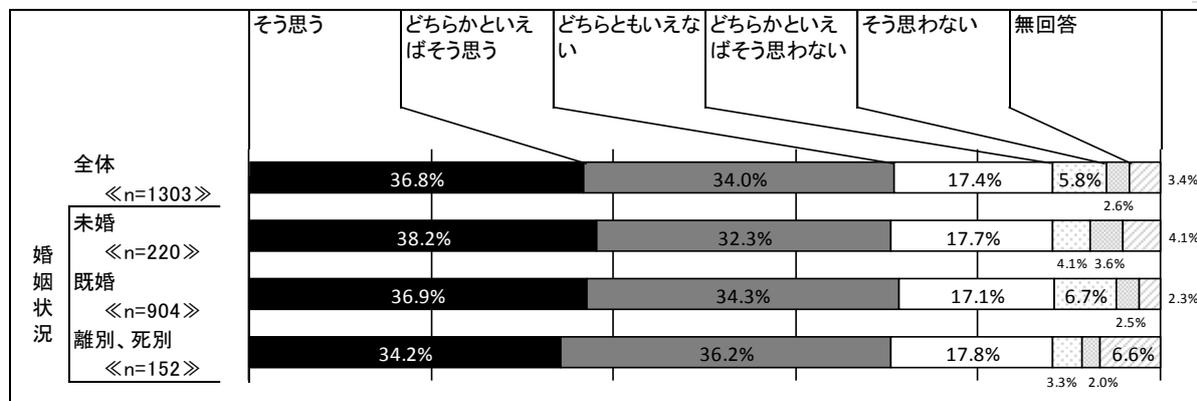
**年齢別**

「そう思う」が最も高いのは30歳未満で41.5%、最も低いのは40代の29.5%であり、その差は12.0ポイント。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは30歳未満で77.3%、最も低いのは70歳以上の64.8%であり、その差は12.5ポイントとなっています。

**詳細分析**

婚姻状況別では、「そう思う」が最も高いのは未婚で38.2%、最も低いのは離別、死別の34.2%であり、その差は4.0ポイントとなっています。

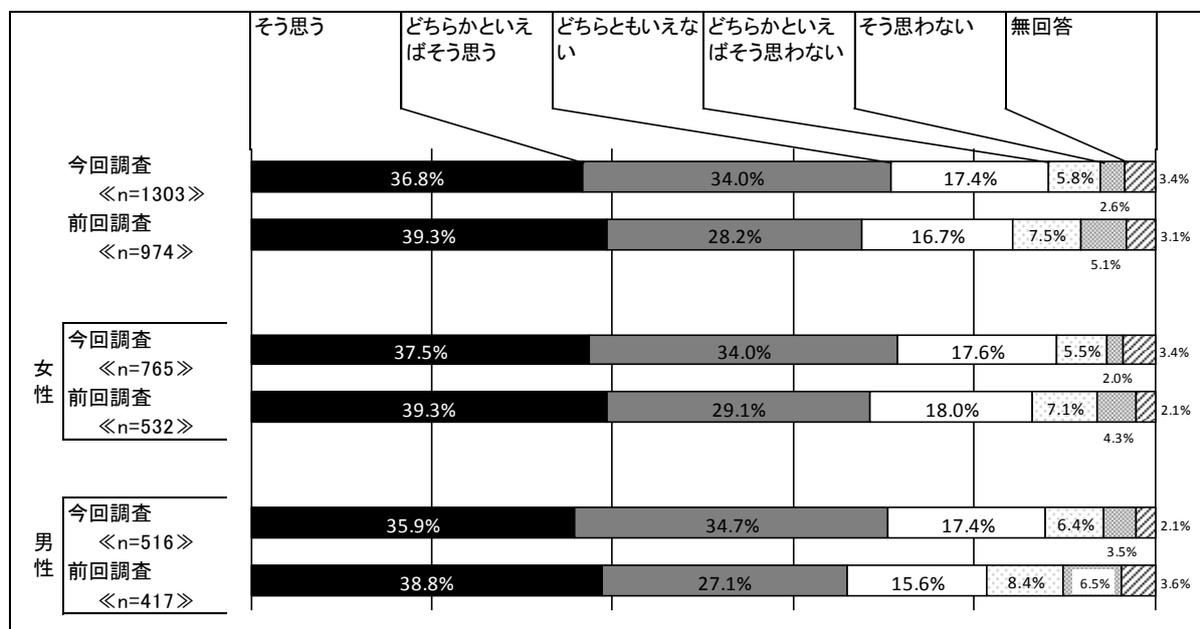
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは既婚で71.2%、最も低いのは離別、死別の70.4%であり、その差は0.8ポイントとなっています。



**前回調査との比較**

「そう思う」は全体で2.5ポイント減少し、女性で1.8ポイント減少し、男性では2.9ポイント減少しました。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体で3.3ポイント増加し、女性は3.1ポイント増加し、男性で4.7ポイント増加しました。

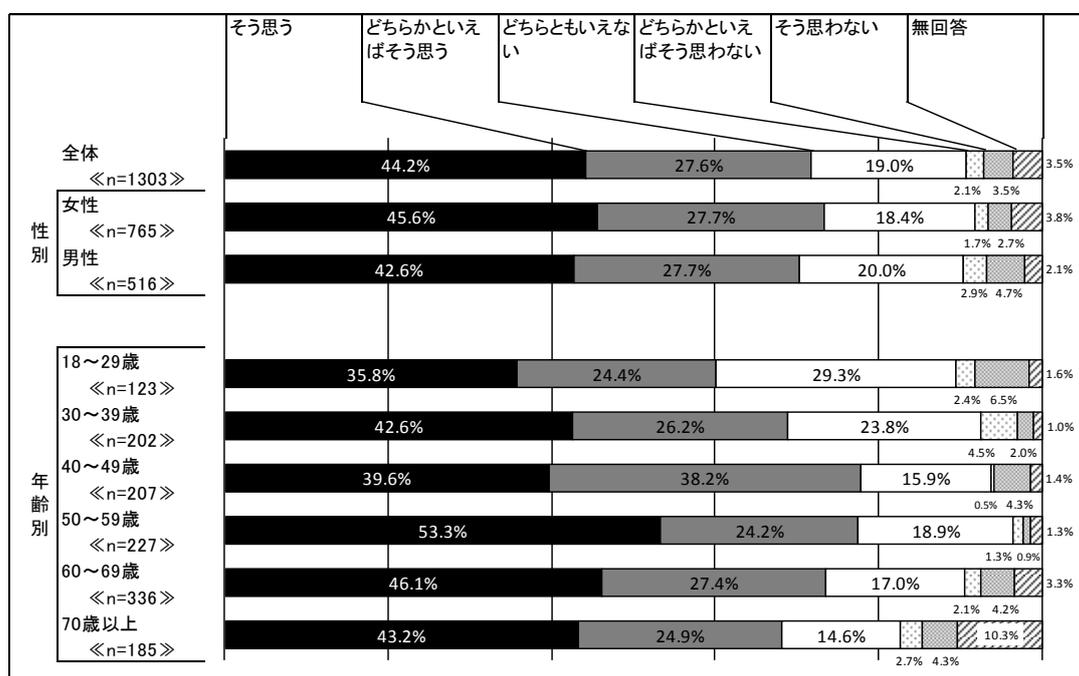


⑦女の子も男の子も同じ程度の学歴を持つほうがよい

- ◆「そう思う」は全体で44.2%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると71.8%となっています。
- ◆「そう思う」を性別で見ると女性45.6%、男性42.6%となっています。
- ◆「そう思う」は未婚で42.3%、既婚で45.6%、離別、死別で38.2%となっています。
- ◆「そう思う」は前回調査と比べ、男女ともに上回ります。

**全体**

「そう思う」44.2% > 「どちらかといえばそう思う」27.6%  
 > 「どちらともいえない」19.0% > 「そう思わない」3.5%  
 > 「どちらかといえばそう思わない」2.1%



**性別**

「そう思う」は女性 45.6%、男性 42.6%であり、女性が 3.0 ポイント上回ります。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では、女性 73.3%、男性 70.3%であり、女性が 3.0 ポイント上回ります。

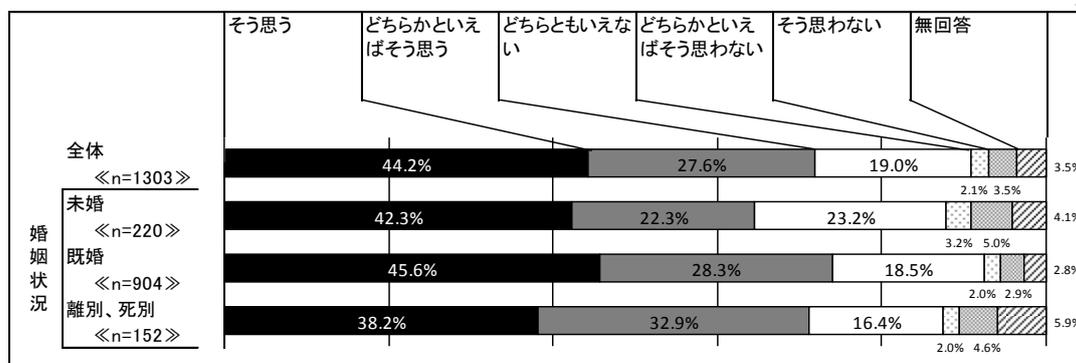
**年齢別**

「そう思う」が最も高いのは 50 代で 53.3%、最も低いのは 30 歳未満の 35.8%であり、その差は 17.5 ポイント。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは 40 代で 77.8%、最も低いのは 30 歳未満の 60.2%であり、その差は 17.6 ポイントとなっています。

**詳細分析**

婚姻状況別では、「そう思う」が最も高いのは既婚で45.6%、最も低いのは離別、死別の38.2%であり、その差は7.4ポイントとなっています。

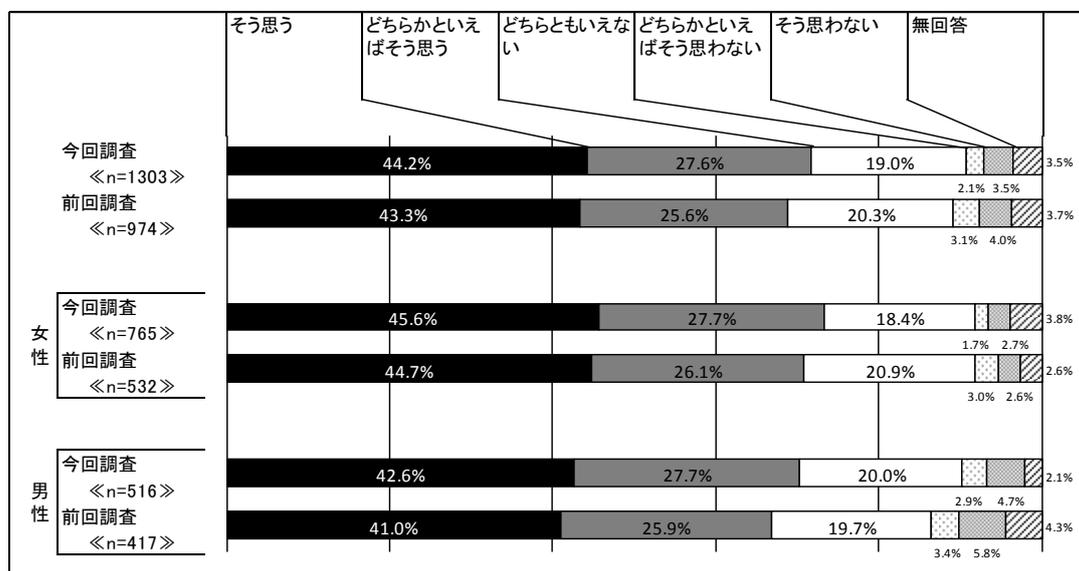
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で最も高いのは既婚で73.9%、最も低いのは未婚の64.6%であり、その差は9.3ポイントとなっています。



**前回調査との比較**

「そう思う」は全体で0.9ポイント増加し、女性で0.9ポイント増加し、男性では1.6ポイント増加しました。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体で2.9ポイント増加し、女性は2.5ポイント増加し、男性で3.4ポイント増加しました。



## 6 子育て・介護について

### （1）子育てについて不安に思うこと

|       |   |
|-------|---|
| 問 1 1 | 子育てを経験している（いた）方のみお答えください。<br>子育てについて、何か不安に思うこと（思ったこと）、困っていること（困ったこと）はありますか。（○は3つまで） |
|-------|---|

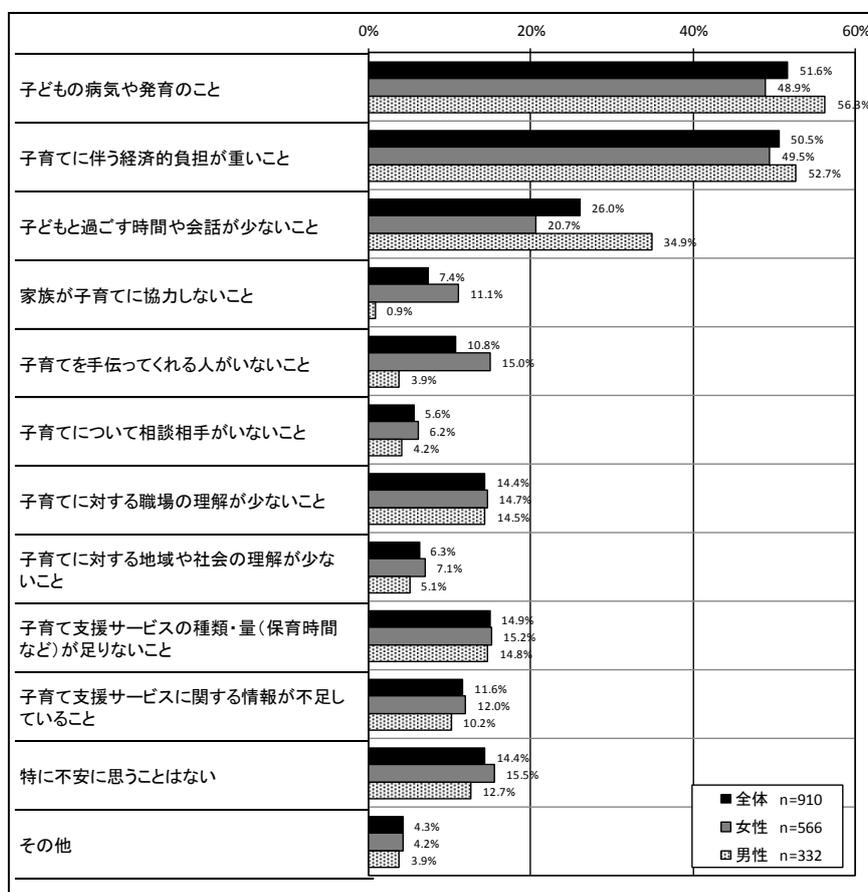
- ◆子育てについての不安は「子どもの病気や発育」が51.6%と最も高く、次いで「子育てに伴う経済的負担」が50.5%と続いています。
- ◆性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「子育てを手伝ってくれる人がいないこと」で11.1ポイント、男性が上回るもので最も差が大きいものは、「子どもと過ごす時間や会話が少ないこと」で14.2ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「子育てに伴う経済的負担が重いこと」が1.3ポイント増、減少が最も大きい項目は、「子どもの病気や発育のこと」で1.9ポイント減となっています。

#### 全体

「子どもの病気や発育のこと」51.6%

> 「子育てに伴う経済的負担が重いこと」50.5%

> 「子どもと過ごす時間や会話が少ないこと」26.0%

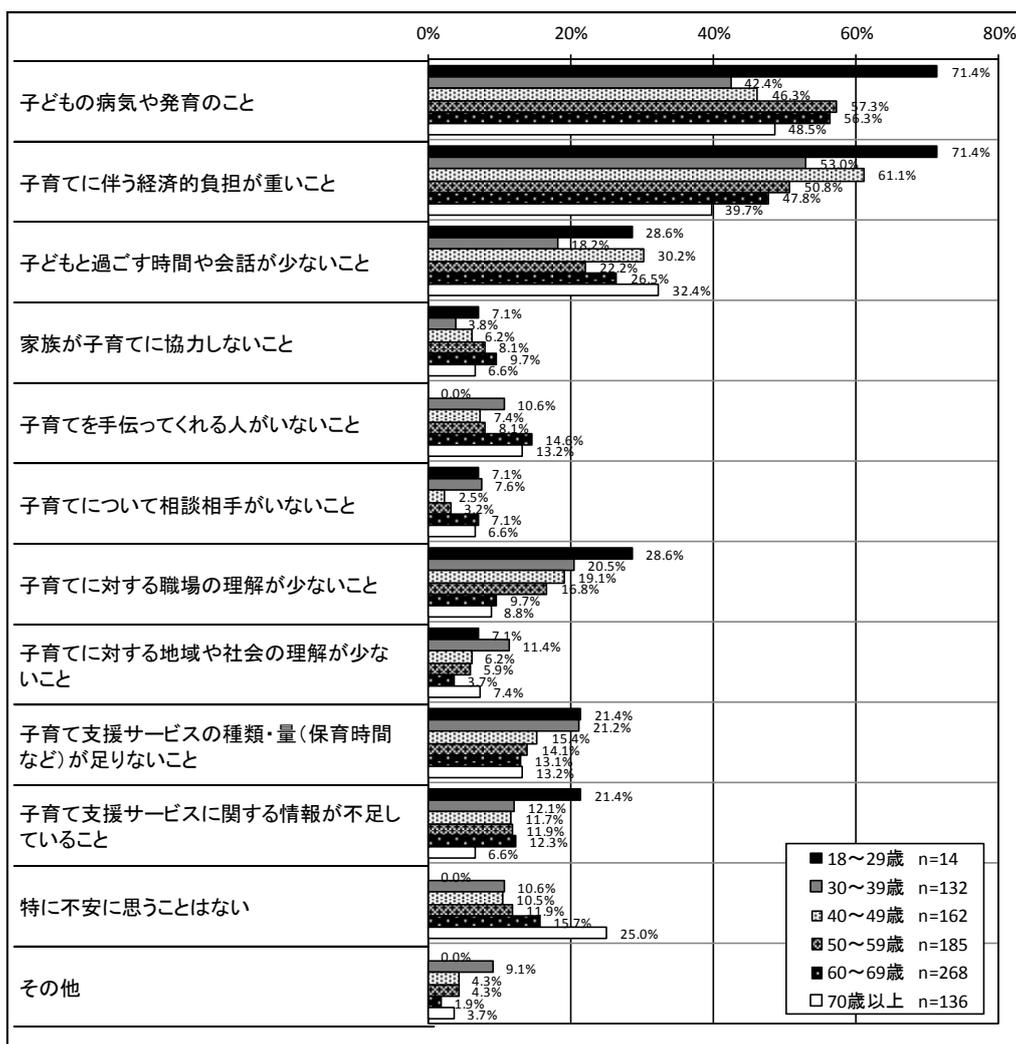


**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「子育てを手伝ってくれる人がいないこと」で女性 15.0%、男性 3.9%であり、女性が 11.1 ポイント上回ります。次いで、「家族が子育てに協力しないこと」で女性 11.1%、男性 0.9%であり、女性が 10.2 ポイント上回ります。

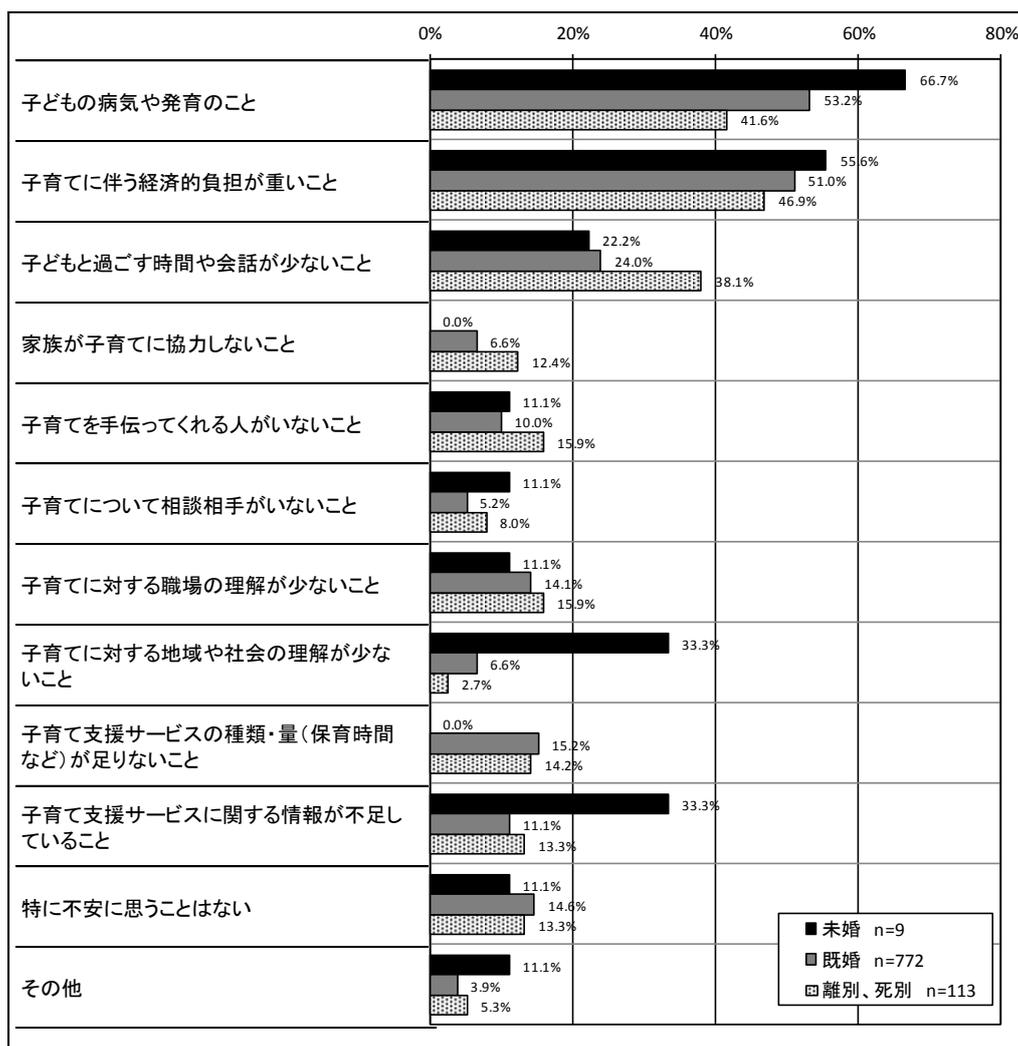
男性が上回る項目は、「子どもと過ごす時間や会話が少ないこと」で女性 20.7%、男性 34.9%であり、男性が 14.2 ポイント上回ります。次いで、「子どもの病気や発育のこと」で女性 48.9%、男性 56.3%であり、男性が 7.4 ポイント上回ります。

**年齢別**



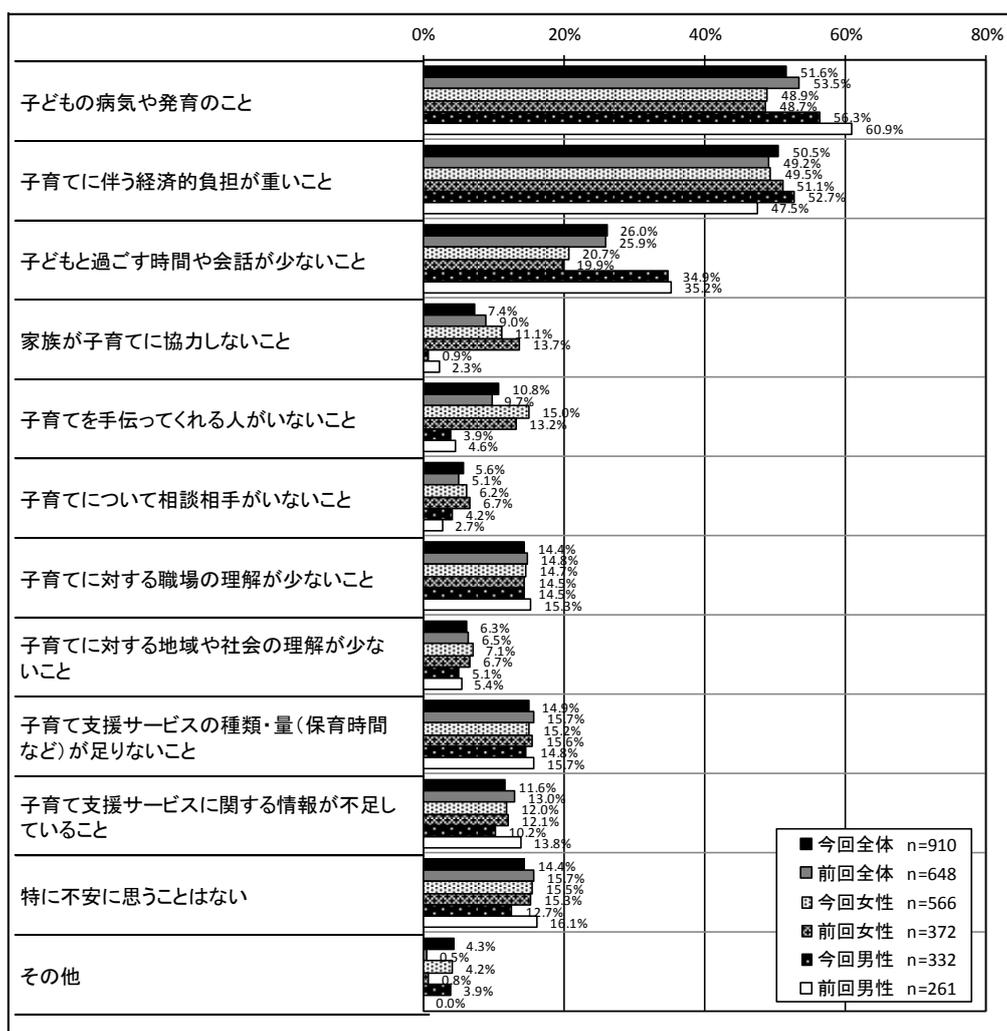
年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「子育てに伴う経済的負担が重いこと」であり、最も高いのは 30 歳未満で 71.4%、最も低いのは 70 歳以上で 39.7%であり、その差は 31.7 ポイントとなっています。次いで、「子どもの病気や発育のこと」であり、最も高いのは 30 歳未満で 71.4%、最も低いのは 30 代で 42.4%であり、その差は 29.0 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「特に不安に思うことはない」であり、最も高いのは 70 歳以上で 25.0%、最も低いのは 30 歳未満で 0.0%であり、その差は 25.0 ポイントとなっています。

婚姻の状況別



婚姻の状況別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「子育てに対する地域や社会の理解が少ないこと」であり、最も高いのは未婚で 33.3%、最も低いのは離別、死別で 2.7%であり、その差は 30.6 ポイントとなっています。次いで、「子どもの病気や発育のこと」であり、最も高いのは未婚で 66.7%、最も低いのは離別、死別で 41.6%であり、その差は 25.1 ポイント。3 番目に大きいのは、「子育て支援サービスに関する情報が不足していること」であり、最も高いのは未婚で 33.3%、最も低いのは既婚で 11.1%であり、その差は 22.2 ポイントとなっています。

前回調査との比較



前回調査を上回った項目のうち、上位は、「子育てに伴う経済的負担が重いこと」が 1.3 ポイント、「子育てを手伝ってくれる人がいないこと」が 1.1 ポイントとなっています。

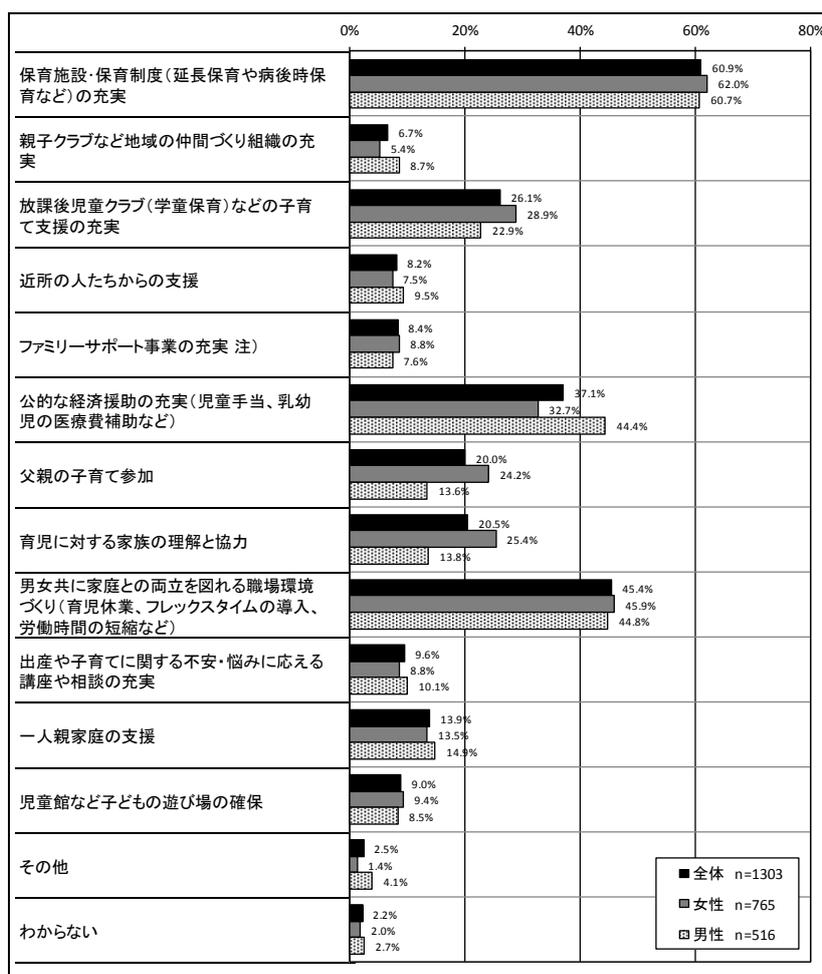
前回調査を下回った項目のうち、上位は、「子どもの病気や発育のこと」が 1.9 ポイント、「家族が子育てに協力しないこと」が 1.6 ポイント、「子育て支援サービスに関する情報が不足していること」が 1.4 ポイントとなっています。

（2）子どもを安心して産み育てる環境整備に必要なこと

|       |   |
|-------|---|
| 問 1 2 | 全員にお聞きします。<br>人々が安心して子どもを生み育てられる環境を整えるには、主にどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで） |
|-------|---|

- ◆子どもを安心して産み育てる環境整備に必要なことは、「保育施設・保育制度の充実」が60.9%と最も高く、次いで、「男女共に家庭との両立を図れる職場環境づくり（育児休業、フレックスタイムの導入、労働時間の短縮など）」が45.4%と続いています。
- ◆性別でみると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「育児に対する家族の理解と協力」で11.6ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「公的な経済援助の充実」で11.7ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て支援の充実」が5.7ポイント増、減少が最も大きい項目は、「公的な経済援助の充実（児童手当、乳幼児の医療費補助など）」が7.6ポイント減となっています。

**全体** 「保育施設・保育制度（延長保育や病後時保育など）の充実」60.9%  
 > 「男女共に家庭との両立を図れる職場環境づくり」45.4%  
 > 「公的な経済援助の充実（児童手当、乳幼児の医療費補助など）」37.1%



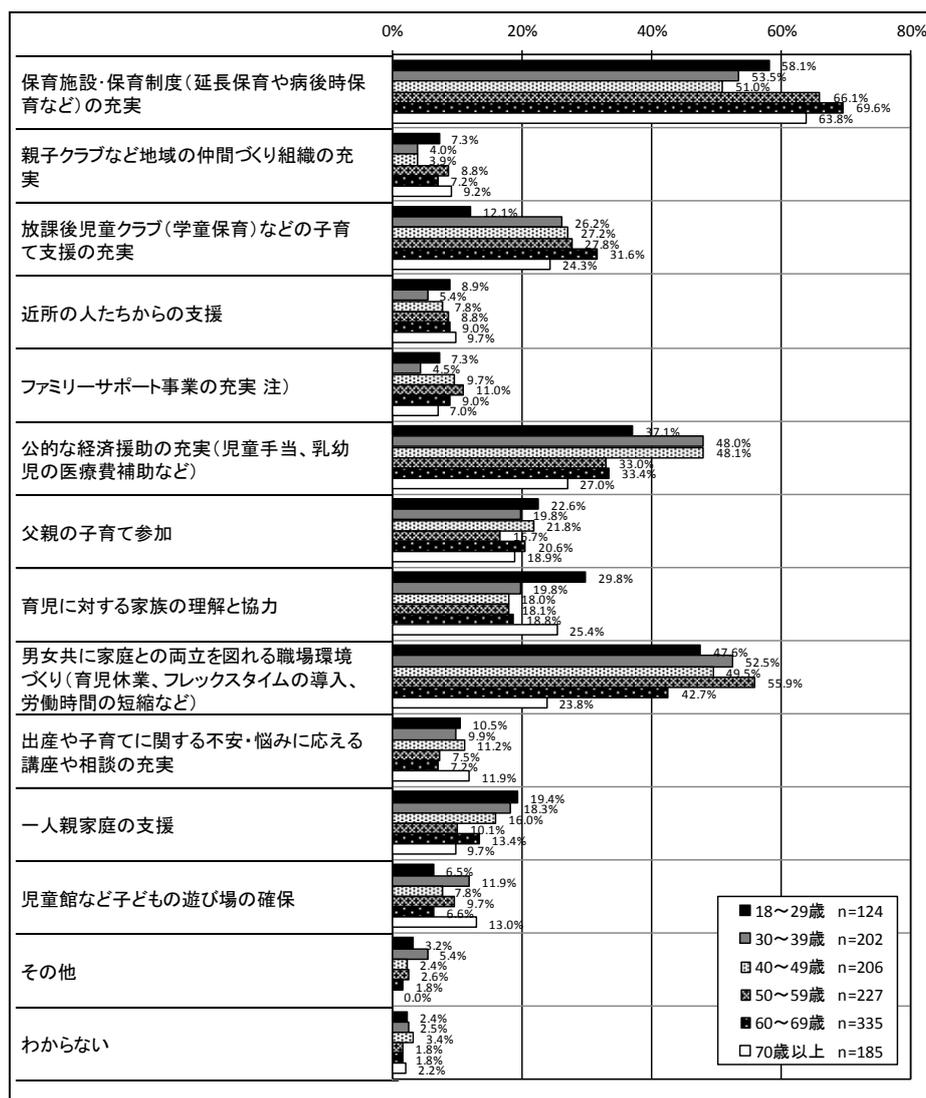
注) ファミリーサポート事業：「子育ての手伝いができる人」と「子育ての手助けをしてほしい人」が会員となって、いろいろな援助活動を行う事業のことです。

**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「育児に対する家族の理解と協力」で女性 25.4%、男性 13.8%であり、女性が 11.6 ポイント上回ります。次いで、「父親の子育て参加」で女性 24.2%、男性 13.6%であり、女性が 10.6 ポイント上回ります。3 番目は、「放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て支援の充実」であり、女性 28.9%、男性 22.9%であり、女性が 6.0 ポイント上回ります。

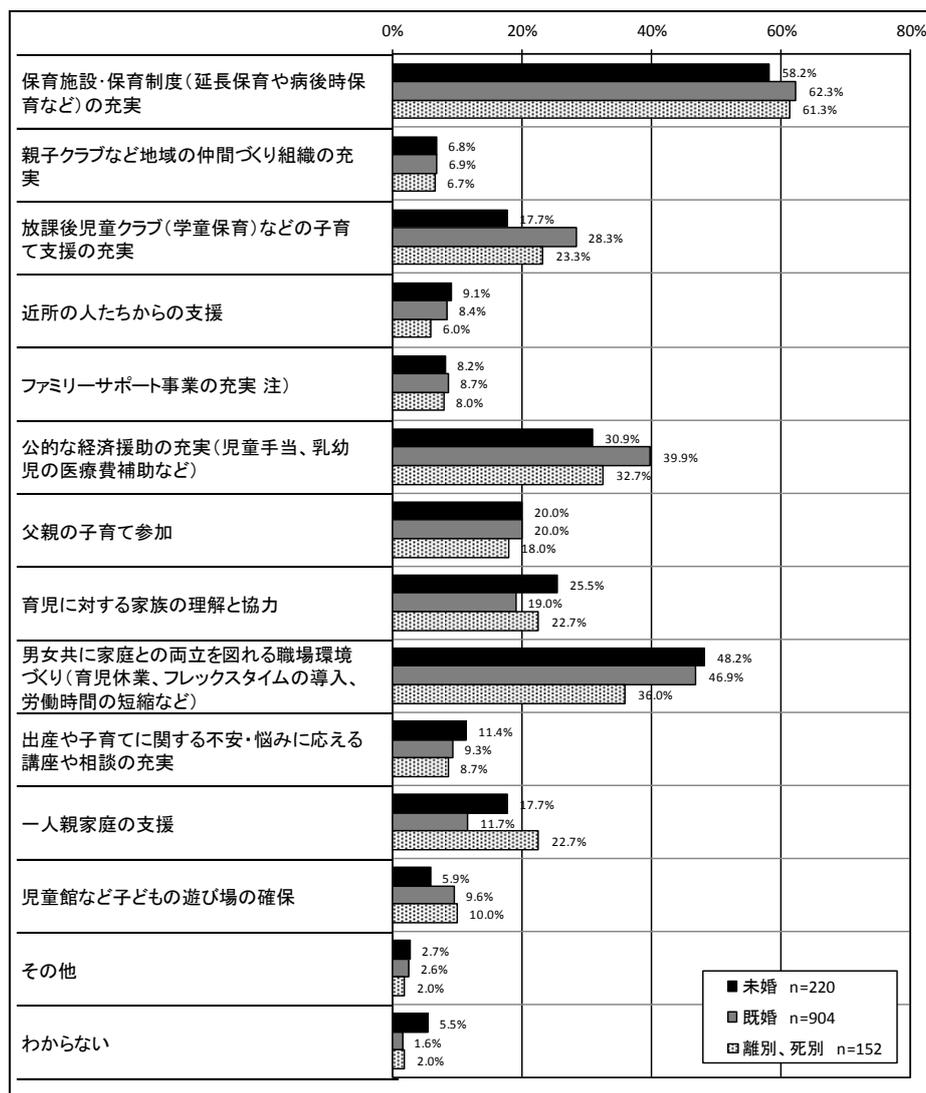
男性が上回る項目は、「公的な経済援助の充実（児童手当、乳幼児の医療費補助など）」で女性 32.7%、男性 44.4%であり、男性が 11.7 ポイント上回ります。

**年齢別**



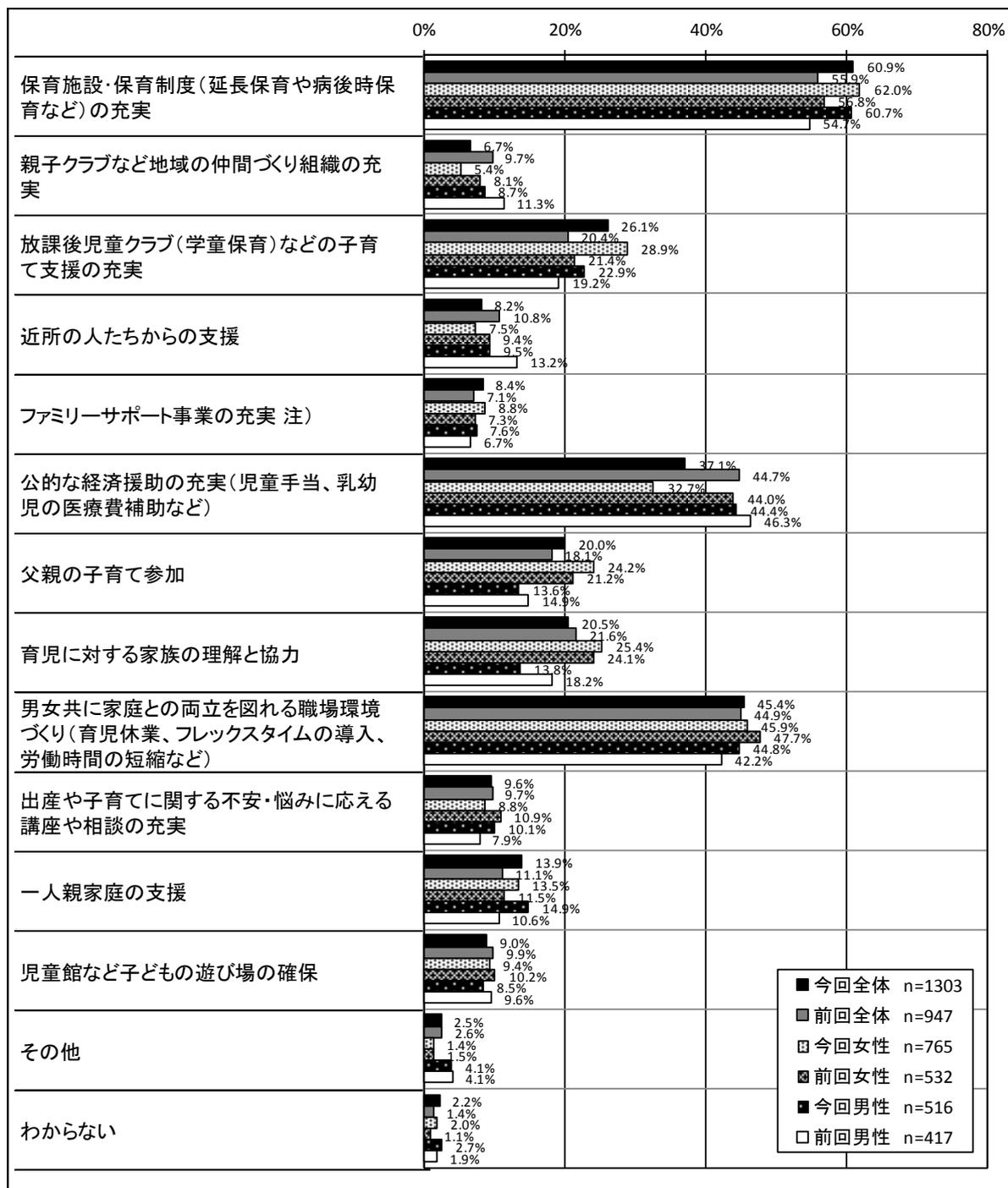
年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「男女共に家庭との両立を図れる職場環境づくり」であり、最も高いのは50代で55.9%、最も低いのは70歳以上で23.8%であり、その差は32.1ポイントとなっています。次いで、「公的な経済援助の充実」であり、最も高いのは40代で48.1%、最も低いのは70歳以上で27.0%であり、その差は21.1ポイントとなっています。3番目に大きいのは、「放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て支援の充実」であり、最も高いのは60代で31.6%、最も低いのは30歳未満で12.1%であり、その差は19.5ポイントとなっています。

**婚姻の状況別**



婚姻の状況別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「男女共に家庭との両立を図れる職場環境づくり」であり、最も高いのは未婚で 48.2%、最も低いのは離別、死別で 36.0%であり、その差は 12.2 ポイントとなっています。次いで、「一人親家庭の支援」であり、最も高いのは離別、死別で 22.7%、最も低いのは既婚で 11.7%であり、その差は 11.0 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て支援の充実」であり、最も高いのは既婚で 28.3%、最も低いのは未婚で 17.7%であり、その差は 10.6 ポイントとなっています。

前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て支援の充実」が5.7ポイント、「保育施設・保育制度（延長保育や病後時保育など）の充実」が5.0ポイントと続いています。

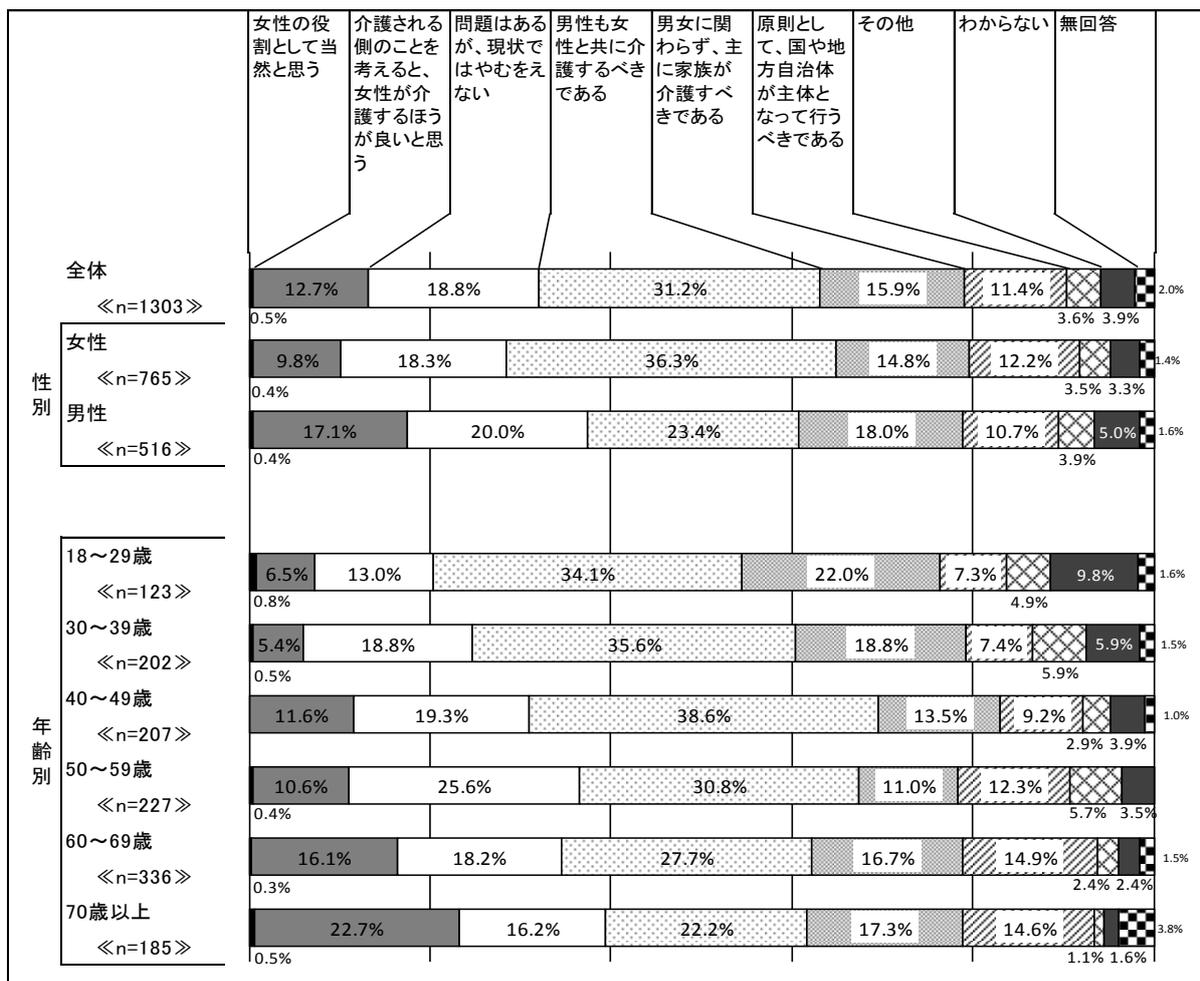
前回調査を下回った項目は、「公的な経済援助の充実（児童手当、乳幼児の医療費補助など）」が7.6ポイント、「親子クラブなど地域の仲間づくり組織の充実」が3.0ポイントと続いています。

（3）高齢者介護が女性の役割となりがちなこと

問 1 3 厚生労働省が実施した国民生活基礎調査によると、要介護者などが同居の場合、介護者の約7割が女性という実態が示されています。高齢者介護が女性の役割となりがちであることについて、どのように考えますか。

- ◆高齢者介護は「男性も女性も共に介護すべきである」が31.2%と最も多く、次いで、「問題はあるが、現状ではやむをえない」が18.8%と続いています。
- ◆性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「男性も女性と共に介護すべきである」で12.9ポイント、男性が上回るもので最も差が大きいものは、「介護される側のことを考えると、女性が介護するほうが良いと思う」で7.3ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「原則として、国や地方自治体が主体となっていくべきである」が1.7ポイント増、減少が最も大きい項目は、「介護される側のことを考えると、女性が介護するほうが良いと思う」で5.4ポイント減となっています。

**全体 「男性も女性と共に介護すべきである」 31.2%**  
 > 「問題はあるが、現状ではやむをえない」 18.8%  
 > 「男女に関わらず、主に家族が介護すべきである」15.9%



**性別**

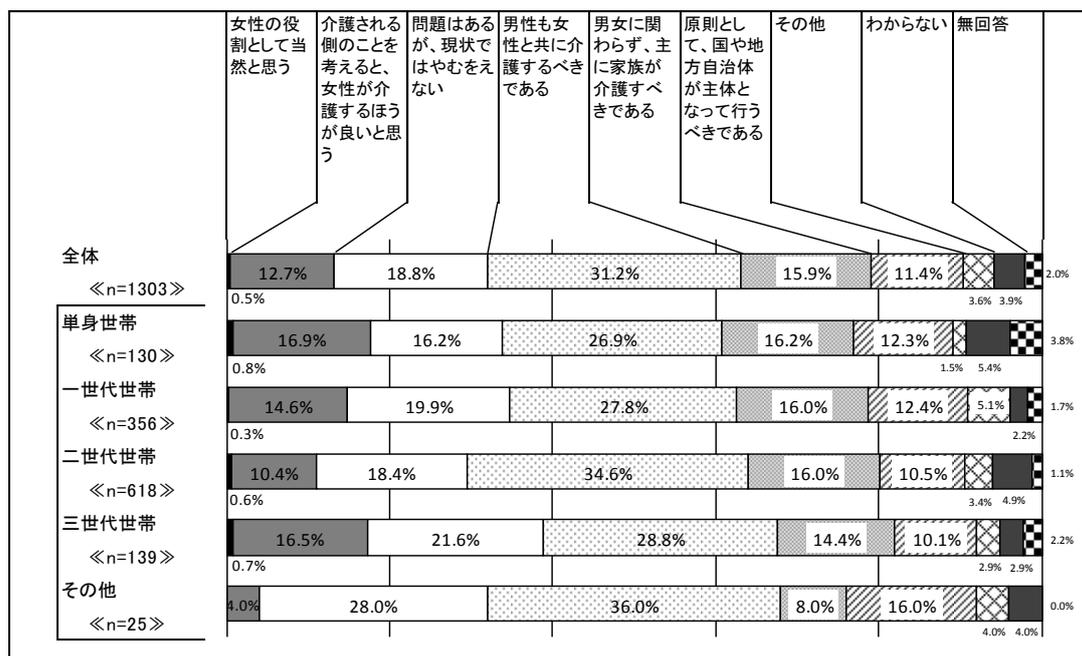
性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「男性も女性と共に介護するべきである」で女性 36.3%、男性 23.4%であり、女性が 12.9 ポイント上回ります。次いで、「原則として、国や地方自治体が主体となって行うべきである」で女性 12.2%、男性 10.7%であり、女性が 1.5 ポイント上回ります。

女性と男性で差があるもので、男性が上回る項目は、「介護される側のことを考えると、女性が介護するほうが良いと思う」で女性 9.8%、男性 17.1%であり、男性が 7.3 ポイント上回ります。次いで、「男女に関わらず、主に家族が介護すべきである」で女性 14.8%、男性 18.0%であり、男性が 3.2 ポイント上回ります。

**年齢別**

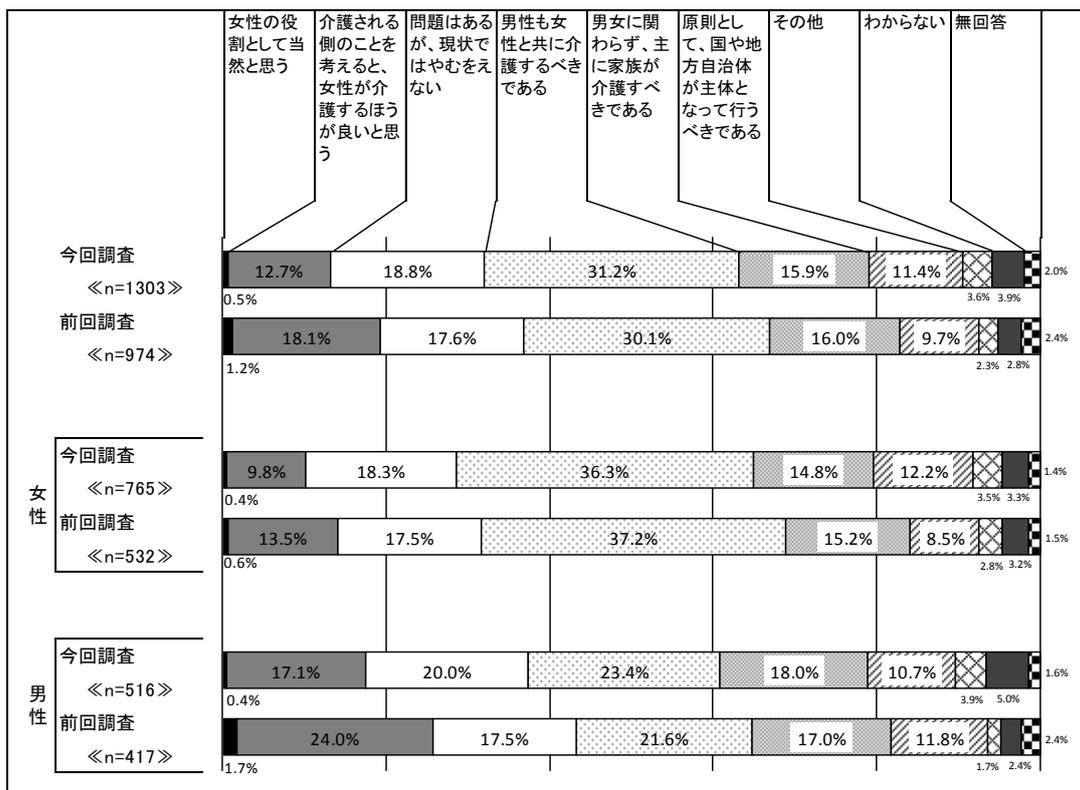
年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「介護される側のことを考えると、女性が介護するほうが良いと思う」であり、最も高いのは 70 歳以上で 22.7%、最も低いのは 30 代で 5.4%であり、その差は 17.3 ポイントとなっています。次いで、「男性も女性と共に介護するべきである」であり、最も高いのは 40 代で 38.6%、最も低いのは 70 歳以上で 22.2%であり、その差は 16.4 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「問題はあるが、現状ではやむをえない」であり、最も高いのは 50 代で 25.6%、最も低いのは 30 歳未満で 13.0%であり、その差は 12.6 ポイントとなっています。

**世帯別**



世帯別で差があるもののうち、差が最も大きいのは「介護される側のことを考えると、女性が介護するほうが良いと思う」であり、最も高いのは“単身世帯”で 16.9%、最も低いのは“その他”で 4.0%、その差は 12.9 ポイントとなっています。次いで「問題はあるが、現状ではやむをえない」であり、最も高いのは“その他”で 28.0%、最も低いのは“単身世帯”で 16.2%、その差は 11.8 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「男性も女性と共に介護するべきである」であり、最も高いのは“その他”で 36.0%、最も低いのは“単身世帯”で 26.9%、その差は 9.1 ポイントとなっています。

前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「原則として、国や地方自治体が主体となって行うべきである」が 1.7 ポイント、「男性も女性と共に介護するべきである」が 1.1 ポイントと続いています。

前回調査を下回った項目は、「介護される側のことを考えると、女性が介護するほうが良いと思う」が 5.4 ポイント、「女性の役割として当然と思う」が 0.7 ポイントと続いています。

## 7 社会参加活動について

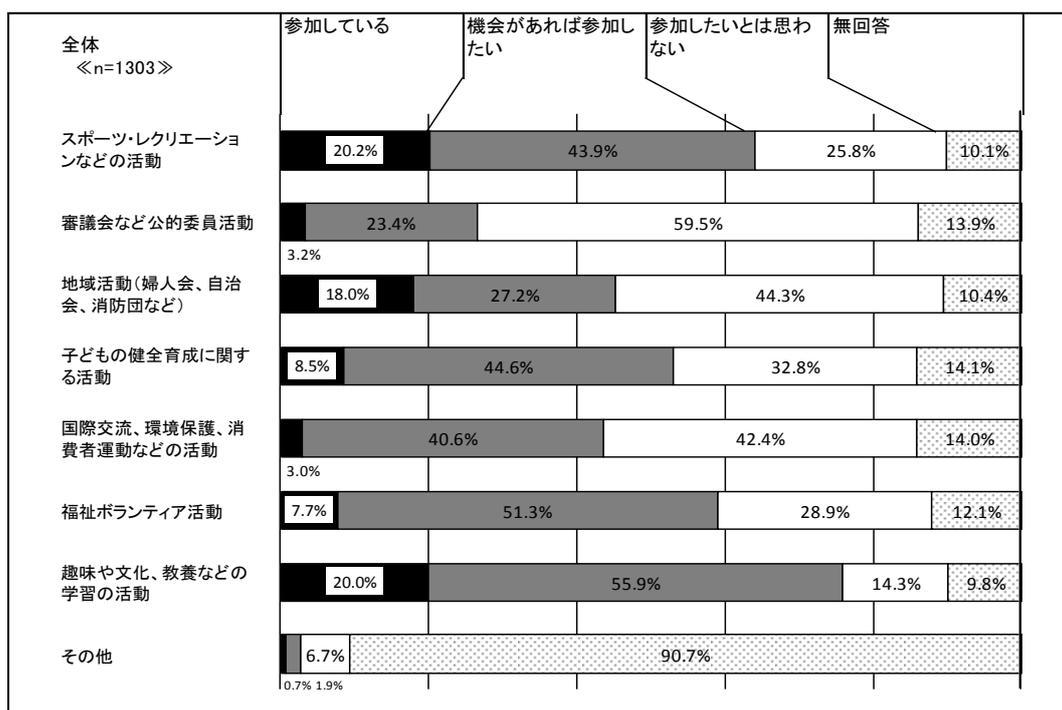
### （1）社会活動について

|       |  |
|-------|--|
| 問 1 4 | 現在、どのような社会活動に参加していますか。またその活動への参加についてどう思いますか。 |
|-------|--|



- ◆「参加している」活動は【スポーツ・レクリエーション】が20.2%と最も多く、次いで【趣味や文化、教養などの学習の活動】が20.0%、【地域活動（婦人会、自治会、消防団など）】が18.0%と続いています。
- ◆「機会があれば参加したい」活動は【趣味や文化、教養などの学習の活動】が55.9%と最も多く、次いで【福祉ボランティア活動】が51.3%、【子どもの健全育成に関する活動】が44.6%と続いています。
- ◆「参加したいとは思わない」活動は【審議会など公的委員活動】が59.5%と最も多く、【地域活動（婦人会、自治会、消防団など）】が44.3%、【国際交流、環境保護、消費者運動などの活動】が42.4%と続いています。

#### 全体



現在、「参加している」社会活動は【スポーツ・レクリエーション】（20.2%）、【趣味や文化、教養などの学習の活動】（20.0%）、【地域活動】（18.0%）と続いています。

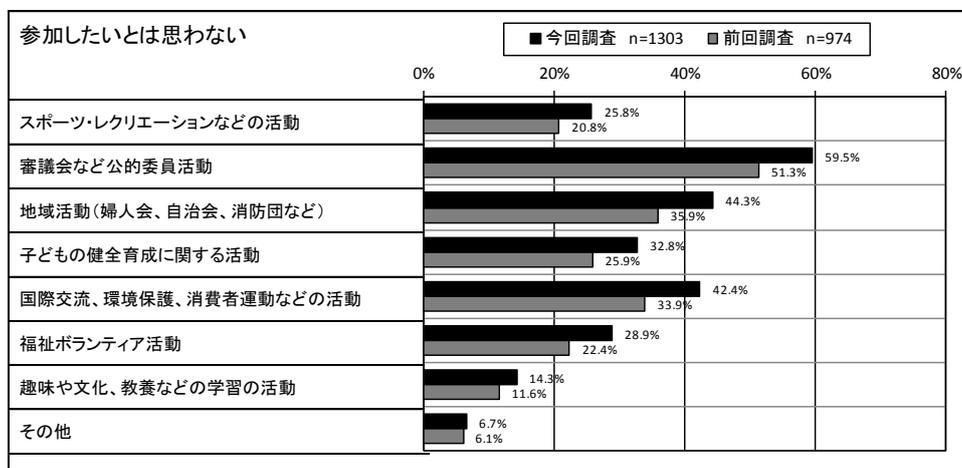
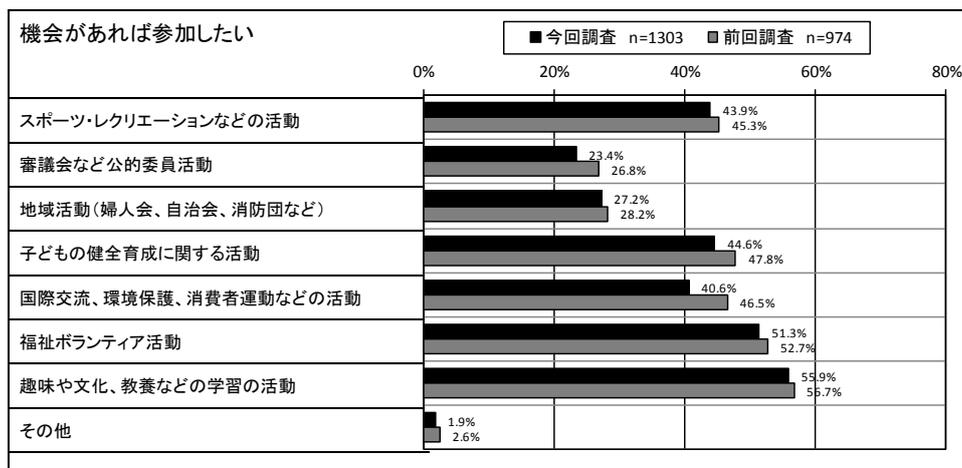
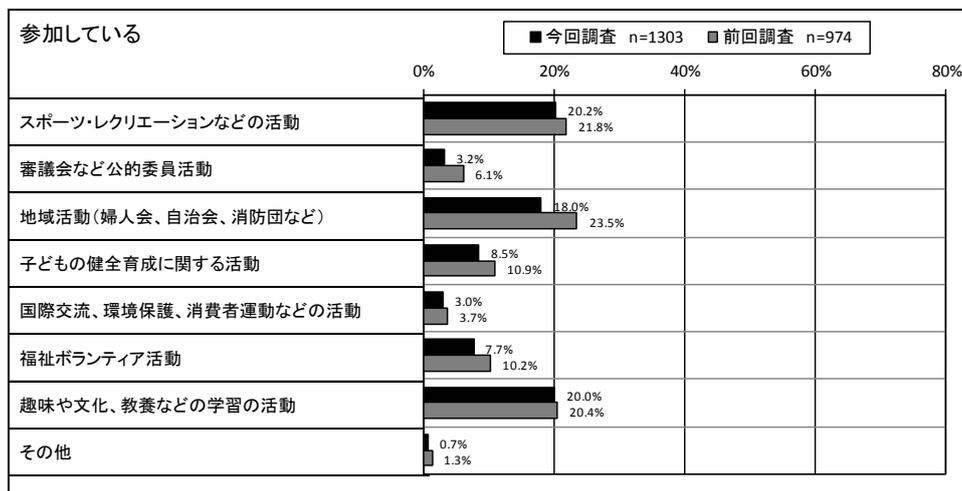
「機会があれば参加したい」社会活動としては【趣味や文化、教養などの学習の活動】（55.9%）、【福祉ボランティア活動】（51.3%）、【子どもの健全育成に関する活動】（44.6%）、【スポーツ・レクリエーション】（43.9%）、【国際交流、環境保護、消費者運動などの活動】（40.6%）と続いています。なお、「参加したいとは思わない」活動は【公的委員活動】（59.5%）、【地域活動（婦人会、自治会、消防団など）】（44.3%）と続いています。

**前回調査との比較**

「参加している」社会活動は、すべての活動において前回調査より下回っています。

「機会があれば参加したい」社会活動についても、すべての活動において前回調査より下回ります。

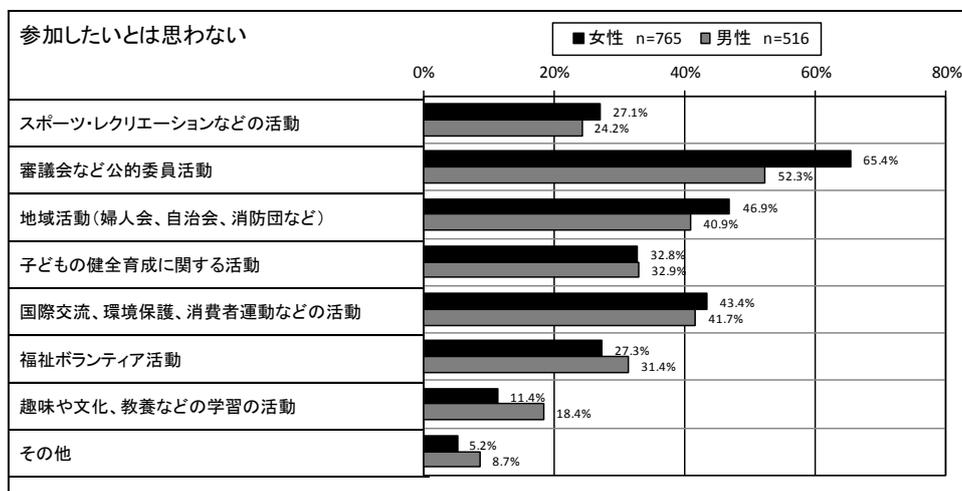
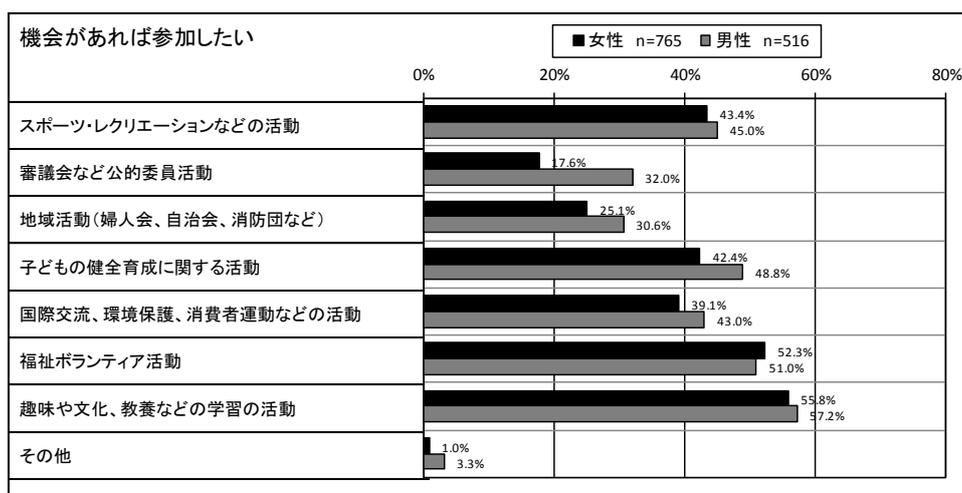
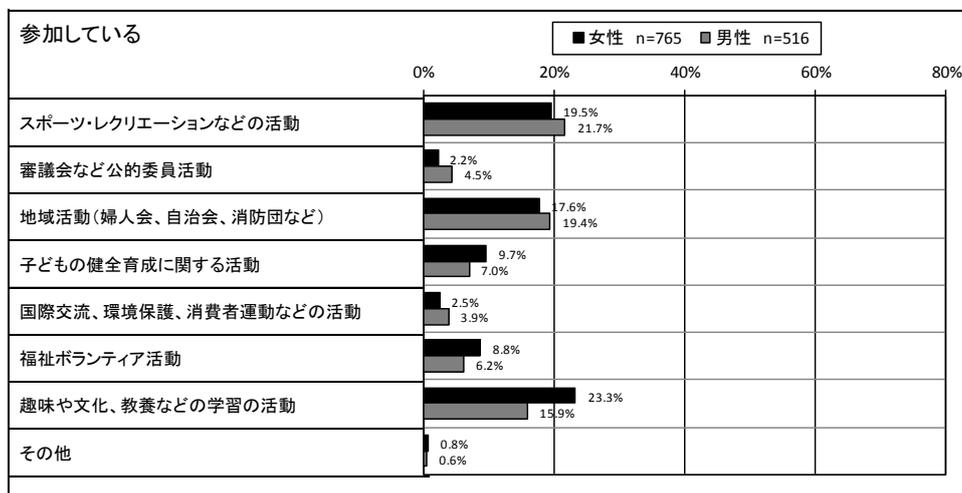
一方で、「参加したいとは思わない」社会活動については、すべての活動において前回調査より上回ります。



## Ⅱ 調査結果（7 社会参加活動について）

### 性別

「参加している」社会活動について、女性が上回るものは、【趣味や文化、教養などの学習の活動】（女性 23.3%、男性 15.9%）、【子どもの健全育成に関する活動】（女性 9.7%、男性 7.0%）などです。男性が上回っているものは【スポーツ・レクリエーション】（男性 21.7%、女性 19.5%）、【地域活動】（男性 19.4%、女性 17.6%）などとなっています。



詳細分析（項目別）

①スポーツ・レクリエーション

- ◆「参加している」は全体で20.2%となっています。
- ◆「参加している」を性別で見ると女性19.5%、男性21.7%となっています。
- ◆前回調査と比べ、「参加している」は全体で1.6ポイント減少、女性で1.8ポイント増加、男性で5.2ポイント減少となっています。

全体

「機会があれば参加したい」43.9% > 「参加したいとは思わない」25.8%  
 > 「参加している」20.2%

|        |                      | 参加している | 機会があれば参加したい | 参加したいとは思わない | 無回答   |      |
|--------|----------------------|--------|-------------|-------------|-------|------|
| 性別     | 全体 <n=1303>          | 20.2%  | 43.9%       | 25.8%       | 10.1% |      |
|        | 女性 <n=765>           | 19.5%  | 43.4%       | 27.1%       | 10.1% |      |
|        | 男性 <n=516>           | 21.7%  | 45.0%       | 24.2%       | 9.1%  |      |
| 前回調査   | 全体 <n=974>           | 21.8%  | 45.3%       | 20.8%       | 12.1% |      |
|        | 女性 <n=532>           | 17.7%  | 47.4%       | 21.6%       | 13.3% |      |
|        | 男性 <n=417>           | 26.9%  | 42.7%       | 20.4%       | 10.0% |      |
| 年齢別    | 18～29歳 <n=123>       | 8.9%   | 60.2%       | 29.3%       |       | 1.6% |
|        | 30～39歳 <n=202>       | 14.4%  | 49.0%       | 33.7%       |       | 3.0% |
|        | 40～49歳 <n=207>       | 20.3%  | 46.4%       | 29.0%       |       | 4.3% |
|        | 50～59歳 <n=227>       | 20.3%  | 46.7%       | 26.9%       | 6.2%  |      |
|        | 60～69歳 <n=336>       | 22.6%  | 39.6%       | 23.8%       | 14.0% |      |
|        | 70歳以上 <n=185>        | 30.3%  | 30.3%       | 14.6%       | 24.9% |      |
| 就業状況別  | 会社員・団体職員・公務員 <n=417> | 18.9%  | 52.3%       | 25.7%       |       | 3.1% |
|        | 自営業 <n=134>          | 23.9%  | 41.0%       | 19.4%       | 15.7% |      |
|        | 学生 <n=60>            | 10.0%  | 56.7%       | 31.7%       |       | 1.7% |
|        | パート、アルバイト、派遣 <n=213> | 16.9%  | 48.4%       | 26.3%       | 8.5%  |      |
|        | 家事専業 <n=184>         | 22.3%  | 33.7%       | 30.4%       | 13.6% |      |
|        | 無職 <n=233>           | 25.3%  | 34.3%       | 23.6%       | 16.7% |      |
|        | その他 <n=36>           | 16.7%  | 38.9%       | 33.3%       | 11.1% |      |
| 共働き状況  | 共働き <n=217>          | 24.4%  | 47.9%       | 20.3%       | 7.4%  |      |
|        | 準共働き <n=223>         | 20.6%  | 47.5%       | 25.6%       | 6.3%  |      |
|        | 準共働き① <n=80>         | 20.0%  | 46.3%       | 28.8%       |       | 5.0% |
|        | 準共働き② <n=119>        | 22.7%  | 48.7%       | 24.4%       |       | 4.2% |
|        | 準共働き③ <n=24>         | 12.5%  | 45.8%       | 20.8%       | 20.8% |      |
|        | 非共働き <n=275>         | 19.6%  | 45.1%       | 28.7%       | 6.5%  |      |
|        | 非共働き① <n=117>        | 20.5%  | 53.0%       | 21.4%       |       | 5.1% |
|        | 非共働き② <n=158>        | 19.0%  | 39.2%       | 34.2%       | 7.6%  |      |
|        | その他 <n=169>          | 28.4%  | 34.9%       | 17.2%       | 19.5% |      |
| 末子の年齢別 | 6歳未満 <n=115>         | 15.7%  | 53.0%       | 30.4%       |       | 0.9% |
|        | 6～13歳未満 <n=121>      | 24.0%  | 48.8%       | 23.1%       |       | 4.1% |
|        | 13～19歳未満 <n=86>      | 16.3%  | 55.8%       | 26.7%       |       | 1.2% |
|        | 19歳以上 <n=591>        | 25.0%  | 40.1%       | 21.2%       | 13.7% |      |
| 世帯状況   | 単身世帯 <n=130>         | 13.8%  | 41.5%       | 33.1%       | 11.5% |      |
|        | 一世代世帯 <n=356>        | 22.5%  | 43.0%       | 21.3%       | 13.2% |      |
|        | 二世帯世帯 <n=618>        | 19.7%  | 46.0%       | 27.0%       | 7.3%  |      |
|        | 三世帯世帯 <n=139>        | 23.7%  | 46.8%       | 25.2%       |       | 4.3% |
|        | その他 <n=25>           | 4.2%   | 37.5%       | 37.5%       | 20.8% |      |

**前回調査との比較**

「参加している」は女性で 1.8 ポイント増加し、男性では 5.2 ポイント減少しました。「機会があれば参加したい」は女性で 4.0 ポイント減少し、男性では 2.3 ポイント増加しました。「参加したいとは思わない」が女性で 5.5 ポイント増加し、男性では 3.8 ポイント増加しました。

**性別**

「参加している」は女性 19.5%、男性 21.7%であり、女性が 2.2 ポイント下回ります。「機会があれば参加したい」は女性 43.4%、男性 45.0%であり、女性が 1.6 ポイント下回ります。「参加したいとは思わない」では、女性 27.1%、男性 24.2%であり、女性が 2.9 ポイント上回ります。

**年齢別**

「参加している」が最も高いのは 70 歳以上で 30.3%、最も低いのは 30 歳未満の 8.9%であり、その差は 21.4 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは 30 歳未満で 60.2%、最も低いのは 70 歳以上の 30.3%であり、その差は 29.9 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは 30 代で 33.7%、最も低いのは 70 歳以上の 14.6%であり、その差は 19.1 ポイントとなっています。

**就業状況別**

就業状況別における「参加している」が最も高いのは無職で 25.3%、最も低いのは学生の 10.0%であり、その差は 15.3 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは学生で 56.7%、最も低いのは家事専業の 33.7%であり、その差は 23.0 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのはその他で 33.3%、最も低いのは自営業の 19.4%であり、その差は 13.9 ポイントとなっています。

**共働き状況別**

共働き状況別における「参加している」は“共働き” 24.4%、“準共働き” 20.6%、“非共働き” 19.6%、“その他” 28.4%であり、“その他”が最も高い。

**末子の年齢別**

「参加している」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 25.0%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”の 15.7%であり、その差は 9.3 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 13~19 歳未満”で 55.8%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 40.1%であり、その差は 15.7 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 30.4%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 21.2%であり、その差は 9.2 ポイントとなっています。

**世帯状況別**

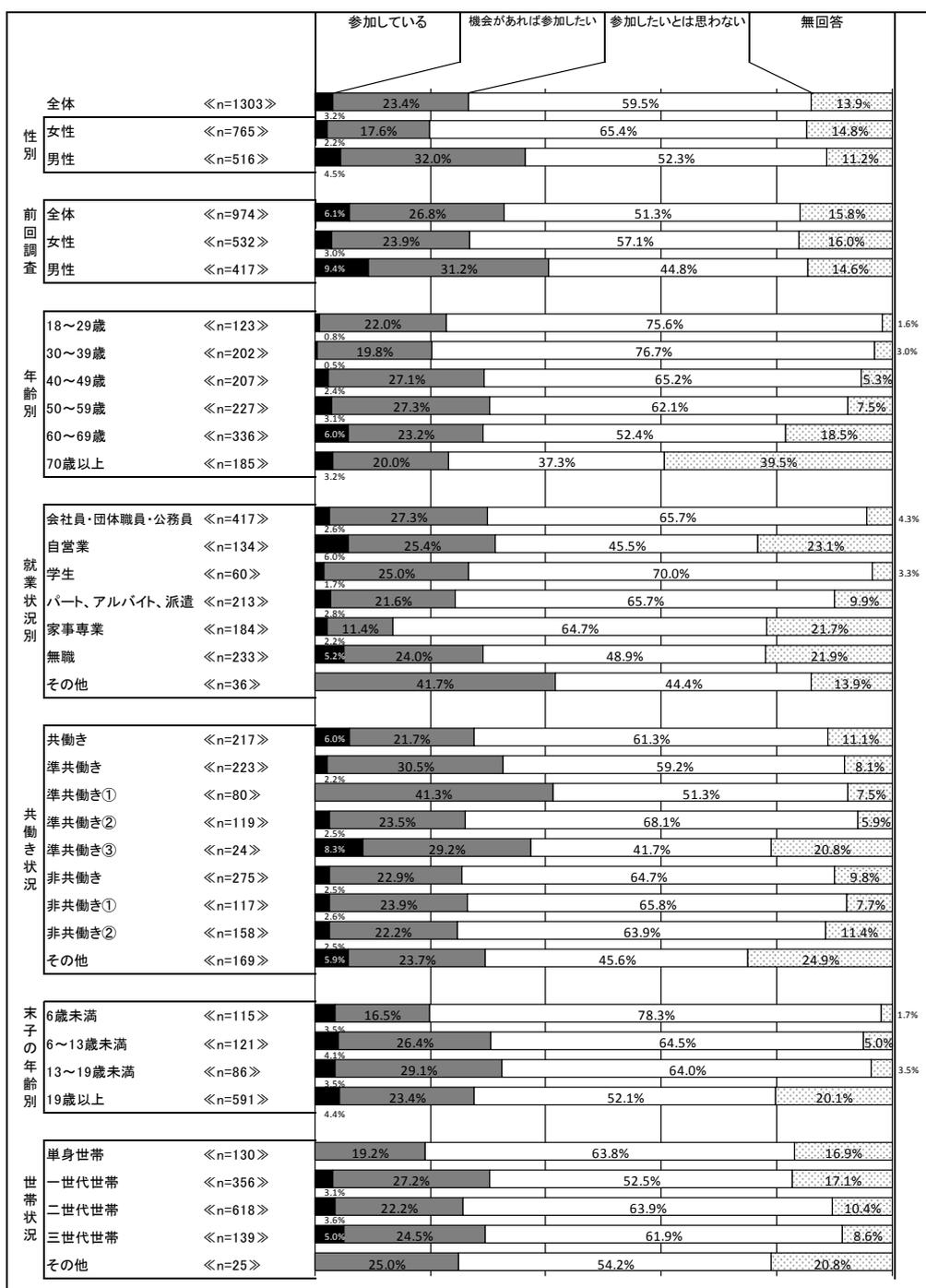
世帯状況別における「参加している」が最も高いのは三世帯世帯で 23.7%、最も低いのはその他の 4.2%であり、その差は 19.5 ポイントとなっています。

② 審議会など公的委員活動

- ◆「参加している」は全体で3.2%となっています。
- ◆「参加している」を性別で見ると女性2.2%、男性4.5%となっています。
- ◆前回調査と比べ、「参加している」は全体で2.9ポイント減少、女性で0.8ポイント減少、男性で4.9ポイント減少となっています。

**全体**

「参加したいとは思わない」59.5% > 「機会があれば参加したい」23.4%  
 > 「参加している」3.2%



### 前回調査との比較

「参加している」は女性で 0.8 ポイント減少し、男性では 4.9 ポイント減少しました。「機会があれば参加したい」は女性で 6.3 ポイント減少し、男性では 0.8 ポイント増加しました。「参加したいとは思わない」が女性で 8.3 ポイント増加し、男性では 7.5 ポイント増加しました。

### 性別

「参加している」は女性 2.2%、男性 4.5%であり、女性が 2.3 ポイント下回ります。「機会があれば参加したい」は女性 17.6%、男性 32.0%であり、女性が 14.4 ポイント下回ります。「参加したいとは思わない」では、女性 65.4%、男性 52.3%であり、女性が 13.1 ポイント上回ります。

### 年齢別

「参加している」が最も高いのは 60 代で 6.0%、最も低いのは 30 代の 0.5%であり、その差は 5.5 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは 50 代で 27.3%、最も低いのは 30 代の 19.8%であり、その差は 7.5 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは 30 代で 76.7%、最も低いのは 70 歳以上の 37.3%であり、その差は 39.4 ポイントとなっています。

### 就業状況別

就業状況別における「参加している」が最も高いのは自営業で 6.0%、最も低いのはその他の 0.0%であり、その差は 6.0 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのはその他で 41.7%、最も低いのは家事専業の 11.4%であり、その差は 30.3 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは学生で 70.0%、最も低いのはその他の 44.4%であり、その差は 25.6 ポイントとなっています。

### 共働き状況別

共働き状況別における「参加している」は“共働き” 6.0%、“準共働き” 2.2%、“非共働き” 2.5%、“その他” 5.9%であり、“共働き”が最も高い。

### 末子の年齢別

「参加している」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 4.4%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”“一番下の子が 13~19 歳未満”の 3.5%であり、その差は 0.9 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 13~19 歳未満”で 29.1%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”の 16.5%であり、その差は 12.6 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 78.3%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 52.1%であり、その差は 26.2 ポイントとなっています。

### 世帯状況別

世帯状況別における「参加している」が最も高いのは三世帯世帯で 5.0%、最も低いのは単身世帯とその他の 0.0%であり、その差は 5.0 ポイントとなっています。

③地域活動（婦人会、自治会、消防団など）

- ◆「参加している」は全体で18.0%となっています。
- ◆「参加している」を性別で見ると女性17.6%、男性19.4%となっています。
- ◆前回調査と比べ、「参加している」は全体で5.5ポイント減少、女性で0.3ポイント増加、男性で11.5ポイント減少となっています。

**全体**

「参加したいとは思わない」44.3% > 「機会があれば参加したい」27.2%  
 > 「参加している」18.0%

|             |                      | 参加している | 機会があれば参加したい | 参加したいとは思わない | 無回答   |
|-------------|----------------------|--------|-------------|-------------|-------|
| 性別          | 全体 <n=1303>          | 18.0%  | 27.2%       | 44.3%       | 10.4% |
|             | 女性 <n=765>           | 17.6%  | 25.1%       | 46.9%       | 10.3% |
|             | 男性 <n=516>           | 19.4%  | 30.6%       | 40.9%       | 9.1%  |
| 前回調査        | 全体 <n=974>           | 23.5%  | 28.2%       | 35.9%       | 12.3% |
|             | 女性 <n=532>           | 17.3%  | 27.8%       | 40.8%       | 14.1% |
|             | 男性 <n=417>           | 30.9%  | 29.3%       | 30.5%       | 9.3%  |
| 年齢別         | 18～29歳 <n=123>       | 34.1%  | 26.8%       | 34.9%       | 4.2%  |
|             | 30～39歳 <n=202>       | 11.4%  | 26.7%       | 59.4%       | 2.5%  |
|             | 40～49歳 <n=207>       | 20.3%  | 29.0%       | 46.4%       | 4.3%  |
|             | 50～59歳 <n=227>       | 20.7%  | 30.0%       | 45.8%       | 3.5%  |
|             | 60～69歳 <n=336>       | 22.3%  | 24.7%       | 38.7%       | 14.3% |
|             | 70歳以上 <n=185>        | 24.9%  | 23.2%       | 22.7%       | 29.2% |
| 就業状況別       | 会社員・団体職員・公務員 <n=417> | 13.4%  | 30.5%       | 52.8%       | 3.4%  |
|             | 自営業 <n=134>          | 25.4%  | 26.9%       | 30.6%       | 17.2% |
|             | 学生 <n=60>            | 38.3%  | 58.3%       | 3.3%        |       |
|             | パート、アルバイト、派遣 <n=213> | 22.1%  | 27.7%       | 44.1%       | 6.1%  |
|             | 家事専業 <n=184>         | 19.0%  | 21.7%       | 44.0%       | 15.2% |
|             | 無職 <n=233>           | 22.3%  | 24.5%       | 35.2%       | 18.0% |
|             | その他 <n=36>           | 25.0%  | 25.0%       | 41.7%       | 8.3%  |
| 共働き状況       | 共働き <n=217>          | 19.4%  | 26.3%       | 45.2%       | 9.2%  |
|             | 準共働き <n=223>         | 23.3%  | 29.1%       | 43.5%       | 4.0%  |
|             | 準共働き① <n=80>         | 18.8%  | 32.5%       | 43.8%       | 5.0%  |
|             | 準共働き② <n=119>        | 25.2%  | 26.9%       | 45.4%       | 2.5%  |
|             | 準共働き③ <n=24>         | 29.2%  | 29.2%       | 33.3%       | 8.3%  |
|             | 非共働き <n=275>         | 20.4%  | 28.7%       | 42.9%       | 8.0%  |
|             | 非共働き① <n=117>        | 23.9%  | 29.9%       | 41.0%       | 5.1%  |
|             | 非共働き② <n=158>        | 17.7%  | 27.8%       | 44.3%       | 10.1% |
| その他 <n=169> | 30.8%                | 19.5%  | 33.1%       | 16.6%       |       |
| 末子の年齢別      | 6歳未満 <n=115>         | 14.8%  | 31.3%       | 52.2%       | 1.7%  |
|             | 6～13歳未満 <n=121>      | 28.9%  | 28.1%       | 38.8%       | 4.1%  |
|             | 13～19歳未満 <n=86>      | 20.9%  | 29.1%       | 48.8%       | 1.2%  |
|             | 19歳以上 <n=591>        | 23.0%  | 26.7%       | 36.0%       | 14.2% |
| 世帯状況        | 単身世帯 <n=130>         | 7.7%   | 25.4%       | 51.5%       | 15.4% |
|             | 一世帯世帯 <n=356>        | 21.9%  | 24.7%       | 40.4%       | 12.9% |
|             | 二世帯世帯 <n=618>        | 17.6%  | 29.6%       | 45.3%       | 7.4%  |
|             | 三世帯世帯 <n=139>        | 23.0%  | 26.6%       | 47.5%       | 2.9%  |
|             | その他 <n=25>           | 12.5%  | 29.2%       | 45.8%       | 12.5% |

### 前回調査との比較

「参加している」は女性で 0.3 ポイント増加し、男性では 11.5 ポイント減少しました。「機会があれば参加したい」は女性で 2.7 ポイント減少し、男性では 1.3 ポイント増加しました。「参加したいとは思わない」が女性で 6.1 ポイント増加し、男性では 10.4 ポイント増加しました。

### 性別

「参加している」は女性 17.6%、男性 19.4%であり、女性が 1.8 ポイント下回ります。「機会があれば参加したい」は女性 25.1%、男性 30.6%であり、女性が 5.5 ポイント下回ります。「参加したいとは思わない」では、女性 46.9%、男性 40.9%であり、女性が 6.0 ポイント上回ります。

### 年齢別

「参加している」が最も高いのは 70 歳以上で 24.9%、最も低いのは 30 歳未満の 0.8%であり、その差は 24.1 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは 30 歳未満で 34.1%、最も低いのは 70 歳以上の 23.2%であり、その差は 10.9 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは 30 歳未満で 63.4%、最も低いのは 70 歳以上の 22.7%であり、その差は 40.7 ポイントとなっています。

### 就業状況別

就業状況別における「参加している」が最も高いのは自営業で 25.4%、最も低いのは学生の 0.0%であり、その差は 25.4 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは学生で 38.3%、最も低いのは家事専業の 21.7%であり、その差は 16.6 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは学生で 58.3%、最も低いのは自営業の 30.6%であり、その差は 27.7 ポイントとなっています。

### 共働き状況別

共働き状況別における「参加している」は“共働き” 19.4%、“準共働き” 23.3%、“非共働き” 20.4%、“その他” 30.8%であり、“その他”が最も高い。

### 末子の年齢別

「参加している」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6～13 歳未満”で 28.9%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”の 14.8%であり、その差は 14.1 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 31.3%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 26.7%であり、その差は 4.6 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 52.2%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 36.0%であり、その差は 16.2 ポイントとなっています。

### 世帯状況別

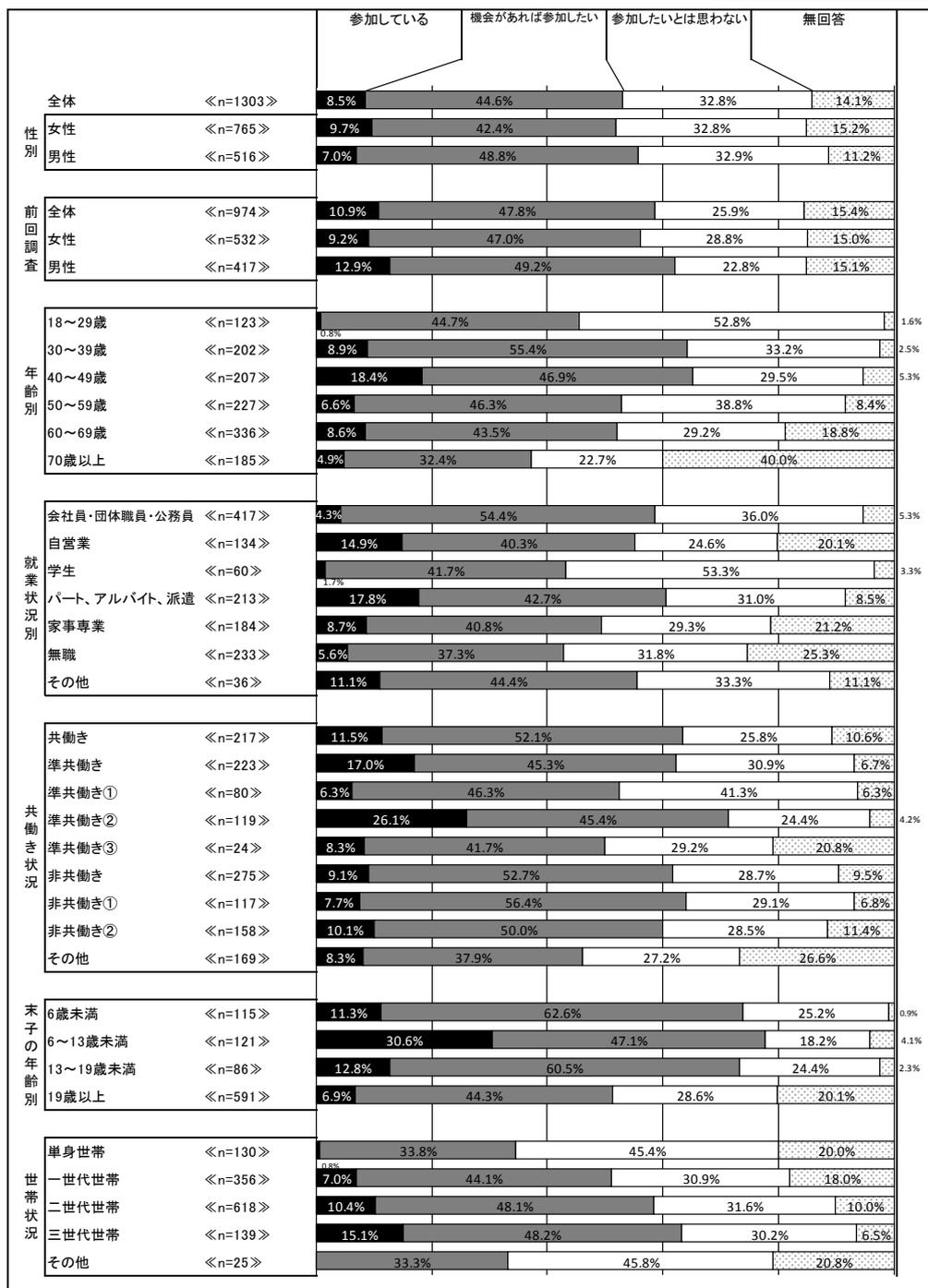
世帯状況別における「参加している」が最も高いのは三世帯世帯で 23.0%、最も低いのは単身世帯の 7.7%であり、その差は 15.3 ポイントとなっています。

④子どもの健全育成

- ◆「参加している」は全体で8.5%となっています。
- ◆「参加している」を性別で見ると女性9.7%、男性7.0%となっています。
- ◆前回調査と比べ、「参加している」は全体で2.4ポイント減少、女性で0.5ポイント増加、男性で5.9ポイント減少となっています。

全体

「機会があれば参加したい」44.6% > 「参加したいとは思わない」32.8% > 「参加している」8.5%



### 前回調査との比較

「参加している」は女性で 0.5 ポイント増加し、男性では 5.9 ポイント減少しました。「機会があれば参加したい」は女性で 4.6 ポイント減少し、男性では 0.4 ポイント減少しました。「参加したいとは思わない」が女性で 4.0 ポイント増加し、男性では 10.1 ポイント増加しました。

### 性別

「参加している」は女性 9.7%、男性 7.0%であり、女性が 2.7 ポイント上回ります。「機会があれば参加したい」は女性 42.4%、男性 48.8%であり、女性が 6.4 ポイント下回ります。「参加したいとは思わない」では、女性 32.8%、男性 32.9%であり、女性が 0.1 ポイント下回ります。

### 年齢別

「参加している」が最も高いのは 40 代で 18.4%、最も低いのは 30 歳未満の 0.8%であり、その差は 17.6 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは 30 代で 55.4%、最も低いのは 70 歳以上の 32.4%であり、その差は 23.0 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは 30 歳未満で 52.8%、最も低いのは 70 歳以上の 22.7%であり、その差は 30.1 ポイントとなっています。

### 就業状況別

就業状況別における「参加している」が最も高いのはパート、アルバイト、派遣などで 17.8%、最も低いのは学生の 1.7%であり、その差は 16.1 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは会社員・団体職員・公務員で 54.4%、最も低いのは無職の 37.3%であり、その差は 17.1 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは学生で 53.3%、最も低いのは自営業の 24.6%であり、その差は 28.7 ポイントとなっています。

### 共働き状況別

共働き状況別における「参加している」は“共働き” 11.5%、“準共働き” 17.0%、“非共働き” 9.1%、“その他” 8.3%であり、“準共働き” が最も高い。

### 末子の年齢別

「参加している」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6～13 歳未満”で 30.6%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 6.9%であり、その差は 23.7 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 62.6%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 44.3%であり、その差は 18.3 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 28.6%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 6～13 歳未満”の 18.2%であり、その差は 10.4 ポイントとなっています。

### 世帯状況別

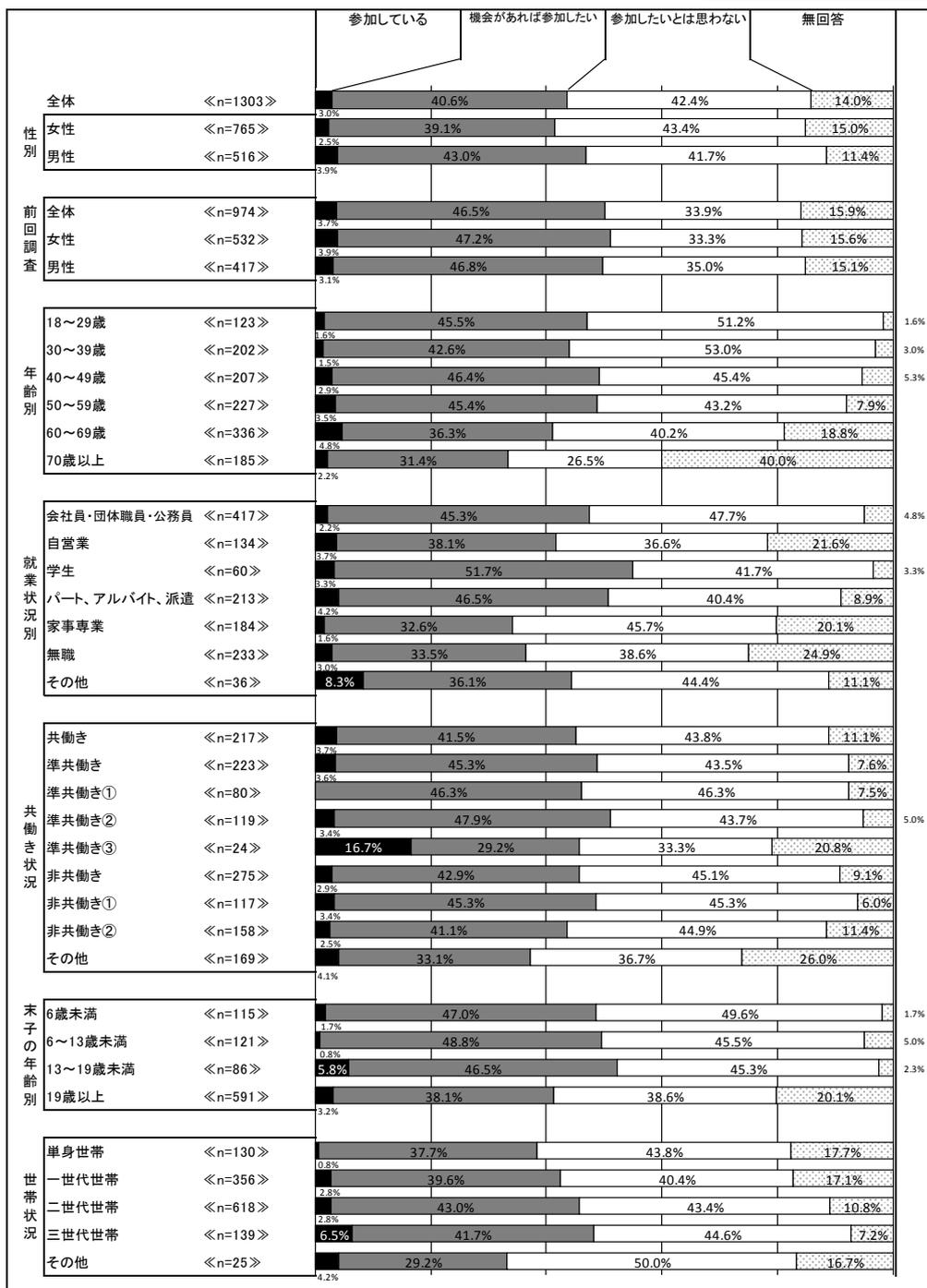
世帯状況別における「参加している」が最も高いのは三世帯世帯で 15.1%、最も低いのはその他の 0.0%であり、その差は 15.1 ポイントとなっています。

⑤国際交流、環境保護、消費者運動など

- ◆「参加している」は全体で3.0%となっています。
- ◆「参加している」を性別で見ると女性2.5%、男性3.9%となっています。
- ◆前回調査と比べ、「参加している」は全体で0.7ポイント減少、女性で1.4ポイント減少、男性で0.8ポイント増加となっています。

**全体**

「参加したいとは思わない」42.4% > 「機会があれば参加したい」40.6%  
 > 「参加している」3.0%



### 前回調査との比較

「参加している」は女性で 1.4 ポイント減少し、男性では 0.8 ポイント増加しました。「機会があれば参加したい」は女性で 8.1 ポイント減少し、男性では 3.8 ポイント減少しました。「参加したいとは思わない」が女性で 10.1 ポイント増加し、男性では 6.7 ポイント増加しました。

### 性別

「参加している」は女性 2.5%、男性 3.9%であり、女性が 1.4 ポイント下回ります。「機会があれば参加したい」は女性 39.1%、男性 43.0%であり、女性が 3.9 ポイント下回ります。「参加したいとは思わない」では、女性 43.4%、男性 41.7%であり、女性が 1.7 ポイント上回ります。

### 年齢別

「参加している」が最も高いのは 60 代で 4.8%、最も低いのは 30 代の 1.5%であり、その差は 3.3 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは 40 代で 46.4%、最も低いのは 70 歳以上の 31.4%であり、その差は 15.0 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは 30 代で 53.0%、最も低いのは 70 歳以上の 26.5%であり、その差は 26.5 ポイントとなっています。

### 就業状況別

就業状況別における「参加している」が最も高いのはその他で 8.3%、最も低いのは家事専門の 1.6%であり、その差は 6.7 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは学生で 51.7%、最も低いのは家事専門の 32.6%であり、その差は 19.1 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは会社員・団体職員・公務員で 47.7%、最も低いのは自営業の 36.6%であり、その差は 11.1 ポイントとなっています。

### 共働き状況別

共働き状況別における「参加している」は“共働き” 3.7%、“準共働き” 3.6%、“非共働き” 2.9%、“その他” 4.1%であり、“その他” が最も高い。

### 末子の年齢別

「参加している」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 13～19 歳未満”で 5.8%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 6～13 歳未満”の 0.8%であり、その差は 5.0 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6～13 歳未満”で 48.8%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 38.1%であり、その差は 10.7 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 49.6%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 38.6%であり、その差は 11.0 ポイントとなっています。

### 世帯状況別

世帯状況別における「参加している」が最も高いのは三世帯世帯で 6.5%、最も低いのは単身世帯の 0.8%であり、その差は 5.7 ポイントとなっています。

⑥福祉ボランティア活動

- ◆「参加している」は全体で7.7%となっています。
- ◆「参加している」を性別で見ると女性8.8%、男性6.2%となっています。
- ◆前回調査と比べ、「参加している」は全体で2.5ポイント減少、女性で2.5ポイント減少、男性で2.0ポイント減少となっています。

全体

「機会があれば参加したい」51.3% > 「参加したいとは思わない」28.9%  
 > 「参加している」7.7%

|        |                      | 参加している | 機会があれば参加したい | 参加したいとは思わない | 無回答   |
|--------|----------------------|--------|-------------|-------------|-------|
| 性別     | 全体 <n=1303>          | 7.7%   | 51.3%       | 28.9%       | 12.1% |
|        | 女性 <n=765>           | 8.8%   | 52.3%       | 27.3%       | 11.6% |
|        | 男性 <n=516>           | 6.2%   | 51.0%       | 31.4%       | 11.4% |
| 前回調査   | 全体 <n=974>           | 10.2%  | 52.7%       | 22.4%       | 14.8% |
|        | 女性 <n=532>           | 11.3%  | 53.6%       | 21.2%       | 13.9% |
|        | 男性 <n=417>           | 8.2%   | 52.5%       | 24.2%       | 15.1% |
| 年齢別    | 18～29歳 <n=123>       | 5.7%   | 61.8%       | 31.7%       | 0.8%  |
|        | 30～39歳 <n=202>       | 4.0%   | 53.0%       | 40.6%       | 2.5%  |
|        | 40～49歳 <n=207>       | 1.4%   | 57.0%       | 34.8%       | 6.8%  |
|        | 50～59歳 <n=227>       | 8.4%   | 59.0%       | 26.9%       | 5.7%  |
|        | 60～69歳 <n=336>       | 9.2%   | 48.5%       | 25.9%       | 16.4% |
|        | 70歳以上 <n=185>        | 16.2%  | 35.1%       | 16.2%       | 32.4% |
| 就業状況別  | 会社員・団体職員・公務員 <n=417> | 8.6%   | 57.1%       | 35.7%       | 4.6%  |
|        | 自営業 <n=134>          | 6.7%   | 44.0%       | 26.9%       | 22.4% |
|        | 学生 <n=60>            | 10.0%  | 68.3%       | 20.0%       | 1.7%  |
|        | パート、アルバイト、派遣 <n=213> | 9.9%   | 56.8%       | 26.3%       | 7.0%  |
|        | 家事専業 <n=184>         | 11.4%  | 46.2%       | 27.2%       | 15.2% |
|        | 無職 <n=233>           | 10.7%  | 41.6%       | 26.6%       | 21.0% |
|        | その他 <n=36>           | 11.1%  | 61.1%       | 19.4%       | 8.3%  |
| 共働き状況  | 共働き <n=217>          | 5.1%   | 50.7%       | 32.7%       | 11.5% |
|        | 準共働き <n=223>         | 8.1%   | 56.5%       | 29.6%       | 5.8%  |
|        | 準共働き① <n=80>         | 7.5%   | 53.8%       | 36.3%       | 7.5%  |
|        | 準共働き② <n=119>        | 9.2%   | 61.3%       | 26.1%       | 3.4%  |
|        | 準共働き③ <n=24>         | 20.8%  | 41.7%       | 25.0%       | 12.5% |
|        | 非共働き <n=275>         | 5.5%   | 55.3%       | 31.3%       | 8.0%  |
|        | 非共働き① <n=117>        | 6.0%   | 56.4%       | 32.5%       | 5.1%  |
|        | 非共働き② <n=158>        | 5.1%   | 54.4%       | 30.4%       | 10.1% |
| 末子の年齢別 | 6歳未満 <n=115>         | 4.3%   | 52.2%       | 41.7%       | 1.7%  |
|        | 6～13歳未満 <n=121>      | 4.1%   | 58.7%       | 31.4%       | 5.8%  |
|        | 13～19歳未満 <n=86>      | 8.5%   | 62.8%       | 31.4%       | 2.3%  |
|        | 19歳以上 <n=591>        | 11.0%  | 48.2%       | 24.2%       | 16.6% |
| 世帯状況   | 単身世帯 <n=130>         | 5.4%   | 48.5%       | 32.3%       | 13.8% |
|        | 一世代世帯 <n=356>        | 8.7%   | 48.9%       | 28.1%       | 14.3% |
|        | 二世代世帯 <n=618>        | 7.6%   | 54.5%       | 28.3%       | 9.5%  |
|        | 三世代世帯 <n=139>        | 10.1%  | 52.5%       | 30.9%       | 6.5%  |
|        | その他 <n=25>           |        | 45.8%       | 33.3%       | 20.8% |

### 前回調査との比較

「参加している」は女性で 2.5 ポイント減少し、男性では 2.0 ポイント減少しました。「機会があれば参加したい」は女性で 1.3 ポイント減少し、男性では 1.5 ポイント減少しました。「参加したいとは思わない」が女性で 6.1 ポイント増加し、男性では 7.2 ポイント増加しました。

### 性別

「参加している」は女性 8.8%、男性 6.2%であり、女性が 2.6 ポイント上回ります。「機会があれば参加したい」は女性 52.3%、男性 51.0%であり、女性が 1.3 ポイント上回ります。「参加したいとは思わない」では、女性 27.3%、男性 31.4%であり、女性が 4.1 ポイント下回ります。

### 年齢別

「参加している」が最も高いのは 70 歳以上で 16.2%、最も低いのは 40 代の 1.4%であり、その差は 14.8 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは 30 歳未満で 61.8%、最も低いのは 70 歳以上の 35.1%であり、その差は 26.7 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは 30 代で 40.6%、最も低いのは 70 歳以上の 16.2%であり、その差は 24.4 ポイントとなっています。

### 就業状況別

就業状況別における「参加している」が最も高いのは家事専業で 11.4%、最も低いのは会社員・団体職員・公務員の 2.6%であり、その差は 8.8 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは学生で 68.3%、最も低いのは無職の 41.6%であり、その差は 26.7 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは会社員・団体職員・公務員で 35.7%、最も低いのはその他の 19.4%であり、その差は 16.3 ポイントとなっています。

### 共働き状況別

共働き状況別における「参加している」は“共働き” 5.1%、“準共働き” 8.1%、“非共働き” 5.5%、“その他” 17.8%であり、“その他” が最も高い。

### 末子の年齢別

「参加している」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 11.0%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 13～19 歳未満”の 3.5%であり、その差は 7.5 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 13～19 歳未満”で 62.8%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 48.2%であり、その差は 14.6 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 41.7%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 24.2%であり、その差は 17.5 ポイントとなっています。

### 世帯状況別

世帯状況別における「参加している」が最も高いのは三世帯世代で 10.1%、最も低いのはその他の 0.0%であり、その差は 10.1 ポイントとなっています。

⑦趣味や文化、教養などの学習

- ◆「参加している」は全体で20.0%となっています。
- ◆「参加している」を性別で見ると女性23.3%、男性15.9%となっています。
- ◆前回調査と比べ、「参加している」は全体で0.4ポイント減少、女性で0.4ポイント増加、男性で0.9ポイント減少となっています。

**全体**

「機会があれば参加したい」55.9% > 「参加している」20.0%

> 「参加したいとは思わない」14.3%

|        |              | 参加している | 機会があれば参加したい | 参加したいとは思わない | 無回答   |  |
|--------|--------------|--------|-------------|-------------|-------|--|
| 全体     | 《n=1303》     | 20.0%  | 55.9%       | 14.3%       | 9.8%  |  |
| 性別     | 女性           | 23.3%  | 55.8%       | 11.4%       | 9.5%  |  |
|        | 男性           | 15.9%  | 57.2%       | 18.4%       | 8.5%  |  |
| 前回調査   | 全体           | 20.4%  | 56.7%       | 11.6%       | 11.3% |  |
|        | 女性           | 22.9%  | 57.7%       | 9.2%        | 10.2% |  |
|        | 男性           | 16.8%  | 56.1%       | 15.1%       | 12.0% |  |
| 年齢別    | 18～29歳       | 8.9%   | 75.6%       | 13.8%       | 1.6%  |  |
|        | 30～39歳       | 8.4%   | 69.3%       | 19.3%       | 3.0%  |  |
|        | 40～49歳       | 13.5%  | 69.1%       | 13.5%       | 3.9%  |  |
|        | 50～59歳       | 20.7%  | 58.1%       | 15.9%       | 5.3%  |  |
|        | 60～69歳       | 27.7%  | 44.6%       | 15.2%       | 12.5% |  |
|        | 70歳以上        | 34.1%  | 34.6%       | 5.9%        | 25.4% |  |
| 就業状況別  | 会社員・団体職員・公務員 | 14.1%  | 64.7%       | 17.0%       | 4.1%  |  |
|        | 自営業          | 20.9%  | 42.5%       | 17.9%       | 18.7% |  |
|        | 学生           | 13.3%  | 70.0%       | 13.3%       | 3.3%  |  |
|        | パート、アルバイト、派遣 | 17.4%  | 65.3%       | 11.3%       | 6.1%  |  |
|        | 家事専業         | 24.5%  | 53.8%       | 10.9%       | 10.9% |  |
|        | 無職           | 27.5%  | 41.6%       | 14.2%       | 16.7% |  |
|        | その他          | 30.6%  | 52.8%       | 8.3%        | 8.3%  |  |
| 共働き状況  | 共働き          | 20.3%  | 54.8%       | 15.7%       | 9.2%  |  |
|        | 準共働き         | 16.1%  | 64.1%       | 15.2%       | 4.5%  |  |
|        | 準共働き①        | 10.0%  | 60.0%       | 25.0%       | 5.0%  |  |
|        | 準共働き②        | 17.6%  | 70.6%       | 10.1%       | 1.7%  |  |
|        | 準共働き③        | 29.2%  | 45.8%       | 8.3%        | 16.7% |  |
|        | 非共働き         | 19.6%  | 62.5%       | 12.0%       | 5.8%  |  |
|        | 非共働き①        | 16.2%  | 63.2%       | 14.5%       | 6.0%  |  |
|        | 非共働き②        | 22.2%  | 62.0%       | 10.1%       | 5.7%  |  |
| その他    | 37.3%        | 35.5%  | 11.8%       | 15.4%       |       |  |
| 末子の年齢別 | 6歳未満         | 9.6%   | 73.0%       | 15.7%       | 1.7%  |  |
|        | 6～13歳未満      | 10.7%  | 69.4%       | 16.5%       | 3.3%  |  |
|        | 13～19歳未満     | 14.0%  | 68.6%       | 14.0%       | 3.5%  |  |
|        | 19歳以上        | 26.2%  | 48.2%       | 11.8%       | 13.7% |  |
| 世帯状況   | 単身世帯         | 13.1%  | 54.6%       | 18.5%       | 13.8% |  |
|        | 一世代世帯        | 29.5%  | 46.9%       | 12.6%       | 11.0% |  |
|        | 二世帯世帯        | 16.7%  | 61.3%       | 14.6%       | 7.4%  |  |
|        | 三世帯世帯        | 20.9%  | 60.4%       | 14.4%       | 4.3%  |  |
|        | その他          | 4.2%   | 58.3%       | 16.7%       | 20.8% |  |

### 前回調査との比較

「参加している」は女性で 0.4 ポイント増加し、男性では 0.9 ポイント減少しました。「機会があれば参加したい」は女性で 1.9 ポイント減少し、男性では 1.1 ポイント増加しました。「参加したいとは思わない」が女性で 2.2 ポイント増加し、男性では 3.3 ポイント増加しました。

### 性別

「参加している」は女性 23.3%、男性 15.9%であり、女性が 7.4 ポイント上回ります。「機会があれば参加したい」は女性 55.8%、男性 57.2%であり、女性が 1.4 ポイント下回ります。「参加したいとは思わない」では、女性 11.4%、男性 18.4%であり、女性が 7.0 ポイント下回ります。

### 年齢別

「参加している」が最も高いのは 70 歳以上で 34.1%、最も低いのは 30 代の 8.4%であり、その差は 25.7 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは 30 歳未満で 75.6%、最も低いのは 70 歳以上の 34.6%であり、その差は 41.0 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは 30 代で 19.3%、最も低いのは 70 歳以上の 5.9%であり、その差は 13.4 ポイントとなっています。

### 就業状況別

就業状況別における「参加している」が最も高いのはその他で 30.6%、最も低いのは学生の 13.3%であり、その差は 17.3 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは学生で 70.0%、最も低いのは無職の 41.6%であり、その差は 28.4 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは自営業で 17.9%、最も低いのはその他の 8.3%であり、その差は 9.6 ポイントとなっています。

### 共働き状況別

共働き状況別における「参加している」は“共働き” 20.3%、“準共働き” 16.1%、“非共働き” 19.6%、“その他” 37.3%であり、“その他” が最も高い。

### 末子の年齢別

「参加している」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 26.2%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”の 9.6%であり、その差は 16.6 ポイントとなっています。「機会があれば参加したい」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 73.0%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 48.2%であり、その差は 24.8 ポイントとなっています。「参加したいとは思わない」が最も高いのは“一番下の子の年齢が 6～13 歳未満”で 16.5%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”の 11.8%であり、その差は 4.7 ポイントとなっています。

### 世帯状況別

世帯状況別における「参加している」が最も高いのは一世代世帯で 29.5%、最も低いのはその他の 4.2%であり、その差は 25.3 ポイントとなっています。

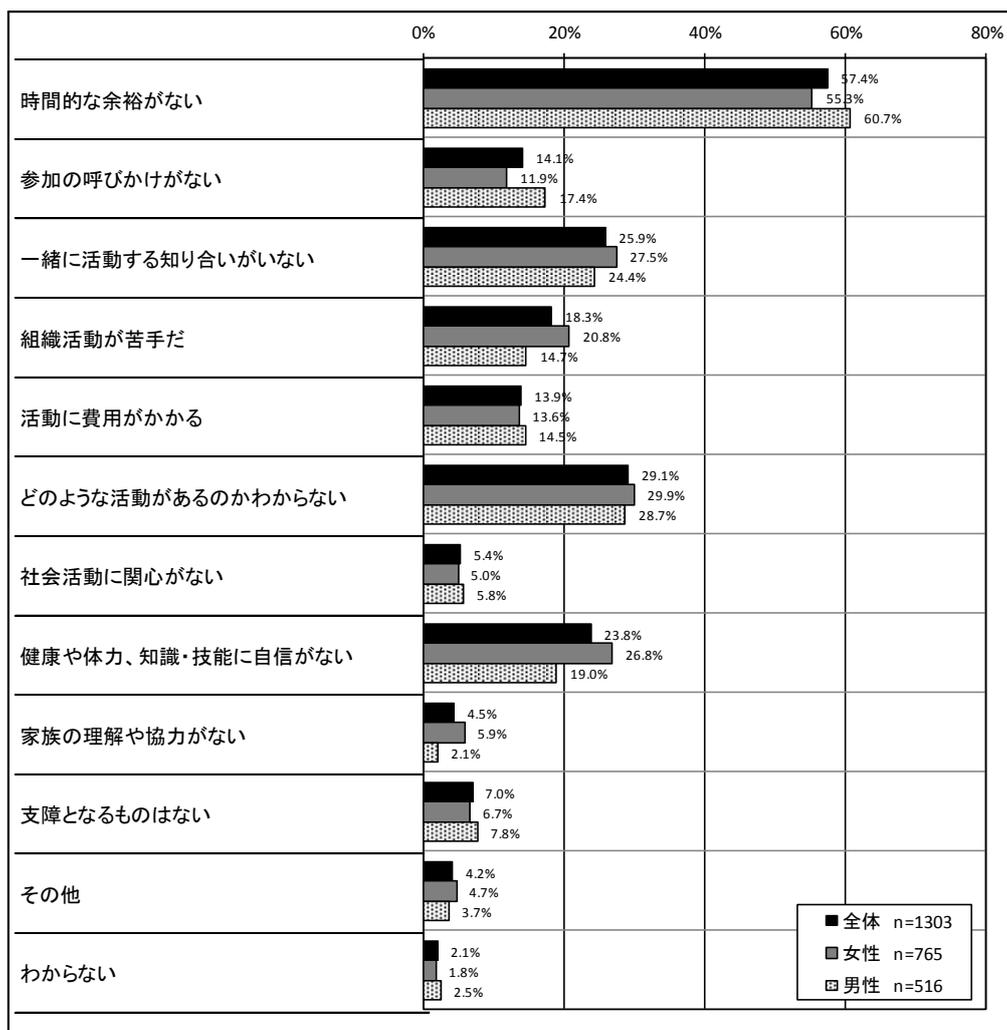
（2）社会活動に参加する際に支障となるもの

問 1 5 社会活動に参加しようとする際に、支障となるものは主に何ですか。（〇は3つまで）

- ◆社会活動参加の障害となるものは、「時間的な余裕がない」が57.4%と最も高く、次いで、「どのような活動があるのかわからない」が29.1%と続いています。
- ◆性別でみると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「健康や体力、知識・技能に自信がない」で7.8ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「参加の呼びかけがない」で5.5ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「時間的な余裕がない」が2.9ポイント増、減少が最も大きい項目は、「参加の呼びかけがない」で4.9ポイント減となっています。

**全体**

「時間的な余裕がない」57.4% > 「どのような活動があるのかわからない」29.1%  
 > 「一緒に活動する知り合いがいない」25.9%

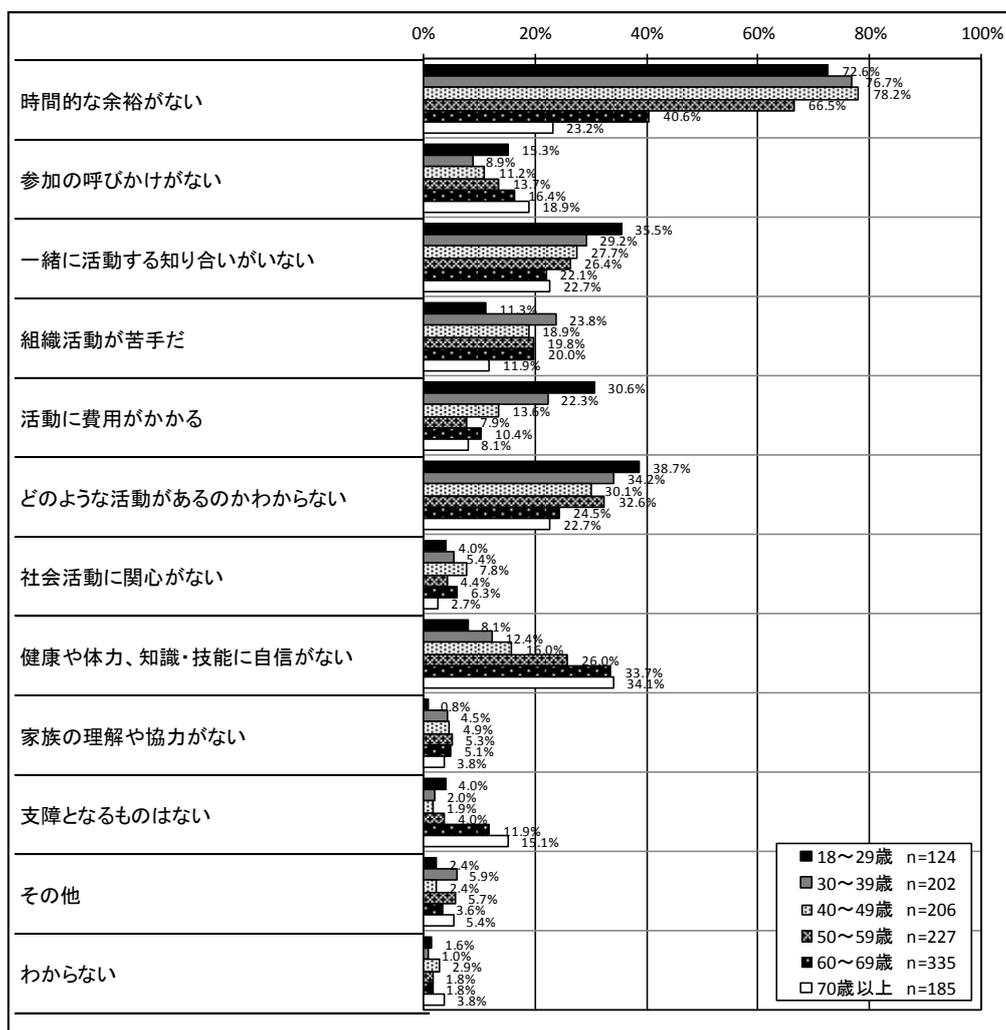


**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「健康や体力、知識・技能に自信がない」で女性 26.8%、男性 19.0%であり、女性が 7.8 ポイント上回ります。次いで、「組織活動が苦手だ」で女性 20.8%、男性 14.7%であり、女性が 6.1 ポイント上回ります。3 番目は、「家族の理解や協力がいい」であり、女性 5.9%、男性 2.1%であり、女性が 3.8 ポイント上回ります。

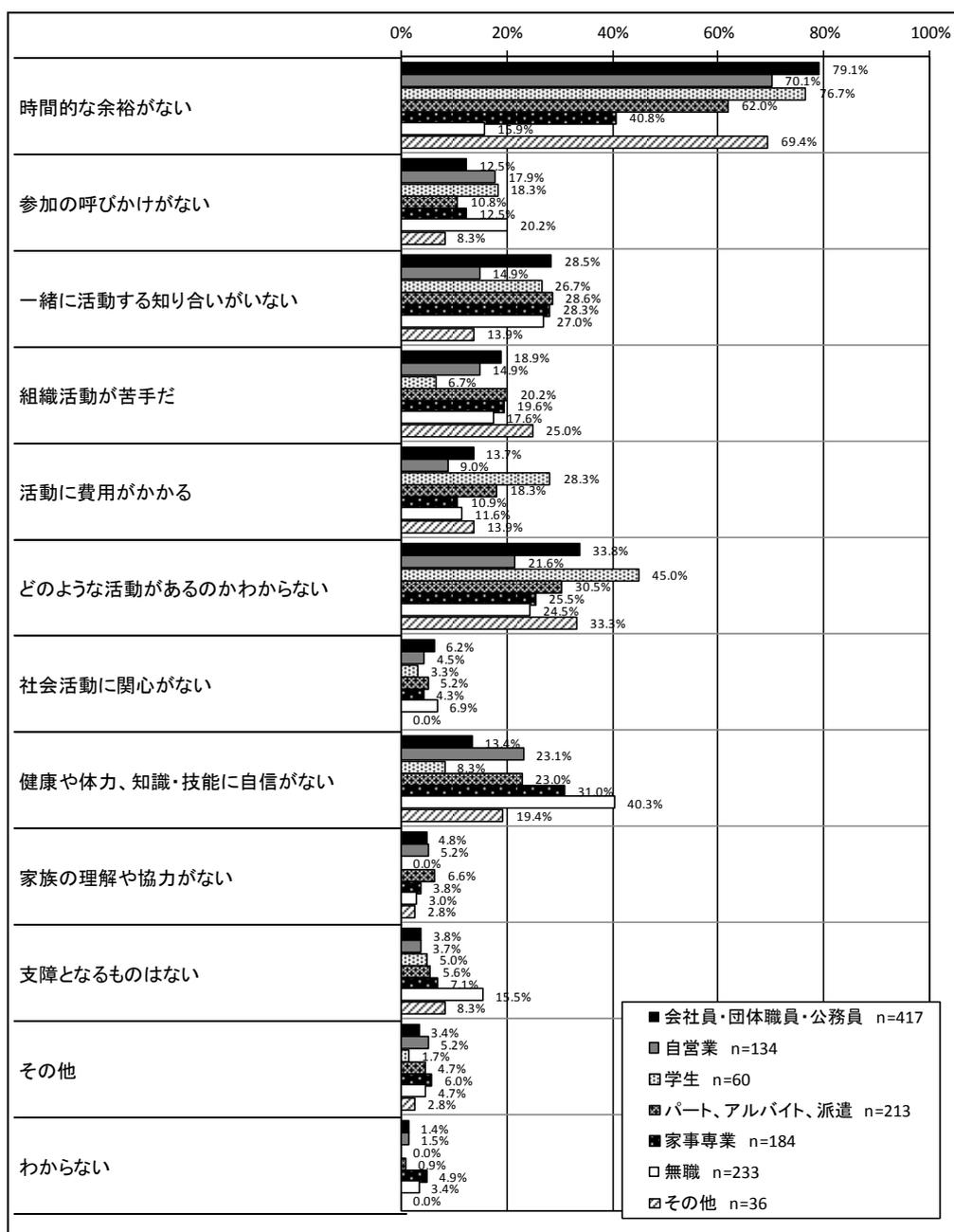
男性が上回る項目は、「参加の呼びかけがない」で女性 11.9%、男性 17.4%であり、男性が 5.5 ポイント上回ります。次いで、「時間的な余裕がない」で女性 55.3%、男性 60.7%であり、男性が 5.4 ポイント上回ります。

**年齢別**



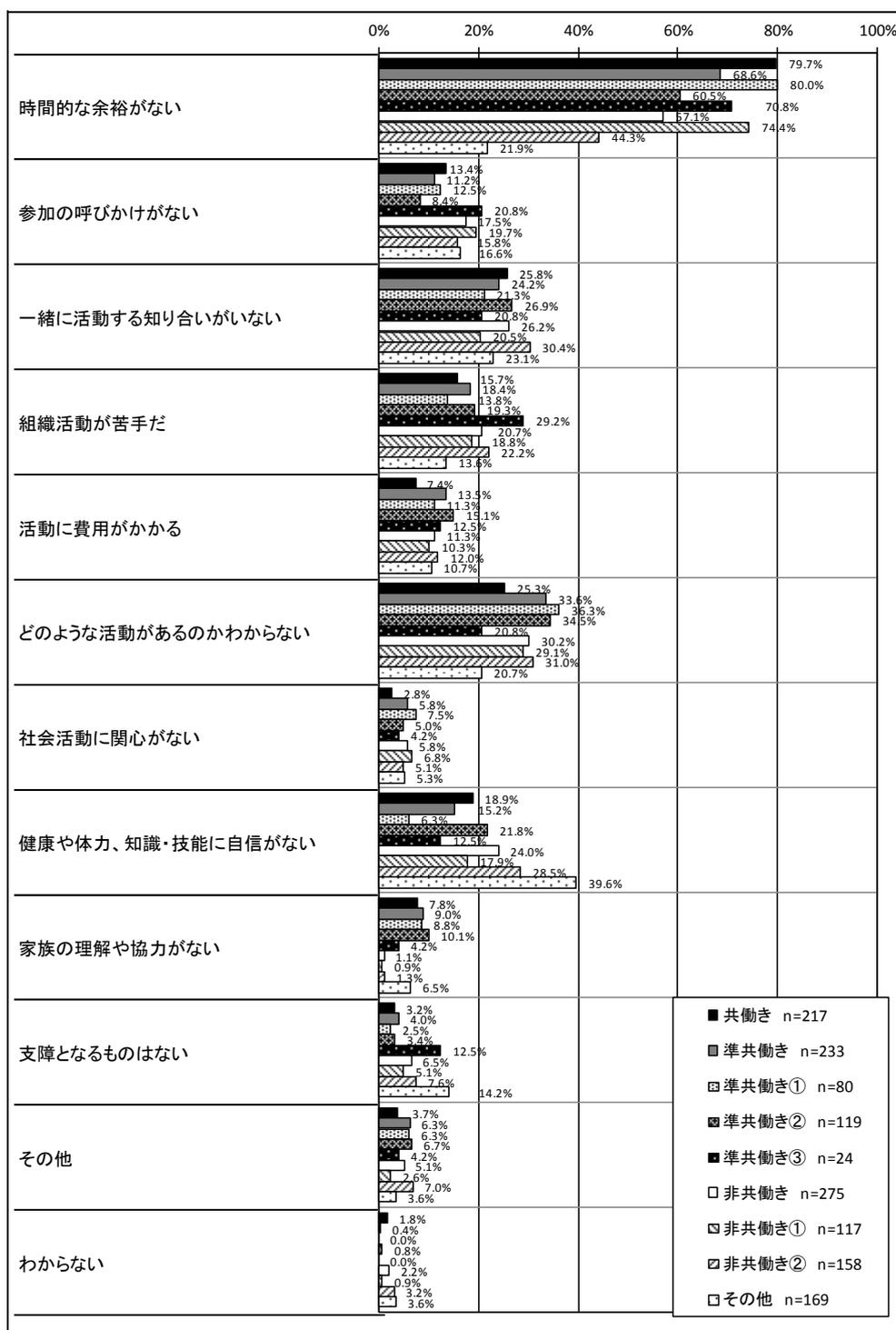
年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「時間的な余裕がない」であり、最も高いのは 40 代で 78.2%、最も低いのは 70 歳以上で 23.2%であり、その差は 55.0 ポイントとなっています。次いで、「健康や体力、知識・技能に自信がない」であり、最も高いのは 70 歳以上で 34.1%、最も低いのは 30 歳未満で 8.1%であり、その差は 26.0 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「活動に費用がかかる」であり、最も高いのは 30 歳未満で 30.6%、最も低いのは 50 代で 7.9%であり、その差は 22.7 ポイントとなっています。

**就業状況別**



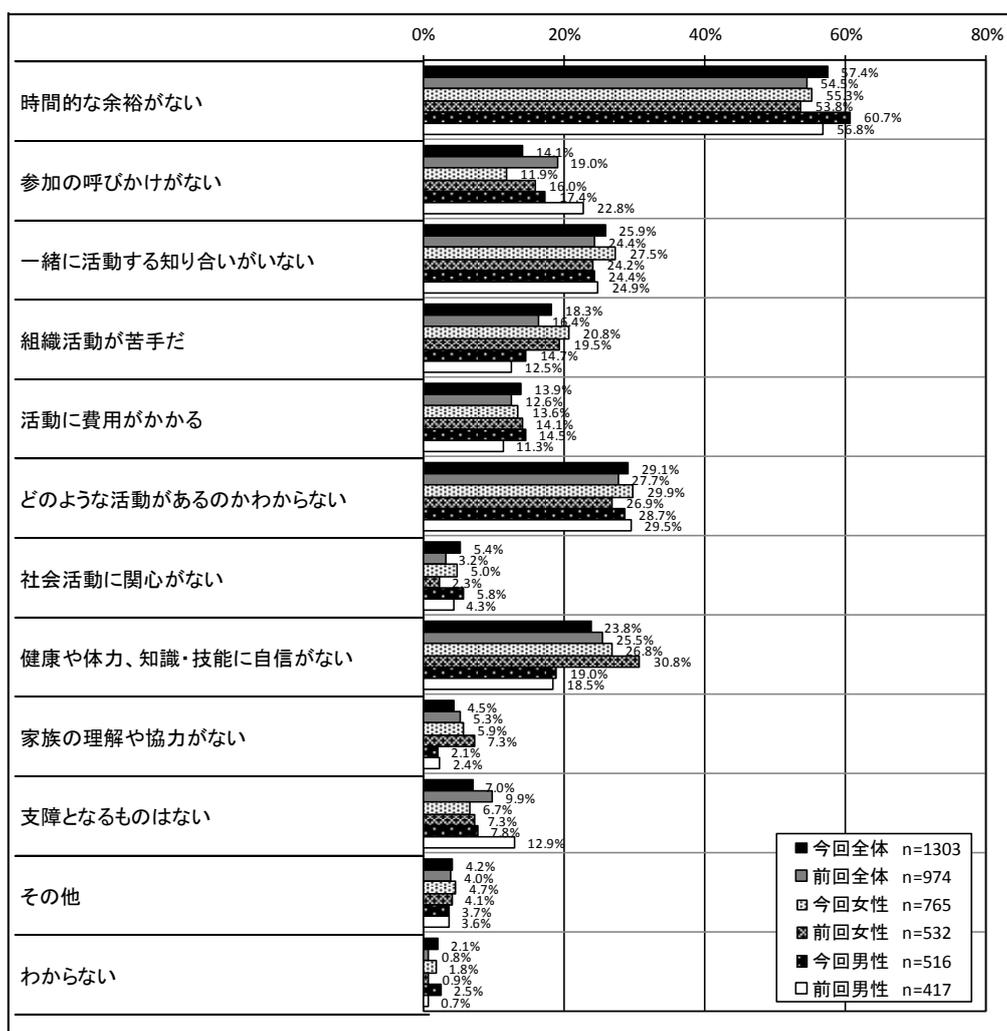
就業状況別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「時間的な余裕がない」であり、最も高いのは“会社員・団体職員・公務員”で79.1%、最も低いのは“無職”で15.9%であり、その差は63.2ポイントとなっています。次いで、「健康や体力、知識・技能に自信がない」であり、最も高いのは“無職”で40.3%、最も低いのは“学生”で8.3%であり、その差は32.0ポイントとなっています。3番目に大きいのは、「どのような活動があるのかわからない」であり、最も高いのは“学生”で45.0%、最も低いのは“自営業”で21.6%であり、その差は23.4ポイントとなっています。

**共働き状況別**



共働き状況別（共働き・準共働き・非共働き・その他）で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「時間的な余裕がない」であり、最も高いのは“共働き”で79.7%、最も低いのは“その他”で21.9%であり、その差は57.8ポイントとなっています。次いで、「健康や体力、知識・技能に自信がない」であり、最も高いのは“その他”で39.6%、最も低いのは“準共働き”で15.2%であり、その差は24.4ポイントとなっています。3番目に大きいのは、「どのような活動があるのかわからない」であり、最も高いのは“準共働き”で33.6%、最も低いのは“その他”で20.7%であり、その差は12.9ポイントとなっています。

前回調査との比較



前回調査を上回った項目のうち、上位は、「時間的な余裕がない」が 2.9 ポイント、「社会活動に関心がない」が 2.2 ポイントとなっています。

前回調査を下回った項目のうち、上位は、「参加の呼びかけがない」が 4.9 ポイント、「支障となるものはない」が 2.9 ポイントとなっています。

（3）地域活動の場での男女差について

問 1 6 住んでいる地域（自治会）などで、現在次のようなことはありますか。【複数回答】

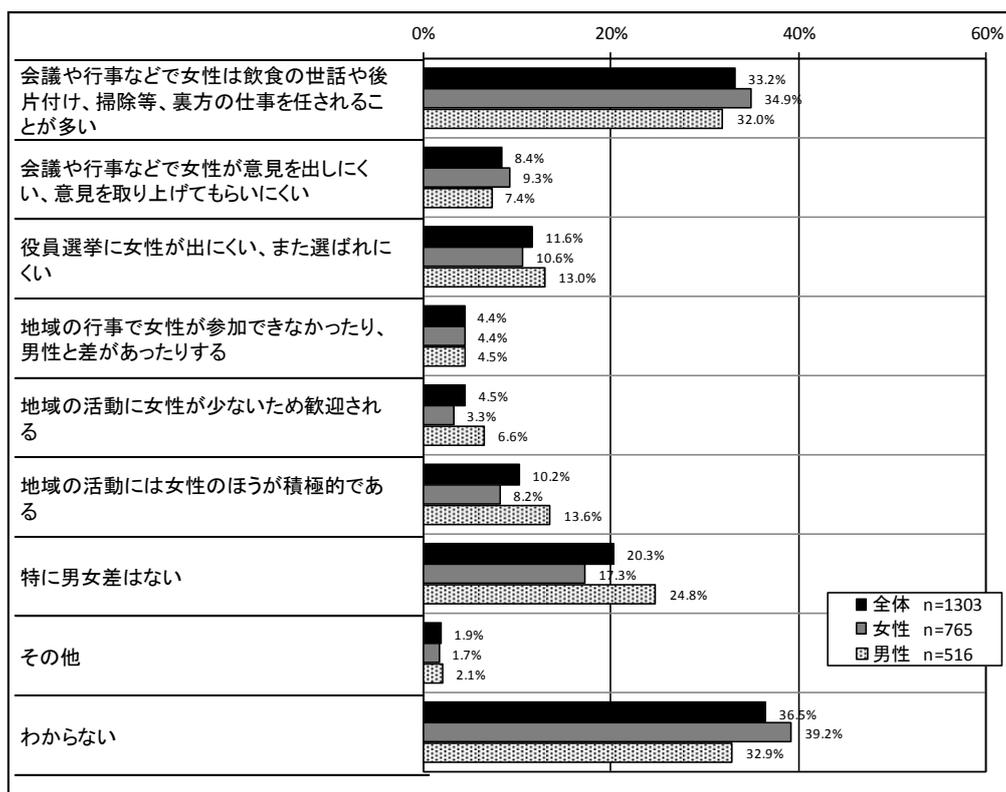
- ◆自治会など地域活動の場での男女差については、「わからない」が36.5%と最も高く、次いで、「会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除等、裏方の仕事を任されることが多い」が33.2%、「特に男女差はない」が20.3%と続いています。
- ◆性別でみると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「わからない」で6.3ポイント、男性が上回るもので最も差が大きいものは、「特に男女差はない」で7.5ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「わからない」が6.6ポイント増、減少が最も大きい項目は、「会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除等、裏方の仕事を任されることが多い」で4.2ポイント減となっています。

**全体**

「わからない」36.5%

>「会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除等、裏方の仕事を任されることが多い」33.2%

>「特に男女差はない」20.3%



**性別**

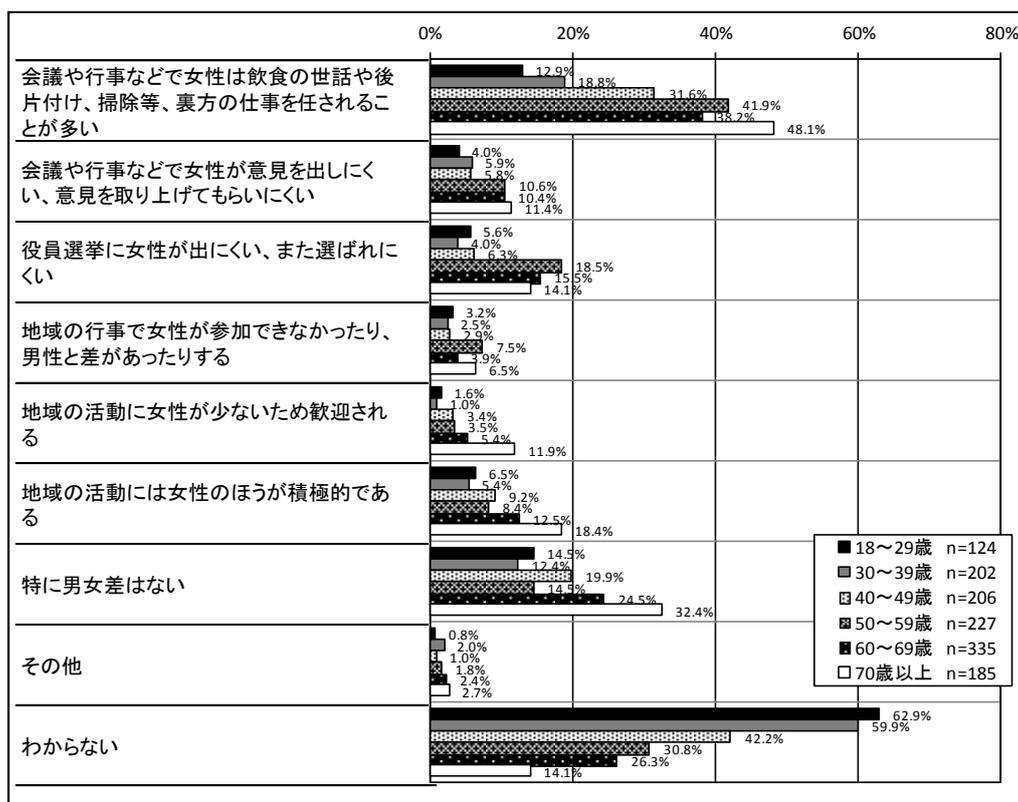
性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「わからない」で女性 39.2%、男性 32.9%であり、女性が 6.3ポイント上回ります。次いで、「会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除等、裏方の仕事を任されることが多い」で女性 34.9%、男性

## II 調査結果（7 社会参加活動について）

32.0%であり、女性が2.9ポイント上回ります。3番目は、「会議や行事などで女性が意見を出しにくい、意見を取り上げてもらいにくい」であり、女性9.3%、男性7.4%であり、女性が1.9ポイント上回ります。

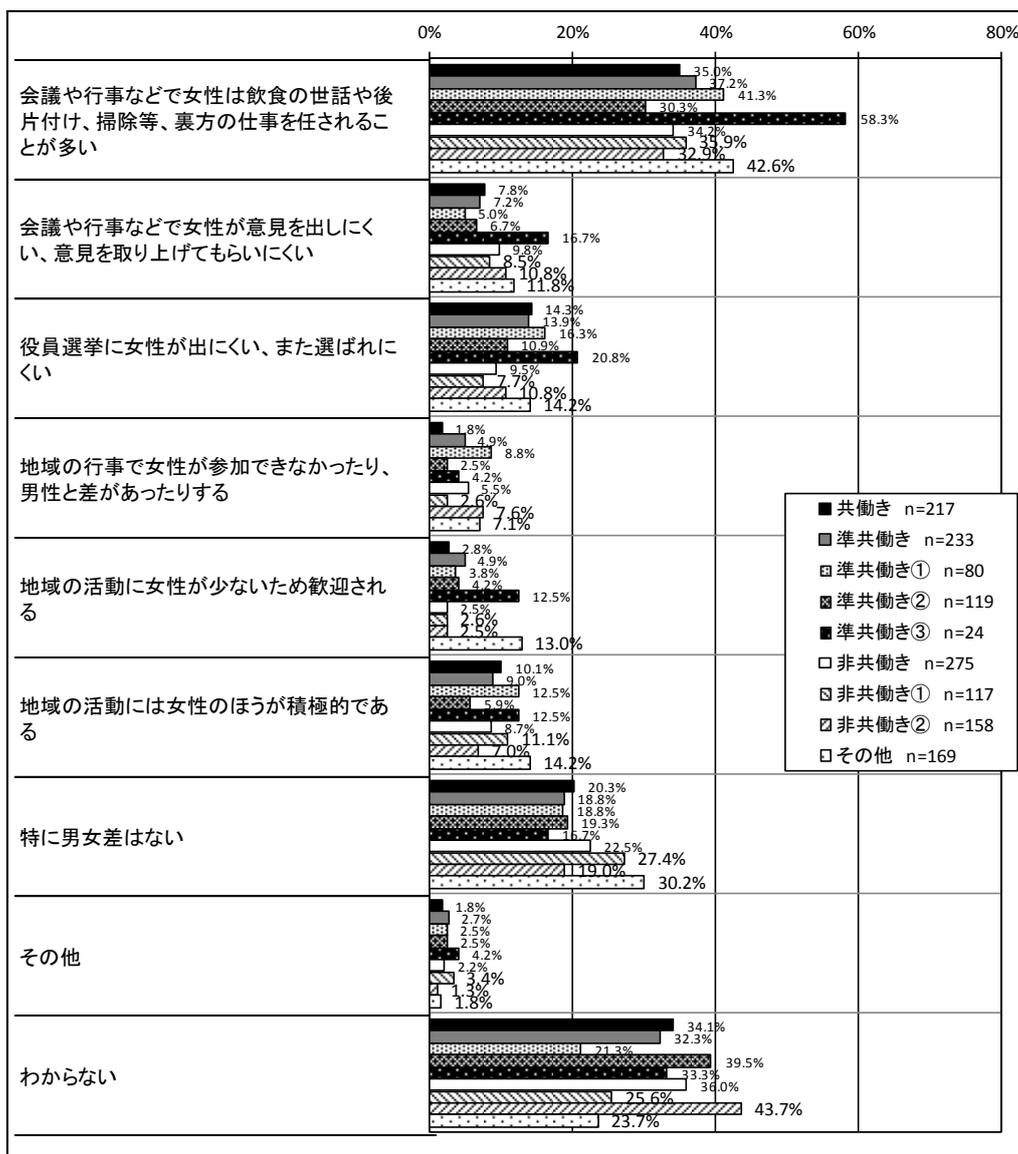
女性と男性で差があるもののうち、男性が上回る項目は、「特に男女差はない」で女性17.3%、男性24.8%であり、男性が7.5ポイント上回ります。次いで、「地域の活動には女性のほうが積極的である」で女性8.2%、男性13.6%であり、男性が5.4ポイント上回ります。3番目は、「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」で女性3.3%、男性6.6%であり、男性が3.3ポイント上回ります。

### 年齢別



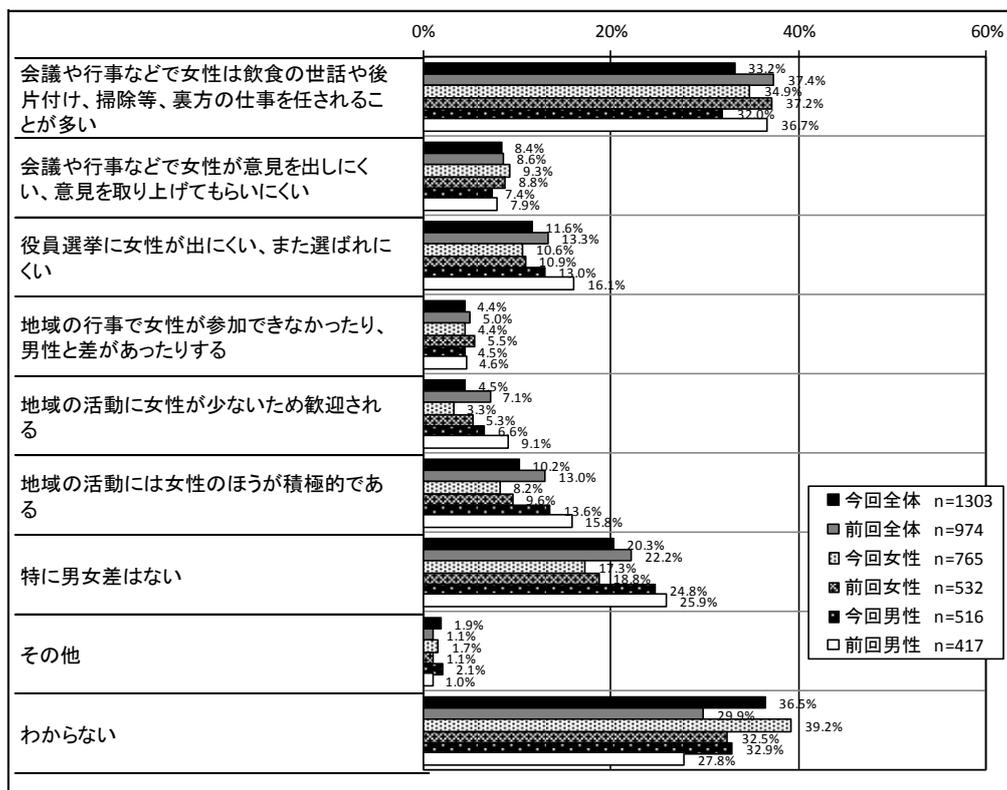
年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「わからない」であり、最も高いのは30歳未満で62.9%、最も低いのは70歳以上で14.1%であり、その差は48.8ポイントとなっています。次いで、「会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除等、裏方の仕事を任されることが多い」であり、最も高いのは70歳以上で48.1%、最も低いのは30歳未満で12.9%であり、その差は35.2ポイントとなっています。3番目に大きいのは、「特に男女差はない」であり、最も高いのは70歳以上で32.4%、最も低いのは30代で12.4%であり、その差は20.0ポイントとなっています。

**共働き状況別**



共働き状況別（共働き・準共働き・非共働き・その他）で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「わからない」であり、最も高いのは“非共働き”で36.0%、最も低いのは“その他”で23.7%であり、その差は12.3ポイントとなっています。次いで、「特に男女差はない」であり、最も高いのは“その他”で30.2%、最も低いのは“準共働き”で18.8%であり、その差は11.4ポイントとなっています。3番目に大きいのは、「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」であり、最も高いのは“その他”で13.0%、最も低いのは“非共働き”で2.5%であり、その差は10.5ポイントとなっています。

前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「わからない」が 6.6 ポイントとなっています。前回調査を下回った項目のは、「会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除等、裏方の仕事を任されることが多い」が 4.2 ポイント、「地域の活動には女性のほうが積極的である」が 2.8 ポイント、「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」が 2.6 ポイントと続いています。

## 8 職業生活について

### （1）男女が働く上で支障となること

|       |   |
|-------|---|
| 問 1 7 | 男女が働く上で、支障となることは主にどのようなことだと思いますか。<br>(○は3つまで) |
|-------|---|



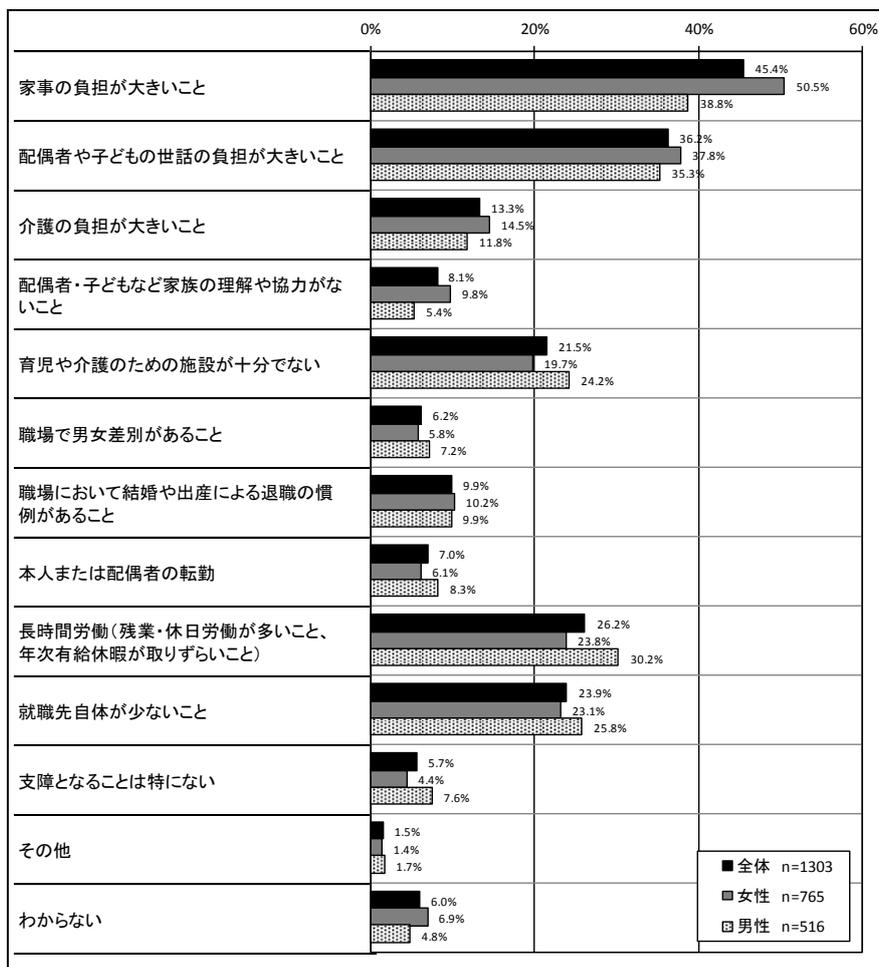
- ◆男女が働く上での障害は、「家事の負担が大きいこと」が45.4%と最も高く、次いで、「配偶者や子どもの世話の負担が大きいこと」が36.2%と続いています。
- ◆性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「家事の負担が大きいこと」で11.7ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「長時間労働」で6.4ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「長時間労働」が10.5ポイント増、減少が最も大きい項目は、「本人または配偶者の転勤」で8.7ポイント減となっています。

#### 全体

「家事の負担が大きいこと」45.4%

> 「配偶者や子どもの世話の負担が大きいこと」36.2%

> 「長時間労働（残業・休日労働が多いこと、年次有給休暇が取りづらいこと）」26.2%

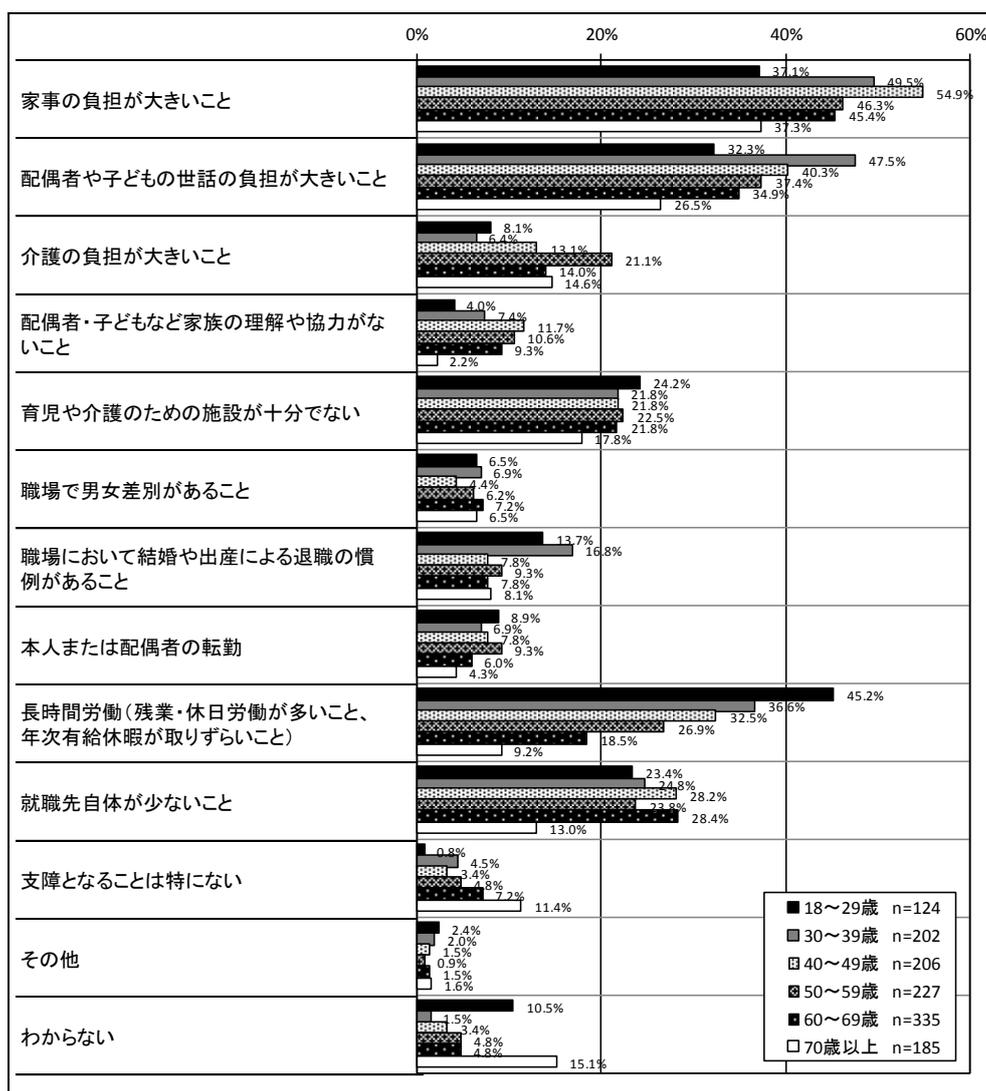


**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「家事の負担が大きいこと」で女性 50.5%、男性 38.8%であり、女性が 11.7 ポイント上回ります。次いで、「配偶者・子どもなど家族の理解や協力がでないこと」で女性 9.8%、男性 5.4%であり、女性が 4.4 ポイント上回ります。

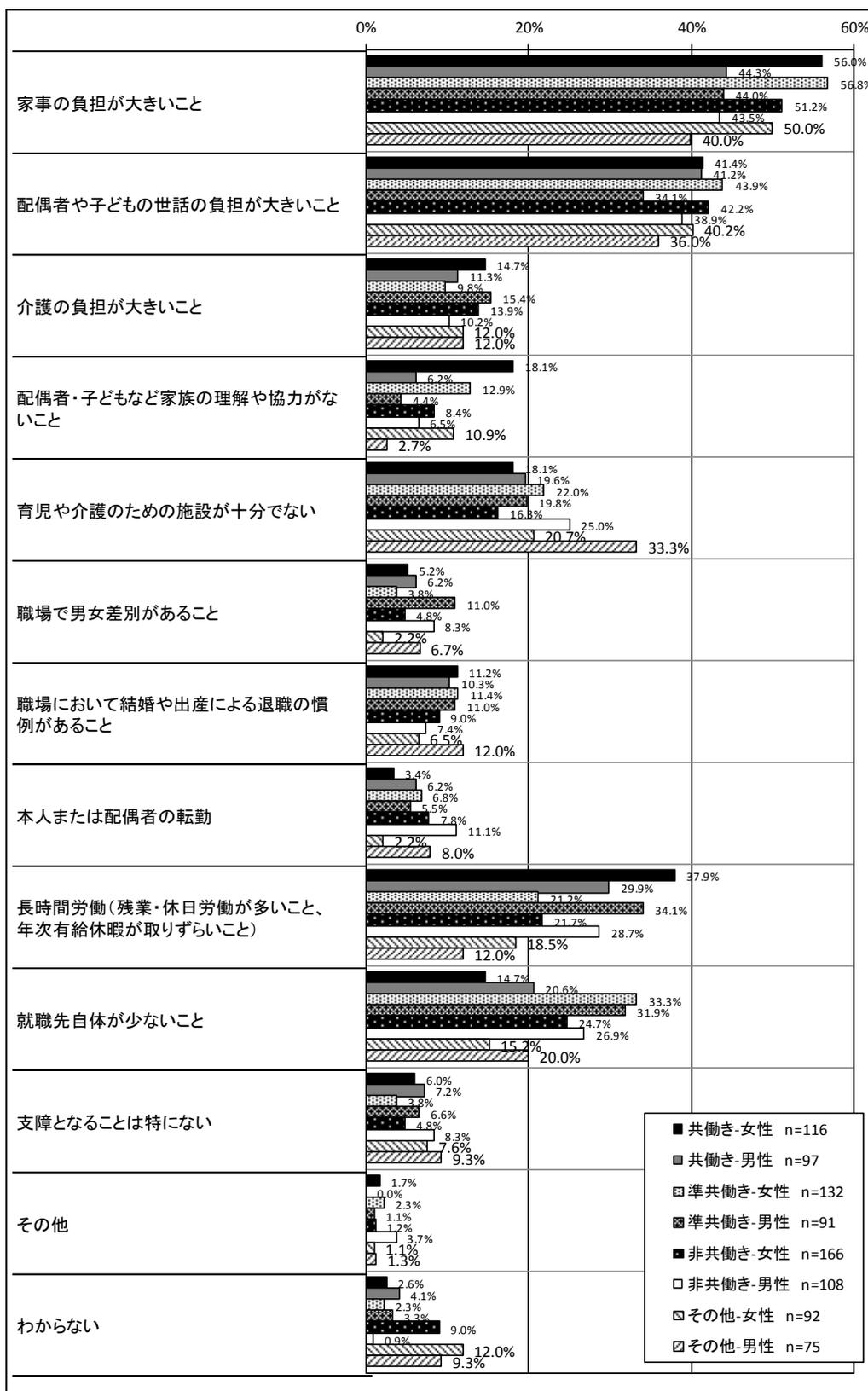
女性と男性で差があるもののうち、男性が上回る項目は、「長時間労働（残業・休日労働が多いこと、年次有給休暇が取りづらいこと）」で女性 23.8%、男性 30.2%であり、男性が 6.4 ポイント上回ります。次いで、「育児や介護のための施設が十分でない」で女性 19.7%、男性 24.2%であり、男性が 4.5 ポイント上回ります。

**年齢別**



年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「長時間労働（残業・休日労働が多いこと、年次有給休暇が取りづらいこと）」であり、最も高いのは 30 歳未満で 45.2%、最も低いのは 70 歳以上で 9.2%であり、その差は 36.0 ポイントとなっています。次いで、「配偶者や子どもの世話の負担が大きいこと」であり、最も高いのは 30 代で 47.5%、最も低いのは 70 歳以上で 26.5%であり、その差は 21.0 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「家事の負担が大きいこと」であり、最も高いのは 40 代で 54.9%、最も低いのは 30 歳未満で 37.1%であり、その差は 17.8 ポイントとなっています。

**共働き状況別**



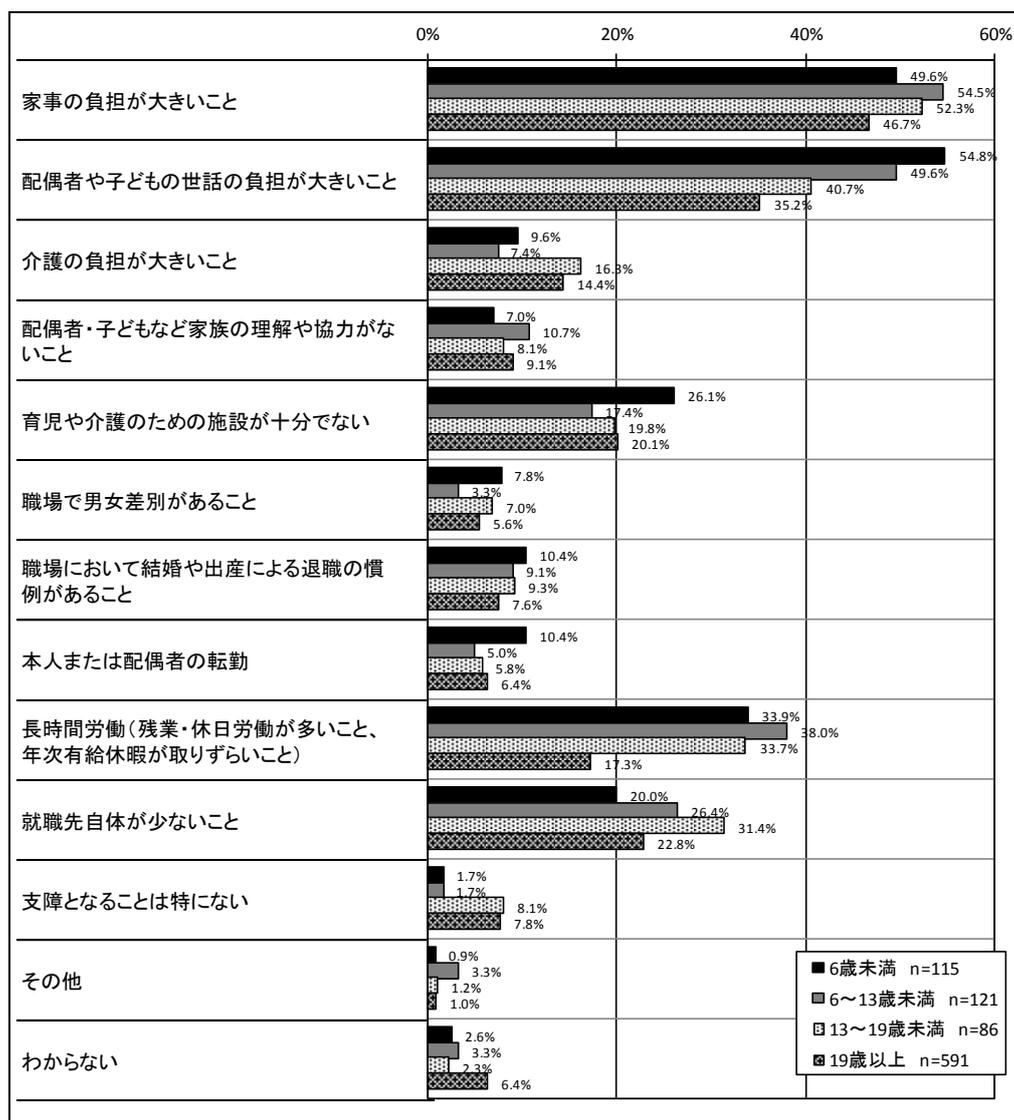
共働き状況（共働き・準共働き・非共働き・その他）と性別でみると、「共働き」で差が最も大きいのは、「配偶者・子どもなど家族の理解や協力がなないこと」であり、女性18.1%、男性6.2%で、その差は11.9ポイント、次いで「家事の負担が大きいこと」であり、女性56.0%、男性44.3%で、その差は11.7ポイントとなっています。

“準共働き”で差が最も大きいのは、「長時間労働（残業・休日労働が多いこと、年次有給休暇が取りづらいこと）」であり、女性 21.2%、男性 34.1%で、その差は 12.9 ポイント、次いで「家事の負担が大きいこと」であり、女性 56.8%、男性 44.0%で、その差は 12.8 ポイントとなっています。

“非共働き”で差が最も大きいのは、「育児や介護のための施設が十分でない」であり、女性 16.3%、男性 25.0%で、その差は 8.7 ポイント、次いで「分からない」であり、女性 9.0%、男性 0.9%で、その差は 8.1 ポイントとなっています。

“その他”で差が最も大きいのは、「育児や介護のための施設が十分でない」であり、女性 20.7%、男性 33.3%で、その差は 12.6 ポイント、次いで「家事の負担が大きいこと」であり、女性 50.0%、男性 40.0%で、その差は 10.0 ポイントとなっています。

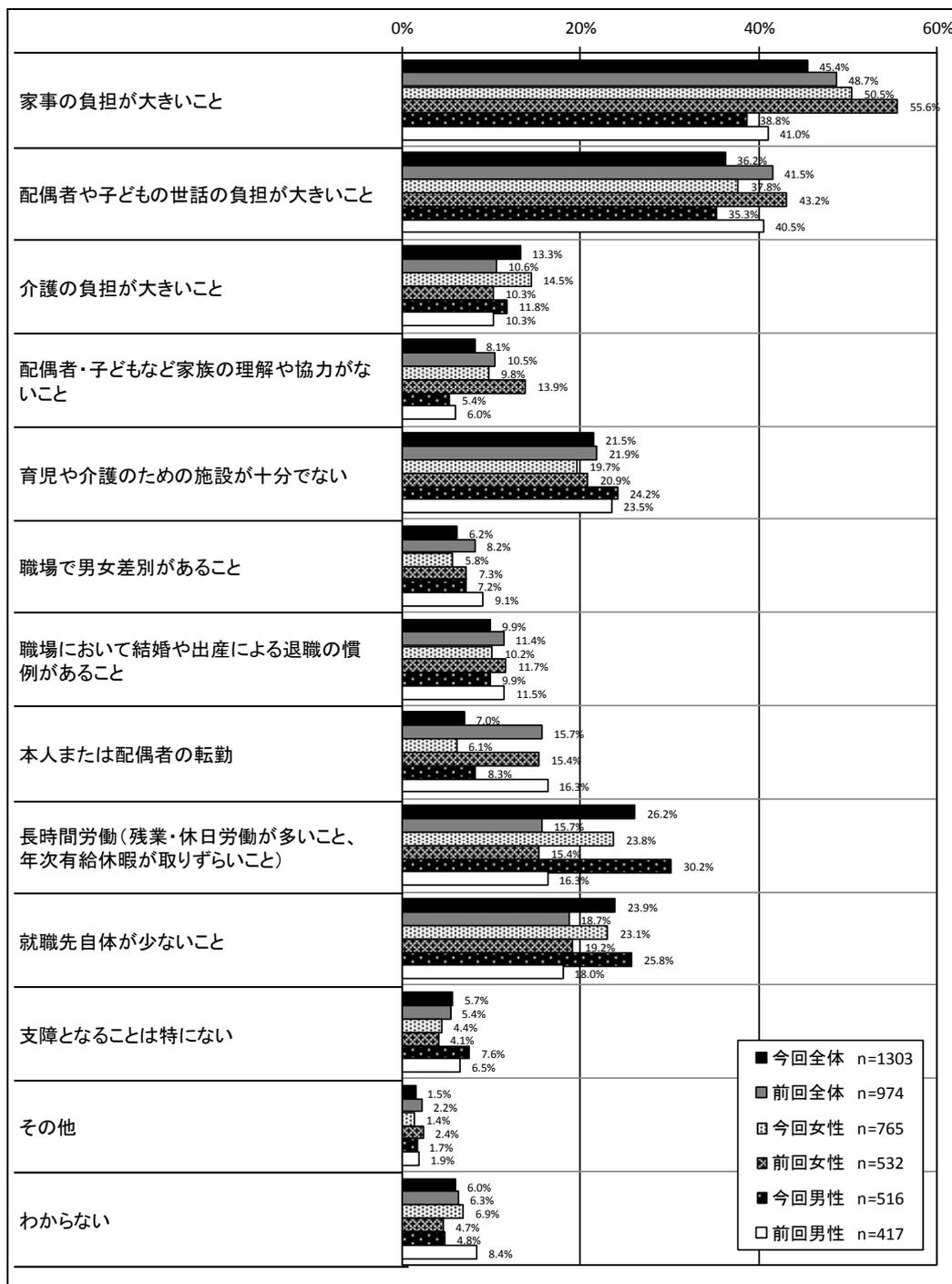
**末子の年齢別**



末子の年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「長時間労働（残業・休日労働が多いこと、年次有給休暇が取りづらいこと）」であり、最も高いのは“一番下の子の年齢が 6～13 歳未満”で 38.0%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 17.3% であり、その差は 20.7 ポイントとなっています。次いで、「配偶者や子どもの世話の負担が大きいこと」であり、最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 54.8%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 35.2%であり、その差は 19.6 ポイント

となっています。3番目に大きいのは、「就職先自体が少ないこと」であり、最も高いのは「一番下の子の年齢が13～19歳未満」で31.4%、最も低いのは「一番下の子の年齢が6歳未満」で20.0%であり、その差は11.4ポイントとなっています。

**前回調査との比較**



前回調査を上回った項目は、「長時間労働（残業・休日労働が多いこと、年次有給休暇が取りづらいこと）」が10.5ポイント、「就職先自体が少ないこと」が5.2ポイントと続いています。

前回調査を下回った項目は、「本人または配偶者の転勤」が8.7ポイント、「配偶者や子どもの世話の負担が大きいこと」が5.3ポイント、「家事の負担が大きいこと」が3.3ポイントと続いています。

（2）職場での能力発揮や継続勤務のために重要なこと

|       |   |
|-------|---|
| 問 1 8 | 一般的に、男女が共に職業人として職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためには、主にどのようなことが重要だと思いますか。（○は3つまで） |
|-------|---|

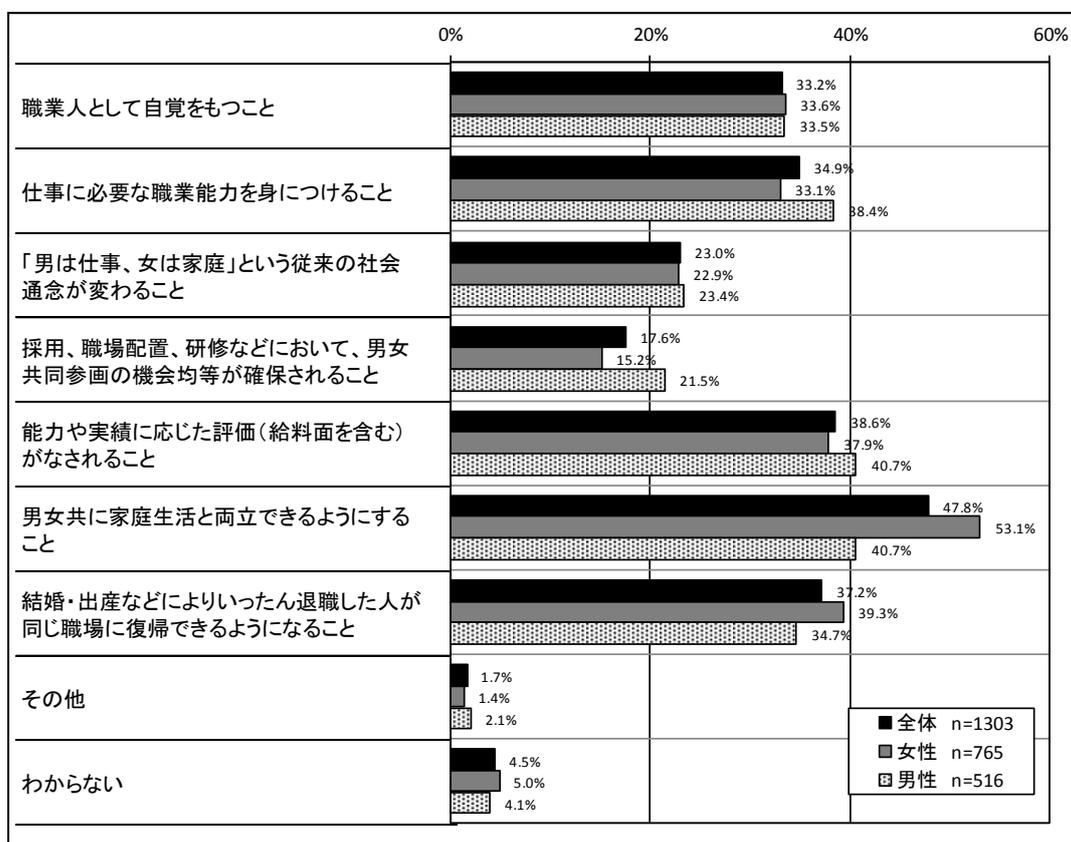
- ◆職場での能力発揮や継続勤務のためには、「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」が47.8%と最も多く、次いで、「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」が38.6%、「結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようになること」が37.2%と続いています。
- ◆性別でみると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」で12.4ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「採用、職場配置、研修などにおいて、男女共同参画の機会均等が確保されること」で6.3ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようになること」が1.6ポイント増、減少が最も大きい項目は、「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること」で5.4ポイント減となっています。

**全体**

「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」47.8%

> 「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」38.6%

> 「結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようになること」37.2%

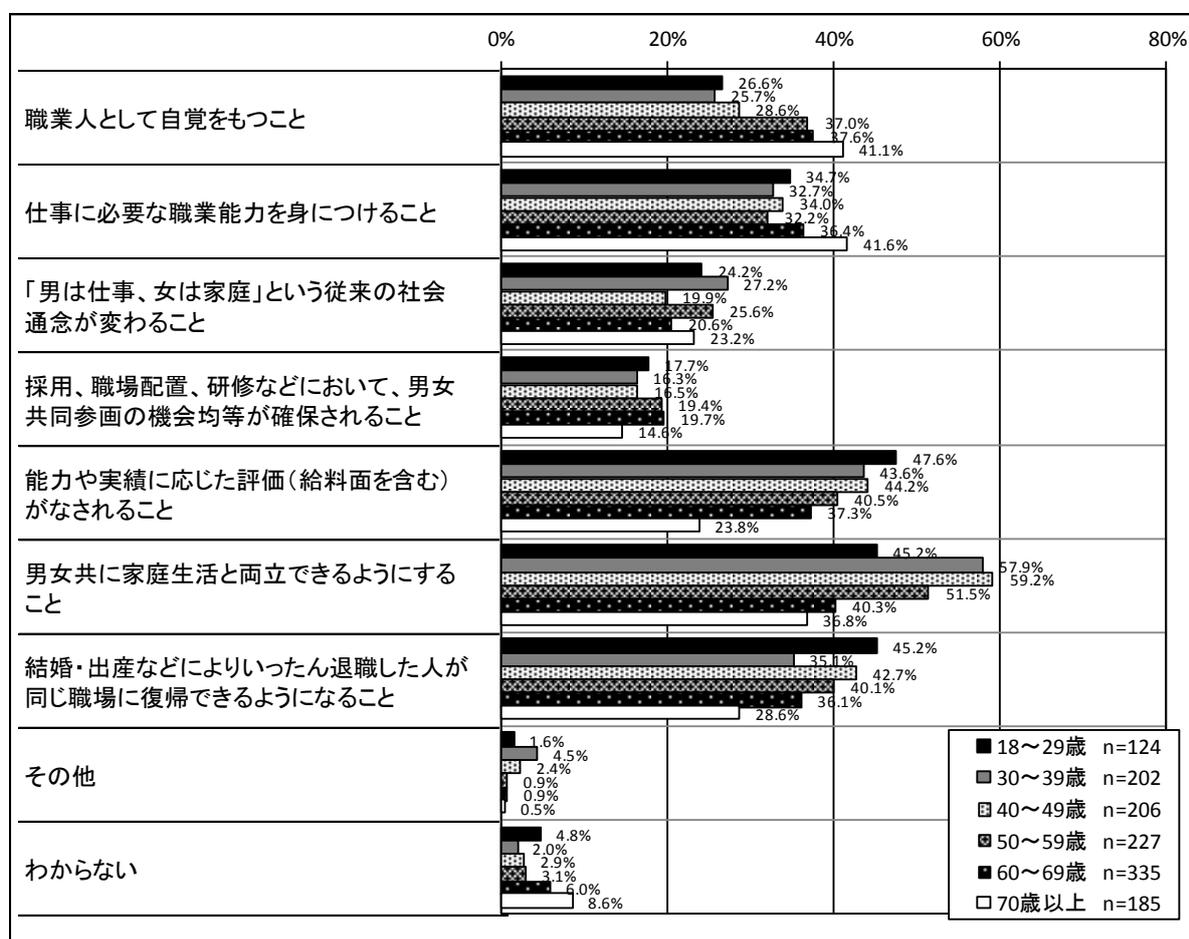


**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」で女性 53.1%、男性 40.7%であり、女性が 12.4 ポイント上回ります。次いで、「結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようになること」で女性 39.3%、男性 34.7%であり、女性が 4.6 ポイント上回ります。

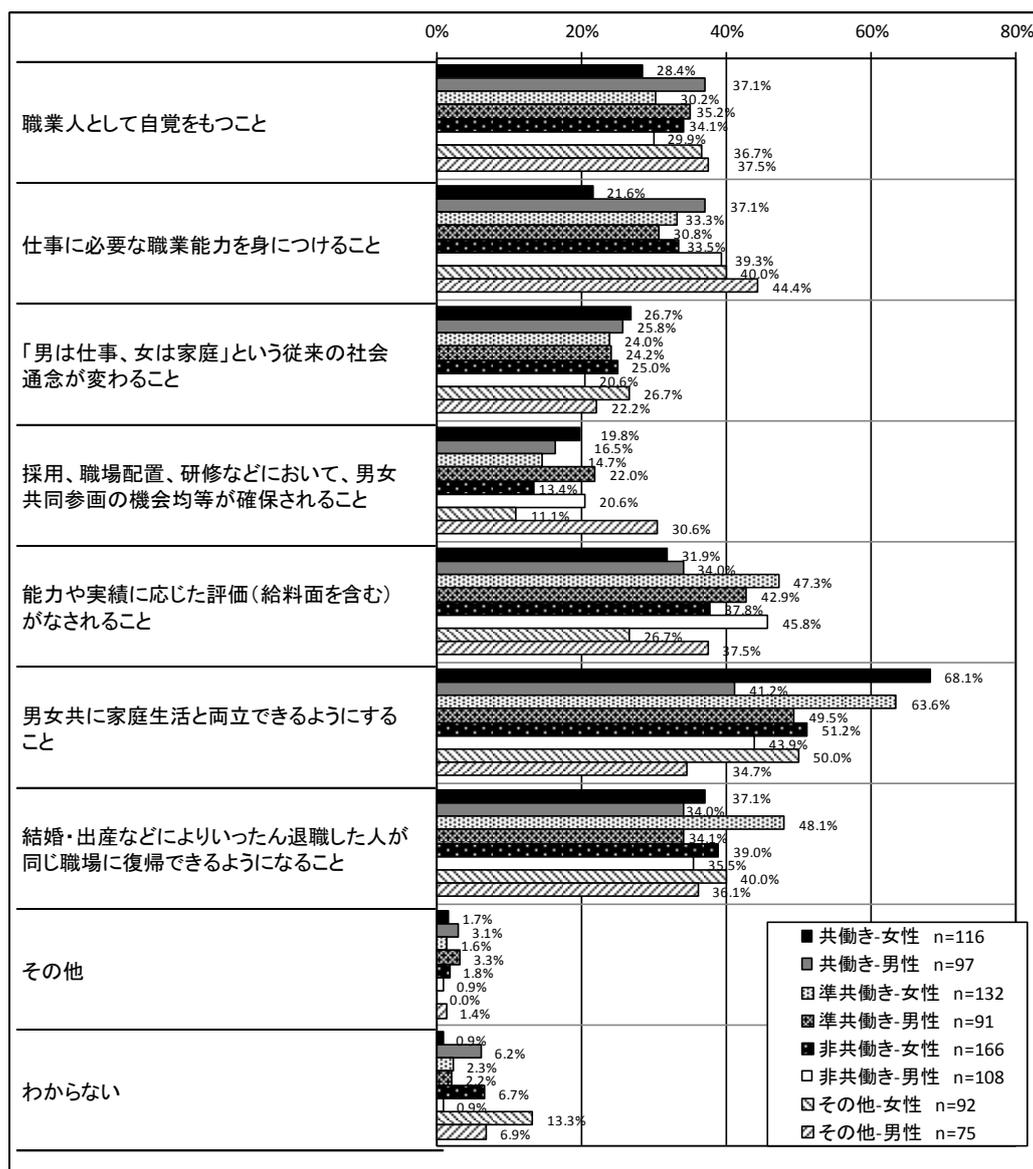
女性と男性で差があるもののうち、男性が上回る項目は、「採用、職場配置、研修などにおいて、男女共同参画の機会均等が確保されること」で女性 15.2%、男性 21.5%であり、男性が 6.3 ポイント上回ります。次いで、「仕事に必要な職業能力を身につけること」で女性 33.1%、男性 38.4%であり、男性が 5.3 ポイント上回ります。3 番目は、「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」で女性 37.9%、男性 40.7%であり、男性が 2.8 ポイント上回ります。

**年齢別**



年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」であり、最も高いのは 30 歳未満で 47.6%、最も低いのは 70 歳以上で 23.8%であり、その差は 23.8 ポイントとなっています。次いで、「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」であり、最も高いのは 40 代で 59.2%、最も低いのは 70 歳以上で 36.8%であり、その差は 22.4 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようになること」であり、最も高いのは 30 歳未満で 45.2%、最も低いのは 70 歳以上で 28.6%であり、その差は 16.6 ポイントとなっています。

**共働き状況別**



共働き状況（共働き・準共働き・非共働き・その他）と性別でみると、“共働き”で差が最も大きいのは、「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」であり、女性68.1%、男性41.2%で、その差は26.9ポイント、男性が上回る項目は、「仕事に必要な職業能力を身につけること」であり、女性21.6%、男性37.1%で、その差は15.5ポイントとなっています。

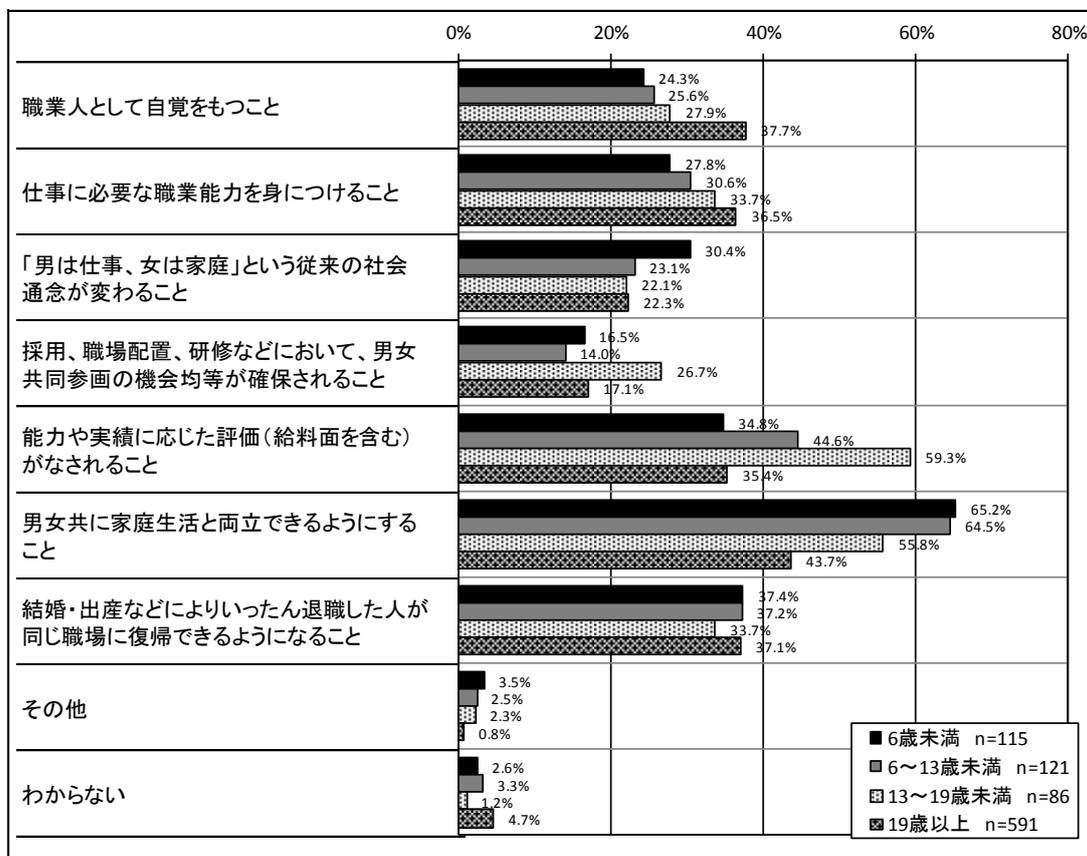
“準共働き”で差が最も大きいのは、「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」であり、女性63.6%、男性49.5%で、その差は14.1ポイント、次いで「結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようになること」であり、女性48.1%、男性34.1%で、その差は14.0ポイントとなっています。

“非共働き”で差が最も大きいのは、「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」であり、女性37.8%、男性45.8%で、その差は8.0ポイント、次いで「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」であり、女性51.2%、男性43.9%で、その差は7.3ポイントとなっています。

“その他”で差が最も大きいのは、「採用、職員配置、研修などにおいて、男女共同参画の機会均等が確保されること」であり、女性11.1%、男性30.6%で、その差は19.5

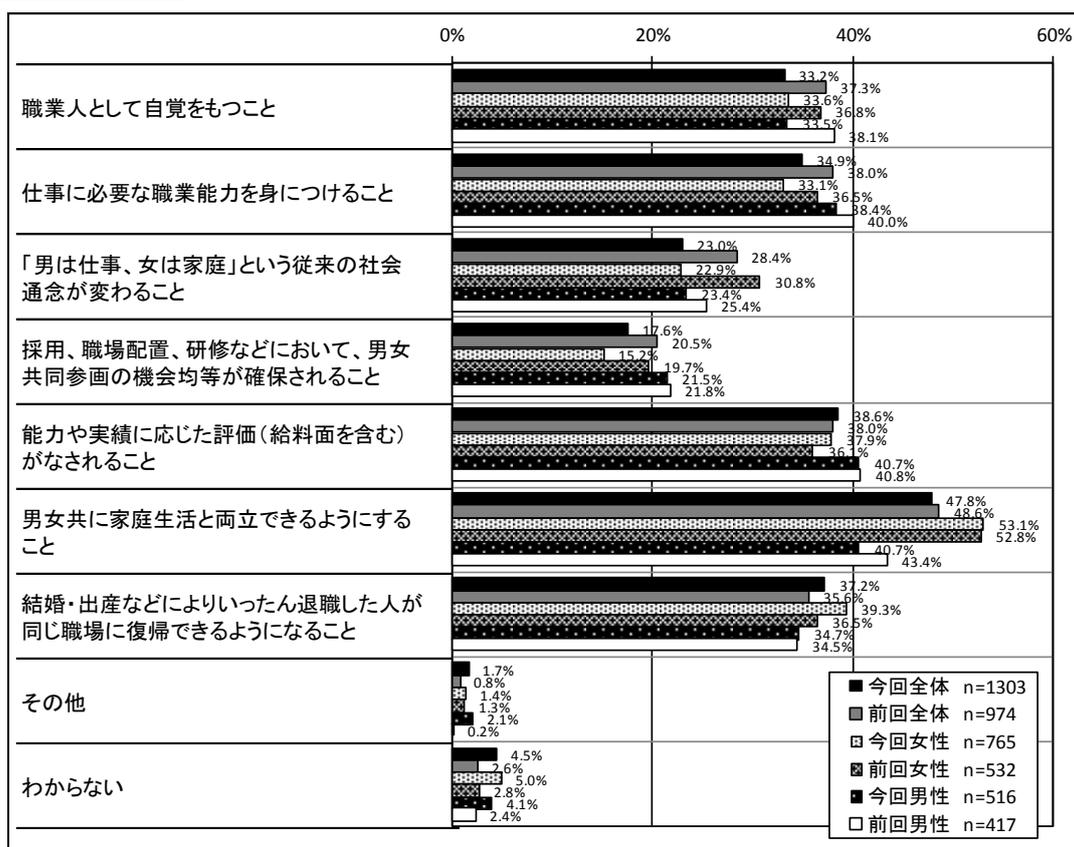
ポイント、次いで「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」であり、女性 50.0%、男性 34.7%で、その差は 15.3 ポイントとなっています。

**末子の年齢別**



末子の年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」であり、最も高いのは“一番下の子の年齢が 13～19 歳未満”で 59.3%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 34.8%であり、その差は 24.5 ポイントとなっています。次いで、「男女共に家庭生活と両立できるようにすること」であり、最も高いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 65.2%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 43.7%であり、その差は 21.5 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「職業人として自覚をもつこと」であり、最も高いのは“一番下の子の年齢が 19 歳以上”で 37.7%、最も低いのは“一番下の子の年齢が 6 歳未満”で 24.3%であり、その差は 13.4 ポイントとなっています。

前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようになること」が 1.6 ポイント、「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」0.6 ポイント等になっています。

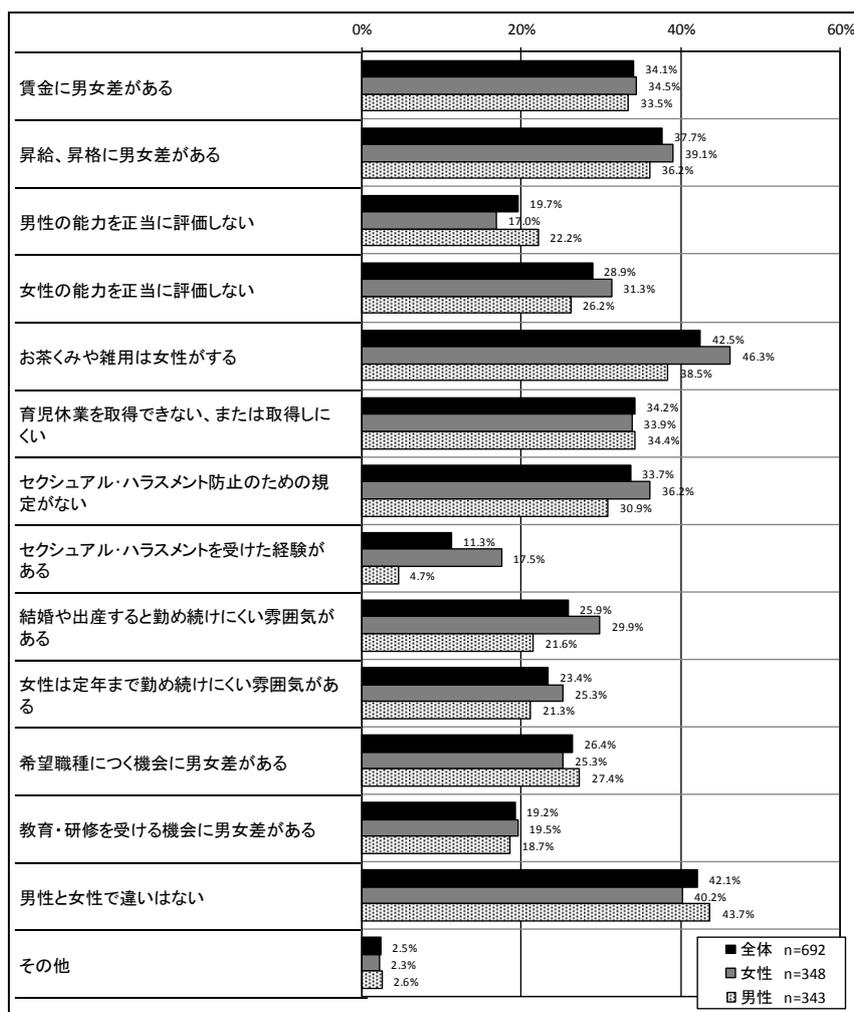
前回調査を下回った項目は、「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること」が 5.4 ポイント、「職業人として自覚をもつこと」が 4.1 ポイント、「仕事に必要な職業能力を身につけること」が 3.1 ポイントと続いています。

（3）職場での男女差について

問 19 お勤めの人にお聞きします。あなたの職場で、現在次のようなことがありますか。（○は「はい」か「いいえ」のどちらか1つずつ）

- ◆職場での男女差について、「お茶くみや雑用は女性がする」が42.5%と最も多く、次いで、「男性と女性で違いはない」は42.1%、「昇給、昇格に男女差がある」が37.7%、「育児休業を取得できない、または取得しにくい」が34.2%と続いています。
- ◆性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「セクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある」で12.8ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「男性の能力を正当に評価しない」で5.2ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「女性の能力を正当に評価しない」が7.8ポイント増、減少した項目はありません。

**全体** 「お茶くみや雑用は女性がする」42.5% > 「男性と女性で違いはない」42.1% > 「昇給、昇格に男女差がある」37.7% > 「育児休業を取得できない、または取得しにくい」34.2%



**性別**

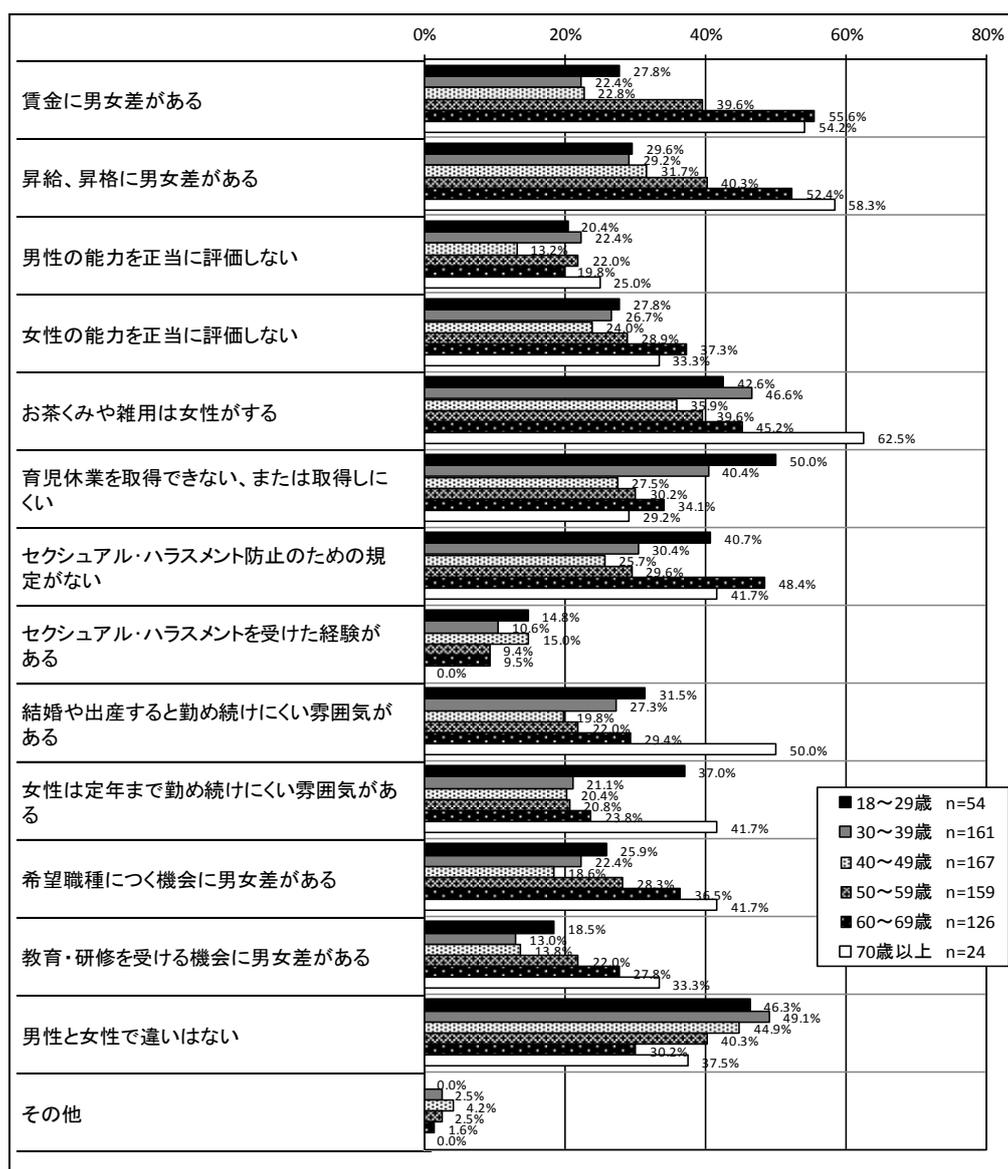
性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「セクシュアル・ハラスメントを受け

## II 調査結果（8 職業生活について）

た経験がある」で女性 17.5%、男性 4.7%であり、女性が 12.8 ポイント上回ります。次いで、「結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある」で女性 29.9%、男性 21.6%であり、女性が 8.3 ポイント上回ります。3 番目は、「お茶くみや雑用は女性がする」であり、女性 46.3%、男性 38.5%であり、女性が 7.8 ポイント上回ります。

女性と男性で差があるもので、男性が上回る項目は、「男性の能力を正當に評価しない」で女性 17.0%、男性 22.2%であり、男性が 5.2 ポイント上回ります。次いで、「男性と女性で違いはない」で女性 40.2%、男性 43.7%であり、男性が 3.5 ポイント上回ります。3 番目は、「希望職種につく機会に男女差がある」で女性 25.3%、男性 27.4%であり、男性が 2.1 ポイント上回ります。

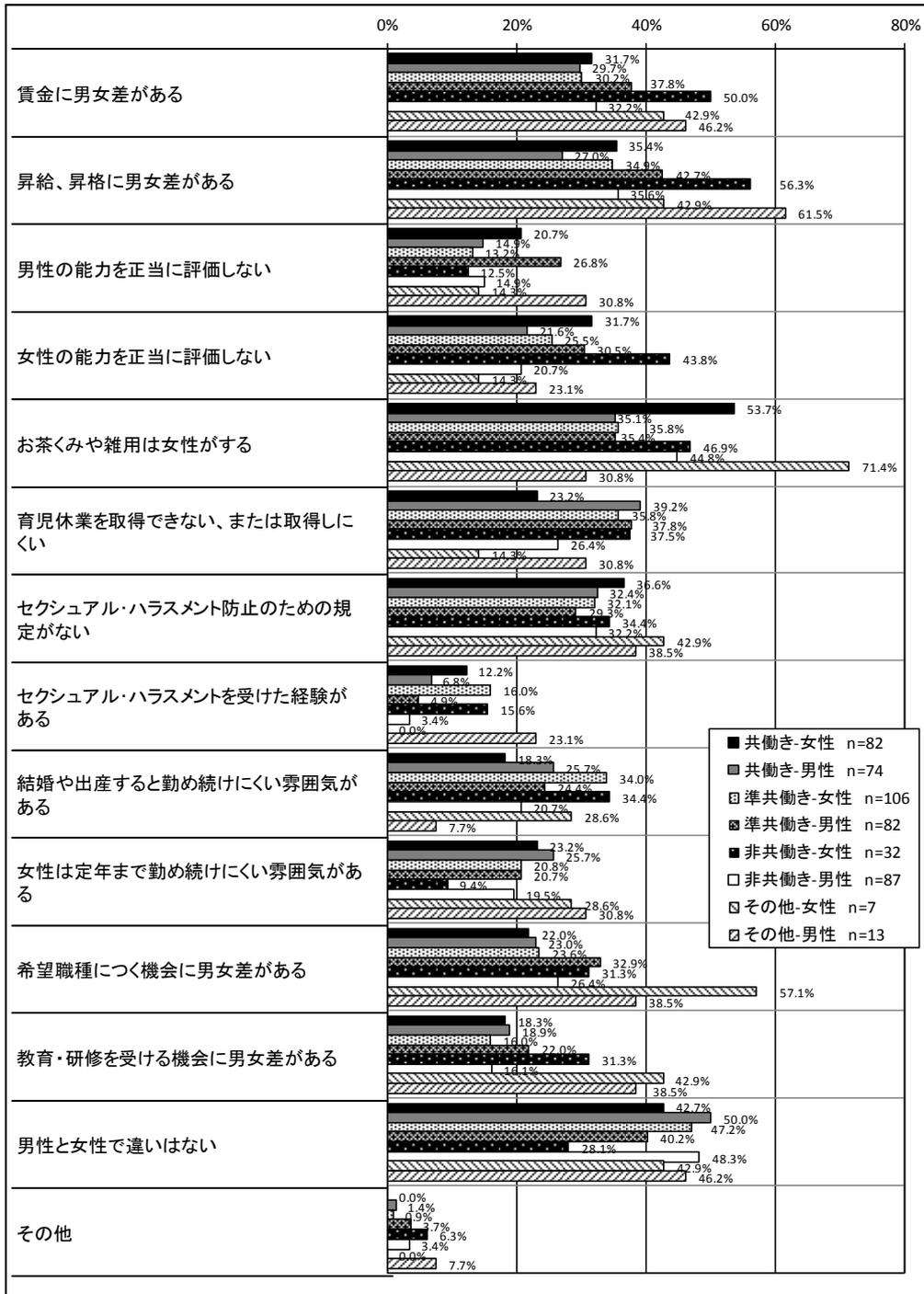
### 年齢別



年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「賃金に男女差がある」であり、最も高いのは 60 代で 55.6%、最も低いのは 30 代で 22.4%であり、その差は 33.2 ポイントとなっています。次いで、「結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある」であり、最も高いのは 70 歳以上で 50.0%、最も低いのは 40 代で 19.8%であり、その差は 30.2 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「昇給、昇格に男女差がある」であり、最も高いのは 70 歳以上で 58.3%、最も低いのは 30 代で 29.2%であり、その差は 29.1

ポイントとなっています。

**共働き状況別**

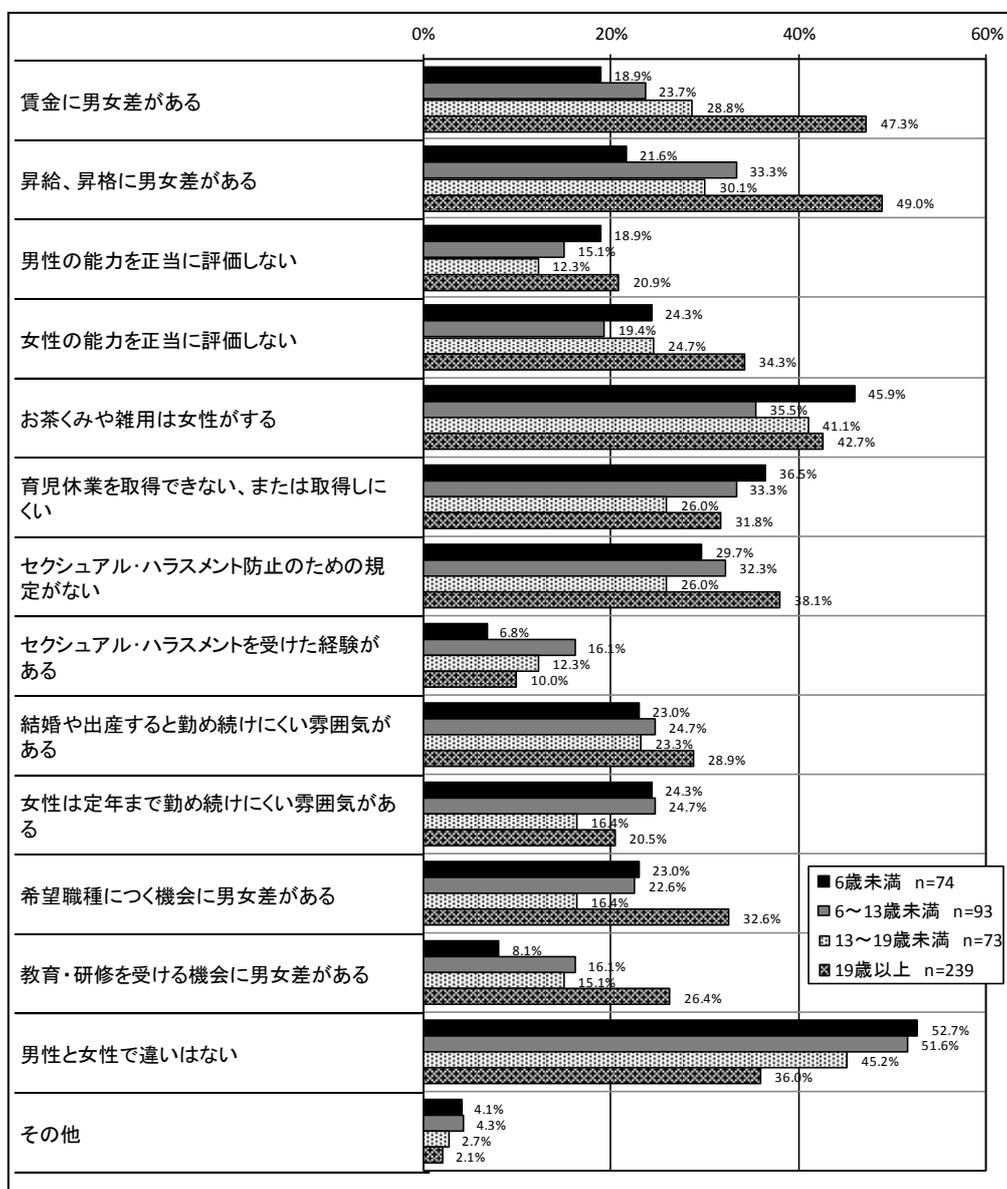


共働き状況（共働き・準共働き・非共働き・その他）と性別でみると、「共働き」で差が最も大きいのは、「お茶くみや雑用は女性がする」であり、女性 53.7%、男性 35.1% で、その差は 18.6 ポイント、次いで「育児休業を取得できない、または取得しにくい」であり、女性 23.2%、男性 39.2% で、その差は 16.0 ポイントとなっています。

“準共働き”で差が最も大きいのは、「男性の能力を正当に評価しない」であり、女性 13.2%、男性 26.8% で、その差は 13.6 ポイント、次いで「セクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある」であり、女性 16.0%、男性 4.9% で、その差は 11.1 ポイントとなっています。

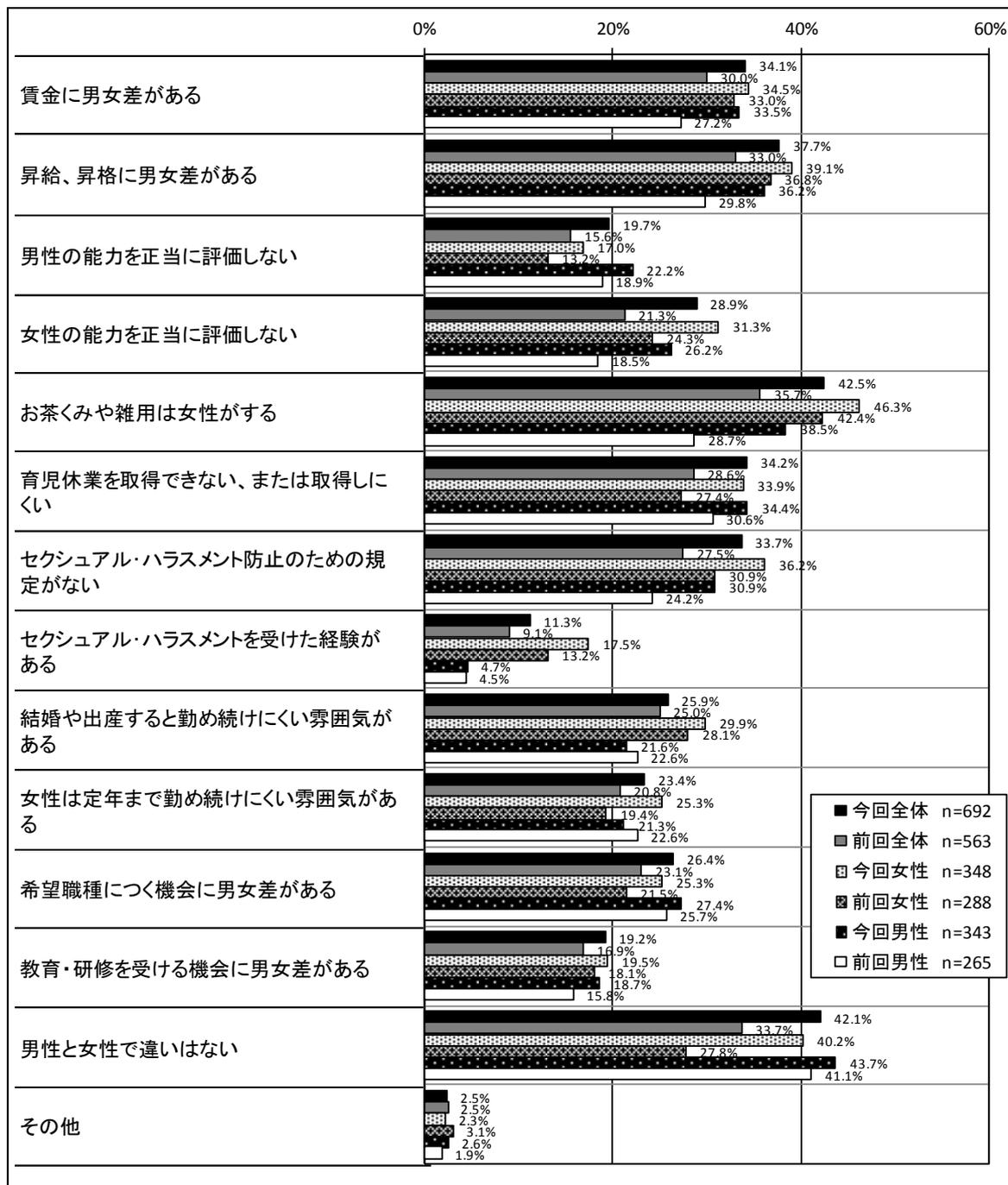
“非共働き”で差が最も大きいのは、「女性の能力を正當に評価しない」であり、女性43.8%、男性20.7%で、その差は23.1ポイント、次いで、「昇給、昇格に男女差がある」であり、女性56.3%、男性35.6%で、その差は20.7ポイントとなっています。

**末子の年齢別**



末子の年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「賃金に男女差がある」であり、最も高いのは“一番下の子の年齢が19歳以上”で47.3%、最も低いのは“一番下の子の年齢が6歳未満”で18.9%であり、その差は28.4ポイントとなっています。次いで、「昇給、昇格に男女差がある」であり、最も高いのは“一番下の子の年齢が19歳以上”で49.0%、最も低いのは“一番下の子の年齢が6歳未満”で21.6%であり、その差は27.4ポイントとなっています。3番目に大きいのは、「教育・研修を受ける機会に男女差がある」であり、最も高いのは“一番下の子の年齢が19歳以上”で26.4%、最も低いのは“一番下の子の年齢が6歳未満”で8.1%であり、その差は18.3ポイントとなっています。

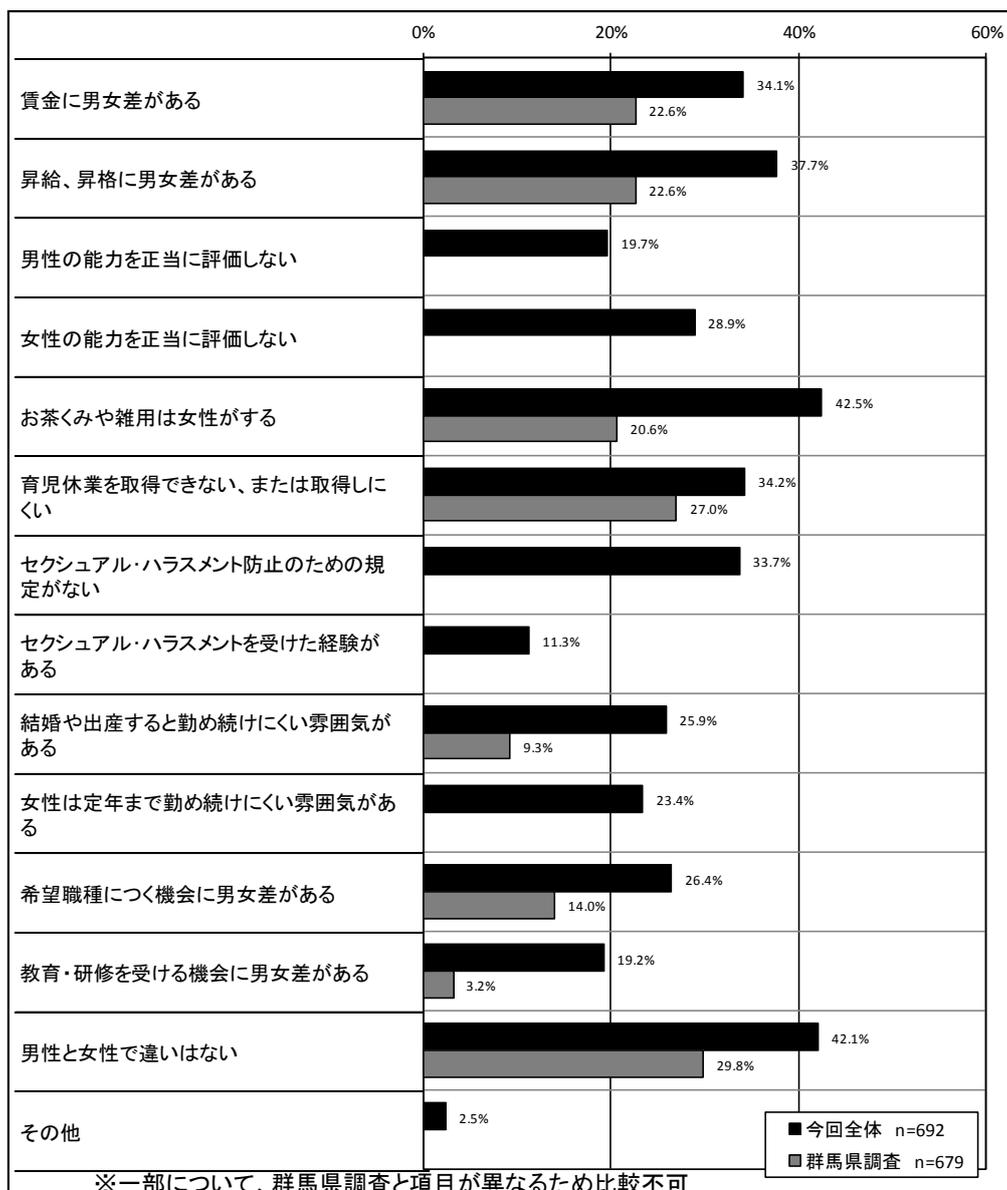
前回調査との比較



全体で、前回調査を上回った項目は、「男性と女性で違いはない」が 8.4 ポイント、「女性の能力を正当に評価しない」が 7.6 ポイント、「お茶くみや雑用は女性がする」が 6.8 ポイント、「セクシュアル・ハラスメント防止のための規定がない」が 6.2 ポイント、「育児休業を取得できない、または取得しにくい」が 5.6 ポイントと続いています。

前回調査を下回った項目ありませんでした。

**群馬県調査との比較**



群馬県調査と比べ、上回った項目は、「お茶くみや雑用は女性がする」が 21.9 ポイント、「結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある」が 16.6 ポイント、「教育・研修を受ける機会に男女差がある」が 16.0 ポイント、「男性と女性で違いはない」が 12.3 ポイントと続いています。

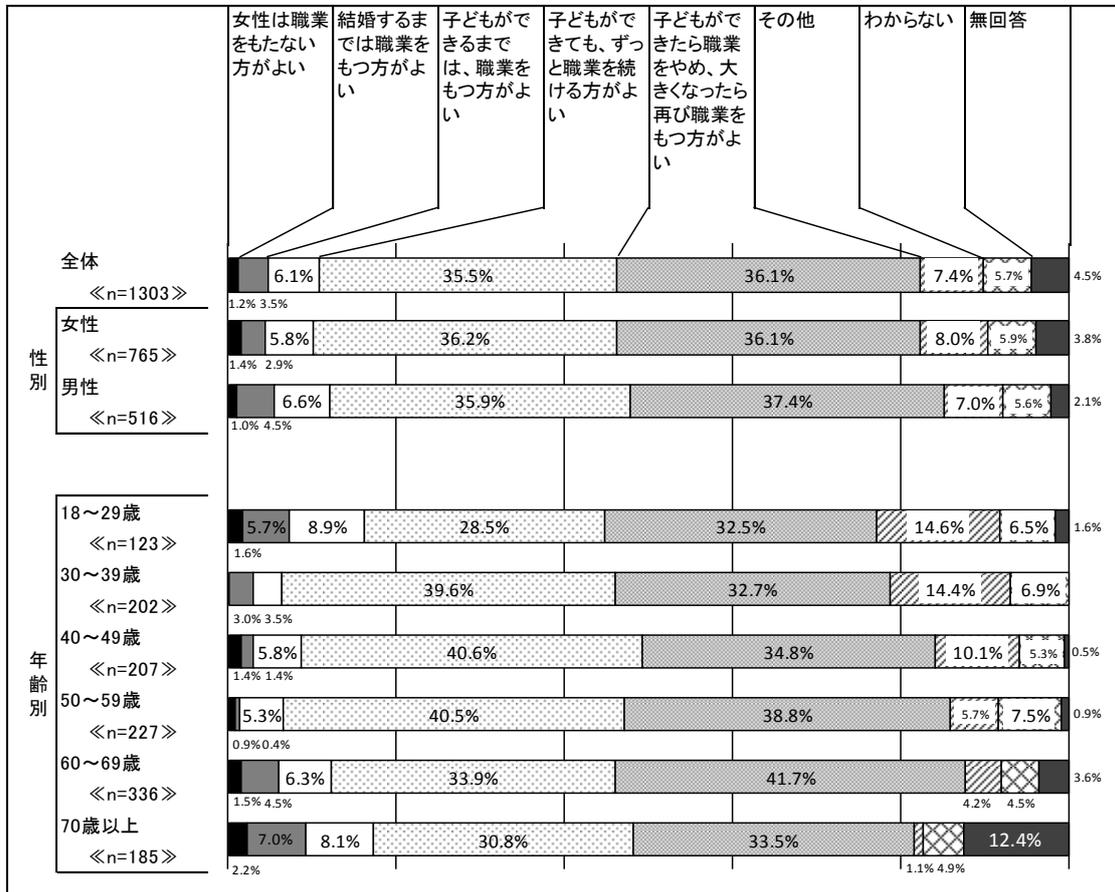
（4）一般的に女性が職業を持つことについて

問 20 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。

- ◆「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（一時中断型）が36.1%と最も高く、次いで、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（中断なし就業）が35.5%と続いています。
- ◆性別で見ると、“中断なし就業”については女性が0.3ポイント上回り、“一時中断型”については男性が1.3ポイント上回ります。
- ◆“中断なし就業”については前回調査および群馬県調査を上回るが、全国調査を下回ります。“一時中断型”については前回調査および全国調査を上回るが、群馬県調査を下回ります。

**全体**

「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」36.1%  
 > 「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」35.5%



注：「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」を“中断なし就業”、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」を“一時中断型”と表記します。

**性別**

“中断なし就業”については、「女性」36.2%、「男性」35.9%で、「女性」が0.3ポイント上回ります。

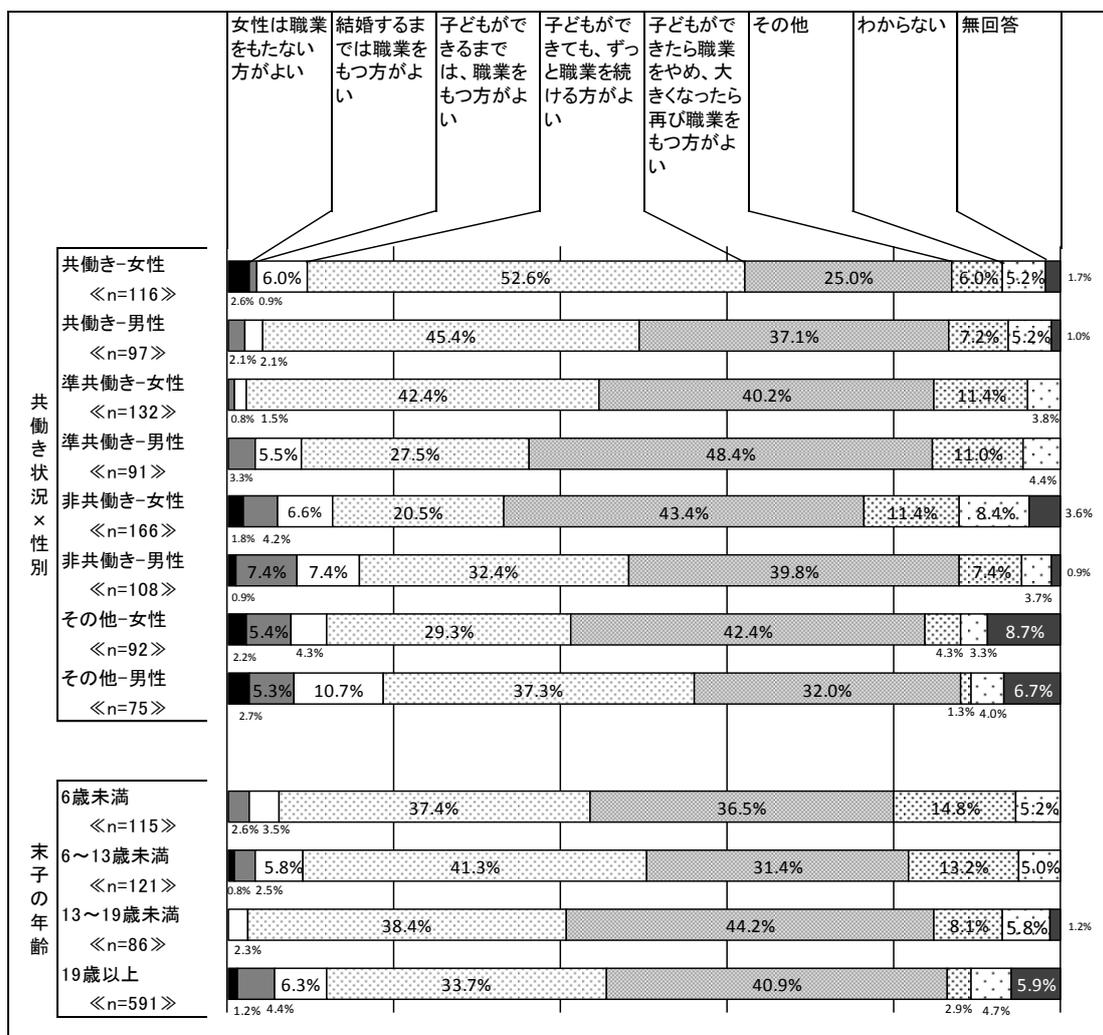
“一時中断型”については、「女性」36.1%、「男性」37.4%で、「男性」が1.3ポイント上回ります。

**年齢別**

“中断なし就業”について高いのは、40代 40.6%、50代 40.5%の順で、低いのは30歳未満 28.5%、70歳以上 30.8%と続いています。

“一時中断型”について高いのは60代 41.7%、50代 38.8%の順で、低いのは30歳未満 32.5%、30代 32.7%と続いています。

**共働き状況別**



“中断なし就業”について高いのは、「共働き-女性」52.6%、「共働き-男性」45.4%の順で、低いのは「非共働き-女性」20.5%、「準共働き-男性」27.5%と続いています。

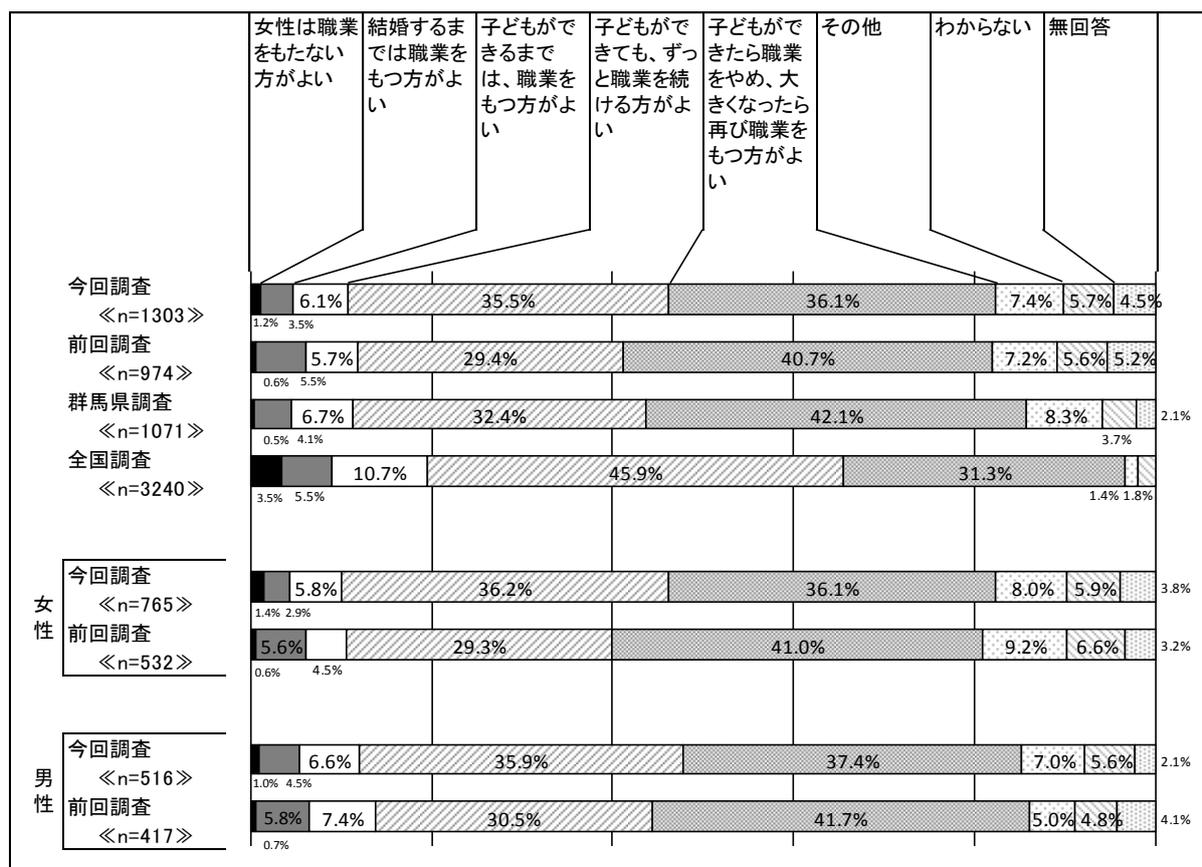
“一時中断型”について高いのは「準共働き-男性」48.4%、「非共働き-女性」43.4%の順で、低いのは「共働き-女性」25.0%、「その他-男性」32.0%と続いています。

**末子の年齢別**

“中断なし就業”については、「末子 6~13歳未満」41.3%、「末子 13~19歳未満」38.4%、「末子 6歳未満」37.4%、「末子 19歳以上」33.7%と続いています。

“一時中断型”については、「末子 13~19歳未満」44.2%、「末子 19歳以上」40.9%、「末子 6歳未満」36.5%、「末子 6~13歳未満」31.4%と続いています。

前回調査・全国調査との比較



“中断なし就業”について

前回調査と比べると、全体では 6.1 ポイント上昇。女性では 6.9 ポイント上昇しました。男性では 5.4 ポイント上昇しました。

群馬県調査と比べると 3.1 ポイント上回るが、全国調査と比較すると 10.4 ポイント下回ります。

“一時中断型”について

前回調査と比べると、全体では 4.6 ポイント減少。女性では 4.9 ポイント減少。男性では 4.3 ポイント減少しました。

群馬県調査と比べると 6 ポイント下回るが、全国調査と比較すると 4.8 ポイント上回ります。

## 9 女性の社会参画について

### (1) 女性の社会参画で大切なこと

|       |   |
|-------|---|
| 問 2 1 | 行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で、どのようなことが大切だと思いますか。(〇は3つまで) |
|-------|---|

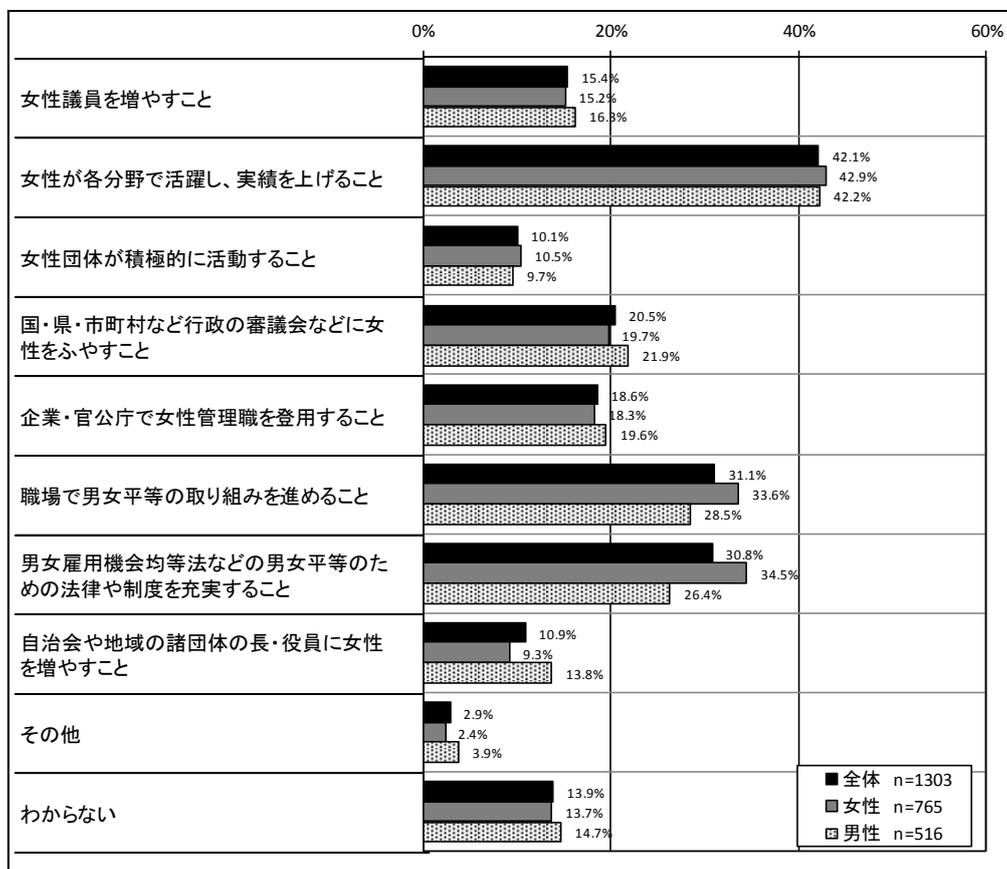
- ◆方針決定への女性の参画を図るために大切なことは、「女性が各分野で活躍し、実績を上げること」が42.1%と最も多く、次いで、「職場で男女平等の取り組みを進めること」が31.1%、「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実すること」が30.8%と続いています。
- ◆性別でみると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実すること」で8.1ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やすこと」で4.5ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「わからない」が3.6ポイント増、減少が最も大きい項目は、「女性が各分野で活躍し、実績を上げること」が4.7ポイント減となっています。

#### 全体

「女性が各分野で活躍し、実績を上げること」42.1%

> 「職場で男女平等の取り組みを進めること」31.1%

> 「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実すること」30.8%

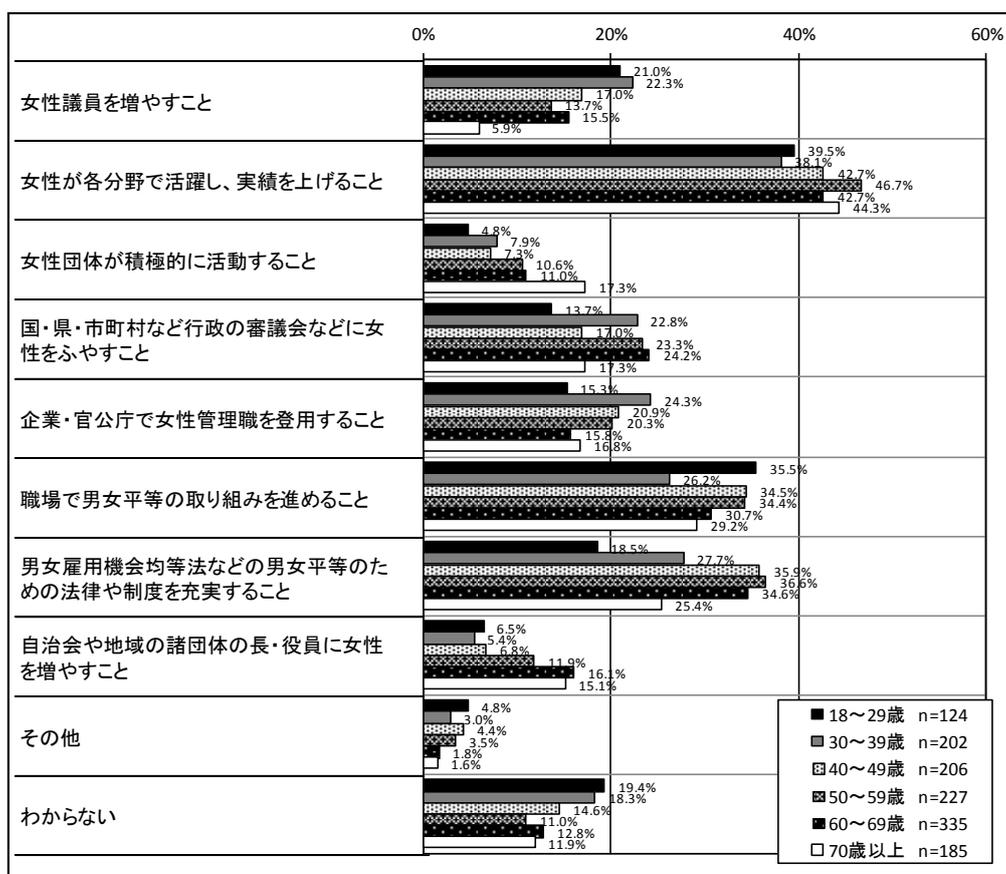


**性別**

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実すること」で女性 34.5%、男性 26.4%であり、女性が 8.1 ポイント上回ります。次いで、「職場で男女平等の取り組みを進めること」で女性 33.6%、男性 28.5%であり、女性が 5.1 ポイント上回ります。

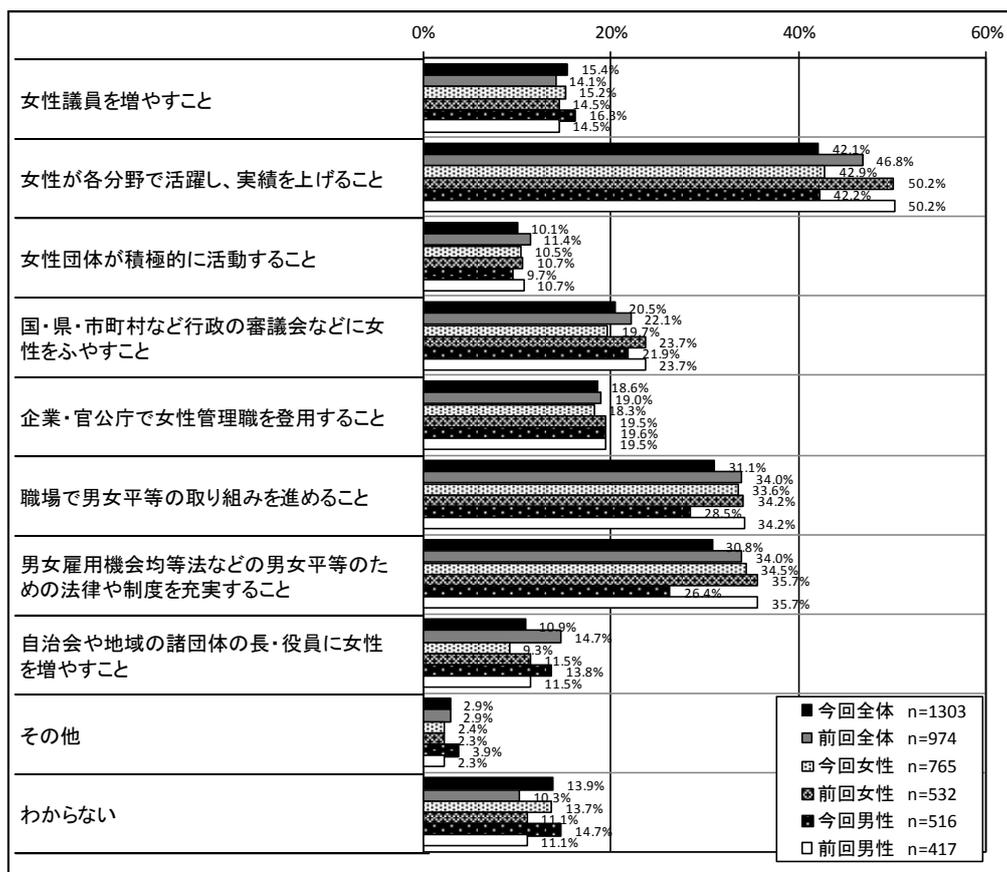
女性と男性で差があるもので、男性が上回る項目は、「自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やすこと」で女性 9.3%、男性 13.8%であり、男性が 4.5 ポイント上回ります。次いで、「国・県・市町村など行政の審議会などに女性をふやすこと」で女性 19.7%、男性 21.9%であり、男性が 2.2 ポイント上回ります。

**年齢別**



年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実すること」であり、最も高いのは 50 代で 36.6%、最も低いのは 30 歳未満で 18.5%であり、その差は 18.1 ポイントとなっています。次いで、「女性議員を増やすこと」であり、最も高いのは 30 代で 22.3%、最も低いのは 70 歳以上で 5.9%であり、その差は 16.4 ポイントとなっています。3 番目に大きいのは、「女性団体が積極的に活動すること」であり、最も高いのは 70 歳以上で 17.3%、最も低いのは 30 歳未満で 4.8%であり、その差は 12.5 ポイントとなっています。

前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「わからない」が 3.6 ポイント、「女性議員を増やすこと」が 1.3 ポイントと続いています。

前回調査を下回った項目は、「女性が各分野で活躍し、実績を上げること」が 4.7 ポイント、「自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やすこと」が 3.8 ポイント、「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実すること」が 3.2 ポイントと続いています。

## 10 男女共同参画を進めるための市の施策について

### (1) 市の施策の周知度

|       |  |
|-------|--|
| 問 2 2 | これまでに以下の用語や施策を見たり聞いたりしたことがありますか。【複数回答】 |
|-------|--|

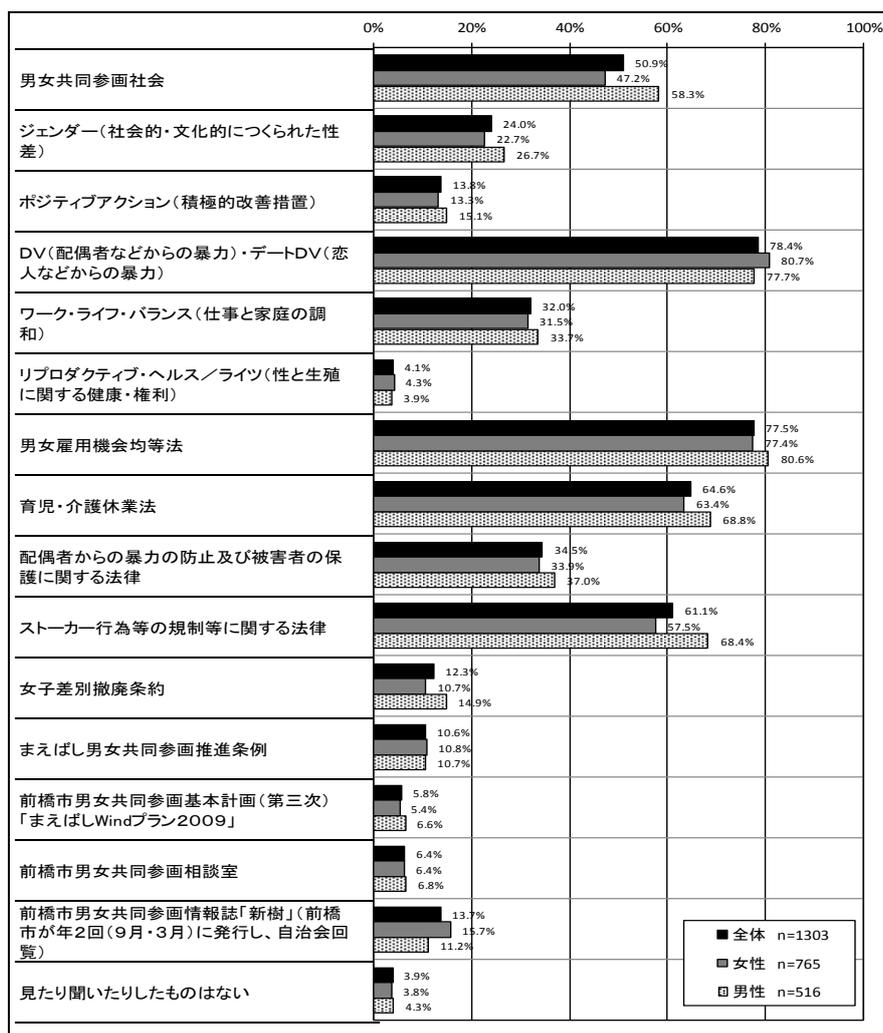


- ◆ 「DV（配偶者などからの暴力）・デートDV（恋人などからの暴力）」が78.4%と最も高く、次いで、「男女雇用機会均等法」が77.5%、「育児・介護休業法」が64.6%、「ストーカー行為等の規制等に関する法律」が61.1%、「男女共同参画社会」が50.9%と続いています。
- ◆ 性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「前橋市男女共同参画情報誌「新樹」（前橋市が年2回（9月・3月）に発行し、自治会回覧）」で4.5ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「男女共同参画社会」で11.1ポイントとなっています。
- ◆ 前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「ポジティブアクション（積極的改善措置）」が6.9ポイント増、減少が最も大きい項目は、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が10.8ポイント減となっています。

**全体** 「DV（配偶者などからの暴力）・デートDV（恋人などからの暴力）」78.4%

> 「男女雇用機会均等法」77.5% > 「育児・介護休業法」64.6%

> 「ストーカー行為等の規制等に関する法律」61.1% > 「男女共同参画社会」50.9%

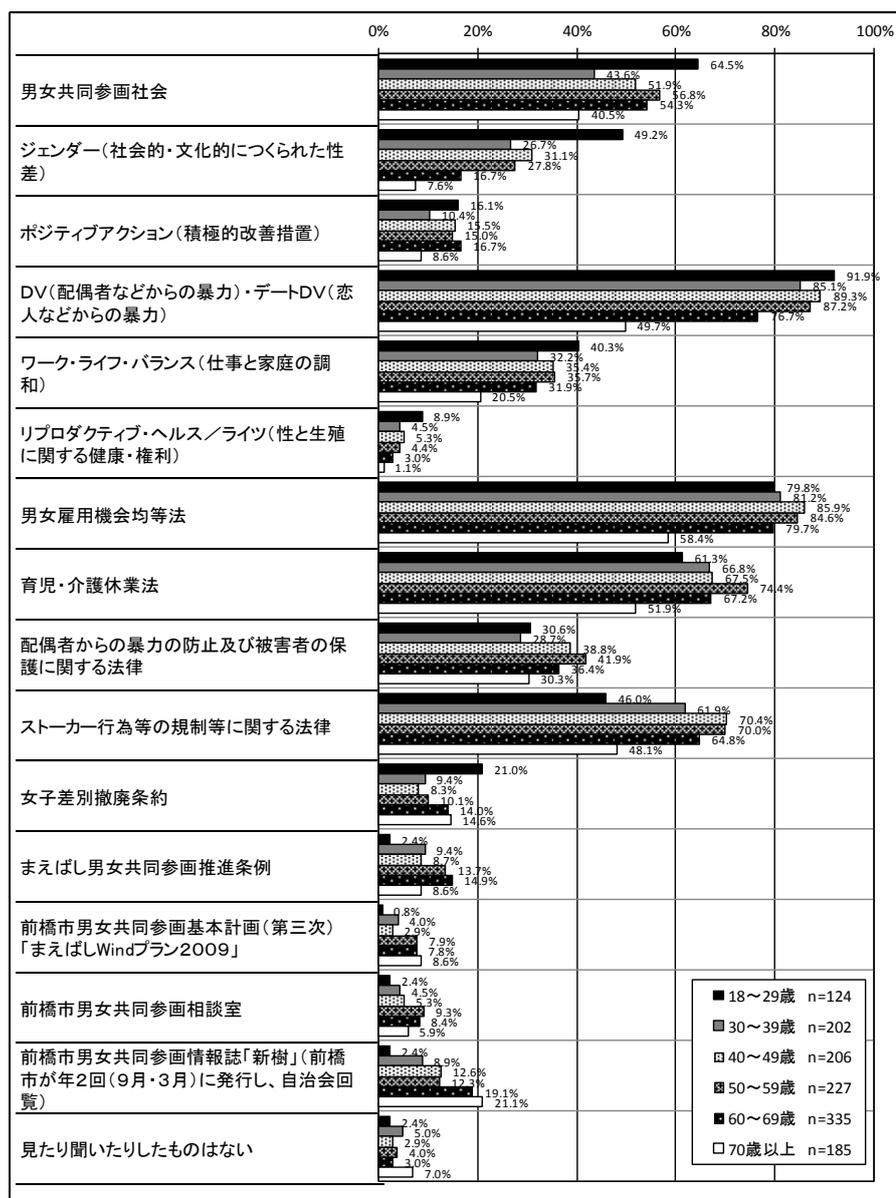


## II 調査結果 (10 男女共同参画を進めるための市の施策について)

### 性別

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「前橋市男女共同参画情報誌「新樹」(前橋市が年2回(9月・3月)に発行し、自治会回覧)」で女性 15.7%、男性 11.2%であり、女性が 4.5 ポイント上回ります。次いで、「DV(配偶者などからの暴力)・デートDV(恋人などからの暴力)」で女性 80.7%、男性 77.7%であり、女性が 3.0 ポイント上回ります。女性と男性で差があるもので、男性が上回る項目は、「男女共同参画社会」で女性 47.2%、男性 58.3%であり、男性が 11.1 ポイント上回ります。次いで、「ストーカー行為等の規制等に関する法律」で女性 57.5%、男性 68.4%であり、男性が 10.9 ポイント上回ります。3 番目は、「育児・介護休業法」で女性 63.4%、男性 68.8%であり、男性が 5.4 ポイント上回ります。

### 年齢別

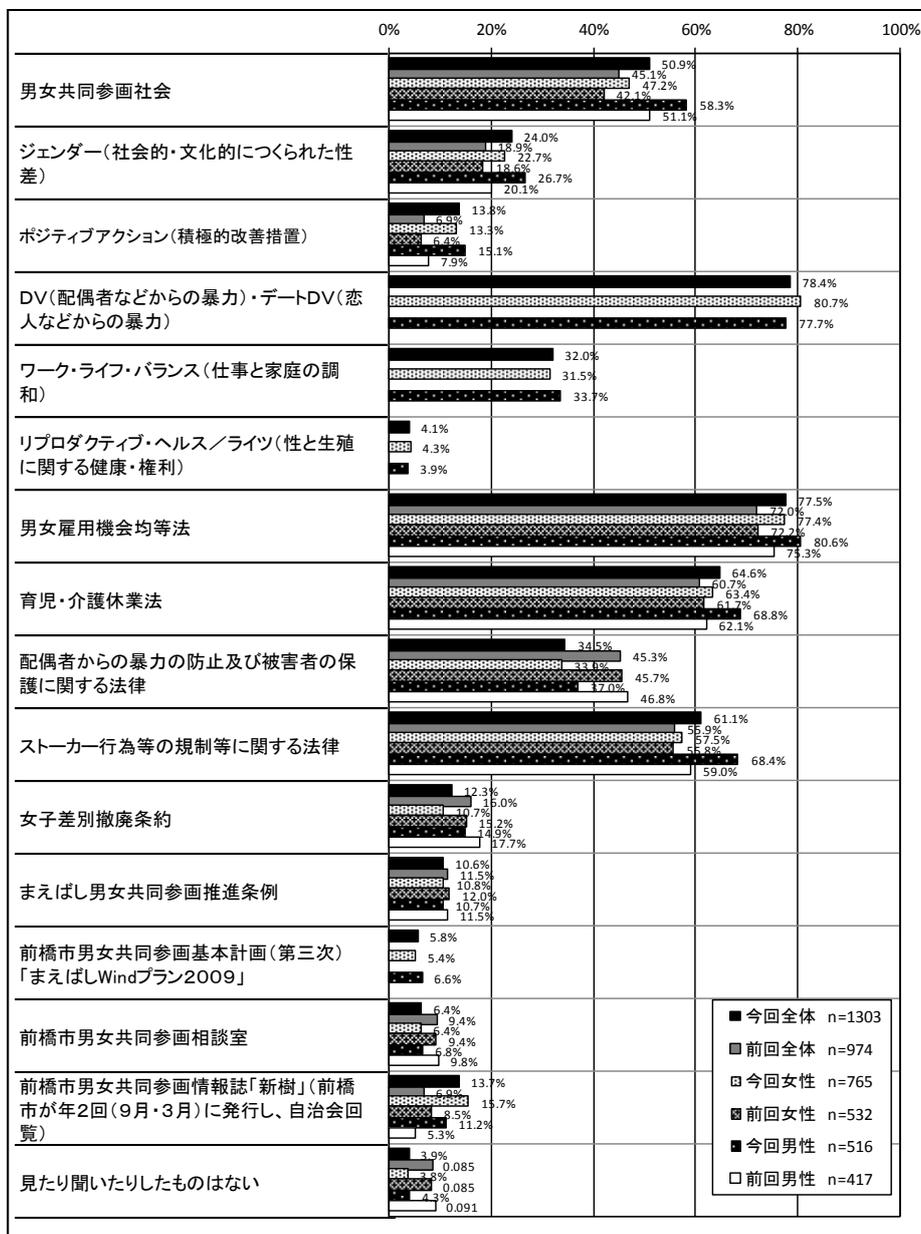


年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「DV(配偶者などからの暴力)・デートDV(恋人などからの暴力)」であり、最も高いのは 30 歳未満の 91.9%、最も低いのは 70 歳以上の 49.7%で、その差は 42.2 ポイントとなっています。次いで、「ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)」であり、最も高いのは 30 歳未満の 49.2%、最も低いのは 70 歳以上の 7.6%で、その差は 41.6 ポイントとなっています。3 番目に

## II 調査結果 (10 男女共同参画を進めるための市の施策について)

大きいのは、「男女雇用機会均等法」であり、最も高いのは 40 代の 85.9%、最も低いのは 70 歳以上の 58.4% で、その差は 27.5 ポイントとなっています。

### 前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「ポジティブアクション(積極的改善措置)」が 6.9 ポイント、「前橋市男女共同参画情報誌「新樹」」が 6.8 ポイントと続いています。このほか、「男女共同参画社会」が 5.8 ポイント、「男女雇用機会均等法」が 5.5 ポイント、「ストーカー行為等の規制等に関する法律」が 5.2 ポイント、「ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)」が 5.1 ポイントと続いています。

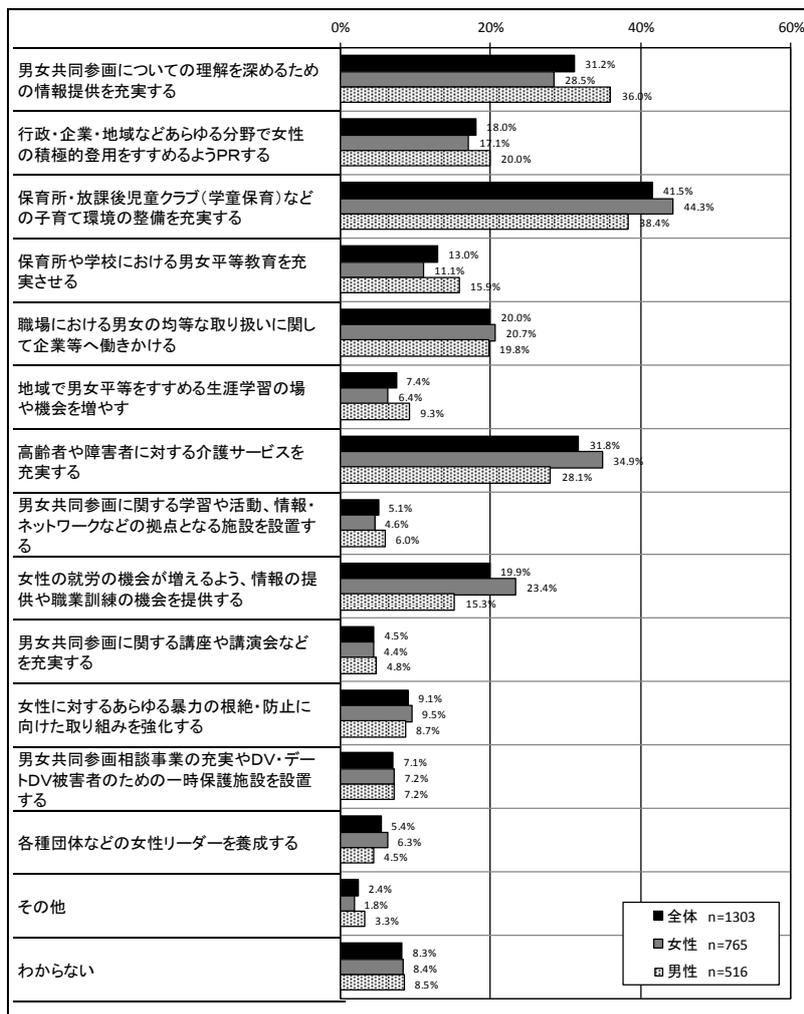
前回調査を下回った項目は、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が 10.8 ポイント、「女子差別撤廃条約」が 3.7 ポイント、「前橋市男女共同参画相談室」が 3.0 ポイントと続いています。

(2) 男女共同参画推進のために力を入れるべきこと

問 2 3 男女共同参画社会を進めるために、市では今後どのようなことに力をいれたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

- ◆男女共同参画推進のために力を入れるべきことは、「保育所・放課後児童クラブ(学童保育)などの子育て環境の整備を充実する」が41.5%と最も多く、次いで、「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実する」が31.8%、「男女共同参画についての理解を深めるための情報提供を充実する」が31.2%と続いています。
- ◆性別で見ると、女性が上回るもので最も差が大きいものは、「女性の就労の機会が増えるよう、情報の提供や職業訓練の機会を提供する」で8.1ポイント。男性が上回るもので最も差が大きいものは、「男女共同参画についての理解を深めるための情報提供を充実する」で7.5ポイントとなっています。
- ◆前回調査と比べ、増加が大きい項目は、「女性の就労の機会が増えるよう、情報の提供や職業訓練の機会を提供する」が3.5ポイント増、減少が最も大きい項目は、「職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける」が4.4ポイント減となっています。

**全体**「保育所・放課後児童クラブ(学童保育)などの子育て環境の整備を充実する」41.5%  
 > 「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実する」31.8%  
 > 「男女共同参画についての理解を深めるための情報提供を充実する」31.2%



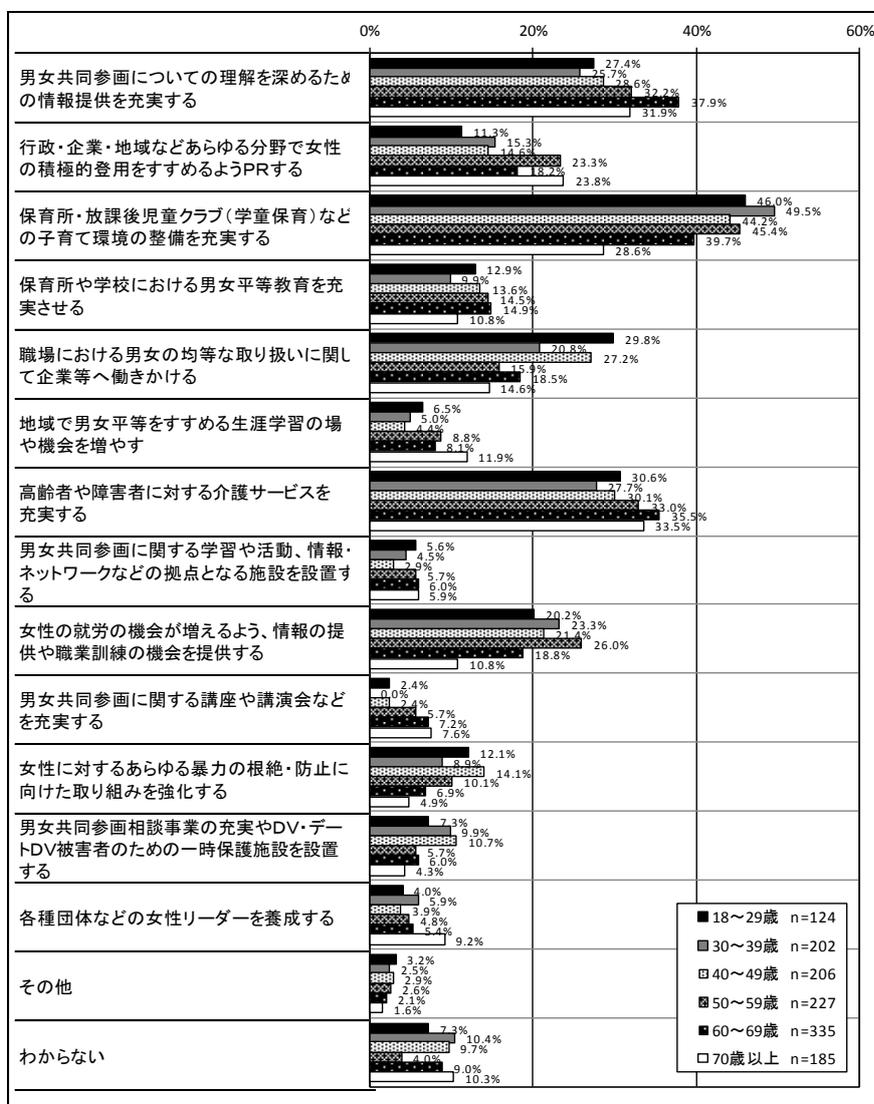
## II 調査結果 (10 男女共同参画を進めるための市の施策について)

### 性別

性別で差がある項目のうち、女性が上回る項目は「女性の就労の機会が増えるよう、情報の提供や職業訓練の機会を提供する」で女性 23.4%、男性 15.3%であり、女性が 8.1 ポイント上回ります。次いで、「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実する」で女性 34.9%、男性 28.1%であり、女性が 6.8 ポイント上回ります。3 番目は、「保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境の整備を充実する」で、女性 44.3%、男性 38.4%であり、女性が 5.9 ポイント上回ります。

女性と男性で差があるもので、男性が上回る項目は、「男女共同参画についての理解を深めるための情報提供を充実する」で女性 28.5%、男性 36.0%であり、男性が 7.5 ポイント上回ります。次いで、「保育所や学校における男女平等教育を充実させる」で女性 11.1%、男性 15.9%であり、男性が 4.8 ポイント上回ります。3 番目は、「地域で男女平等をすすめる生涯学習の場や機会を増やす」で女性 6.4%、男性 9.3%であり、男性が 2.9 ポイント上回ります。

### 年齢別

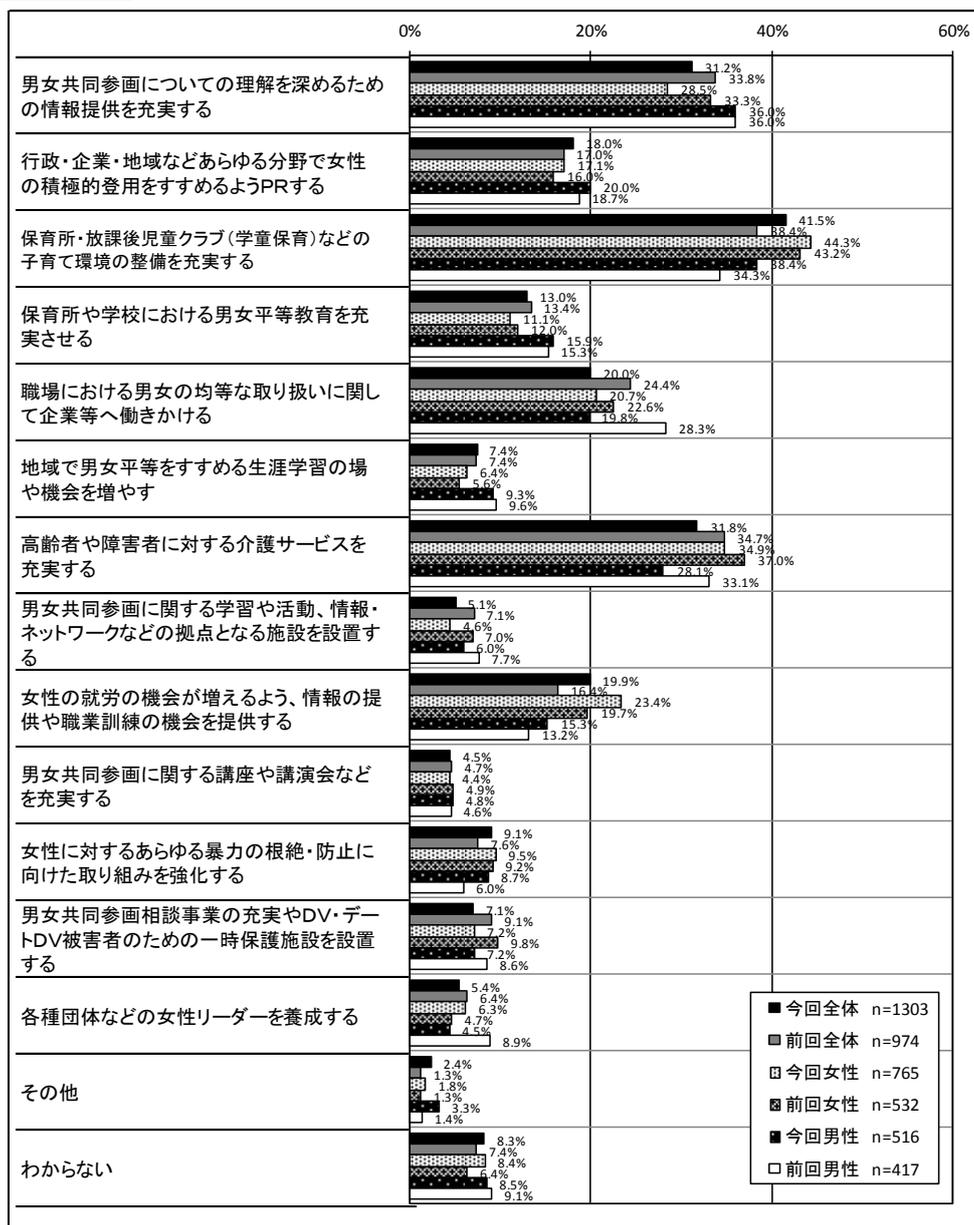


年齢別で差があるもののうち、差が最も大きいのは、「保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境の整備を充実する」であり、最も高いのは 30 代の 49.5%、最も低いのは 70 歳以上の 28.6%で、その差は 20.9 ポイントとなっています。次いで、「職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける」であり、最も高いのは 30

## II 調査結果 (10 男女共同参画を進めるための市の施策について)

歳未満の 29.8%、最も低いのは 70 歳以上の 14.6%であり、その差は 15.2 ポイントとなっています。また、「女性の就労の機会が増えるよう、情報の提供や職業訓練の機会を提供する」についても、最も高いのは 50 代の 26.0%、最も低いのは 70 歳以上の 10.8%で、その差は 15.2 ポイントとなっています。4 番目に大きいのは、「行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるよう PR する」であり、最も高いのは 70 歳以上の 23.8%、最も低いのは 30 歳未満の 11.3%で、その差は 12.5 ポイントとなっています。

### 前回調査との比較



前回調査を上回った項目は、「女性の就労の機会が増えるよう、情報の提供や職業訓練の機会を提供する」が 3.5 ポイント、「保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境の整備を充実する」が 3.1 ポイントと続いています。

前回調査を下回った項目は、「職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける」が 4.4 ポイント、「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実する」が 2.9 ポイント、「男女共同参画についての理解を深めるための情報提供を充実する」が 2.6 ポイントと続いています。

## Ⅲ 自由意見

アンケートの最後に自由記述形式で回答頂いたご意見の一部を紹介します。

## 1. 男女平等について

| 性別 | 年齢      | 内容  |
|----|---------|---|
| 女性 | 18～19 歳 | 男女雇用機会均等法などの法律が施行されてても、実際は男性の方が、昇格、昇給しやすかったり、女性が昇格、昇給すると、周囲から冷たい目で見られたり、セクハラなどが今でも起きています。そうした状況を変えるためには、国が行う大規模な対策も重要だと思いますが、地域単位での対策がより効果的だと考えております。男性も女性も嫌な思いをすることがなく、快適に過ごせる社会が理想的な社会なので、それを実現させるためには、地域と行政が密着して男女共同参画について学んでいく事が大切だと思います。 |
| 男性 | 18～19 歳 | 法律や制度を整えるのは、これから先確実にできるだろうが個々の認識がそれによって変わるという訳ではないと思う。故に現在も差別が存在しているのだと思う。しかし、このようなことを言っても何も改善しようとならないのが最も良くない。難しい問題かもしれないが先導となって個々の認識を支えることが出来るよう頑張っ活動してほしい。   |
| 女性 | 18～19 歳 | ここでの問は「女性が〇〇」というものが多く、「男性が〇〇」というものは1つもありませんでした。今、男性の方が地位が高いとしても、男性のこともしっかり考えていくべきではないでしょうか。女性に重きをおきすぎると、それはそれでおかしな社会が生まれそうです。   |
| 男性 | 18～19 歳 | 男女差別をなくす事に対しては全面的に賛成だが、「優遇」とは違うと思う。差別を撤廃して女性優遇にしたとして、今度は男性の方が”差別された”とし、異論がおこりそう。要はイタチごっこになりそうである。結論としては、女性優遇ではなく、あくまで平等という意味を一人一人が理解し、両性が謙虚な態度で生活していけば良いと思った。   |
| 女性 | 30～39 歳 | いくら男女平等といっても、元々「男性」と「女性」が存在するのだから、それぞれの役割というものも違って当然だとは思いますが。その中でどれくらい、それぞれが「男性だから」「女性だから」で差別され、理不尽だと感じる事が少なくなるかが重要だと思います。  |

| 性別 | 年齢      | 内容   |
|----|---------|--|
| 男性 | 20～29 歳 | 男女の差別はよくないが“区別”は必要だと思う。何もかも差別として扱うのではなく、男の利点、女の利点を活かした社会の構築が必要。  |
| 女性 | 40～49 歳 | 男女平等は大切なこととは思いますが、それぞれの特性等を生かし、女性らしく、男性らしく、という考え方も大事だと思います。筋力が違うように、体力差があるように違いを認め合い、協力できる社会になると良いと思います。             |
| 男性 | 50～59 歳 | 画一的ではなく、柔軟に考えた方が、うまくいくと考えます。   |
| 女性 | 40～49 歳 | 男女に区別できない、マイノリティの人達も生きられる。すべての人の生きる権利が守られる社会を願っています。「男女」と名が付いているため、排除されている人たちもいると思います。                               |
| 男性 | 50～59 歳 | 男女は平等との考え方には、賛成であるが、男と女にはそれぞれ「同質」ではない。それを根本的に認識していない人が多い。  |
| 女性 | 50～59 歳 | 男の人にも女の人にも、男女の性の特徴があると思うので、性を活かした平等感の持てる社会が理想ですね。  |
| 男性 | 60～69 歳 | 社会をリードしているのは女性であるとの認識が、社会をリードしている男性が分かっていない今の社会。教育に於いても消費に於いても重要な決定にしても今は女性が権限を持っていると思う。もう男性が差別される社会に突入したかも。         |
| 女性 | 50～59 歳 | どんなに男女共同参画を前向きに考えても、どうしても男の人にしかできない事、女の人にしかできない事、健康上の事があると思います。個性を生かしお互い、協力してその人にできる事から頑張り、よりよい生活を心がけていけば無理がないと思います。 |
| 男性 | 70 歳以上  | 男女共に意識改革を持ち、実行すること。  |

## 2. 人権について

| 性別 | 年齢      | 内容  |
|----|---------|---|
| 女性 | 30～39 歳 | 女性に対する性犯罪、差別、暴力の根絶を強く願います。また、育児をしても経済的な苦しい生活を強いられないよう、就労の機会、環境を、より整備、充実させていく必要があると強く感じます。   |
| 女性 | 30～39 歳 | 女性は、40 歳くらいになるとパートやアルバイトさえうけいれてもらえず職安へ行き通う毎日、短時間労働や条件の悪い仕事にしかつけない現状があると思いました。セクハラでうったえても相手と同じく、自分にも、その会社に残れないようなイヤガラセを受けました。                  |
| 男性 | 60～69 歳 | 人権を大事にし、平等として対応する事が望まれます。自ら不平等であるとか、女性だからとか、自分で男女差別をしている方があまりにも多く見受けられます。女性に対しても、男女差別等自己で決めつけめ様、人間は平等であり人権は大切にされなければならない旨、市のキャンペーンをお願い申し上げます。 |
| 女性 | 60～69 歳 | 他者を人として尊重するという真の人権教育が大切だと考えています。  |

## 3. 子育て・介護について

| 性別 | 年齢      | 内容  |
|----|---------|---|
| 女性 | 20～29 歳 | 男女ともに、育児休暇を取りやすい環境にしてほしい。   |
| 女性 | 40～49 歳 | 学校行事は、平日が多く、父親の参加が少ない。まだまだ、仕事を休むのは母親。男性は子育てのために仕事を休みにくい社会だと思う。職場では、“イクメン”は評価されないのが現状。       |
| 男性 | 60～69 歳 | 定年退職後の男性(60歳以上)の活用を考える必要。介護、食事等の世話にならないためにも、健康にいられる施策を。女性の足かせにならないためにも男性の教育、地域のつながり等が望まれます。 |

## 4. 社会参加活動について

| 性別 | 年齢      | 内容   |
|----|---------|--|
| 女性 | 40～49 歳 | 私のように子供を持ち、配偶者の仕事柄、なかなか仕事をするとか、家を長時間あけられない方はたくさんいると思います。また、仕事をしていない事で、学校などのボランティアを押しつけられる事も多く「仕事があるから」とおしきられると立場が弱いです。それなのに社会的立場では家事専業は軽んじられている気がします。その分子供達や地域に協力しているのに。 |
| 女性 | 40～49 歳 | 専業主婦になり 10 年以上経つ中で、自分が女性だから弱い立場だと感じる場面は少ない。それ以前、会社勤めをしていた時は、給与、昇進、昇給で差別にあっていたので、強く憤りを感じていた。それらを主婦は守られているととるか、社会から置き去りにされているととるかは、各人の価値観であり、善悪ではないと思う。                    |
| 男性 | 60～69 歳 | 行政、企業、社会的活動に女性の参加意識は高くなってきているが、出来る状態の有無はあると思いますが一般的に参加意識率はまだ低いと思います。もっともっと積極的に参加していただきたい。ただし「責任」という義務も発生することは当然かんじてほしい。  |

## 5. 職業生活について

| 性別 | 年齢      | 内容   |
|----|---------|--|
| 女性 | 30～39 歳 | 個性に応じた教育や、職場環境を良くする努力が必要に感じます。   |
| 男性 | 30～39 歳 | すべてのことを平等とすることに重きを置き過ぎず、本来の性差にあわせた平等(に近い)を目指す。男でも女でも行える仕事であるなら、機会を平等に与える様にする。出産による女性の職場での差別が少子化につながっていると思う。この不利益をなくすだけでも前進であろう。すぐに出来る事ではないが、もっと浸透させてほしい。 |
| 女性 | 40～49 歳 | 夫の転勤により、退職し子育て(3人)を10年間した後、以前と同じ職場に再就職しました。1日平均12時間働いているので体力的にはとてもキツイですが、働く喜び、やりがいも大きいのも事実です。夫の協力で何とかやっていますが、臨時職員のサービス残業は負担が重いです。定時に帰りたいと切に願っています。       |

| 性別 | 年齢      | 内容   |
|----|---------|--|
| 男性 | 30～39 歳 | <p>私の勤務先も含め、多くの企業、団体では管理職が男性のみであるという状態ですが、このような組織においては、無意識的に男性視点の論理で物事が進むため、男女差別をするという意識がなくとも、女性があまり評価されない状態が生まれます。又、女性の積極登用との名の元に、本人の意向や能力に反して責任あるポジションにつける人事が行われるケースがあります。これは本人にとっても周囲の人間にとっても不幸です。組織で女性が活躍するためには、法律だけでなく、何か別の施策が必要なのでは、と考えます。</p> |
| 女性 | 40～49 歳 | <p>出産前まで正社員で勤務していた会社を育休明け直前に退職に追い込まれました。他に頼る人がいない場合、女性の職場復帰はなかなか難しいと感じました。企業の考え方が、子供のいる女性(特に乳幼児)に対して、差別的であることも痛感しました。現在は低収入で女性陣も働く必要がある家庭も多いと思うので、もう少し社会が子育てしやすい環境になれば有り難いです。※問 20 の「子供が出来たら職業をやめ、大きくなったら再び云々」は、あくまでも理解です。</p>                       |
| 男性 | 40～49 歳 | <p>自分の職場では男女間の違いは見られないのですが、このようにアンケートが実施される位ですから、世間一般では問題とされているのでしょうか?疑問です。</p>  |
| 女性 | 70 歳以上  | <p>今の女性は自分の考えをしっかり持っていて、男性と同じ意欲があれば定年迄働くことができる。自分を振り返ってみると同居の夫の父母の理解を得られず定年迄働くことはできなかった。職場も結婚退職が当たり前だった。娘たちは強い意志で男女共同参画社会の実現を目指し、積極的に自身の希望の実現に向け活動して欲しい。健康に留意して後押しをしていくことが私のつとめと思っている。</p>   |

6. 女性の社会参画について

| 性別 | 年齢      | 内容  |
|----|---------|---|
| 男性 | 40～49 歳 | 女性の社会的な地位が平均的に向上させる事。多くの機会があり、正当に評価される事が、解決に向け、すべき事と思う！！  |
| 女性 | 50～59 歳 | 女性をもっと社会で活躍し、子供を産める社会にするためには、社会全体が変わっていかねばと思う。まず、いま、子供を持ちたいと考えている人々のサポートを早急に考えてあげてほしい。それが女性の仕事継続、少子化防止になると思う。 |

7. 市の施策について

| 性別 | 年齢      | 内容  |
|----|---------|---|
| 女性 | 19～20 歳 | “男女共同参画”に対する知名度が低いと思います。  |
| 男性 | 20～29 歳 | 市で、こういう取り組みをしていること全く知りませんでした。どうせやるならもっと、PR なりした方が良いと思います。   |
| 女性 | 20～29 歳 | このような取り組みがあることを初めて知りました。これから前橋がよりよくなっていくことを期待します。   |
| 男性 | 30～39 歳 | 「男女共同参画」という言葉を初めて聞いたので、この言葉とこの言葉の意味を広く知られるようにもっと情報提供すべきだと思う。  |
| 女性 | 40～49 歳 | 意見が反映されることを心より願います。より良い町づくりになれるように宜しくお願いします。  |
| 男性 | 60～69 歳 | 男女雇用機会均等法の法律が作られてから 20～30 年だと思えます。社会の通念や習慣は、いくら通信情報網が発達整備されグローバル化されてきているとはいへ、何世代か経たないと難しいのではないのでしょうか。 |

## IV 講評

### 男女共同参画に関する市民意識調査からみる現状と課題

#### はじめに

前橋市では、1996年に「前橋市女性に関する意識調査」を実施し、その結果を踏まえて1998年に前橋市女性行動計画「まえばしWindプラン21」を策定した。2003年には「まえばし男女共同参画推進条例」を制定し、2004年には条例に基づく前橋市男女共同参画基本計画として「まえばしWindプラン2004」を策定した。次いで、2007年に「前橋市男女共同参画市民意識調査」を実施した上で、2009年に第三次基本計画「まえばしWindプラン2009」を策定した。そして、2014年度からの基本計画を2013年度に策定するための資料とするために、2012年に再び「前橋市男女共同参画市民意識調査」を実施した。

以下では、この調査の結果を概観・分析し、男女共同参画にかかわって、そこから読み取れる前橋市の現状と課題を示すこととする。その際、必要に応じて前回の調査や全国調査（2009年に内閣府が実施した「男女共同参画に関する世論調査」）と比較することで、現在の前橋市の特徴を明らかにしたい。

2013年1月

男女共同参画に関する市民意識調査アドバイザー

齋藤 周（群馬大学教授）

宮 崎 文 恵（弁護士）

前 田 由美子（共愛学園前橋国際大学地域共生研究センター研究員）

木 島 定 幸（前橋市非常勤職員）

#### 1 男女平等について

##### （1）今の生活や社会の状況に関する意識

男女平等感に関する設問（問1）では、「家庭生活」「地域社会の場」「職場」「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度上」「社会通念・慣習・しきたり」という7つの分野と、それらを含む「社会全体」という項目を設け、男女平等感につき質問した。

「家庭生活」「男性優遇」（「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計。以下同じ。）47.3%、「平等」35.0%、「地域社会の場」（「男性優遇」53.9%、「平等」25.7%）、「職場」（「男性優遇」53.8%、「平等」23.3%）、「政治の場」（「男性優遇」63.9%、「平等」19.0%）、「社会通念・慣習・しきたり」（「男性優遇」73.2%、「平等」12.8%）及び「社会全体」（「男性優遇」64.4%、「平等」19.0%）で、「平等」よりも「男性優遇」の回答が多く、これらの項目では「男性優遇」の回答が、ほぼ半数以上を占めている。

あらゆる社会の分野で、また社会を総合的にみた「社会全体」で、男性が優遇されていると感じている人が多いことがわかる。特に「社会通念・慣習・しきたり」と「政治の場」の「男性優遇」感が強い。他方、「平等」の回答が多いのは、順に「学校教育の場」（「平等」51.7%）と「法律や制度上」（「平等」41.7%）となっている。この分野についても今後も継続して、男女平等がさらに進むよう市として取り組みが必要である。

前回調査と比較すると「学校教育の場」を除いた分野ではいずれも「平等」が増加していることから、前橋市において男女平等感は徐々に高まる傾向にある。しかし、全国調査と比較するといずれの分野でも「平等」が下回っているため、さらなる一層の努力が必要である。

男女別にみると、質問の全ての分野で「平等」と回答する割合は女性の方が少ない。男女差が最も大きいのは、「法律や制度上」で女性32.4%、男性56.0%で23.6ポイント差、次いで「家庭生活」で女性29.2%、男性44.2%で15.0ポイント差となっている。特に、「家庭生活」での平等感の男女差は、実際に家事・育児の負担の多くが女性にかかっていること、また男性はその認識が不十分であることを示していると考えられる。

## （2）社会で男性が優遇されている原因について

問1の「社会全体」の項目で「男性優遇」と答えた回答者に、男性優遇の原因についての考えを尋ねた設問（問1-1）において、回答の多かった項目を上位から順に3つ挙げると、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」（71.7%）、「育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない」（50.8%）、「仕事優先、企業中心の考え方が根強い」（41.5%）となっている。

回答を男女別にみると、最も多かった項目は「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」（女性72.5%、男性71.0%）で男女とも順位は同じであるが、次に多い項目は、男性が「仕事優先、企業中心の考え方が根強い」（女性36.2%、男性50.3%）、女性が「育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない」（女性54.4%、男性44.0%）であった。実際に育児等に携わることの多い女性の方が、育児や介護などの制度不備を強く感じているものと思われる。

市は市民や事業者に対し、固定的な性別役割分業や企業中心の考え方を見直す機会を提供するなど働きかけをすることはもちろん、市民の声に耳を傾け、育児や介護などの支援制度を充実させることが必要である。

## 2 人権について

### （1）女性の人権が尊重されていないと感じること

女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことかを尋ねた設問（問2）では、「昇給・昇進の格差など、職場における男女の差」（50.1%）と「男は仕事、女は家庭」という考え方」（46.3%）の2項目が多かった。また、ほとんどの項目で女性の方が回答率が高くなっている。

「夫や恋人からの暴力」（20.6%）、「セクシュアルハラスメント」（32.5%）、「ストーカー行為」（19.2%）は、前回調査と比較すれば増加したが、依然として低い。これらが女性の人権を侵害するものであるという認識を市民が持てるような情報提供の必要がある。

男女別にみると、男女差があるのは「ビデオ、雑誌等における女性のヌード写真や映像の商品化」（女性25.6%、男性17.6%）、今回調査で新しく追加された「痴漢行為やその他の性被害」（女性38.6%、男性30.8%）で、女性の人権としての認識が、男性は女性に比べて低いことがわかる。また、年齢別にみると、「ビデオ、雑誌等における女性のヌード写真や映像の商品化」について、30歳未満（13.7%）及び30代（15.3%）で、他世代と比べると女性の人権の問題として捉える割合が低くなっている。

### （2）メディアにおける性や暴力の表現について

メディアにおける性や暴力の表現についての考えを尋ねた設問（問3）では、「そのような表現を見たくない人や子どもの目にふれないようにする配慮が足りない」（54.0%）が最も高い。次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」（33.3%）、「女性の性的側面を強調しすぎる」（28.7%）の順である。

男女別にみると、ほとんど全ての項目で女性の方が男性より高率であることから、女性の方

が問題意識が強いといえる。男女差が大きいのは、「そのような表現を見たくない人や子どもの目にふれないようにする配慮が足りない」（女性57.5%、男性49.4%）、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」（女性35.8%、男性29.5%）、「女性に対する犯罪を助長している」（女性28.1%、男性23.1%）である。

年齢別にみると、差がもっとも大きいのは「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう」（60代43.3%、30歳未満16.9%）、「女性の性的側面を強調しすぎる」（70歳以上40.5%、30代20.8%）である。30歳未満と30代については、「特に問題ない」というのが他の世代より高率であり、ほとんどの項目で他の世代より低いことから、他世代ほど問題視していない傾向がみられる。若いうちから、男女とも情報に振り回されずその信憑性を見極める力（メディア・リテラシー）を高めることが必要である。

### （3）女性の人権を守るためにすべきこと

女性の人権を守るためにすべきことを尋ねた設問（問4）では、「男女が共に、家庭と仕事を両立できる支援策を充実する」（63.5%）が最も多かった。次いで「男女平等や性についての教育を充実させる」（38.9%）、「DV等の暴力からの保護が必要な女性のための支援体制を充実する」（34.9%）となっている。

女性の67.6%が「家庭と仕事の両立支援の充実」を回答している。これは女性の経験に基づくものと考えられる。前回調査と比較すると、「DV等の暴力からの保護が必要な女性のための支援体制を充実する」（前回30.8%→今回34.9%）、「女性の人権侵害に対する相談窓口を充実する」（前回21.6%→今回23.8%）が増加している。具体的な支援体制の充実が女性の人権を守るために必要という意識が高くなっているといえる。

### （4）暴力被害の経験

配偶者や恋人などからの暴力被害の経験についての設問（問5）では、「命の危険を感じるくらいの身体的暴力」を受けたことがある女性は、女性回答者の7.3%にも及んでいる。全ての項目で女性の回答が上回っていて、配偶者や恋人間の暴力は女性の被害が圧倒的に多いことがわかる。

### （5）暴力を受けた時の相談先

暴力を受けた時の相談先についての設問（問5-1）では、「相談した」は32.2%のみで、60.6%がどこにも「相談しなかった」という回答だった。多くの人が、被害にあっても相談していないことがわかる。特に50代は相談しなかった人が80.0%で最も多い。前回調査と比べると「相談した」回答者は増加しているが、群馬県調査と比較すると群馬県では「相談した」が48.3%となっていて差が大きい。

相談はだれ（どこ）にしたかという設問（問5-2）では、「家族・親族に相談」が60.6%で最も多く、次いで「友人・知人に相談」が53.5%、3番目が「警察に通報・相談」と「公的機関に相談」で同率（12.1%）となっている。このことから「公的機関に相談」する人が少ないことがわかる。年齢別でみると、50代、70代は公的機関への相談が0.0%で最も低い。

相談しなかった理由についての設問（問5-3）では、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」（39.2%）、「相談しても無駄だと思ったから」（38.2%）、「相談するほどのことではないと思ったから」（30.1%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（29.6%）と続いている。

配偶者や恋人間の暴力が重大な人権侵害であるという意識が未だ低いことや、被害者の無力感、自己否定感が、被害者の相談を阻む要因となっていることが考えられるため、DVが重大な人権侵害であるということの情報提供は今後も必要である。また、公的機関等へ相談

したという回答が少ないことや、相談しなかった理由として「どこに相談してよいかわからなかったから」（16.7%）が、前回調査（13.1%）に比べ増加していることから、前橋市の相談室の周知も徹底する必要がある。

### 3 学校教育について

学校教育で重要なこととしては、約半数の回答者が「性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に務める」、「人権尊重の心を培う教育の充実」、「個性や特性等に配慮する指導」と回答している。次いで「男女平等の意識を育てる授業」が4割前後、「教職員の研修の充実」が2割、「校長・教頭への女性の登用」、「PTA等を通じての男女平等教育の理解」の順になっている。各項目での回答は上位3項目では女性が5ポイントほど上回り、4項目目では男性が5ポイントほど上回っている。

年代別には、「校長・教頭などに女性を積極的に登用する」という項目で、一番下の子が中・高校生であるという親の年代が、他の年代よりも低くなっているのが特徴的である。中・高校における女性管理職の少なさが回答に反映している可能性がある。

学校は未来の担い手である子どもたちを健全育成する使命を負っている。学校が子どもや親たちに誤ったメッセージを与えないように教職員が確かな認識を持つことが必要であり、また、子どもや親たちが誤ったメッセージに惑わされないように、家庭や地域に対する働きかけも重要である。そのためには、調査結果では高位ではないが、「教職員研修の充実」や「女性管理職の登用」、さらに本来的な成人教育団体としての機能を踏まえたPTAの活性化を図る必要がある。

学校は最大の教育機能と専門家集団を有し、家庭・地域に働きかける機会も多いことから、男女共同参画推進において果たすべき役割は大きい。したがって、男女共同参画についての教職員の認識の深化と実践力の向上とを図る研修の拡充が求められる。また、そうすることが児童生徒の教育指導、学校・家庭・地域の連携に基づく学校経営にも効果をもたらし得るので、各校における積極的な取組みが望まれる。

### 4 家庭生活について

#### （1）家庭生活で行っていること

家庭生活における家事等の実施状況は、すべての項目において、女性が男性を上回る状況にあり、夫婦の就業形態別でみても、多くの項目において「共働き」と「非共働き」の実施状況に差がみられない。このことから、女性は仕事をもっている場合でも家庭においては家事等の中心的な担い手であり、依然として女性の負担が重い状況が窺える。

家事・育児・介護に費やす時間の平均は、男性は「1時間」、女性は「4時間37分」であり、夫婦の就業形態別でみても、男性では、「共働き」「準共働き」「非共働き」の比較において差がない。また、末子が就学前の場合は男女差が9時間強となっている。前回調査との比較では、男性の場合は減少、女性ではわずかに増加の傾向がみられる。

家事・育児・介護に費やす時間は女性が男性の約4.5倍であり、特に末子が就学前の場合はその差が顕著である。前回調査との比較においても、男女差は拡大しており、家庭生活における男女の仕事の分担は進んでいない状況である。

男性の家庭生活における家事等の分担を促進するために、まず必要なのが労働時間の短縮である（次項参照）。また、固定的な性別役割分業を当然のことと認識している男性は家事等を担うことが少ないものと思われるので、男女共同参画についての学習機会や情報を提供することが重要である。

## （２）生活時間の実情

日常の仕事時間についてみると、平均時間は、男性が「9時間06分」、女性が「6時間01分」であり、男性の30～50歳代は11時間弱となっている。末子が就学前の男性は約11時間となっており、女性では4時間24分となっている。

育児に時間がかかるときには、男性が仕事、女性が育児という役割分業が行われている状況が明らかであり、男性の労働時間が多いことが女性の家事・育児等の時間を増大させる要因であると考えられる。前回調査との比較では、女性の仕事の時間が減り、家事等の時間は増えているのに対して、男性は仕事の時間が増え、家事等の時間が減っている。

家族とともに過ごす時間をみると、末子が就学前の場合は、男性は3時間弱、女性は7時間超となっており、男女差が4時間以上みられる。これは仕事時間と関連して、育児に時間がかかるときには、性別役割分業によって対応している状況が窺われる。

以上の結果から、男性の労働時間、とりわけ子育て世代の男性の労働時間が多いことが、家庭生活の時間に影響を与えていると考えられる。ワーク・ライフ・バランスを推進する視点からも、男性の長時間労働の改善が必要である。

市としては、市職員が性別にかかわらず、仕事と家庭の両立ができる条件を率先して整えることで範を示すとともに、民間企業への働きかけを強める必要がある。

## （３）「男は仕事、女は家庭」という考え方

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、回答者全体では「反対」（「どちらかといえば反対」を含む。以下同じ。）が54.5%で「賛成」（「どちらかといえば賛成」を含む。以下同じ。）の30.8%を20ポイント超上回っている。男女別で見ると、男性では「反対」（49.8%）、「賛成」（36.3%）となっており、女性では「反対」（57.3%）、「賛成」（27.6%）となっている。前回調査との比較では、男性で「反対」が10ポイント以上増加しているが、なお女性との間に7.5ポイントの開きがある。

夫婦の就業形態別でみると、「反対」は「共働き家庭」の女性で68.1%、男性で59.8%と高い割合を示しているのに対して、「非共働き家庭」の女性で45.1%、男性で46.3%となっており、夫婦の就業形態の別による意識の差が顕れている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対の人の割合が年々増えてきてはいるものの、家事・育児等に使用する時間は女性が男性の4.5倍と、前回調査との比較において拡大傾向を示すなど、意識と実態の変化にずれが見られることや、「賛成」「わからない」とする人の割合も4割を超えることから、引き続き市による諸施策の推進と広報活動が重要である。

なお、今回の調査結果からは、男性において固定的な性別役割分業を肯定する意識が根強いことが窺えるため、男性に対する働きかけを工夫し強化する必要がある。その際には、＜男女共同参画は、個人に特定の生き方を押しつけるものではなく、女性のみならず男性についても生き方の幅を広げるものである＞ということを理解できるようにすることが肝要である。

## （４）家庭生活に関する意識

結婚感に関しては「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」という考え方について、男女とも「賛成」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ。）（女性55.0%、男性50.8%）が「反対」（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計。以下同じ。）（女性18.7%、男性28.7%）を上回っている。前回調査と比較すると「賛成」はほぼ変わらないものの、男女別にみると男性で1.9%の増、女性で3.9%の減となっている。

また、「精神的・経済的にも安定するから結婚したほうがよい」については「賛成」45.9%、「反対」15.7%、「うまくいかなければ離婚してもかまわない」については「賛成」51.0%、

「反対」17.3%と、それぞれ「賛成」が「反対」を上回っている。「結婚しても子どもを持つことにこだわらない」については「賛成」35.7%、「反対」34.5%と、「賛成」が「反対」をやや上回っている。

今回の結果から、結婚感に関しては、前回調査とほぼ変わらず従来の家制度や慣行に基づく考え方が根強く残されており、性別による固定的な性別役割分業を前提とするところも多い。今回の結果と前回調査との比較からは、男女共同参画の視点からみると逆行している部分もあり、市の取り組みの強化が求められる。

一方、子育て観に関しては「子どもは個性を重視して育てたほうがよい」、「女の子も男の子も同じ程度の学歴を持つほうがよい」とする意見が男女ともに「賛成」が圧倒的多数となっている（前者は女性71.5%、男性70.6%が「賛成」、後者は女性73.3%、男性70.3%が「賛成」）。これは男女平等の視点に立った考え方を市民が持っていることを示している（ただし、「男の子には男の子の個性が、女の子には女の子の個性がある」と考える人もいることに注意が必要である）。性別にとらわれずに各人の個性を重視するというのは、男女共同参画社会実現の基本となる考え方であり、この考え方を基盤としながら市民が認識を深められるように支援する必要がある。

## 5 子育て・介護について

### （1）子育てについて不安に思うこと

子育てについて最も不安に思うこととして「子どもの病気や発育」(51.6%)と「子育てに伴う経済的負担」(50.5%)があげられている。その他には、男性では「子どもと過ごす時間や会話が少ないこと」が、女性では「家族が子育てに協力しない」「子育てを手伝ってくれる人がいない」が特に多くなっている。

### （2）子どもを安心して産み育てる環境整備に必要なこと

子どもを安心して産み育てる環境整備に必要なことは、「保育施設・保育制度（延長保育や病後時保育など）の充実」(60.9%)が最も多く、次いで「男女共に家庭との両立を図れる職場環境づくり（育児休業、フレックスタイムの導入、労働時間の短縮など）」(45.4%)「公的な経済援助の充実」(37.1%)となっている。

女性では「放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」「育児に対する家族の理解と協力」「父親の子育て参加」が続いて多い。男性では「公的な経済援助」が女性を大きく上回っている。

(1)(2)とも、前回調査と比較すると、全体的な傾向はほぼ同じであるが、「放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」と「保育施設・保育制度の充実」はやや増加している。

調査結果には、男性が子どもと過ごす時間の不足を感じていることと、女性が子育てを一人でがんばっている状態とがはっきりあらわれている。子育てが「性別にかかわらず皆で」という姿からはかなり遠い現状であることがわかる。前回調査でも同様のことが指摘された。改善への具体的な対策が求められる。状況は深刻である。

### （3）高齢者介護が女性の役割となりがちなこと

高齢者介護は「男性も女性も共に介護すべきである」(31.2%)が最も多く、次いで「問題はあるが、現状ではやむをえない」(18.8%)、「男女にかかわらず、主に家族が介護すべきである」(15.9%)となっている。

女性では「男性も女性も共に介護すべきである」が36.3%で、男性の23.4%を12.9ポイント上回っている。また、前回調査と比べて「介護される側のことを考えると、女性が介護

するほうが良いと思う」は、全体では前回は18.1%、今回は12.7%で減少している。介護を女性に求める考え方は少なくなっているように見える。しかし、男性に限ってみると、前回は24.0%（女性13.5%）、今回は17.1%（女性9.8%）であり、男女間に意識のずれがみられる。社会全体で介護を担う、性別にかかわらず担うという体制の整備が必要である。

## 6 社会参加活動について

### （1）社会活動について

現在参加している活動は「スポーツ・レクリエーション」（20.2%）、「趣味や文化、教養などの学習活動」（20.0%）、「地域活動」（18.0%）となっている。機会があれば参加したいものとしては、「趣味や文化、教養などの学習活動」（55.9%）、「福祉ボランティア活動」（51.3%）、「子どもの健全育成に関する活動」（44.6%）となっている。「参加したいと思わない」活動は、「公的委員活動」（59.5%）となっている。

「参加している」活動は、すべての活動において前回調査よりも下回っている。「機会があれば参加したい」も、前回よりも下回っている。しかし、「参加したいと思わない」活動は、すべての活動で前回は上回っている。全体的な低調傾向がみられる。

### （2）社会活動に参加する際に支障となるもの

半数を超える人（57.4%）が「時間的余裕がない」ことをその理由にあげている。次いで、「どのような活動があるのかわからない」（29.1%）、「一緒に活動する知り合いがいない」（25.9%）となっている。男女差の多いものでは、「健康や体力、知識・技能に自信がない」と「組織活動が苦手だ」では女性の方が多く、「参加の呼びかけがない」は男性に多い。

また、年代の若い方ほど「一緒に活動する知り合いがいない」と「どのような活動があるのかわからない」が多い。時間的な余裕のほかに、活動の情報や仲間の不足もみられる。

全体的には、忙しすぎる働き方や家族の世話の大変さで、地域活動に参加する意欲も低下している様子がみえる。そのような状況で地域に仲間をつくる余裕もなく、情報も入りにくいことが考えられる。

### （3）地域活動の場での男女差について

全体で最も多いのが「会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除など、裏方の仕事を任せられることが多い」で33.2%に上る。次いで、「役員選挙に女性が出にくい、または選ばれにくい」が11.6%である。しかし、一方で「特に男女差はない」は20.3%である。

年齢が高い世代ほど「女性は裏方の仕事」が多くなり、若い世代では「わからない」が多い。高年齢層ほど地域活動に実際に参加しての感じ方が表れていると思われる。

また、「特に男女差はない」は、女性が17.3%であるのに対し、男性は24.8%で、女性が実感している「男女差」を男性が感じていない状況がわかる。

この「男女差」の存在を示す数値は、男性も女性も前回調査よりわずかに下がった（1ポイント程度）だけであり、地域活動の場における性別に関する偏りの問題は解消されてなく、維持され続けていることがわかる。

現在、地域活動を実際に運営している役員らの「女性は裏方」「役員は男性」という意識を変えて、実際に裏方の仕事に男性が入ることや女性の役員が出やすい新たな方法を導入するなど、現場を変える必要がある。また、行政もそうした動きが起こるよう働きかけをしなければ変化は期待できない。

## 7 職業生活について

### （1）男女が働く上での支障、能力発揮の条件

男女が働く上での支障については、「家事の負担」45.4%（女性50.5%、男性38.8%）と「配偶者や子どもの世話」36.2%（女性37.8%、男性35.3%）の2項目が高率の回答である。なお、両項目とも女性の方が高率となっているのが特徴的であり、特に前者は男性の回答率との開きが11.7ポイントと大きく、また、後者は子育て世代の回答率が高い。

3番目に回答の多かった項目は「長時間労働」26.2%（女性23.8%、男性30.2%）、4番目は「育児・介護のための施設が不十分」21.5%（女性19.7%、男性24.2%）であり、どちらも男性の方が高率である。

これら4項目は密接に関連することであり、男女の回答の差（これは自身の実感に基づくものと思われる）を踏まえると、家事・育児などが女性に集中する現状を改めるための方策が必要である。具体的には、男性の認識への働きかけ、労働条件の改善など男性が家事等を担える条件づくり、育児・介護等への公的な支援の拡充が求められる。

職場での能力発揮や継続勤務のために重要なことは何かをきいた質問では、「男女とも家庭生活と両立できる」が47.8%（女性53.1%、男性40.7%）で最も高率であり、なおかつ回答率の男女差が大きい。このことも上記の方策の必要性を裏付けている。

### （2）職場での男女差

働いている回答者に、回答者自身の職場での男女差について質問した項目では、「男性と女性で違いはない」が前回から8.4ポイント上がって42.1%になったが、「お茶くみや雑用は女性が行う」が42.5%（女性46.3%、男性38.5%）でそれを上回り、「昇給、昇格に男女差がある」37.7%（女性39.1%、男性36.2%）、「賃金に男女差がある」34.1%（女性34.5%、男性33.5%）も目立っている。

男女差の存在があるというこれら3項目は、いずれも女性の方が高率で回答している。ここからは、職場において女性が感じている男女差に男性は気づいていない傾向があることが窺える。女性の回答を踏まえて、事業所とそこで働く男性に働きかける必要がある。また、「育児休業を取得できない、取得しにくい」34.2%、「セクシュアル・ハラスメント防止規定がない」33.7%といった数値も、今の職場の課題を示している。

### （3）女性の就業とライフサイクル

「一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか」という質問では、「女性は職業をもたない方がよい」（1.2%）、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」（3.5%）、「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」（6.1%）はいずれも低率の回答である。回答率が高いのは、「子どもが成長したら再びもつ方がよい」（36.1%）と「子どもができて職業を続ける方がよい」（35.5%）である。前回の調査では、「子どもが成長したら再びもつ方がよい」（40.7%）が「子どもができて職業を続ける方がよい」（29.4%）を大きく上回っていたが、今回の調査では両者の差が0.6ポイントとなり大幅に縮小した。なお、全国調査を見ると、「子どもができて職業を続ける方がよい」は45.9%で、「子どもが成長したら再びもつ方がよい」の31.3%を14.6ポイント上回っている。

これは、前橋市民の意識と全国的にみた国民意識とのギャップであり、改善を要する。継続就業を支える条件の充実の度合いが意識に影響することも考えられるので、前橋市としては両立支援策の充実を進める必要がある。

## 8 女性の社会参画について

女性の社会参画で大切なことをきいた質問では、「女性が各分野で活躍し実績を上げること」42.1%、「職場で男女平等の取り組みを進めること」31.1%、「男女平等のための法律や制度を充実すること」30.8%で、以上が上位3項目である。このうち、男女平等を進める環境を求める2番目と3番目の項目では、女性の方が高率になっている。女性が実績を上げるためにも、女性が活躍しにくい社会のしくみを改める必要がある。

## 9 男女共同参画を進めるための市の施策について

### （1）市の施策の認知度

男女共同参画に関係する各種の法律・制度・用語について「見たり聞いたりしたこと」があるかをきいた質問では、「男女共同参画社会」が50.9%とようやく半数を超えた。

一方、「男女雇用機会均等法」77.5%、「育児・介護休業法」64.6%、「ストーカー等規制法」61.1%、「DV防止法」34.5%と、概して法律の認知度が高くなっている。

これに対して、前橋市の施策については、「まえばし男女共同参画推進条例」10.6%、「前橋市男女共同参画基本計画」5.8%、「前橋市男女共同参画相談室」6.4%、「前橋市男女共同参画情報誌「新樹」」13.7%といずれも認知度が低い。

また、「ジェンダー」24.0%、「女子差別撤廃条約」12.3%、「ポジティブアクション」13.8%といった用語等も認知度が低い。

国の法律と異なり、市の施策や関連用語についてはマス・メディアを通じて接することが少ない現実があり、市のいっそうの広報努力が必要である。

### （2）市が力を入れるべきこと

男女共同参画推進のために市が力を入れるべきことについては、「子育て環境の整備の充実」41.5%（女性44.3%、男性38.4%）、「介護サービスの充実」31.8%（女性34.9%、男性28.1%）、「理解を深めるための情報提供の充実」31.2%（女性36.0%、男性28.5%）が上位3項目である。

前2項目（子育て・介護）については女性の回答率が高く、実際に子育て・介護の担い手となっている女性のニーズが現れているものと思われる。市は男女共同参画の推進にあたって、この調査に現れた女性の声に真摯に耳を傾けるとともに、さらに女性のニーズを確かめる手だてをとることが必要である。そうすることで、有効な男女共同参画推進策を採用することができるだろう。

## おわりに

今回の調査では、いくつかの点で市民意識の変化を確認することができた。たとえば、「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する回答者（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が、前回の45.9%から54.5%に増加した。また、女性が職業に就くことについて「子どもができて職業を続ける方がよい」という回答が前回の29.4%から35.5%へと増加した。市民の意識は男女共同参画推進の方向に向かっている。この動きを加速するために、前橋市によるいっそうの広報活動の充実が望まれる。

しかしながら、家庭生活における男女の仕事の分担が進んでいないなど、性別役割分業の現実はなかなか変化しない。その背景には、長時間労働の蔓延や育児・介護へのサポートの不足がある。「ワーク・ライフ・バランス」実現のために前橋市ができることをよく考え、実行しなければならない。

また、DVなどの女性への暴力についての対策（被害者の支援、市民への広報など）も、喫緊の課題である。女性回答者中で「命の危険を感じるくらいの暴力」を受けた経験があると回答した率は7.3%にもなり、深刻な問題があることを示している。

調査結果に見られる男女の回答の違いにも注目する必要がある。これは、女性が経験している困難を男性が理解していない場合があることを反映している、と考えられる。だからこそ、意思決定の場に男女が共同で参画することが必要なのである。女性たちが自らの経験に基づいて獲得した認識を、また自らの経験に基づいて提示している切実な要求を、市の施策に活かしていかなければならない。それとともに、この女性たちの声を、より多くの市民・事業者にも伝えることも市の重要な役割である。

回答の男女差が顕著なのは、性別役割分業にかかわる事項である。「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する回答者の比率は、男性の方が8.7ポイント高い。家庭生活について男女平等と考える女性回答者の比率は29.2%だが、男性回答者では44.2%になる。両立支援のための施策が、依然として重要である。また、女性労働者が実感している職場での男女格差を解消するために、国や県の機関と連携しての工夫した取り組みが必要である。

なお、今回の調査結果の考察からも、市が男女共同参画推進策を総合的な観点から全庁を挙げて進める必要のあることが確認できる。男女共同参画は男女共同参画室のみで推進できるものではない。市が総力を挙げて男女共同参画を推進する上での男女共同参画室の位置づけと機能の強化を図るために、ハード・ソフト両面にわたる見直しと即ちいっそうの充実を図る必要のあることをあらためて強調しておきたい。

## アンケート調査ご協力をお願い 男女共同参画に関する市民意識調査

皆様には、日頃より市政に、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本市では、市民一人ひとりがお互いを大切に、性別にかかわらず個性を輝かせて生き生きと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現を目指して、基本計画「まえばし Wind プラン 2009」を策定し、様々な取組みを進めています。この取組みを更に充実させるとともに次期基本計画の基礎資料とするために、市民の皆様のご意見をお伺いすることになり、満 18 歳以上（平成 6 年 4 月 1 日以前出生）の市民の方 3,000 人を無作為に選ばさせていただきました。

記入内容につきましては、無記名でお願いし、調査結果はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

平成 24 年 7 月

前橋市長 山 本 龍

### ご記入方法などについてのお願い

1. 調査の回答は、封筒のあて名のご本人がご記入ください。ご本人による記入が難しい場合は、ご家族の方などが回答を聞き取るなどして記入の補助を行ってください。
2. ご記入は、濃い鉛筆か黒または青のボールペン・万年筆でお願いします。
3. 質問ごとに、現在の状況やお考えに最も近い番号を選び、その番号を○で囲んでください。
4. 回答の数は、(○は1つ) (○は3つまで) (○はあてはまるものすべて) など指定してありますので、それにあわせて該当の番号を○で囲んでください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、( ) 内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
6. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印やことわり書きに基づいてご回答ください。
7. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、**7月31日（火）まで**にご投函ください。
7. アンケートの集計結果は、平成 25 年 3 月発行の前橋市男女共同参画情報誌「新樹」や前橋市ホームページなどでお知らせする予定です。
8. 問合せ先  
〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 前橋市職員研修会館1階  
前橋市いきいき生活課男女共同参画室  
電話 027-898-6517 FAX 027-221-6200  
E-MAIL : sankaku@city.maebashi.gunma.jp

**男女平等について**

問1 今の生活や社会の状況は、どのようになっていると思いますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

| 項目                 | 男性のほうが<br>優遇されている | どちらかといえば<br>男性が優遇されている | 平等である | どちらかといえば<br>女性が優遇されている | 女性のほうが<br>優遇されている | わからない |
|--------------------|-------------------|------------------------|-------|------------------------|-------------------|-------|
| ① 家庭生活では           | 1                 | 2                      | 3     | 4                      | 5                 | 6     |
| ② 地域社会の場では         | 1                 | 2                      | 3     | 4                      | 5                 | 6     |
| ③ 職場では             | 1                 | 2                      | 3     | 4                      | 5                 | 6     |
| ④ 学校教育の場では         | 1                 | 2                      | 3     | 4                      | 5                 | 6     |
| ⑤ 政治の場では           | 1                 | 2                      | 3     | 4                      | 5                 | 6     |
| ⑥ 法律や制度上では         | 1                 | 2                      | 3     | 4                      | 5                 | 6     |
| ⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは | 1                 | 2                      | 3     | 4                      | 5                 | 6     |
| ⑧ 社会全体では           | 1                 | 2                      | 3     | 4                      | 5                 | 6     |

問1-1 「⑧ 社会全体では」の項目で、「男性のほうが優遇」「どちらかといえば男性が優遇」とお答えした方にお聞きします。社会全体の中で、男性のほうが優遇されている原因は、何だと思えますか。(○は3つまで)

1. 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い
2. 仕事優先、企業中心の考え方が根強い
3. 男女の平等について男性の問題意識がうすい
4. 男女の平等について女性の問題意識がうすい
5. 男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい
6. 女性が能力を発揮できる環境や機会が十分ではない
7. 能力を発揮している女性を正当に評価する仕組みが十分ではない
8. 育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない
9. 女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる
10. その他 ( )

### 人権について

問2 女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。  
(○はあてはまるものすべて)

1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方
2. 昇給・昇進の格差など、職場における男女の差
3. 女性ということで意見を無視する行為
4. 大学・大学院や理工系学部への進学率における男女の差
5. 夫や恋人からの暴力
6. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
7. ストーカー行為
8. 痴漢行為やその他の性被害
9. 売春・買春、援助交際
10. ビデオ、雑誌等における女性のヌード写真や映像の商品化など
11. 電車内など公共の場における性情報の氾濫
12. 女性の容姿を競うコンテスト
13. その他（ )
14. 特にない

問3 新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどメディアにおける性や暴力（DV等）の表現について、どのように思いますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 女性の性的側面を強調しすぎる
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう
3. 女性に対する犯罪を助長している
4. そのような表現を見たくない人や子どもの目にふれないようにする配慮が足りない
5. 女性のイメージや男性のイメージについてかたよった表現をしている
6. その他（ )
7. 特に問題はない
8. わからない

問4 これから女性の人権を守るために、どうしたらよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 法律・制度の制定や見直しを行う
2. 固定的な性差別意識を変えるためのはたらきかけを行う
3. 各種審議会や管理職など意思・方針決定への女性の進出を促進するための政策（ポジティブアクション）を積極的に導入する
4. 男女平等や性についての教育を充実させる
5. 女性の人権侵害に対する相談窓口を充実する
6. 男女が共に、家庭と仕事を両立できる支援策を充実する
7. DV等の暴力からの保護が必要な女性のための支援体制を充実する
8. その他（ )
9. 特に対策の必要はない
10. わからない

問5 これまでに配偶者や恋人などから、次にあげるような暴力を受けたことがありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

| 項目  | 何度もあった | 1、2度あった | まったくない |
|---|--------|---------|--------|
| ① 命の危険を感じるくらいの身体的暴力(なぐる、けるなど)                 | 1      | 2       | 3      |
| ② 医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力                        | 1      | 2       | 3      |
| ③ 医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力                       | 1      | 2       | 3      |
| ④ 精神的暴力(おどす、無視する、人格を否定する言葉を言う、交友関係や行動を監視するなど) | 1      | 2       | 3      |
| ⑤ 性的暴力(性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど) | 1      | 2       | 3      |
| ⑥ 経済的暴力(生活費を渡さない、働くことを妨害するなど)                 | 1      | 2       | 3      |

問5-1 「何度もあった」「1、2度あった」とお答えした方にお聞きします。  
これまでに、だれ(どこ)かにうちあげたり、相談したりしましたか。  
(○はどちらか1つ)

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 1. 相談した | 2. 相談しなかった(できなかった) |
|---------|--------------------|

|   |  |
|---|--|
| <p>問5-2</p> <p><u>1. 相談したとお答えの方に</u><br/>そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 警察に通報・相談した</li> <li>2. 公的機関に相談した             <ol style="list-style-type: none"> <li>ア. 配偶者暴力支援センター</li> <li>イ. 前橋市男女共同参画相談室</li> <li>ウ. その他( )</li> </ol> </li> <li>3. 民間の機関に相談した( )</li> <li>4. 医療関係者(医師、看護師等)に相談した</li> <li>5. 家族・親族に相談した</li> <li>6. 友人・知人に相談した</li> <li>7. 学校関係者(教員、養護教員等)に相談した</li> <li>8. その他( )</li> </ol> | <p>問5-3</p> <p><u>2. 相談しなかったとお答えの方に</u><br/>だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. どこに相談してよいかわからなかったから</li> <li>2. 人に知られたくなかったから</li> <li>3. 相談しても無駄だと思ったから</li> <li>4. 相談したことがわかると仕返しをされると思ったから</li> <li>5. 相談することによって自分が不快な思いをすと思ったから</li> <li>6. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから</li> <li>7. 世間体が悪いから</li> <li>8. 他人を巻き込みたくなかったから</li> <li>9. 被害を受けたことを忘れたかったから</li> <li>10. 自分にも悪いところがあると思ったから</li> <li>11. 相談するほどのことではないと思ったから</li> <li>12. その他( )</li> </ol> |
|---|--|

**学校教育について**

問6 学校教育において、どのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を生かした役割分担に努める
2. 生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の個性や特性等に十分に配慮する
3. 授業を通して、男女平等の意識を育てていく
4. 教職員に対して男女平等教育に関する研修を充実する
5. 校長・教頭などに女性を積極的に登用する
6. 人権尊重の心を培う教育を充実する
7. PTAなどを通じ、男女平等教育の理解と協力を深める
8. その他 ( )
9. わからない

**家庭生活について**

問7 家庭生活に関して、次のことをどの程度行っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

| 項目               | す<br>る | 時<br>々<br>す<br>る | ほ<br>と<br>ん<br>ど<br>し<br>な<br>い | し<br>な<br>い | 該<br>当<br>し<br>な<br>い |
|------------------|--------|------------------|---------------------------------|-------------|-----------------------|
| ① 掃除             | 1      | 2                | 3                               | 4           | /                     |
| ② 洗濯             | 1      | 2                | 3                               | 4           |                       |
| ③ 食事の支度          | 1      | 2                | 3                               | 4           |                       |
| ④ 食事の片付け         | 1      | 2                | 3                               | 4           |                       |
| ⑤ ゴミだし           | 1      | 2                | 3                               | 4           |                       |
| ⑥ 日常の買い物         | 1      | 2                | 3                               | 4           |                       |
| ⑦ 家計の管理          | 1      | 2                | 3                               | 4           |                       |
| ⑧ 町内会や自治会等の地域活動  | 1      | 2                | 3                               | 4           |                       |
| ⑨ 子どもの世話         | 1      | 2                | 3                               | 4           | 5                     |
| ⑩ 授業参観やPTA活動への参加 | 1      | 2                | 3                               | 4           | 5                     |
| ⑪ 家族の介護          | 1      | 2                | 3                               | 4           | 5                     |

問8 平日、次のようなことに使う時間はどのくらいですか。

|                   |         |    |   |
|-------------------|---------|----|---|
| 1. 家事・育児・介護の時間    | 1日当たり平均 | 時間 | 分 |
| 2. 仕事の時間（通勤時間を含む） | 1日当たり平均 | 時間 | 分 |
| 3. 睡眠時間           | 1日当たり平均 | 時間 | 分 |
| 4. 自分自身のための自由な時間  | 1日当たり平均 | 時間 | 分 |
| 5. 家族とともに過ごす時間    | 1日当たり平均 | 時間 | 分 |

問9 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

1. 反対   2. どちらかといえば反対   3. どちらかといえば賛成   4. 賛成   5. わからない

問 1 0 結婚・家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

| 項 目  | そう思う | どちらかといえば<br>そう思う | どちらともいえない | どちらかといえば<br>そう思わない | そう思わない |
|--|------|------------------|-----------|--------------------|--------|
| ① 結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい                     | 1    | 2                | 3         | 4                  | 5      |
| ② 精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい                  | 1    | 2                | 3         | 4                  | 5      |
| ③ 結婚してもうまくいかなければ離婚してもかまわない                   | 1    | 2                | 3         | 4                  | 5      |
| ④ 結婚しても、子どもを持つことにこだわらない                      | 1    | 2                | 3         | 4                  | 5      |
| ⑤ 結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい | 1    | 2                | 3         | 4                  | 5      |
| ⑥ 子どもは、女の子らしさ、男の子らしさにこだわらず、個性を重視して育てたほうがよい   | 1    | 2                | 3         | 4                  | 5      |
| ⑦ 女の子も男の子も同じ程度の学歴を持つほうがよい                    | 1    | 2                | 3         | 4                  | 5      |

**子育て・介護について**

問 1 1 子育てを経験している(いた)方のみお答えください。子育てについて、何か不安に思うこと(思ったこと)、困っていること(困ったこと)はありますか。(〇は3つまで)

- |  |
|--|
| 1. 子どもの病気や発育のこと<br>2. 子育てに伴う経済的負担が重いこと<br>3. 子どもと過ごす時間や会話が少ないこと<br>4. 家族が子育てに協力しないこと<br>5. 子育てを手伝ってくれる人がいないこと<br>6. 子育てについて相談相手がないこと<br>7. 子育てに対する職場の理解が少ないこと<br>8. 子育てに対する地域や社会の理解が少ないこと<br>9. 子育て支援サービスの種類・量(保育時間など)が足りないこと<br>10. 子育て支援サービスに関する情報が不足していること<br>11. 特に不安に思うことはない<br>12. その他 ( ) |
|--|

**問 1 2 全員にお聞きします。人々が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるには、主にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)**

1. 保育施設・保育制度（延長保育や病後時保育など）の充実
2. 親子クラブなど地域の仲間づくり組織の充実
3. 放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て支援の充実
4. 近所の人たちからの支援
5. ファミリーサポート事業の充実 注)
6. 公的な経済援助の充実（児童手当、乳幼児の医療費補助など）
7. 父親の子育て参加
8. 育児に対する家族の理解と協力
9. 男女共に家庭との両立を図れる職場環境づくり（育児休業、フレックスタイムの導入、労働時間の短縮など）
10. 出産や子育てに関する不安・悩みに応える講座や相談の充実
11. 一人親家庭の支援
12. 児童館など子どもの遊び場の確保
13. その他（ )
14. わからない

注) ファミリーサポート事業：「子育ての手伝いができる人」と「子育ての手助けをしてほしい人」が会員となって、いろいろな援助活動を行う事業

**問 1 3 厚生労働省が実施した国民生活基礎調査によると、要介護者などが同居の場合、介護者の約7割が女性という実態が示されています。高齢者介護が女性の役割となりがちであることについて、どのように考えますか。(〇は1つ)**

1. 女性の役割として当然と思う
2. 介護される側のことを考えると、女性が介護するほうが良いと思う
3. 問題はあるが、現状ではやむをえない
4. 男性も女性と共に介護するべきである
5. 男女に関わらず、主に家族が介護すべきである
6. 原則として、国や地方自治体が主体となって行うべきである
7. その他（ )
8. わからない

### 社会参加活動について

問14 現在、どのような社会活動に参加していますか。またその活動への参加についてどう思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

| 項 目                    | 参加している | 機会があれば参加したい | 参加したいとは思わない |
|------------------------|--------|-------------|-------------|
| ① スポーツ・レクリエーションなどの活動   | 1      | 2           | 3           |
| ② 審議会など公的委員活動          | 1      | 2           | 3           |
| ③ 地域活動（婦人会、自治会、消防団など）  | 1      | 2           | 3           |
| ④ 子どもの健全育成に関する活動       | 1      | 2           | 3           |
| ⑤ 国際交流、環境保護、消費者運動などの活動 | 1      | 2           | 3           |
| ⑥ 福祉ボランティア活動           | 1      | 2           | 3           |
| ⑦ 趣味や文化、教養などの学習の活動     | 1      | 2           | 3           |
| ⑧ その他（ ）               | 1      | 2           | 3           |

問15 社会活動に参加しようとする際に、支障となるものは主に何ですか。(○は3つまで)

|  |
|--|
| 1. 時間的な余裕がない<br>2. 参加の呼びかけがない<br>3. 一緒に活動する知り合いがない<br>4. 組織活動が苦手だ<br>5. 活動に費用がかかる<br>6. どのような活動があるのかわからない<br>7. 社会活動に関心がない<br>8. 健康や体力、知識・技能に自信がない<br>9. 家族の理解や協力がいない<br>10. 支障となるものはない<br>11. その他（ ）<br>12. わからない |
|--|

問16 住んでいる地域（自治会）などで、現在次のようなことはありますか。  
（○はあてはまるものすべて）

1. 会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付け、掃除等、裏方の仕事を任されることが多い
2. 会議や行事などで女性が意見を出しにくい、意見を取り上げてもらいにくい
3. 役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい
4. 地域の行事で女性が参加できなかったり、男性と差があったりする
5. 地域の活動に女性が少ないため歓迎される
6. 地域の活動には女性のほうが積極的である
7. 特に男女差はない
8. その他（ )
9. わからない

### 職業生活について

問17 男女が働く上で、支障となることは主にどのようなことだと思いますか。  
（○は3つまで）

1. 家事の負担が大きいこと
2. 配偶者や子どもの世話の負担が大きいこと
3. 介護の負担が大きいこと
4. 配偶者・子どもなど家族の理解や協力がでないこと
5. 育児や介護のための施設が十分でない
6. 職場で男女差別があること
7. 職場において結婚や出産による退職の慣例があること
8. 本人または配偶者の転勤
9. 長時間労働（残業・休日労働が多いこと、年次有給休暇が取りづらいこと）
10. 就職先自体が少ないこと
11. 支障となることは特にない
12. その他（ )
13. わからない

問18 一般的に、男女が共に職業人として職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためには、主にどのようなことが重要だと思いますか。（○は3つまで）

1. 職業人として自覚をもつこと
2. 仕事に必要な職業能力を身につけること
3. 「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること
4. 採用、職場配置、研修などにおいて、男女共同参画の機会均等が確保されること
5. 能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること
6. 男女共に家庭生活と両立できるようにすること
7. 結婚・出産などによりいったん退職した人が同じ職場に復帰できるようになること
8. その他（ )
9. わからない

問 19 お勤めの人にお聞きします。あなたの職場で、現在次のようなことがありますか。  
(○は「はい」か「いいえ」のどちらか1つずつ)

|                            | はい | いいえ |
|----------------------------|----|-----|
| ① 賃金に男女差がある                | 1  | 2   |
| ② 昇給、昇格に男女差がある             | 1  | 2   |
| ③ 男性の能力を正當に評価しない           | 1  | 2   |
| ④ 女性の能力を正當に評価しない           | 1  | 2   |
| ⑤ お茶くみや雑用は女性がする            | 1  | 2   |
| ⑥ 育児休業を取得できない、または取得しにくい    | 1  | 2   |
| ⑦ セクシュアル・ハラスメント防止のための規定がない | 1  | 2   |
| ⑧ セクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある   | 1  | 2   |
| ⑨ 結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある    | 1  | 2   |
| ⑩ 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある     | 1  | 2   |
| ⑪ 希望職種につく機会に男女差がある         | 1  | 2   |
| ⑫ 教育・研修を受ける機会に男女差がある       | 1  | 2   |
| ⑬ 男性と女性で違いはない              | 1  | 2   |
| ⑭ その他 ( )                  |    |     |

問 20 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。(○は1つ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. その他 ( )
7. わからない

### 女性の社会参画について

問 21 行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で、どのようなことが大切だと思いますか。(○は3つまで)

1. 女性議員を増やすこと
2. 女性が各分野で活躍し、実績を上げること
3. 女性団体が積極的に活動すること
4. 国・県・市町村など行政の審議会などに女性をふやすこと
5. 企業・官公庁で女性管理職を登用すること
6. 職場で男女平等の取り組みを進めること
7. 男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実すること
8. 自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やすこと
9. その他 ( )
10. わからない

**男女共同参画を進めるための市の施策について**

問 2 2 これまでに以下の用語や施策を見たり聞いたりしたことがありますか。(〇は知っているものすべて)

1. 男女共同参画社会
2. ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）
3. ポジティブアクション（積極的改善措置）
4. DV（配偶者などからの暴力）・デートDV（恋人などからの暴力）
5. ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）
6. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康・権利）
7. 男女雇用機会均等法
8. 育児・介護休業法
9. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律
10. ストーカー行為等の規制等に関する法律
11. 女子差別撤廃条約
12. まえばし男女共同参画推進条例
13. 前橋市男女共同参画基本計画（第三次）「まえばし Wind プラン 2009」
14. 前橋市男女共同参画相談室
15. 前橋市男女共同参画情報誌「新樹」（前橋市が年2回（9月・3月）に発行し、自治会回覧）
16. 見たり聞いたりしたものはない

問 2 3 男女共同参画社会を進めるために、市では今後どのようなことに力をいれたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

1. 男女共同参画についての理解を深めるための情報提供を充実する
2. 行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるようPRする
3. 保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境の整備を充実する
4. 保育所や学校における男女平等教育を充実させる
5. 職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける
6. 地域で男女平等をすすめる生涯学習の場や機会を増やす
7. 高齢者や障害者に対する介護サービスを充実する
8. 男女共同参画に関する学習や活動、情報・ネットワークなどの拠点となる施設を設置する
9. 女性の就労の機会が増えるよう、情報の提供や職業訓練の機会を提供する
10. 男女共同参画に関する講座や講演会などを充実する
11. 女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する
12. 男女共同参画相談事業の充実やDV・デートDV被害者のための一時保護施設を設置する
13. 各種団体などの女性リーダーを養成する
14. その他（ )
15. わからない

**あなたご自身のことについて（アンケート結果を分析するための質問です）**

A あなたの性別は（〇は1つ）（性別による分析などに使用します。）

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

B あなたの年齢は（〇は1つ）（平成24年7月1日現在）（年代別の分析などに使用します）

- |           |            |            |           |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. 18～19歳 | 2. 20歳～29歳 | 3. 30歳～39歳 | 4. 40～49歳 |
| 5. 50～59歳 | 6. 60歳～69歳 | 7. 70歳以上   |           |

**C あなたの職業は（○は1つ）（職業別の分析などに使用します）**

|                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 会社員・団体職員・公務員 | 2. 自営業（商工業・農林水産業・サービス業など） |
| 3. 学生           | 4. パート、アルバイト、派遣など         |
| 5. 家事専業         | 6. 無職                     |
| 7. その他（         | ）                         |

**D あなたは結婚されていますか。（○は1つ）（世帯構成による分析などに使用します）**

|       |               |          |
|-------|---------------|----------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚（事実婚を含む） | 3. 離別、死別 |
|-------|---------------|----------|

D-1 Dで「2.既婚（事実婚を含む）」とお答えした方のみお聞きします。

あなたの配偶者・パートナーの職業はどれですか。（○は1つ）

（共働きの形態による分析などに使用します）

|                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 会社員・団体職員・公務員 | 2. 自営業（商工業・農林水産業・サービス業など） |
| 3. 学生           | 4. パート、アルバイト、派遣など         |
| 5. 家事専業         | 6. 無職                     |
| 7. その他（         | ）                         |

**E あなたには、お子さん（同居していないお子さんを含む）がいますか。（○は1つ）**

（世帯構成による分析などに使用します）

|       |        |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

E-1 あなたの一番下のお子さん（同居していないお子さんも含む）は、現在おいくつですか。

（子どもの年齢による教育・福祉などについての意識の分析などに使用します。）

満  歳

**F あなたの世帯状況はどれですか。（○は1つ）（世帯構成による分析などに使用します）**

|                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1. 単身世帯（一人暮らし） | 2. 一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） |
| 3. 二世帯世帯（親と子）  | 4. 三世帯世帯（親と子と孫など）     |
| 5. その他（        | ）                     |

■最後に、男女共同参画についてのご意見等がございましたら、自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました

男女共同参画に関する市民意識調査  
結果報告書

平成 25 年 1 月

前橋市 市民部いきいき生活課男女共同参画室  
〒371-0023 群馬県前橋市本町 1 丁目 5-2 前橋市職員研修会館 1F  
TEL : 027-898-6517 (直通)  
FAX : 027-221-6200  
E-mail : sankaku@city.maebashi.gunma.jp